

静岡県 富士市

富士市内遺跡発掘調査報告書

—平成 26・27 年度—

2017年3月

富士市教育委員会



調査区全景（南から）



SB05 「神功開寶」出土状況



「神功開寶」

中桁・中ノ坪遺跡は潤井川北岸の氾濫原に位置する集落遺跡である。遺跡の西側には古墳時代中期から奈良時代の集落跡である沢東A遺跡が位置し、東側には駿河国富士郡の郡家と考えられている東平遺跡が存在する。

中桁・中ノ坪遺跡は5世紀後半以降、10世紀前半に至るまで、途切れることなく集落が継続している。

本書にて報告する第11地区は、長屋住宅新築工事に伴う本発掘調査である。限られた面積の調査ながら堅穴建物跡2軒を検出した。特に8世紀後半の堅穴建物跡であるSB05から出土した「神功開寶」が注目される。





第3調査区全景（南から）



SD301 出土遺物

中桁・中ノ坪遺跡第7地区は、福祉施設建設に伴い、平成25・26年度に本発掘調査をおこなった。

本発掘調査において堅穴建物跡は6軒しか検出されなかったものの、SD301からは8世紀の黒書土器を含む土師器・須恵器などが比較的まとまって出土した。

溝の東側に建物跡が検出されていることから、集落の区画溝の可能性があり、加えて祭祀的な意味をもつ意図的な投棄の可能性が考えられる。



SB206 全景 (南から)



出土遺物集合



第4工区全景（北西から）

沢東A遺跡は、富士山南麓に広がる大規模平坦地の西側先端部、緩やかな丘陵上に立地する古墳時代中期～奈良時代の集落跡である。過去の調査では、竪穴建物跡や掘立柱建物跡とともに、子持勾玉・石製模造品といった祭祀遺物が出土しており、水辺における祭祀行為の存在が想定される。

本書において報告する第16次調査地点では、7世紀から9世紀にかけての竪穴建物跡を検出した。7世紀前半のSB205から出土した内面を黒色処理した坏や平根方頭式鉄鏝などが注目される。



調査区全景（西から）

舟久保遺跡は、富士山南麓にひろがる低丘陵上、標高20～40mほどに立地し、奈良・平安時代を中心とした集落である。8世紀に入り、富士群家である東平遺跡の整備とともに、同じ街道沿いの舟久保遺跡が計画的に整備されたものと捉えることができる。

第57地区は、集合住宅新築工事に伴い、奈良時代の竪穴建物跡2軒を調査した。調査地では富士山の溶岩に起因する地形の起伏が激しく、遺構は黒色土が存在する場所に限って作られていることが明らかとなった。



調査区全景（南から）

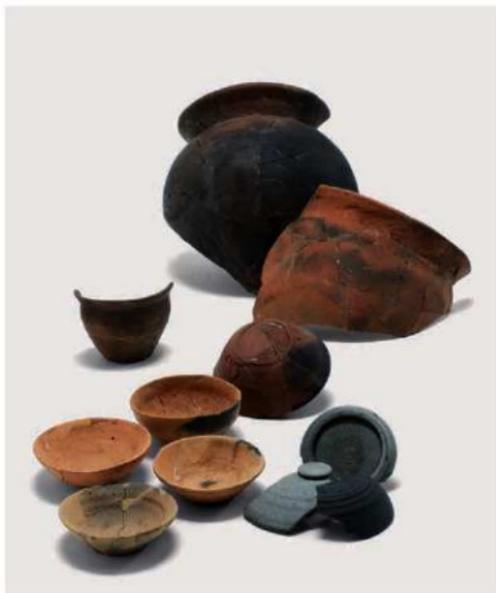
舟久保遺跡第53地区は公会堂建設に伴い調査を行った。後世の土地改変により残存状況は良好でないものの、8世紀から10世紀の竪穴建物跡3軒を調査した。

竪穴建物跡はいずれもカマドをもつものの、設置箇所はそれぞれ異なる。

調査地は現在、住宅が密集しており、集落の広がりか明らかとなっていないため、今後も小規模な調査を重ね、遺跡動態に迫っていく必要がある。



調査区全景 (北から)



出土遺物集合

宇東川遺跡は富士山南麓に広がる新富士火山噴出物を基盤とする丘陵の末端部分の松原川西岸に立地する。南北約500m、東西650mの範囲に展開する、縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡である。

本書で報告するU地区は複合型小規模ホーム建設に伴い本発掘調査を行った。調査では8世紀から11世紀にかけての竪穴建物跡16軒を検出した。

調査地の東側には埋没谷が存在し、建物は埋没谷を避けて作られていることが明らかとなった。

例 言

1. 本書は、静岡県富士市内において富士市教育委員会が平成 26 年度・平成 27 年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。ただし、一部には平成 24 年度・平成 25 年度に調査された調査成果の報告も含んでいる。
また、調査名については、調査当時の包蔵地範囲に準拠して呼称している。
2. 調査は、富士市教育委員会教育長を主体者として実施し、文化振興課職員がこれにあたった。調査の一部は『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を得て実施した。調査体制、担当者は第 1 章第 1 節に譲る。
3. 本書の執筆・編集は調査担当者の記録を基に、佐藤祐樹（文化振興課主査）・若林美希（文化振興課臨時職員）が行った。
4. 本書に掲載した調査に関わる図は、調査担当者および稲葉万智子・金田純子（文化振興課臨時職員）が作成した。
遺物は、小田貴子（同）が実測し、稲葉・金田が図版を作成した。
遺物の接合・拓本は井上高子・石川都久子・渡辺美規子・牧野かおり（同）による。
遺物写真は佐藤・小田が撮影し、調査記録写真は調査担当者が撮影した。
5. 本書の作成にあたり、多くの皆様からの御指導、御協力を賜りました。記して感謝申し上げます。
小崎 晋、篠原 武、前嶋秀張（五十音順、敬称略）
6. 本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会で保管している。

凡 例

1. 確認調査を含め、座標は平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、世界測地系を使用して調査した。調査では、国土地理院による都市再生街区基本調査成果を用いた。

2. 各調査報告の冒頭に示す調査地位置図には、『富士市土地計画基本図』を使用した。

3. 挿図の縮尺は、各図に添付したスケールで示す。写真図版の縮尺はすべて任意である。

4. 本書における標記は次のとおりである。

Tr: トレンチ SB: 竪穴建物跡 SD: 溝状遺構 SX: 性格不明遺構 SK: 土坑
Pt: ビット P: 土器 S: 石

5. 土器の実測図では、断面を以下のように表現することで種類の違いを示した。

縄文土器・弥生土器・土師器  須恵器  灰軸陶器・陶器 

6. 土器および土層などの色調は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修 2000年版）による。

7. 遺構・遺物ともに、法量の（ ）は残存値、[]は推定値である。また、土器の残存率は図示中での残存率を示した。

8. 出土遺物の評価については、主として次の文献に基づいて検討した。

・縄文土器

小林建雄 編 2008『総覧 縄文土器』

・土師器

山梨県考古学協会 1992『甲斐型土器研究グループ第1回研究集会資料 甲斐型土器-その編年と年代-』

木ノ内義昭 2002『須恵器流入以降～律令時代の土師器の様相』『東平遺跡』富士市教育委員会

佐藤祐樹 2014『澗井川流域における須恵器流入以降の土器様相』『沢東 A 遺跡 第1次』富士市教育委員会

・須恵器

田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店

鈴木敏明 1998『第1章第4節 律令時代土器編年の概要』『梶子北遺跡』遺物編(本文)(財)浜松市文化協会

鈴木敏明 2004『第5章第2節 静岡県下の須恵器編年』『有玉古窯』浜松市教育委員会

・灰軸陶器

斎藤孝正 1989『灰軸陶器の研究Ⅱ-線投室第Ⅴ期碗・皿類の型式編年-』『名古屋大学文学部研究論集』104(史学35)

尾野善裕 2008『古代の灰軸陶器生産と米姓古窯跡群』『米姓古窯跡群』豊田市教育委員会

井上高久男 2015『瓷器』『愛知県史』別編 窯業1 古代 猿投系

目次

カラー図版

例言

凡例

目次

第1章 平成26・27年度の調査

第1節 調査体制と調査概要	1
第2節 平成26年度の発掘調査報告	5
第3節 平成27年度の発掘調査報告	36
第4節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更	59
写真図版 平成26年度	61
写真図版 平成27年度	71

第2章 沢東A遺跡第16次調査地点の調査

第1節 沢東A遺跡の概要	77
第2節 沢東A遺跡第16次調査地点の調査成果	79

第3章 中桁・中ノ坪遺跡の調査

第1節 中桁・中ノ坪遺跡の概要	101
第2節 第7地区の調査成果	105
第3節 第11地区の調査成果	137

第4章 舟久保遺跡の調査

第1節 舟久保遺跡の概要	145
第2節 第1地区の調査成果	149
第3節 第20地区の調査成果	151
第4節 第54地区の調査成果	153
第5節 第55地区の調査成果	154
第6節 第56地区の調査成果	155
第7節 第58地区の調査成果	161
第8節 第59地区の調査成果	162
第9節 第53地区の調査成果	164
第10節 第57地区の調査成果	174

第5章 宇東川遺跡U地区の調査	
第1節 宇東川遺跡の概要	179
第2節 宇東川遺跡U地区の調査成果	181
第6章 総括	205

写真図版

報告書抄録

挿目次

第1章 平成26・27年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

第1回 意識除染の様子	3
第2回 調査の様子	3
第3回 平成26・27年度 調査の位置と地域区分	4

第2節 平成26年度の発掘調査報告

第4回 東平道跡第68地区 位置図	5
第5回 東平道跡第68地区 トレンチ配置図・セクション図	5
第6回 東平道跡第69地区 位置図	6
第7回 東平道跡第69地区 出土遺物実測図	6
第8回 東平道跡第69地区 トレンチ配置図	6
第9回 東平道跡第69地区 セクション図	7
第10回 石坂11古墳群第1地区 位置図	7
第11回 石坂11古墳群第1地区 トレンチ配置図	7
第12回 石坂11古墳群第1地区 セクション図	7
第13回 河下道跡M地区 位置図	8
第14回 河下道跡M地区 トレンチ配置図・セクション図	8
第15回 中古原宿道跡第8地区 位置図	8
第16回 中古原宿道跡第8地区 トレンチ配置図・セクション図	9
第17回 中古原宿道跡第9地区 位置図	10
第18回 中古原宿道跡第9地区 トレンチ配置図・セクション図	10

第19回 宇東川道跡M地区 位置図	11
第20回 宇東川道跡M地区 セクション図	11
第21回 宇東川道跡M地区 トレンチ配置図	11
第22回 宇東川道跡M地区 SHI 平面図・礎石エレベーション図	11

第23回 国久保道跡第4地区 位置図	12
第24回 国久保道跡第4地区 トレンチ配置図・セクション図	12

第25回 川友道跡2地区 位置図	12
第26回 川友道跡第2地区 セクション図	12
第27回 川友道跡第2地区 トレンチ配置図	13
第28回 東平道跡第71地区 位置図	13
第29回 東平道跡第71地区 トレンチ配置図・セクション図	13
第30回 比奈1古墳群第10地区 位置図	14
第31回 比奈1古墳群第10地区 トレンチ配置図・セクション図	14

第32回 比奈1古墳群第10地区 トレンチ配置図・セクション図	15
------------------------------------	----

第33回 中野道跡第1地区 位置図	15
第34回 中野道跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	15
第35回 川窪道跡第2地区(隣接地) 位置図	16
第36回 川窪道跡第2地区(隣接地) トレンチ配置図	16
第37回 東平道跡第72地区 位置図	17
第38回 東平道跡第72地区 トレンチ配置図・セクション図	17
第39回 林泉寺野跡第2地区(隣接地) 位置図	17
第40回 林泉寺野跡第2地区(隣接地) トレンチ配置図・セクション図	18

第41回 三新田道跡M地区(隣接地) 位置図	18
第42回 三新田道跡M地区(隣接地) トレンチ配置図・セクション図	19

第43回 東平道跡第73地区 位置図	19
第44回 東平道跡第73地区 トレンチ配置図・セクション図	19
第45回 谷津原古墳群第6次調査地点 位置図	20

第46回 谷津原古墳群第6次調査地点

トレンチ配置図・セクション図	20
第47回 東平道跡第74地区 位置図	20

第48回 東平道跡第74地区 トレンチ配置図・セクション図	21
第49回 東平道跡第75地区 位置図	22
第50回 東平道跡第75地区 トレンチ配置図・セクション図	22
第51回 東平道跡第76地区 位置図	22
第52回 東平道跡第76地区 トレンチ配置図・セクション図	23
第53回 土手内・中原2古墳群第14地区 位置図	23
第54回 土手内・中原2古墳群第14地区 トレンチ配置図・セクション図	23

第55回 土手内・中原2古墳群第14地区 土手内第26号墳 平面図・エレベーション図	24
---	----

第56回 沢東A道跡第10次調査地点 位置図	25
第57回 沢東A道跡第10次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	25

第58回 沢東B道跡第10地区 位置図	25
第59回 沢東B道跡第10地区 トレンチ配置図	25

第60回 沢東B道跡第10地区 セクション図	26
第61回 上野道跡第1地区 位置図	26

第62回 上野道跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	26
第63回 傘木B道跡第1地区 位置図	27

第64回 傘木B道跡第1地区 トレンチ配置図・セクション	27
第65回 厚原道跡第5地区 位置図	27

第66回 厚原道跡第5地区 トレンチ配置図	27
第67回 厚原道跡第5地区 セクション図	27

第68回 沢東A道跡第14次調査地点 位置図	28
第69回 沢東A道跡第14次調査地点 トレンチ配置図・セクション図	28

第70回 貫井道跡第1地区 位置図	28
第71回 貫井道跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	29

第72回 天間沢道跡第41地区 位置図	29
第73回 天間沢道跡第41地区 トレンチ配置図・セクション図	29

第74回 宇東川道跡S地区 位置図	30
第75回 宇東川道跡S地区 トレンチ配置図・セクション図	30

第76回 水戸島道跡第1地区 位置図	30
第77回 水戸島道跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	31

第78回 宇東川道跡T地区 位置図	31
第79回 宇東川道跡T地区 出土遺物実測図	31

第80回 宇東川道跡T地区 トレンチ配置図・セクション図	32
第81回 ナンカイゴボ道跡第1地区 位置図	32

第82回 ナンカイゴボ道跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図	33
-------------------------------------	----

第83回 ナンカイゴボ道跡第1地区 3T・6Tr 平面図・セクション図	34
--	----

第84回 ナンカイゴボ道跡第1地区 出土遺物実測図	35
第85回 厚原道跡第6地区 位置図	35

第86回 厚原道跡第6地区 トレンチ配置図	35
第87回 厚原道跡第6地区 セクション図	35

第3節 平成27年度の発掘調査報告	36
第88回 天念寺道跡第1地区 位置図	36

第89回 天念寺道跡第1地区 トレンチ配置図	36
第90回 天念寺道跡第1地区 遺物実測図	36

第91回 天念寺道跡第1地区 セクション図	36
-----------------------	----

第 92 回	水神堂道跡第 3 地区	位置図	37
第 93 回	水神堂道跡第 3 地区	トレンチ配置図	37
第 94 回	水神堂道跡第 3 地区	セクション図	37
第 95 回	天間沢道跡第 42 地区	位置図	37
第 96 回	天間沢道跡第 42 地区	トレンチ配置図・セクション図	38
第 97 回	東平道跡第 78 地区	位置図	38
第 98 回	東平道跡第 78 地区	トレンチ配置図・セクション図	39
第 99 回	沢上道跡第 6 次調査地点	位置図	39
第 100 回	沢上道跡第 6 次調査地点	トレンチ配置図・セクション図	39
第 101 回	信法 3 古墳群第 1 地区	位置図	40
第 102 回	信法 3 古墳群第 1 地区	トレンチ配置図・セクション図	40
第 103 回	沢東 A 道跡第 15 次調査地点	位置図	41
第 104 回	沢東 A 道跡第 15 次調査地点	遺物実測図	41
第 105 回	沢東 A 道跡第 15 次調査地点	トレンチ配置図	41
第 106 回	沢東 A 道跡第 15 次調査地点	TTr・2Tr・4Tr 平面図	41
第 107 回	沢東 A 道跡第 15 次調査地点	3Tr 平面図	42
第 108 回	沢東 A 道跡第 15 次調査地点	セクション図	42
第 109 回	富士岡 1 古墳群第 14 地区	位置図	43
第 110 回	富士岡 1 古墳群第 14 地区	トレンチ配置図・セクション図	43
第 111 回	沢東 B 道跡第 1 地区	位置図	43
第 112 回	沢東 B 道跡第 1 地区	トレンチ配置図・セクション図	44
第 113 回	沖田道跡第 152 次調査地点	位置図	44
第 114 回	沖田道跡第 152 次調査地点	トレンチ配置図・セクション図	44
第 115 回	東平道跡第 77 地区	位置図	45
第 116 回	東平道跡第 77 地区	トレンチ配置図	45
第 117 回	東平道跡第 77 地区	遺物実測図	45
第 118 回	東平道跡第 77 地区	トレンチ平面図	46
第 119 回	東平道跡第 77 地区	セクション図	47
第 120 回	沖田道跡第 153 次調査地点	位置図	47
第 121 回	沖田道跡第 153 次調査地点	トレンチ配置図	47
第 122 回	沖田道跡第 153 次調査地点	セクション図	48
第 123 回	富士岡 1 古墳群第 15 地区	位置図	48
第 124 回	富士岡 1 古墳群第 15 地区	トレンチ配置図・セクション図	48
第 125 回	中軒・中ノ坪道跡第 12 地区	位置図	49
第 126 回	中軒・中ノ坪道跡第 12 地区	トレンチ配置図・セクション図	49
第 127 回	物見堂道跡第 2 地区	位置図	49
第 128 回	物見堂道跡第 2 地区	トレンチ配置図	49
第 129 回	物見堂道跡第 2 地区	トレンチ平面図・セクション図	50
第 130 回	厚原横道下道跡第 5 地区	位置図	50
第 131 回	厚原横道下道跡第 5 地区	トレンチ配置図	50
第 132 回	厚原横道下道跡第 5 地区	トレンチ平面図・セクション図	51
第 133 回	川取道跡第 3 地区	位置図	52
第 134 回	川取道跡第 3 地区	トレンチ配置図・セクション図	52
第 135 回	天念寺道跡第 2 地区	位置図	52
第 136 回	天念寺道跡第 2 地区	トレンチ配置図	52

第 137 回	天念寺道跡第 2 地区	セクション図	53
第 138 回	中島道跡第 10 地区	位置図	53
第 139 回	中島道跡第 10 地区	トレンチ配置図・セクション図	53
第 140 回	中塚道跡第 28 地区	位置図	54
第 141 回	中塚道跡第 28 地区	トレンチ配置図・セクション図	54
第 142 回	中塚道跡第 28 地区	セクション図	55
第 143 回	沢東 A 道跡第 17 次調査地点	位置図	55
第 144 回	沢東 A 道跡第 17 次調査地点	トレンチ配置図	55
第 145 回	沢東 A 道跡第 17 次調査地点	遺物実測図	55
第 146 回	沢東 A 道跡第 17 次調査地点	セクション図	56
第 147 回	宇東川道跡隣接地 (V 地区)	位置図	56
第 148 回	宇東川道跡隣接地 (V 地区)	遺物実測図	56
第 149 回	宇東川道跡隣接地 (V 地区)	トレンチ配置図・セクション図	57
第 150 回	中塚道跡第 29 地区	位置図	58
第 151 回	中塚道跡第 29 地区	トレンチ配置図・セクション図	58

第 4 節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更

第 152 回	国久保道跡	59
第 153 回	厚原横道下道跡	60
第 154 回	大石道跡	60
第 155 回	中塚道跡	60

第 2 章 沢東 A 道跡第 16 次調査地点の調査

第 1 節 沢東 A 道跡の概要

第 156 回	沢東 A 道跡の立地と周辺地形	77
第 157 回	沢東 A 道跡 概要図	78

第 2 節 沢東 A 道跡第 16 次調査地点の調査成果

第 158 回	調査地位置図	79
第 159 回	確認調査トレンチおよび本調査区配置図	79
第 160 回	調査の様子	80
第 161 回	確認調査トレンチ 平面図・セクション図	81
第 162 回	本調査区 平面図	82
第 163 回	本調査区 調査前 (北から)	83
第 164 回	本調査区 基本土層図	83
第 165 回	SB101 平面図・セクション図	84
第 166 回	SB101 カマド 平面図・セクション図	85
第 167 回	SB101 出土遺物実測図	85
第 168 回	SB201 平面図・セクション図	86
第 169 回	SB201 遺物出土状況 (西から)	87
第 170 回	SB201 出土遺物実測図	87
第 171 回	SB202 平面図・セクション図	88
第 172 回	SB202 出土遺物実測図	88
第 173 回	SB203 平面図・セクション図	89
第 174 回	SB203 出土遺物実測図	89
第 175 回	SB203 カマド平面図・セクション図	89
第 176 回	SB204 平面図・セクション図	90
第 177 回	SB204 出土遺物実測図	90
第 178 回	SB204 カマド 平面図・セクション図	91
第 179 回	SB205 平面図・セクション図	91
第 180 回	SB205 出土遺物実測図	92
第 181 回	SB206 平面図・セクション図	93
第 182 回	SB206 カマド平面図・セクション図	94
第 183 回	SB206 出土遺物実測図	94

第 184 図	SB206	遺物出土状況 (南西より)	94
第 185 図	SB207	平面図・セクション図	95
第 186 図	SB207	出土遺物実測図	95
第 187 図	SB207	カマド平面図・セクション図	96
第 188 図	SD201・SD202	平面図・セクション図	96
第 189 図	SX201	平面図・セクション図	97
第 190 図	SX202	平面図・セクション図	97
第 191 図	SX203・SX204	平面図・セクション図	98
第 192 図	3 工区	土坑・ピット 平面図・セクション図	98
第 193 図	4 工区	土坑・ピット 平面図	99
第 194 図	SK221	平面図・セクション図	100
第 195 図	SK221	出土遺物実測図	100
第 196 図		遺構外 出土遺物実測図	100
第 3 章 中街・中ノ坪遺跡の調査			
第 1 節 中街・中ノ坪遺跡の概要			
第 197 図		中街・中ノ坪遺跡の位置と周辺地形図	101
第 198 図		中街・中ノ坪遺跡 調査履歴図	102
第 199 図		中街・中ノ坪遺跡 遺跡概要図	104
第 2 節 第 7 地区の調査成果			
第 200 図		第 7 地区 位置図	105
第 201 図		確認調査トレンチおよび本発掘調査区配置図	106
第 202 図		確認調査 遺構検出状況	107
第 203 図		第 1 調査区 全体図	108
第 204 図	SB101	平面図・セクション図	109
第 205 図	SB101	出土遺物実測図	109
第 206 図	SB102・SB104	平面図・セクション図	110
第 207 図	SB102	出土遺物実測図	110
第 208 図	SB103	出土遺物実測図	111
第 209 図	SB103	平面図・セクション図	111
第 210 図	SD101	平面図・セクション図	111
第 211 図	SD102	平面図・セクション図	112
第 212 図	SK101 ~ 110, Ph101・104・110	平面図・セクション図	113
第 213 図	Ph102・103・105 ~ 109	平面図・セクション図	114
第 214 図		第 2 調査区 全体図	114
第 215 図	SD201	平面図・セクション図	115
第 216 図	SD201	出土遺物実測図	115
第 217 図	SX201	平面図・セクション図	116
第 218 図	SX201	出土遺物実測図	116
第 219 図	Ph201・202	平面図・セクション図	116
第 220 図		第 3 調査区 全体図	117
第 221 図	SD301	平面図・セクション図	118
第 222 図	SD301	遺物出土状況 平面図・エレベーション図	119
第 223 図	SD301	遺物出土状況(微細図) (南)	120
第 224 図	SD301	遺物出土状況(微細図) (北)	121
第 225 図	SD301	出土遺物実測図(土)	121
第 226 図	SD301	出土遺物実測図(器)	122
第 227 図	SD302	平面図・セクション図	124
第 228 図	SD303	平面図・セクション図	124
第 229 図	SD304	平面図・セクション図	124
第 230 図	Ph302	出土遺物実測図	124
第 231 図	SK301 ~ 308, Ph301 ~ 307	平面図・セクション図	125
第 232 図		第 4 調査区 全体図	126
第 233 図	SB401	平面図・セクション図	127
第 234 図	SB401	出土遺物実測図	127

第 235 図	SB402	平面図・セクション図	127
第 236 図	SD401	平面図・セクション図	128
第 237 図	SD402	平面図・セクション図	129
第 238 図	SD403	平面図・セクション図	129
第 239 図	SD404	平面図・セクション図	130
第 240 図	SD404	遺物出土状況図	130
第 241 図	SD201・SD301・SD404	平面図	130
第 242 図	SD404	出土遺物実測図	131
第 243 図	SK401 ~ 409, Ph430・409 ~ 472・485	平面図・セクション図	133
第 244 図	Ph401 ~ 435・437 ~ 442・444・445	平面図・セクション図	134
第 245 図	Ph443 ~ 468・473・474・477	平面図・セクション図	135
第 246 図	Ph475・476・478 ~ 484・486 ~ 489	平面図・セクション図	136
第 247 図		表採遺物 実測図	136
第 3 節 第 11 地区の調査成果			
第 248 図		調査地位位置図	137
第 249 図		トレンチおよび本調査区配置図	137
第 250 図	ITr	遺構検出状況 (南西より)	138
第 251 図	ITr	遺構検出状況図・セクション図	139
第 252 図		本調査区 全体図	140
第 253 図	SB03	平面図・セクション図	140
第 254 図	SB03 カマド	平面図・セクション図	141
第 255 図	SB03	出土遺物実測図	141
第 256 図	SB05	平面図・セクション図	142
第 257 図	SB05	出土遺物実測図	143
第 258 図		土坑・ピット 平面図・セクション図	144
第 259 図	Ph15	出土遺物実測図	144
第 4 章 舟久保遺跡の調査			
第 1 節 舟久保遺跡の概要			
第 260 図		舟久保遺跡の位置と周辺地形図	145
第 261 図		舟久保遺跡 調査履歴図	146
第 262 図		舟久保遺跡 遺構分布状況図	148
第 2 節 第 1 地区の調査成果			
第 263 図		舟久保遺跡第 1 地区 位置図	149
第 264 図		舟久保遺跡第 1 地区 2 次調査・3 次調査 トレンチ配置図・セクション図	150
第 3 節 第 20 地区の調査成果			
第 265 図		舟久保遺跡第 20 地区 位置図	151
第 266 図		舟久保遺跡第 20 地区 1 次調査全景 (平成 5 年)	151
第 267 図		舟久保遺跡第 20 地区 2 次調査 トレンチ配置図	152
第 268 図		舟久保遺跡第 20 地区 2 次調査 トレンチ平面図・セクション図	152
第 4 節 第 54 地区の調査成果			
第 269 図		舟久保遺跡第 54 地区 位置図	153
第 270 図		舟久保遺跡第 54 地区 トレンチ配置図・セクション図	153
第 5 節 第 55 地区の調査成果			
第 271 図		舟久保遺跡第 55 地区 位置図	154
第 272 図		舟久保遺跡第 55 地区 トレンチ配置図	154
第 273 図		舟久保遺跡第 55 地区 出土遺物実測図	154
第 274 図		舟久保遺跡第 55 地区 I トレンチ 平面図・セクション図	155
第 6 節 第 56 地区の調査成果			
第 275 図		舟久保遺跡第 56 地区 位置図	155
第 276 図		舟久保遺跡第 56 地区 トレンチ配置図	156

第 277 図	舟久保道跡第 56 地区	3 Tr 平面図・セクション図	156
第 278 図	舟久保道跡第 56 地区	1・2Tr 平面図・セクション図	157
第 279 図	舟久保道跡第 56 地区	4・5Tr 平面図・セクション図	158
第 280 図	舟久保道跡第 56 地区	6・7Tr 平面図・セクション図	159
第 281 図	舟久保道跡第 56 地区	出土遺物実測図	160
第 7 節	第 58 地区の調査成果		
第 282 図	舟久保道跡第 58 地区	位置図	161
第 283 図	舟久保道跡第 58 地区	トレンチ配置図	161
第 284 図	舟久保道跡第 58 地区	セクション図	161
第 8 節	第 59 地区の調査成果		
第 285 図	舟久保道跡第 59 地区	位置図	162
第 286 図	舟久保道跡第 59 地区	出土遺物実測図	162
第 287 図	舟久保道跡第 59 地区	トレンチ配置図	162
第 288 図	舟久保道跡第 59 地区	1・2Tr 平面図・セクション図	163
第 9 節	第 53 地区の調査成果		
第 289 図	舟久保道跡第 53 地区	位置図	164
第 290 図	舟久保道跡第 53 地区	トレンチおよび本調査区配置図	164
第 291 図	舟久保道跡第 53 地区	本発掘調査風景	164
第 292 図	本調査区	平面図・基本土層図	165
第 293 図	SB01 平面図・セクション図		166
第 294 図	SB01 カマド 平面図・セクション図		167
第 295 図	SB01 出土遺物実測図		167
第 296 図	SB02 平面図・セクション図		168
第 297 図	SB02 出土遺物実測図		169
第 298 図	SB02 カマド 平面図・セクション図		169
第 299 図	SB03 カマド 平面図・セクション図		170
第 300 図	SB03 平面図		170
第 301 図	SB03 出土遺物実測図		170
第 302 図	SB03 カマド (南から)		171
第 303 図	土坑・ピット・遺構外	出土遺物実測図	171
第 304 図	土坑・ピット	平面図	172
第 305 図	土坑・ピット	セクション図	173
第 10 節	第 57 地区の調査成果		
第 306 図	舟久保道跡第 57 地区	位置図	174
第 307 図	舟久保道跡第 57 地区	トレンチ・本調査区配置図	174
第 308 図	舟久保道跡第 57 地区	トレンチ平面図・セクション図	174
第 309 図	舟久保道跡第 57 地区	本発掘調査区全体図	175
第 310 図	舟久保道跡第 57 地区	本発掘調査区セクション図	176
第 311 図	舟久保道跡第 57 地区	SB101 平面図・セクション図	176
第 312 図	舟久保道跡第 57 地区	SB102 平面図・セクション図	177
第 313 図	舟久保道跡第 57 地区	SB102 出土遺物実測図	178
第 314 図	舟久保道跡第 57 地区	土坑・ピット 平面図	178

第 5 章 宇東川道跡 U 地区の調査

第 1 節	宇東川道跡の概要		
第 315 図	宇東川道跡の位置と周辺地形		179
第 316 図	宇東川道跡 概観図		180
第 2 節	宇東川道跡 U 地区の調査成果		
第 317 図	調査地位置図		181
第 318 図	確認調査トレンチおよび本発掘調査区配置図		181
第 319 図	調査地全景 (東より)		182
第 320 図	確認調査トレンチ 平面図・セクション図		183
第 321 図	遺構検出状況		184
第 322 図	確認調査トレンチ 出土遺物実測図		184
第 323 図	本調査区 平面図・セクション図		185
第 324 図	SB101 平面図・セクション図		186
第 325 図	SB101 出土遺物実測図		186
第 326 図	SB102 平面図・セクション図		187
第 327 図	SB102 カマド 平面図・セクション図		188
第 328 図	SB102 出土遺物実測図		188
第 329 図	SB103 平面図・セクション図		189
第 330 図	SB103 カマド 平面図・セクション図		190
第 331 図	SB103 出土遺物実測図		190
第 332 図	SB104 平面図・セクション図		191
第 333 図	SB104 出土遺物実測図		191
第 334 図	SB105 平面図・セクション図		192
第 335 図	SB105 出土遺物実測図		193
第 336 図	SB106・SB107 平面図・セクション図		194
第 337 図	SB106 出土遺物実測図		194
第 338 図	SB107 出土遺物実測図		194
第 339 図	SB108 平面図・セクション図		195
第 340 図	SB110 平面図・セクション図		196
第 341 図	SB110 出土遺物実測図		197
第 342 図	SB111 平面図・セクション図		198
第 343 図	SB111 出土遺物実測図		198
第 344 図	SB112・Pr101・Pr102 平面図・セクション図		199
第 345 図	SB112 カマド 平面図・セクション図		199
第 346 図	SB112 出土遺物実測図		199
第 347 図	SB113～SB117 平面図・セクション図		201
第 348 図	SB114 出土遺物実測図		202
第 349 図	SB116 出土遺物実測図		202
第 350 図	遺構外 出土遺物実測図		202
第 351 図	縄文時代 平面図・セクション図		203
第 352 図	縄文時代 出土遺物実測図		204

挿入目次

第1章 平成26・27年度の調査	
第1節 調査体制と調査概要	
第1表 富士市内における届出・調査件数の推移	1
第2表 発掘調査面積の推移	1
第3表 平成26年度発掘調査一覧表	2
第4表 平成27年度発掘調査一覧表	3
第2節 平成26年度の発掘調査報告	
第5表 東平道跡第69地区 出土遺物観察表	6
第6表 宇東川道跡T地区 出土遺物観察表	31
第7表 ナンカイゴ道跡第1地区 出土遺物観察表	35
第3節 平成27年度の発掘調査報告	
第8表 天念寺道跡第1地区 出土遺物観察表	36
第9表 沢東A道跡第15次調査地点 出土遺物観察表	40
第10表 東平道跡第77地区 出土遺物観察表	45
第11表 沢東A道跡第17次調査地点 出土遺物観察表	55
第12表 宇東川道跡隣接地（V地区） 出土遺物観察表	56
第2章 沢東A道跡第16次調査地点の調査	
第1節 沢東A道跡の概要	
第13表 沢東A道跡調査履歴一覧表	78
第2節 沢東A道跡第16次調査地点の調査成果	
第14表 SB101 出土遺物観察表	86
第15表 SB201 出土遺物観察表	87
第16表 SB202 出土遺物観察表	88
第17表 SB203 出土遺物観察表	89
第18表 SB204 出土遺物観察表	90
第19表 SB205 出土遺物観察表	92
第20表 SB206 出土遺物観察表	94
第21表 SB207 出土遺物観察表	95
第22表 土坑・ビット規模等一覧表	99
第23表 SK221 出土遺物観察表	100
第24表 道溝外 出土遺物観察表	100
第3章 中桁・中ノ坪道跡の調査	
第1節 中桁・中ノ坪道跡の概要	
第25表 中桁・中ノ坪道跡 調査履歴一覧表	103
第2節 第7地区の調査成果	
第26表 SB101 出土遺物観察表	109
第27表 SB102 出土遺物観察表	110
第28表 SB103 出土遺物観察表	111
第29表 第1調査区 土坑・ビット一覧表	112
第30表 SD201 出土遺物観察表	116
第31表 SX201 出土遺物観察表	116
第32表 第2調査区 土坑・ビット一覧表	116
第33表 SD301 出土遺物観察表	123
第34表 第3調査区 土坑・ビット一覧表	124
第35表 PC002 出土遺物観察表	124
第36表 SB401 出土遺物観察表	127
第37表 SD404 出土遺物観察表	131
第38表 第4調査区 土坑・ビット一覧表	132
第39表 表層遺物 観察表	136
第3節 第11地区の調査成果	
第40表 SB03 出土遺物観察表	141
第41表 SB05 出土遺物観察表	143
第42表 第11地区 土坑・ビット一覧表	144
第43表 Pn15 出土遺物観察表	144
第4章 舟久保道跡の調査	
第1節 舟久保道跡の概要	
第44表 舟久保道跡 調査履歴一覧表	146
第5節 第55地区の調査成果	
第45表 舟久保道跡第55地区 出土遺物観察表	155
第6節 第56地区の調査成果	
第46表 56地区 出土遺物観察表	160
第8節 第59地区の調査成果	
第47表 59地区 出土遺物観察表	162
第9節 第53地区の調査成果	
第48表 SB01 出土遺物観察表	167
第49表 SB02 出土遺物観察表	169
第50表 SB03 出土遺物観察表	170
第51表 土坑・ビット・道溝外 出土遺物観察表	171
第52表 土坑・ビット一覧表	173
第10節 第57地区の調査成果	
第53表 57地区 SB102 出土遺物観察表	178
第54表 舟久保道跡第57地区 土坑・ビット一覧表	178
第5章 宇東川道跡U地区の調査	
第2節 宇東川道跡U地区の調査成果	
第55表 確認調査トレンチ 出土遺物観察表	184
第56表 SB101 出土遺物観察表	186
第57表 SB102 出土遺物観察表	188
第58表 SB103 出土遺物観察表	190
第59表 SB104 出土遺物観察表	191
第60表 SB105 出土遺物観察表	193
第61表 SB106 出土遺物観察表	195
第62表 SB107 出土遺物観察表	195
第63表 SB110 出土遺物観察表	197
第64表 SB111 出土遺物観察表	198
第65表 SB112 出土遺物観察表	200
第66表 SB114 出土遺物観察表	202
第67表 SB116 出土遺物観察表	202
第68表 道溝外 出土遺物観察表	202
第69表 宇東川道跡U地区 ビット 規模等一覧表	203
第70表 縄文時代 出土遺物観察表	204

カラー図版目次

カラー図版 1

中桁・中ノ坪道跡 第11地区

カラー図版 2・3

中桁・中ノ坪道跡 第7地区

カラー図版 4・5

沢東A道跡 第16次調査地点

カラー図版 6

舟久保道跡 第57地区

カラー図版 7

舟久保道跡 第53地区

カラー図版 8

宇東川道跡 U地区

PL12 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. SD301 発掘作業の様子 (北から)
2. 第3調査区拡張区全景 (南東から)
3. SD301 拡張部 (南東から)
4. SD301 拡張部遺物出土状況
5. SD301 瓦片 (49) 出土状況

PL13 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. 第4調査区東側全景 (北から)
2. 第4調査区東側北半 (南から)
3. SB401 (南から)
4. SD401 (東から)

PL14 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. 第4調査区南東側 (西から)
2. 第4調査区南側 (東から)
3. SB402・SK405 (南西から)
4. SD404 (南西から)
5. SD404遺物出土状況 (北から)

PL15 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. SD402 (西から)
2. SD402 東壁足掛け穴 (西から)
3. SD403 (南から)
4. 第4調査区東側南半 SK401ほか (北から)

PL16～19 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

出土遺物

PL20 中桁・中ノ坪道跡 第11地区

1. 確認調査1Tr 遺構検出状況 (南西から)
2. 確認調査1Tr
SB02 南北セクション東壁 (北西から)
3. SB05 「跡の間置」出土状況
4. 本調査区 遺構・遺物検出状況 (南から)

PL21 中桁・中ノ坪道跡 第11地区

1. SB03 カマド遺物出土状況 (南から)
2. SB03 カマド完掘 (南西から)

PL22 中桁・中ノ坪道跡 第11地区

出土遺物

PL23 舟久保道跡

第1地区

1. 2次調査1Tr
2. 2次調査2Tr
3. 3次調査7Tr

第20地区

1. 1Tr 遺構検出状況
2. P901
3. P902

PL24 舟久保道跡

第54地区

1. 1Tr 遺構検出状況 (南西から)
2. 2Tr 遺構検出状況 (東から)

第55地区

1. 1Tr 遺構検出状況 (南東から)
2. 1Tr 西壁 (北東から)

出土遺物

PL25 舟久保道跡

第56地区

1. 1Tr (西から)
2. 4Tr (東から)
3. 7Tr (東から)
4. 4Tr SB02カマド (北東から)
5. 6Tr SB11南壁 (北から)

PL26 舟久保道跡

第56地区

出土遺物

PL27 舟久保道跡

第58地区

1. 1Tr (北西から)
2. 3Tr
3. 59地区
1. 1Tr (西から)
2. 1Tr SB01 (北西から)
3. 1Tr SB02・SB03・SB04 (北東から)

出土遺物

PL28 舟久保道跡

第53地区

1. SB01 (南から)
2. SB02 (南から)
3. 1Tr SB02・SB03・SB04 (北東から)

出土遺物

PL29 舟久保道跡

第53地区

1. SB02カマド遺物検出状況 (南西から)
2. SB02カマド (南西から)
3. SB03 (南から)

PL30 舟久保道跡

第53地区

出土遺物

PL31 舟久保道跡

第57地区

1. SB01 (南西から)
2. SB02 (北から)
3. P9106・P9107・P9108 (南から)

出土遺物

PL32 宇東川道跡 U地区

1. 本調査区全景 (北から)
2. 確認調査1Tr SB01
3. SB102カマド (東から)
4. SB101・SB102 (東から)

PL33 宇東川道跡 U地区

1. SB103カマド (西から)
2. SB104・SB105 (南から)
3. SB106・SB110 (南から)
4. SB111・SB114 (北から)

PL34 宇東川道跡 U地区

1. SB112 (東から)
2. SB112カマド (南から)
3. SB113・SB115・SB116 (南東から)
4. 第4工区縄文時代包含層 (南東から)
5. 第5工区縄文時代包含層 (南東から)

PL35～38 宇東川道跡 U地区

出土遺物

写真図版目次

PL1 沢東A道跡 第16次調査地点

1. 第1工区 (SB204・SB205) 全景 (南西から)
2. SB204カマド (南西から)
3. SK221 (東から)

PL2 沢東A道跡 第16次調査地点

1. 第4工区全景 (北西から)

PL3 沢東A道跡 第16次調査地点

1. SB101・SB202全景 (南西から)
2. SB201全景 (南西から)
3. SB201床面遺物出土状況 (南西から)

PL4 沢東A道跡 第16次調査地点

1. SB203全景 (南から)
2. SB206全景 (南から)

PL5 沢東A道跡 第16次調査地点

1. SB203カマド (南から)
2. SB206カマド (東から)
3. SB207全景 (南西から)

PL6 沢東A道跡 第16次調査地点

1. SB207カマド (南西から)
2. 第3工区全景 (北西から)
3. 出土遺物集合

PL7・8 沢東A道跡 第16次調査地点

出土遺物

PL9 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. 第1調査区全景 (南から)
2. SB101・SB102・SB104 (南から)
3. SB103・SK109 (北から)
4. SD101 (南から)

PL10 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. SD201 (北から)
2. SX201 (南から)
3. 第3調査区全景 (南から)

PL11 中桁・中ノ坪道跡 第7地区

1. SD301全景 (南から)
2. SD301遺物出土状況 (南から)
3. SD301遺物出土状況 (南から)
4. SD301土師部任 (17) 出土状況
5. SD301遺物出土状況 (北から)

第1章 平成26・27年度の調査

第1節 調査体制と調査概要

1. 調査体制

平成26年度および27年度の埋蔵文化財発掘調査は、以下の体制で実施した。なお、平成27年度より文化振興課は市長部局である市民部に移管されたため、教育委員会の補助執行業務を担っている。

平成26年度

〔調査主体〕 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 〔調査担当〕 文化振興課 課長 渡井 義彦
 文化財担当 統括主幹 前田 勝己
 埋蔵文化財調査室 主査 石川 武男
 上席主事 佐藤 祐樹
 臨時職員 服部 孝信
 小島 利史
 若林 美希

平成27年度

〔調査主体〕 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男
 〔調査担当〕 市民部 部長 加納 孝則
 文化振興課 課長 町田しげ美
 文化財担当 統括主幹 前田 勝己
 埋蔵文化財調査室 主査 石川 武男
 上席主事 佐藤 祐樹
 臨時職員 服部 孝信
 小島 利史
 若林 美希

2. 調査件数

文化財保護法（以下、法という。）第99条に基づき、平成26年度は、確認調査44件、本発掘調査3件を実施した。平成27年度は、それぞれ34件、4件を実施した。平成19年度以降、調査件数は増加傾向にあるが、平成26年度の44件の確認調査数は過去最多といえる。これは、法第93条の届出を周知する中で、比較的小規模な調査の依頼が増加したことによる。

平成26年、27年ともに、確認調査費用の一部には『国宝重要文化財等保存整備費補助金』及び『静岡県文化財保存費補助金』を使用している。

3. 届出・通知の周知徹底と件数

富士市教育委員会では、これまでに開発と埋蔵文化財保護の円滑な調整のために、『富士市埋蔵文化財分布地図』を作成してきた。埋蔵文化財包蔵地内における土木工事を行う際は、60日前までに届出をするという法第93条を遵守するように、静岡県行政書士会富士支部及び、静岡県宅地建物取引業協会東部支部富士支所の会員への周知を行っている。また、電気（電柱）やガスなどの工事についても事業者へ法令順守を徹底するように依頼し、すべての土木工事について事前に届出をするよう指導している。そのため、平成20年度には10件程度であった届出が平成26年度には116件、平成27年度には126件まで増加している。平成28年度にも『富士市埋蔵文化財分布地図』の改訂を行ったため、引き続き、届出の周知徹底につとめていく必要がある。

一方、公共工事については、前年度の2月に、次年度の公共事業の全リストを文化振興課に提出するように庁内各課に求め、そのリストを基に法第94条の通知の必要な事業、事前の確認調査の実施が必要な事業などを回答している。平成26年度は35件、平成27年度は33件の通知があり、平成20年度の17件に対して2倍の増加であるものの、近年はほぼ横ばいの数といえる。

第1表 富士市内における届出・調査件数の推移

	法93条	法94条	法99条確認	法99条本調査
H22	33	32	28	0
H23	53	26	22	2
H24	62	23	30	2
H25	99	33	37	4
H26	116	35	44	3
H27	126	33	34	4

第2表 発掘調査面積の推移

	～499㎡	500～999㎡	1000～1999㎡	2000㎡～	合計
H22	14	6	3	5	28
H23	5	6	7	6	24
H24	12	8	6	6	32
H25	9	12	8	12	41
H26	14	14	3	16	47
H27	9	10	2	17	38

第3表 平成26年度発掘調査一覧表

調査年度	発掘調査の名称	調査地	調査内容	調査期間(発掘日数)	調査面積(㎡)	調査内容	調査結果	
H26 1 年度第1	401 第68地区	重平遺跡	確認	20140409 信法2481-3 外 20140410 不動態点	998 85	なし	なし	
H26 1 年度第2	402 6名 第69地区	重平遺跡	確認	20140415 信法2504 外 20140417 不動態点	738 84	平安	竪穴建物跡・土坑・ビット	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第3	404 104 瓦 第53地区1次調査	重平遺跡	確認	20140417 今東1711027-6 外 20140423 不動態点	393 14	平安	土坑・ビット	土器類
H26 1 年度第3	405 7名 第1地区	行徳11古墳群	確認	20140422 信法1903-2 外 20140423 不動態点	675 21	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第4	406 8名 第4地区	梅下遺跡	確認	20140508 信法1902 不動態点	238	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第5	406 8名 第4地区	梅下遺跡	確認	20140513 八代町212-2 外 20140515 不動態点	11,807 140	近世	なし	陶器・銅器
H26 1 年度第6	407 10 瓦 第9地区	小古原遺跡	確認	20140520 八代町12 不動態点	700 8	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第7	408 10 瓦 第9地区	小古原遺跡	確認	20140603 今東41711960 不動態点	522 24	縄文	なし	縄文土器
H26 1 年度第8	409 12 瓦 第4地区	岡久保遺跡	確認	20140606 岡久保2丁目2204-14 外 20140610 個人住宅跡	115 3	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第9	411 104 瓦 第53地区2次調査	重平遺跡	調査	20140609 今東1711027-6 外 20140709 不動態点	393 112	平安	竪穴建物跡・土坑・ビット	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第9	412 13 瓦 第71地区	川坂遺跡	確認	20140625 天間川2-1の南 外 20140715 不動態点	861 29	縄文	なし	縄文土器
H26 1 年度第10	413 14 瓦 第71地区	川坂遺跡	確認	20140714 信法2580-1 外 20140715 不動態点	271 10	なし	なし	土器類
H26 1 年度第10	414 14 瓦 第71地区	川坂遺跡	確認	20140722 天間川1001-1 外 20140723 不動態点	3,517 30	縄文	竪穴建物跡・ビット	縄文土器
H26 1 年度第11	415 14 瓦 第71地区	川坂遺跡	確認	20140728 比奈2257-1 外 20140801 不動態点	1,276 198	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第11	416 14 瓦 第71地区	川坂遺跡	確認	20140804 今東1925 不動態点	2,459 40	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第11	417 14 瓦 第71地区	川坂遺跡	確認	20140812 坂田町南地蔵堂 不動態点	20	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第12	418 15 瓦 第1地区4次調査	天間川遺跡	調査	20140818 天間川1001-1 外 20140822 不動態点	3,517 65	縄文	なし	縄文土器
H26 1 年度第12	419 15 瓦 第1地区4次調査	天間川遺跡	調査	20140825 北野町142-73 外 20140827 個人住宅跡	30 40	平安	なし	平安土器
H26 1 年度第13	420 16 瓦 第2地区	川坂遺跡	確認	20140825 厚野207-1 外 20140828 不動態点	3,207 29	古墳	竪穴建物跡	土器類
H26 1 年度第14	421 17 瓦 第2地区	川坂遺跡	確認	20140903 入道丁11235-0内 外 20140904 不動態点	2,060 27	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第15	422 18 瓦 第2地区	川坂遺跡	確認	20140908 今東1980-3 個人住宅跡	305 5	奈良・平安	ビット	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第15	423 19 瓦 第2地区	川坂遺跡	確認	20140911 信法1056-1 外 20140917 不動態点	816 10	奈良・平安	竪穴建物跡・ビット・土坑	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第16	424 23 153 瓦 第54地区	重平遺跡	確認	20140924 今東2000-1 不動態点	730 25	奈良・平安	竪穴建物跡・土坑	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第16	425 18 瓦 第1地区	川坂遺跡	調査	20140924 厚野207-1 外 20140927 個人住宅跡	74 4	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第17	426 19 瓦 第73地区	重平遺跡	確認	20140929 信法2483-2 外 20140930 不動態点	358 19	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第18	427 20 瓦 第6次調査地点	重平遺跡	確認	20140930 今東784-2 農地改良	406 37	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第19	428 20 瓦 第74地区	重平遺跡	調査	20141001 信法1056-1 外 20141007 個人住宅跡	1,024 26	奈良・平安	竪穴建物跡・ビット・土坑	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第19	429 20 瓦 第74地区	重平遺跡	確認	20141007 信法2800-1 瓦葺建物	2,605 11	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第19	430 20 瓦 第74地区	重平遺跡	確認	20141110 信法2800-1 瓦葺建物	2,605 10	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第20	431 22 瓦 第75地区	重平遺跡	確認	20141016 信法2806-1 瓦葺建物	610 14	平安	土坑・ビット	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第21	432 22 瓦 第76地区	重平遺跡	確認	20141107 信法3066 個人住宅跡	1,024 11	なし	なし	銅器
H26 1 年度第22	433 23 瓦 第77地区	重平遺跡	確認	20141104 信法608-10 外 20141117 瓦葺建物跡	302 20	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第23	434 25 瓦 第59次調査地点	重平遺跡	確認	20141125 今東1711663-6 外 個人住宅跡	163 5	奈良・平安	竪穴建物跡 3軒	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第24	435 25 瓦 第10地区	重平遺跡	確認	20141203 厚野148-1 不動態点	2,183 11	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第25	436 26 瓦 第11地区	重平遺跡	確認	20141203 北野町866-5の内 外 天間川発掘施設	27,300 33	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第26	437 27 瓦 第5地区	重平遺跡	確認	20141209 信法846-3 外 瓦葺建物	4,683 14	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第27	438 27 瓦 第5地区	重平遺跡	確認	20141215 厚野207-1 外 個人住宅跡	980 20	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第28	439 28 瓦 第1地区	重平遺跡	調査	20150107 信法1257-1 外 20150212 瓦葺建物跡	3,502 157	奈良・平安	竪穴建物跡・溝状遺構・土坑・ビット	土器類・瓦葺遺跡
H26 1 年度第28	440 28 瓦 第14次調査地点	重平遺跡	確認	20150119 今東1961-1 瓦葺建物	2,369 6	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第29	441 29 瓦 第41地区	重平遺跡	確認	20150126 信法615-1 外 不動態点	507 9	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第30	442 30 瓦 第5地区	重平遺跡	確認	20150203 今東1603-3 個人住宅跡	208 8	奈良・平安	なし	縄文土器
H26 1 年度第32	443 30 瓦 第1地区	重平遺跡	調査	20150216 水戸町2丁目2124-4 外 瓦葺建物跡	1,433 13	なし	なし	石川・銅器
H26 1 年度第33	444 31 瓦 丁地区	重平遺跡	確認	20150216 坂田町618-1 外 瓦葺建物	3,863 163	縄文	なし	縄文土器
H26 1 年度第34	445 32 瓦 第6地区	ナンカイ子遺跡	確認	20150302 今東4110 外 20150305 瓦葺建物跡	4,585 125	縄文・古墳	竪穴建物跡・土坑	縄文土器
H26 1 年度第35	446 35 瓦 第6地区	ナンカイ子遺跡	確認	20150317 今東7901 瓦葺建物	980 11	なし	なし	石川・銅器

第4表 平成27年度免照調査一覧表

調査年度	調査番号	道路名 地区名	調査 区分	調査区画	所在地 照付・日付	照査面積 (㎡) 調査面積 (㎡)	年代	調査	道路	調査担当者
H27	1 章 3 節 1	天念寺通線 36 頁 1 地区	確認	20150406	中津 1645 番 4 個人住宅建設	374 15	なし	なし	養護・保潔 ・小島	養護・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 2	水神堂通線 37 頁 3 地区	確認	20150416	相模 790-1 号 宅分譲地造成	2,092 28	なし	なし	職文土舗・土舗 ・土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 3	瓦久保通線 37 頁 42 地区	確認	20150417	3 章 608 番 1 号 店舗建設	1,610 23	なし	なし	養護・保潔 ・小島	養護・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 4	東平通線 38 頁 7 地区	確認	20150423	信託 254 番 2 瓦分譲地造成	308 14	不明	ビッド	なし	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 5	石上通線 39 頁 第 6 次調査地点	確認	20150428	相模 85-10 個人住宅建設	743 8	なし	なし	石川・保潔 ・小島	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 6	天宮山通線 40 地区 3 次調査	本	20150511	伊豆 1001 番 1 号 瓦分譲地造成	3,517 692	なし	職文土舗・土舗・土庇	土舗・石舗	養護
H27	1 章 3 節 7	丹久保通線 40 頁 155 頁	確認	20150512	前所部 698-1 号 個人住宅建設	4,801 346	平家	職文土舗・土庇・土庇	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 8	信託 3 次調査 40 頁	確認	20150525	信託 3 丁目 9-10 号 集合住宅建設	750 15	なし	なし	なし	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 9	沢原通線 40 頁 15 次調査地点 1 次調査	確認	20150602	天沢 111-1 土舗建設	2,247 197	古墳・奈良	職文土舗・土庇・土庇	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 10	沢原通線 40 頁 14 地区	確認	20150608	天沢 187 番 1 号 土舗建設	11,771 180	古墳・奈良	職文土舗	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 11	宮上通線 41 頁 14 地区	確認	20150702	比奈 28253 号内 個人住宅建設	794 6	なし	なし	養護・保潔 ・小島	養護・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 12	神田通線 42 頁 14 地区	確認	20150721	宇原町 42-6 瓦分譲地造成	100 19	なし	なし	なし	石川・小島
H27	1 章 3 節 13	東平通線 42 頁 77 地区	確認	20150727	信託 3040-1 号 宅造成	2,802 194	平家	職文土舗	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 14	沢原通線 42 頁 79 頁	確認	20150804	天沢 187 番 1 号 個人住宅建設	11,771 49	奈良	職文土舗・土庇・土庇	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 15	宇原通線 43 頁 181 頁	確認	20150805	宇原町 585-1 号 倉庫建設	695 29	奈良・古墳	職文土舗	土舗・保潔	養護・保潔
H27	1 章 3 節 16	丹久保通線 43 頁 1 地区 3 次調査	確認	20150818	伊豆 1956 番地 個人住宅建設	2,458 35	奈良	職文土舗	土舗・保潔	養護・保潔
H27	1 章 3 節 17	神田通線 43 頁 152 次調査地点	確認	20150819	古賀 - 丁目 1 番 1 土舗建設	10,434 61	なし	なし	なし	養護・保潔
H27	1 章 3 節 18	宮上通線 44 頁 15 地区	確認	20150827	相模 2832-1 個人住宅建設	300 32	なし	なし	職文土舗	養護・保潔
H27	1 章 3 節 19	丹久保通線 44 頁 174 頁	確認	20150903	伊豆 1956 番地 個人住宅建設	670 53	奈良	職文土舗	土舗・保潔	養護・保潔
H27	1 章 3 節 20	東平通線 44 地区 2 次調査	確認	20150914	信託 2591 番 1 号 宅造成	3,049 40	奈良	職文土舗・土庇・土庇	土舗	養護・石林
H27	1 章 3 節 21	宇原通線 45 頁 181 頁	本	20150928	宇原町 585-1 号 倉庫建設	695 43	奈良・平家	職文土舗 16 号 ビッド 2 号	職文土舗・土舗 土舗・瓦葺・瓦葺 瓦葺・瓦葺	石川・保潔
H27	1 章 3 節 22	中津・中平通線 45 頁 12 地区	確認	20151021	信託 1097-6 号 瓦分譲地造成	240 4	なし	なし	なし	養護・小島
H27	1 章 3 節 23	丹久保通線 45 頁 2 地区	確認	20151109	沼津 1190 号 宅分譲	2,517 74	なし	なし	なし	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 24	丹久保通線 45 頁 58 地区	確認	20151124	今泉 平野 1634-1 号 土舗建設	843 28	平家	職土舗	土舗・保潔	石川・保潔
H27	1 章 3 節 25	厚草通線 46 頁 5 地区	確認	20151130	沼津 1237-1 号 瓦分譲地造成	10,371 259	なし	なし	なし	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 26	宮上通線 46 地区 3 次調査	確認	20151207	沼津 628-496 号 店舗建設	2,789 23	江戸	瓦	養護・保潔 ・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 27	東平通線 46 地区 3 次調査	確認	20151214	信託 2391 番 1 号 宅造成	3,049 36	奈良	職文土舗	土舗・保潔	養護・石林
H27	1 章 3 節 28	川原通線 46 頁 3 地区	確認	20151222	天宮山 86 番 8 宅造成	373 19	なし	なし	なし	養護・石林
H27	1 章 3 節 29	丹久保通線 47 頁 174 頁	本	20160106	伊豆 1956-6 個人住宅建設	670 222	奈良・平家	職文土舗 2 号 ビッド 11 号、土庇 1 基	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 30	天念寺通線 47 頁 17 次調査地点	確認	20160125	中津 1406 番 2 宅造成	783 65	なし	なし	なし	養護・保潔
H27	1 章 3 節 31	中津通線 48 頁 53 頁	確認	20160125	沼津 730-1 号 不動産売買	742 10	なし	なし	なし	養護・石林
H27	1 章 3 節 32	丹久保通線 48 地区 2 次調査	確認	20160201	今泉 1608-1 号 テナント建設	1,728 59	奈良・平家	職文土舗	土舗・保潔	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 33	東平通線 48 地区 2 次調査 60 地区 1 次調査	確認	20160215	今泉 6 丁目 1609-2 号 宅造成・分譲	3,624 56	奈良・奈良	職文土舗・土庇・土庇	職文土舗・土舗 瓦葺・瓦葺	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 34	中津通線 48 頁 28 地区	確認	20160222	信託 540-3 号 瓦分譲地造成	3,878 377	なし	なし	なし	石川・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 35	沢原通線 49 頁 17 次調査地点	確認	20160301	天沢 107-2 集合住宅建設	420 13	なし	なし	瓦葺・土舗	養護・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 36	宇原通線 49 頁 2 地区	確認	20160308	宇原町 549 番 外 宅分譲地造成	2,835 44	なし	なし	土舗・保潔	養護・保潔 ・小島
H27	1 章 3 節 37	中津通線 49 頁 29 地区	確認	20160323	信託 561 番 10 号 駐車場整備	2,151 209	なし	なし	なし	養護・保潔 ・小島



第1図 重機稼働の様子



第2図 調査の様子

4. 発掘調査の概要

縄文時代 平成24年度以降、天間沢遺跡の確認調査数が増加していたが、遺構が確認されても保護層が30cm以上確保されるため、本発掘調査には至らないケースが多かった。そのような状況において、平成27年度、天間沢遺跡第40地区の本発掘調査が行われた。調査では縄文時代中期の井戸尻式の竪穴建物跡1軒を検出し、他にも中期初頭（五頭ヶ台土）から後期初頭（称名寺式）の遺物が出土している（富士市教委2016）。また、平成27年度、宇東川遺跡U地区の本発掘調査においては藤内式、曾利V式の土器片が少数出土したが、調査面積が限られており、全体像は明らかではない。

確認調査では平成26年度に旧富士川町域のナンカイゴ遺跡第1地区の調査において入海Ⅱ式～石山式の影響を受けた土器片が出土している。また、平成26年度の川坂遺跡第2地区の確認調査では自然流路のみの検出で明確な遺構・遺物は検出されていないもの、地権者より調査地においてかつて採集したとされる長さ74cmの石棒の存在を教示いただいた。今後、資料化する予定である。

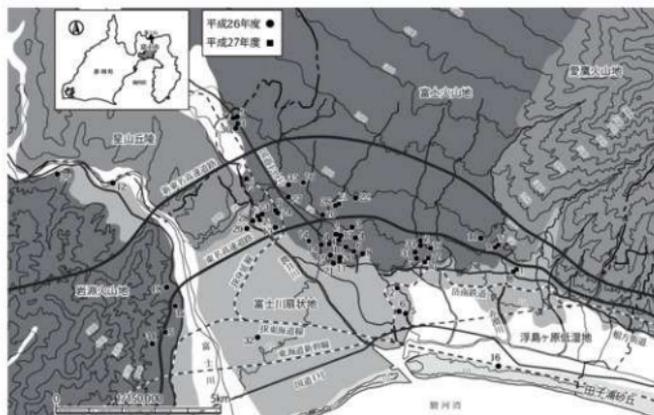
弥生・古墳時代 弥生時代の調査例はない。古墳時代では古墳周辺での調査がいくつか行われている。平成27年度の天念寺遺跡第1地区は後期初頭の前方後円墳の可能性が指摘されている天神塚古墳の後円部南側に位置している。また、平成27年度、東平遺跡第74地区の

調査地は同じく後期初頭の円墳である伊勢塚古墳北側に位置している。さらに平成26年度には広見公園内にある土手内第26号墳の東側においてトレンチ掘削を行っている。以上、3ヶ所の調査においては古墳の周溝、その他古墳に伴う遺構は検出されていない。

集落の調査では、前述のナンカイゴ遺跡からTK73～TK208型式期に位置づけられる土師器の高坏脚部がまとまって出土している。また、平成27年度に本発掘調査を行った沢東A遺跡第16次調査地点においては7世紀の黒色処理された土師器の良好な一括資料が目まされる。

奈良・平安時代 平成26・27年度は奈良・平安時代の集落である東平遺跡や舟久保遺跡、沢東A遺跡、中桁・中ノ坪遺跡での調査が多かった。なかでも中桁・中ノ坪遺跡第11地区の本発掘調査では限られた範囲での本発掘調査ながら「神功開寶」の出土が目まされる。また、第7地区の溝からは黒書土器などが比較的多く出土した。また、舟久保遺跡第57地区、沢東A遺跡第16次調査地点、宇東川遺跡U地区での本発掘調査成果も本書において報告する。

中世・近世 近世では富士塚遺跡の確認調査を実施した。正式報告は、別途計画しているため、そちらに譲るが、出土物や石灯籠、文献調査などの総合的成果から江戸時代中期に富士山選擇地の基点として成立していた可能性が考えられる。



第3図 平成26・27年度 調査地の位置と地形区分

第2節 平成26年度の発掘調査報告

1. 東平遺跡第68地区

所在地 伝法2481-3 外

調査面積 85㎡ (対象面積 998㎡)

調査期間 平成26年4月9日～4月10日

調査の原因 不動産売買

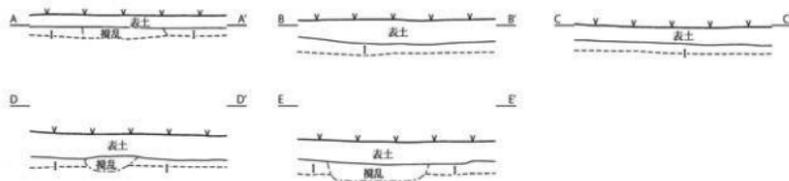
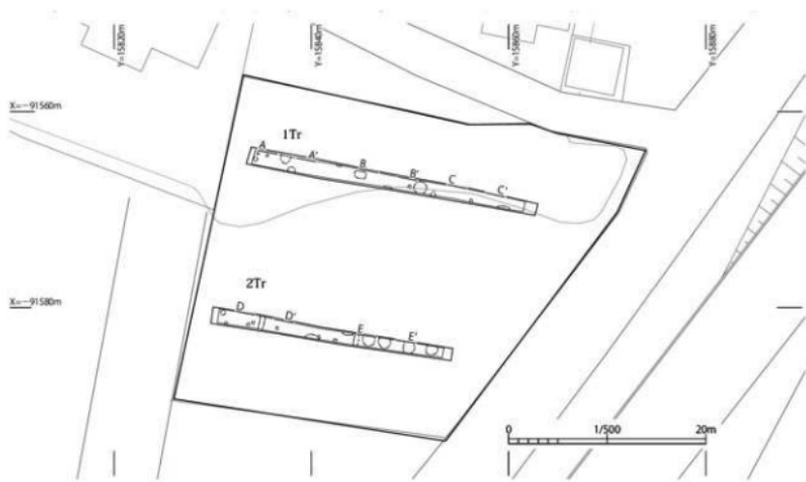
調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構、遺物ともに検出されなかった。

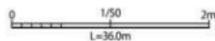
近現代の掘乱が多数確認された。対象地は畑地として利用されており、地形の改変を受けたものと判断される。



第4図 東平遺跡第68地区 位置図



I 褐色土 (7.5YR4/4) しまりやや強。粘性やや弱。礫 (5-10m) 少量。



第5図 東平遺跡第68地区 トレンチ配置図・セクション図

2. 東平遺跡第69地区

所在地 伝法2594 外

調査面積 84㎡ (対象面積 738㎡)

調査期間 平成26年4月15日～4月17日

調査の理由 不動産売買

調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

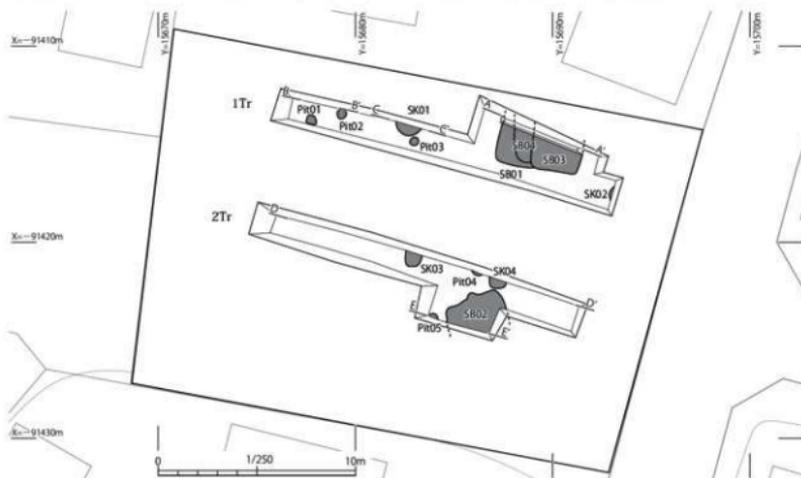
調査の結果 奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒 (SB01～04)、土坑 (SK01～04)、ピット (Pit01～05) を検出した。



第6図 東平遺跡第69地区 位置図

第5表 東平遺跡第69地区 出土遺物観察表

検出番号	凡番号	写真図取	遺構名	種類	形状	口径 (cm)	深高 (cm)	底径 (cm)	地味	残存率	備考	内面色調	外面色調
第7図-1	R002	61頁	SB03	須恵器	蓋	(15.6)	(3.0)	-	良好	20%	反転復元	2.5Y6/1 (黄灰)	N6/ (灰)



第8図 東平遺跡第69地区 トレンチ配置図

1Trで検出された3軒の竪穴建物跡 (SB01・03・04) は、平面・断面観察により、SB01が最も古く、次いでSB04、SB03が最も新しい遺構であると確認された。いずれも北半分がトレンチ外にあり、カマドの位置については確認できなかったが、SB03では西寄りに粘土の堆積が認められる (セクションA-A')。SB03の東西幅はおよそ2.5m、深さは32cmを測る。

2Trで検出されたSB02は南半分がトレンチ外にあるが、北壁の中央にカマドがあることが確認された。検出されたプランの東西幅はおよそ3mである。

調査地の南西部分がかつて存在した建物の建設工事や建物基礎により著しく削平・擾乱を受けており、遺構遺物が確認されるのは調査地の北側および東側である。

出土遺物 土師器・須恵器が出土し、須恵器坏蓋1点を図示した (第7図-1)。SB03から出土したもので、摘み部は欠損しているが摘み蓋の破片であり、8世紀代に位置づけられる。



第7図 東平遺跡第69地区 出土遺物実測図



第9図 東平遺跡第69地区 セクション図

3. 石坂11古墳群第1地区

所在地 伝法1903-2 外

調査面積 21㎡ (対象面積 675㎡)

調査期間 平成26年4月22日~4月23日

調査原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構、遺物ともに確認されなかった。

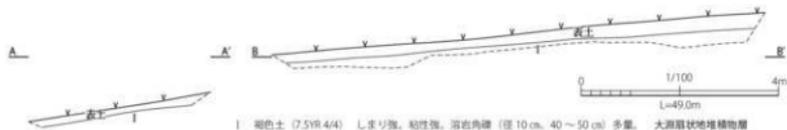


第10図 石坂11古墳群第1地区 位置図

地表下30~10cmで地山(1層)に達する。地山までが浅いことから、調査地に古墳に伴う遺構が存在する可能性は極めて低いものと判断される。



第11図 石坂11古墳群第1地区 トレンチ配置図



第12図 石坂11古墳群第1地区 セクション図

4. 滝下遺跡M地区

所在地 伝法1962

調査面積 14㎡ (対象面積 238㎡)

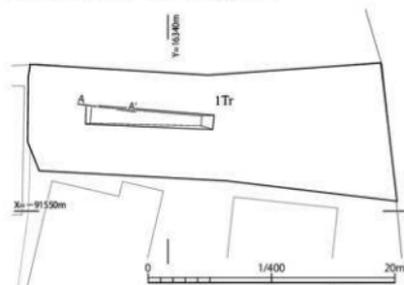
調査期間 平成26年5月8日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構、遺物ともに確認されなかった。

地山上面は大規模に削平を受けているとは考えられないことから、本地区の西側に位置し堅穴建物跡3軒が発見されているB地区(富士市教育委員会1991)より東側には遺跡は広がらない可能性が高い。



第14図 滝下遺跡M地区 トレンチ配置図・セクション図

5. 中吉原宿遺跡第8地区

所在地 八代町212-2 外

調査面積 180㎡ (対象面積 11,867㎡)

調査期間 平成26年5月12日～5月15日

調査の原因 防災施設等整備

調査の概要 対象地内に8ヶ所のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

調査の結果 地表下1.8～3.7mまで掘削し、近世の陶器・磁器が出土したものの、遺構を確認することはできなかった。

調査区北西(1Tr)および調査区中央(5Tr, 6Tr)では平成11年度の確認調査で推定された中吉原宿の生活面(IV層)、および高潮に伴う海砂堆積層(III層)が認められたものの、その他の部分は処理場建設時の造成によって最深で地表下2.5m付近まで攪乱されていた。

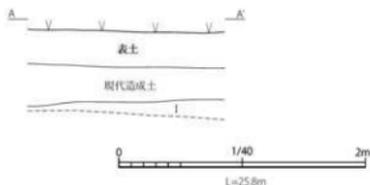
なお、出土した遺物はすべてII層からの出土であった。

参考文献

富士市教育委員会 1991『滝下遺跡発掘調査報告(昭和63年度)』
『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書 一第2集一』



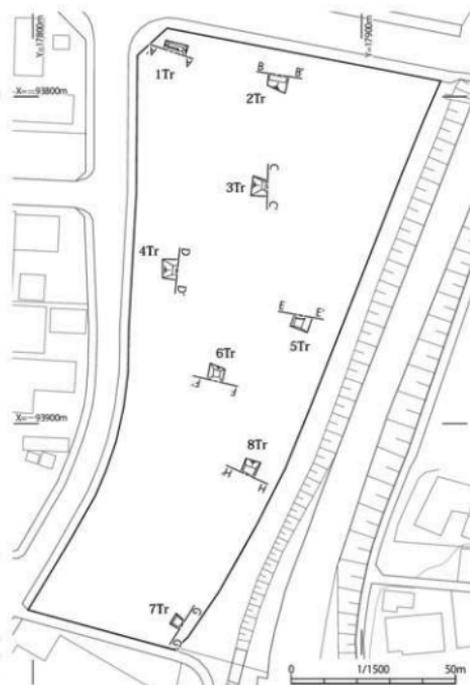
第13図 滝下遺跡M地区 位置図



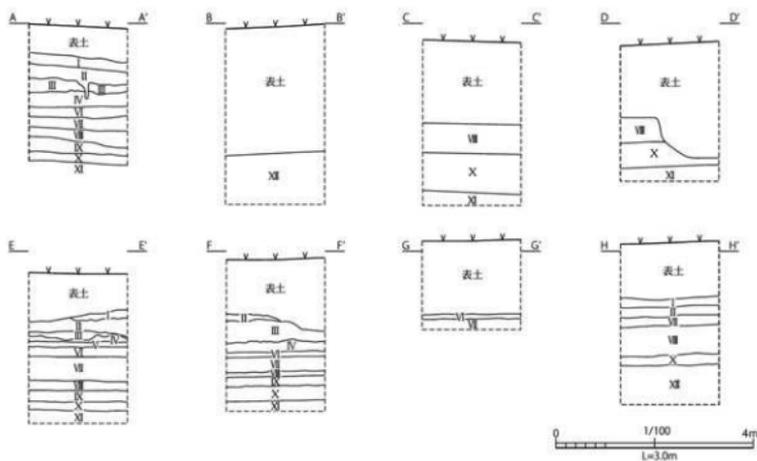
第15図 中吉原宿遺跡第8地区 位置図

参考文献

富士市教育委員会 2002『中吉原宿遺跡-中吉原宿遺跡第5地区
詳細確認調査報告書』



- I 黒褐色粘質土 (2.5Y 3/1)
しまりやや弱、粘性強。
近世水田層
- II 暗灰色粘質土 (2.5Y 5/2)
しまりやや強、粘性強。シルト+砂粒子
近世水田層床土
- III 暗灰色砂質土 (2.5Y 4/2)
しまり弱、粘性なし。径1mm砂。
高瀬?堆積層
- IV 濃い黄色粘質土 (2.5Y 6/3)
しまりやや強、粘性強。径1mm砂+シルト
本層上面が中吉原宿場の生活層
- V 灰黄色砂礫土 (2.5Y 7/2)
しまり弱、粘性弱。径1mm砂礫。
- VI 濃い黄色粘質土 (2.5Y 6/3)
しまりやや強、粘性強。粘土層、酸化鉄多量。
- VII 黄灰色粘質土 (2.5Y 6/1)
しまりやや強、粘性強。粘土層。
- VIII 灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)
しまりやや強、粘性強。
- IX 黄灰色砂礫土 (2.5Y 5/1)
径1~3cm礫層。
- X 黄灰色粘質土 (2.5Y 4/1)
径1mm砂多量+シルト
- XI 黄灰色礫層 (2.5Y 5/1)
径5~10cm礫
- XII 黒色粘質土 (2.5Y 2/1)
シルト層
旧富士川礫層



第16図 中吉原宿跡跡第8地区 トレンチ配置図・セクション図

6. 中吉原宿遺跡第9地区

所在地 八代町12

調査面積 8㎡(対象面積 706㎡)

調査期間 平成26年5月20日

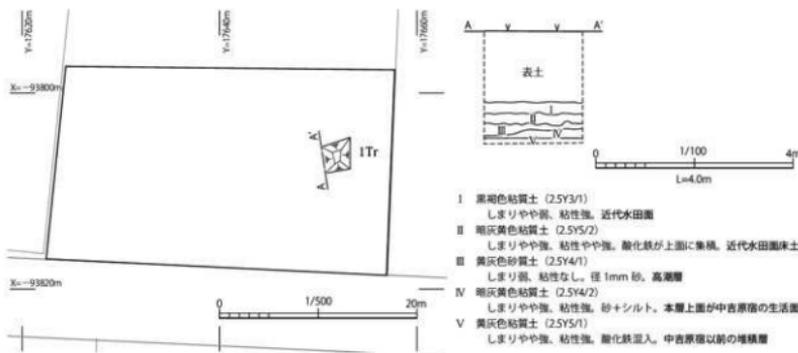
調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に1ヶ所のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

調査の結果 地表下2.3mまで掘削し、中吉原宿の生活面(第IV層)及び高潮による海砂堆積層(第III層)を確認したものの、遺構および遺物は確認できなかった。



第17図 中吉原宿遺跡第9地区 位置図



第18図 中吉原宿遺跡第9地区 トレンチ配置図・セクション図

7. 宇東川遺跡M地区 2次調査

所在地 今泉4丁目965

調査面積 24㎡(対象面積 522㎡)

調査期間 平成26年6月3日～6月12日

調査の原因 宅地造成

調査の概要 平成16年度に行った1次調査(富士市教育委員会2006、第26地区と呼称)で検出された礎石を再度検出し、詳細図面の作成と年代の検討を行った。

調査の結果 礎石の周りからは、明治時代以降の陶磁器片が出土しているものの、礎石の構築年代とは決定できなかった。しかし、中世の遺物が見られないことや、古代の地山上に礎石がないことから、近世・近代以降の造作と考えられる。

当初、1間×1間の建物に伴う基礎と考えられたが、新たに検出された礎石(SH1SS5)の存在から、寺院な

どの門に伴う礎石の可能性が想定される。いずれにしても近世以降の建造物と考えられ、遺構としての認識はしていない。

敷地の南北方向に設定した2Trからは縄文土器片2点が出土したものの、当該期の遺構は検出されなかった。

1次調査においても縄文土器の出土は見られるものの遺構は確認されていない。また、1次調査では、奈良・平安時代の遺構(カマドの粘土・焼土)が検出されたものの、その残存状況は良好ではない。

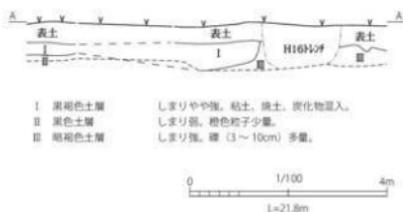
出土遺物 先述のとおり、縄文土器片2点が出土したが、図示には至らなかった。

参考文献

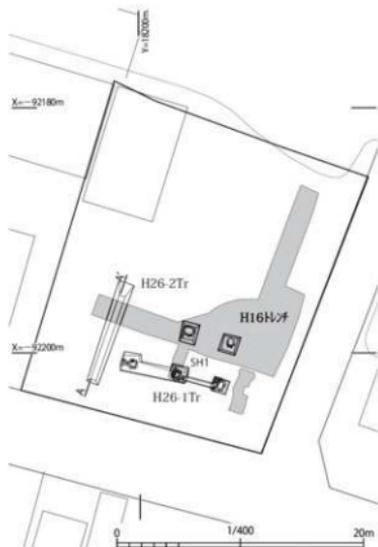
富士市教育委員会 2006『平成16年度 富士市遺跡発掘調査報告書』



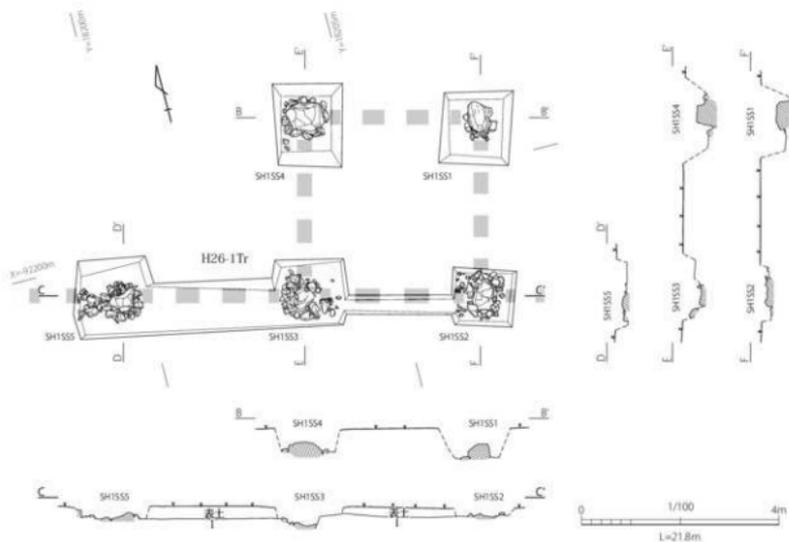
第19図 宇東川道跡M地区 位置図



第20図 宇東川道跡M地区 セクション図



第21図 宇東川道跡M地区 トレンチ配置図



第22図 宇東川道跡M地区 SH1 平面図・礎石エレベーション図

8. 国久保遺跡第4地区

所在地 国久保2丁目2204-14 外

調査面積 3㎡(対象面積 115㎡)

調査期間 平成26年6月6日

調査の原因 個人住宅新築

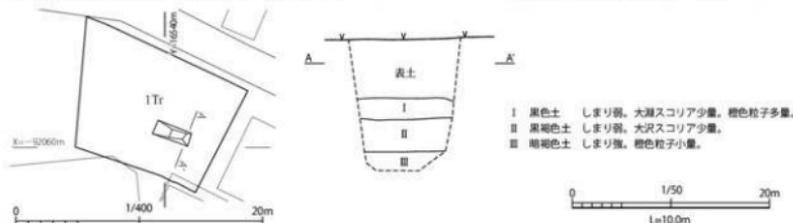
調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、遺構および遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構、遺物ともに確認されなかった。

自然堆積層は良好に残存しているが、谷地形上に位置するため、集落域は広がらないものと考えられる。



第23図 国久保遺跡第4地区 位置図



第24図 国久保遺跡第4地区 トレンチ配置図・セクション図

9. 川坂遺跡第2地区

所在地 天間923-1の一部 外

調査面積 29㎡(対象面積 881㎡)

調査期間 平成26年6月25日

調査の原因 集合住宅新築

調査の概要 対象地に2本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 1Trでは表土中から縄文土器片1点が出土したものの、他に遺構・遺物は確認されなかった。2Trでは地山が大規模に削られた結果、旧表土がまったく残存していなかった。2Tr中央で埋没谷(NR01)を検出したが遺物は伴わなかった。調査地東側を流れる福泉川に流れ込むかつての谷のひとつと考えられる。

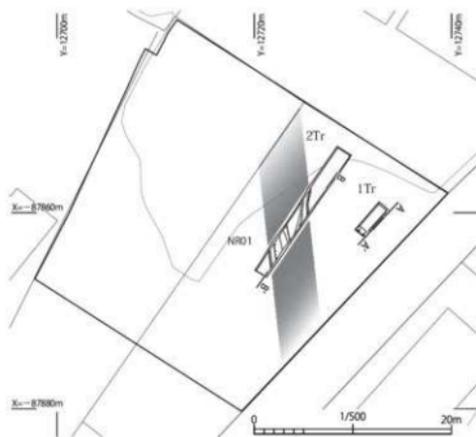
調査地内においては、土器が地表に確認されるものの、旧地表が残存するのは調査地北東部分に限られており、かつては遺構が存在したが現在は残存していない、と結論付けられる。



第25図 川坂遺跡第2地区 位置図



第26図 川坂遺跡第2地区 セクション図



第27図 川坂道跡第2地区 トレンチ配置図

- I 黒褐色土 (10YR2/2)
径2mm以下の赤褐色スコリアをごく少量含む。
富士土層
- II 黒褐色土 (10YR2/2)
径2～3mmの赤褐色スコリア・赤色スコリアを含む。
漸移層
- III 明褐色土 (7.5YR5/8)
径2～3mmの赤褐色スコリアを少量。
径3～7mmの発泡した暗赤褐色スコリアを含む。
休填層
- IV 黄褐色土 (10YR5/8)
油岩層
- 1 黒褐色土 (7.5YR3/1)
しまりなし、粘性なし。赤色粒子を多量含む。
NR01 覆土
- 2 黒色土 (7.5YR2/1)
しまりなし、粘性なし。
径0.5～5mmのスコリアを多量含む。
NR01 覆土

10. 東平道跡第71地区

所在地 伝法2380-1 外

調査面積 10㎡ (対象面積 271㎡)

調査期間 平成26年7月14日～7月15日

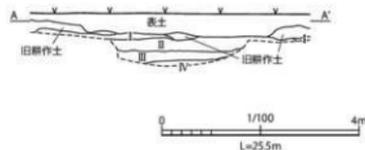
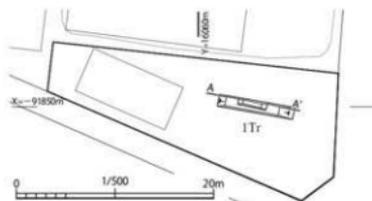
調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構は検出されず、土師器片数点が出土したが図化には至らなかった。調査地は切土による地形改変を受け、I層が削平されている様子が確認された。



第28図 東平道跡第71地区 位置図



- I 黄褐色土 (10Y5/6) しまりやや強、粘性強。径1mmの白色粒子極少量。奈良・平安時代連続検出層
- II 黒褐色土 (10YR3/1) しまりやや強、粘性強。径1mmの白色粒子少量。径2～5mmの大溜スコリア多量。水分含む。
- III 黒色土 (10YR2/1) しまりやや強、粘性強。径5～10cmの溜多量。
- IV 褐色土 (10YR4/4) しまり強、粘性強。径2～5mmの褐色粒子少量。径2～5cmの溜多量。

第29図 東平道跡第71地区 トレンチ配置図・セクション図

11. 比奈1古墳群第10地区

所在地 比奈2257-1 外

調査面積 198㎡ (対象面積 1,276㎡)

調査期間 平成26年7月28日～8月1日

調査の理由 住宅建設

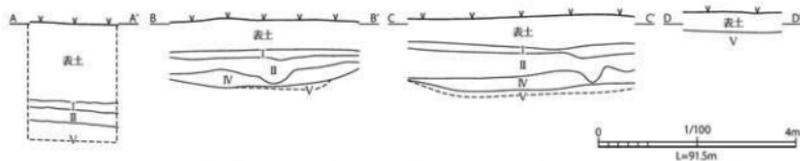
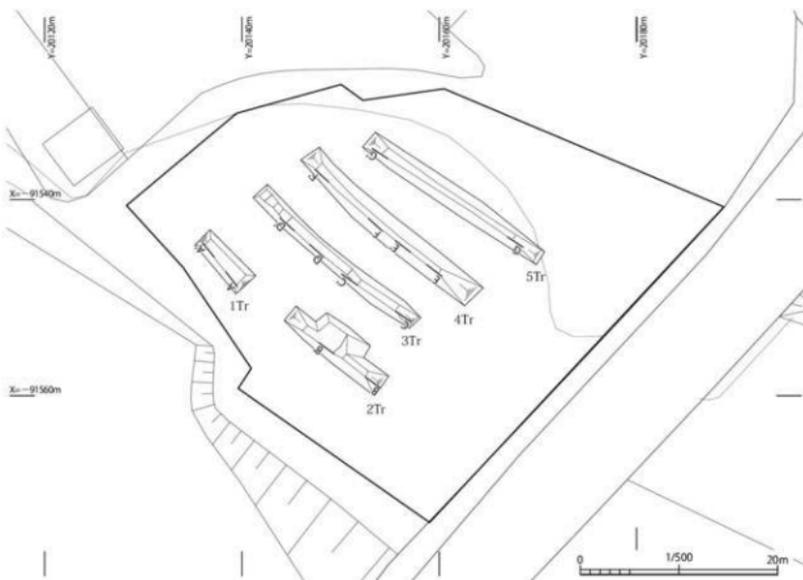
調査の概要 対象地内に5本のトレンチを設定し、重機による表土掘削の後、遺構や遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構、遺物は確認されなかった。

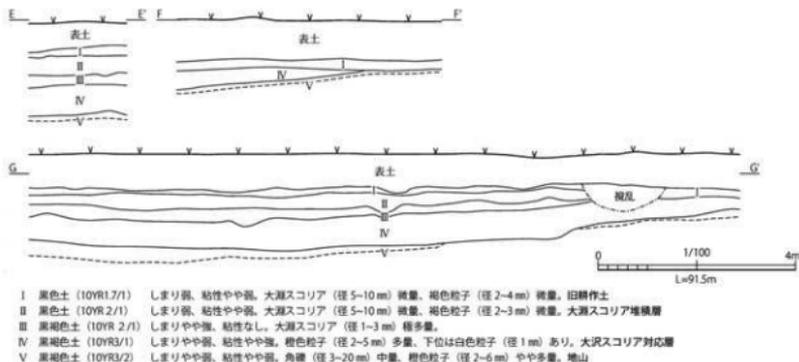
調査地の東側に東西幅12m以上、現地表からの深さ1.5～2mを測る浅い谷が南北に存在することが明らかとなった。また、調査地の北西側は北から南に至る斜面の縁辺部となるが、この部分は近現代の地形変化により、地山(V層)まで擾乱を受けていた。



第30図 比奈1古墳群第10地区 位置図



第31図 比奈1古墳群第10地区 トレンチ配置図・セクション図



第32図 比奈1古墳群第10地区 トレンチ配置図・セクション図

12. 中野遺跡第1地区 4次調査

所在地 北松野142-73

調査面積 40㎡ (対象面積 263㎡)

調査期間 平成26年8月25日～8月27日

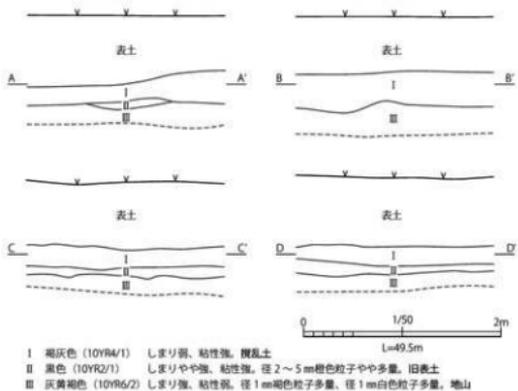
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地に2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 弥生土器の小破片が2点出土したものの、遺構は検出できなかった。調査地は現代の耕作及び造成によって地形の改変を受けているものと考えられる。



第33図 中野遺跡第1地区 位置図



第34図 中野遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

13. 川窪遺跡第2地区（隣接地）

所在地 厚原297-1 外

調査面積 136㎡（対象面積 3,397㎡）

調査期間 平成26年8月25日～8月28日

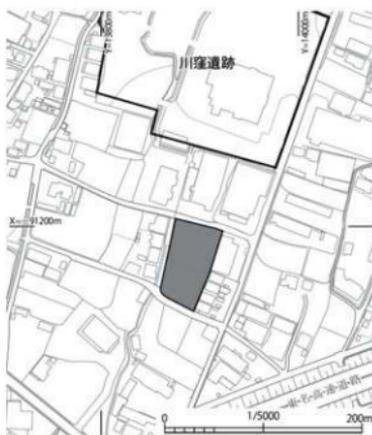
調査の原因 倉庫新築

調査の概要 対象地内に7本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

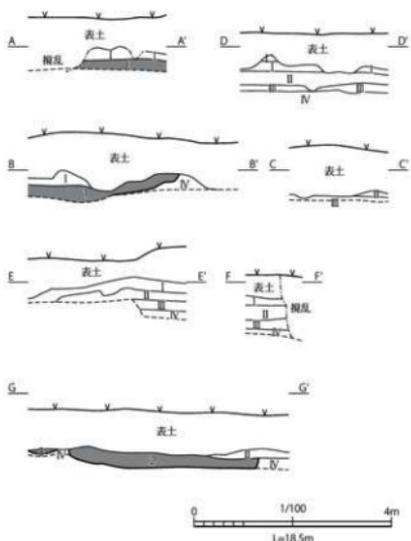
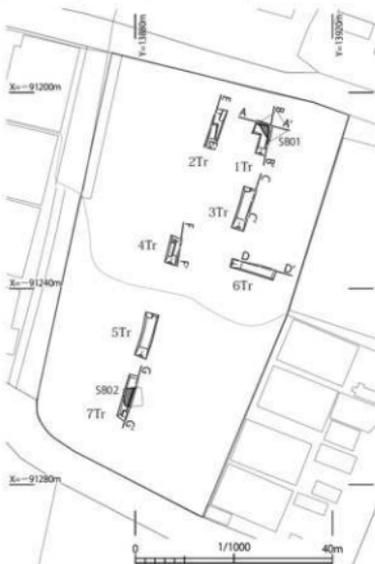
調査の結果 1Trで竪穴建物跡と考えられる遺構プランを検出した。また、古墳時代中期と推定される土師器片が出土したが、図化には至らなかった。

南端の7Trでも、遺物は伴わないが、竪穴建物跡と推定されるプランが検出された。

包蔵地外である本地区から遺構・遺物が出土したことから、川窪遺跡はこれまで考えられていたよりも南側に広がりを持つことが明らかとなった。



第35図 川窪遺跡第2地区（隣接地）位置図



- | | |
|---|---------|
| I 黒褐色 (10YR2/3) しまりやや強、粘性やや強、径1～3mmの赤褐色スコリア粒を少量含む。水田耕作土 | |
| II 黒褐色 (10YR/2) しまりやや強、粘性強、径1～2mmの黄褐色粒子を微量含む。 | |
| III 暗褐色 (10YR3/3) しまりやや強、粘性強、径1～2cmの小礫を少量含む。 | ローム質土 |
| IV 暗褐色 (10YR/4) しまりこく強、粘性やや強、この上で水が湧く。 | 地山 |
| 1 黒褐色 (10YR2/2) しまり強、粘性弱。 | S801 層土 |
| 2 暗褐色 (10YR/3) しまり強、粘性弱、やや砂質（ローム質？） | S802 層土 |
| 3 暗褐色 (10YR/3) しまり強、粘性弱、やや砂質（ローム質？） | Ph01 層土 |

第36図 川窪遺跡第2地区（隣接地）トレンチ配置図

14. 東平遺跡第72地区

所在地 伝法2731-3 外

調査面積 27㎡ (対象面積 686㎡)

調査期間 平成26年9月3日

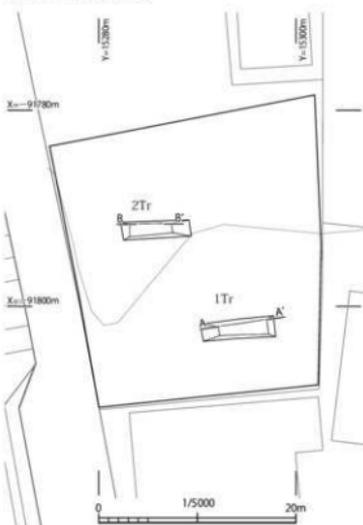
調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、重機掘削後、人力精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

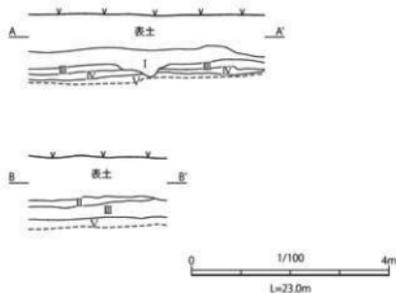
調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。2Trからは中世以降の伝法沢の氾濫に起因する可能性がある土層(II層)が検出された。



第37図 東平遺跡第72地区 位置図



第38図 東平遺跡第72地区 トレンチ配置図・セクション図



- I 黒褐色土層 (10YR3/2)
しまりやや強、粘性やや弱、礫(5mm)少量、橙色粒子微量。
- II 褐色砂質土層 (10YR4/4)
しまり弱、粘性なし、砂多量、黒色土ア?微量。
- III 黒褐色土層 (10YR2/2)
しまりやや強、粘性やや強、礫(5mm)少量、橙色粒子少量。
- IV 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
しまりやや弱、粘性やや弱、大礫30?少量、礫(1cm)中量。
- V 褐色土層 (7.5YR4/4)
しまり強、粘性強、大礫層状堆積物層

15. 林泉寺遺跡第2地区(隣接地)

所在地 入山瀬2丁目235の内外

調査面積 53㎡ (対象面積 2,066㎡)

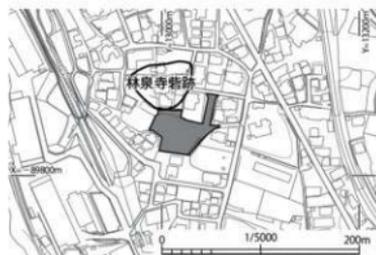
調査期間 平成26年9月3日～9月4日

調査の原因 宅地造成

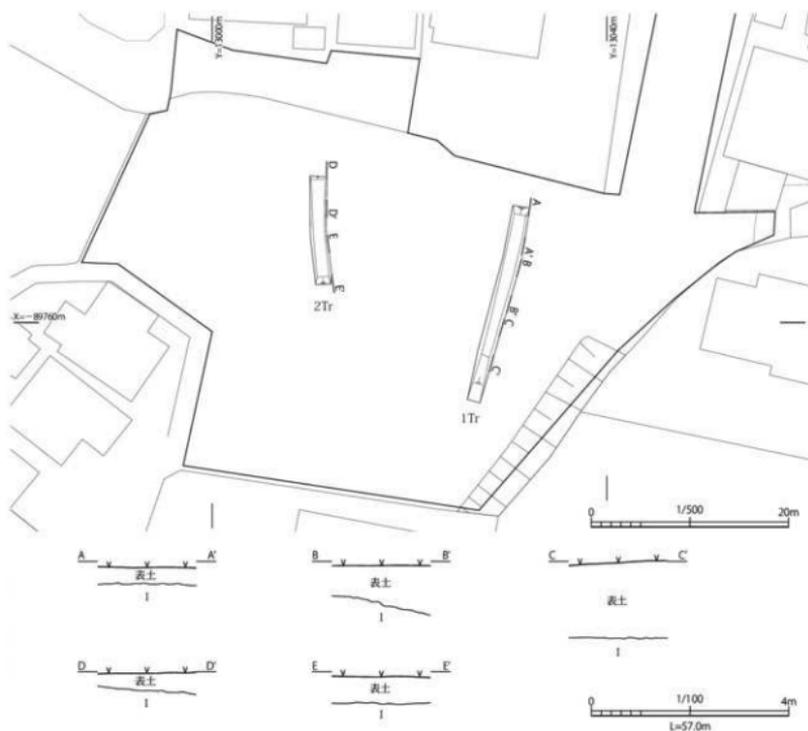
調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物とも確認されなかった。

調査地は現代の地形変化によって地山まで覆乱をうけていた。



第39図 林泉寺遺跡第2地区(隣接地) 位置図



第40図 林泉寺跡第2地区 (隣接地) トレンチ配置図・セクション図

16. 三新田遺跡M地区 (隣接地)

所在地 田中新田23-1 外

調査面積 4㎡ (対象面積 740㎡)

調査期間 平成26年9月24日

調査の原因 道路築造工事

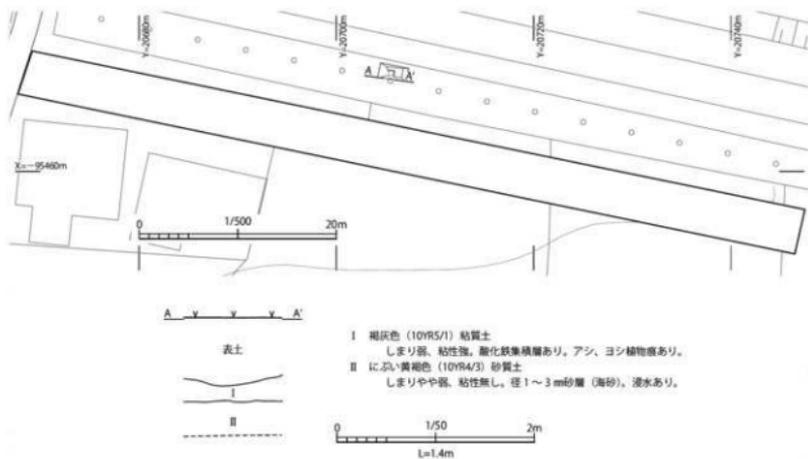
調査の概要 対象地内に1ヶ所のトレンチを設定し、重機および人力による掘削と精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物ともに確認されなかった。

調査地は表土下50~60cmまで攪乱が続き、1mで砂層となり、湧水がみられた。このため、調査地に遺跡が広がる可能性はないものと考えられる。



第41図 三新田遺跡M地区 (隣接地) 位置図



第42図 三新田道跡M地区(隣接地) トレンチ配置図・セクション図

17. 東平道跡第73地区

所在地 伝法2483-2 外

調査面積 19㎡ (対象面積 358㎡)

調査期間 平成26年9月29日

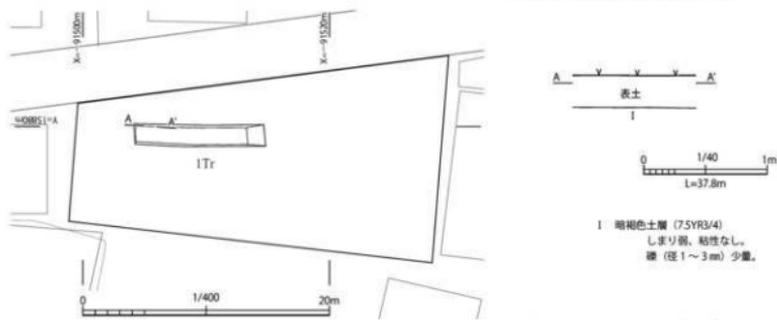
調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。



第43図 東平道跡第73地区 位置図



第44図 東平道跡第73地区 トレンチ配置図・セクション図

18. 谷津原古墳群第6次調査地点

所在地 木島784-2

調査面積 37㎡ (対象面積 406㎡)

調査期間 平成26年9月30日

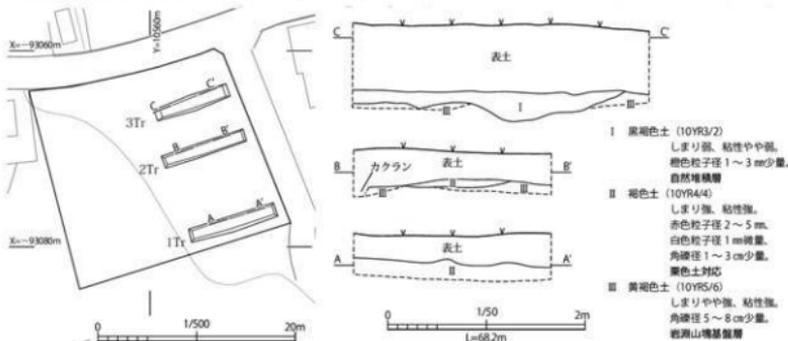
調査の原因 果樹木の植え替え

調査の概要 対象地内に3本のトレンチを設定し、重機および人力による掘削と精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物共に確認されなかった。

調査地は昭和40年代に大規模な蜜柑の改植が行われており、地山部分まで覆乱を受けていた。

なお、谷津原古墳群は東延する狭い丘陵地に古地しており、過去の調査事例では、古墳の分布は丘陵南斜面の縁辺部に集中している。調査地はこの分布域の北に位置し、古墳の分布域からは外れているものと考えられる。



第46図 谷津原古墳群第6次調査地点 トレンチ配置図・セクション図

19. 東平遺跡第74地区 1次調査・2次調査

所在地 伝法2800-1

調査面積 29㎡・10㎡ (対象面積 2,665㎡)

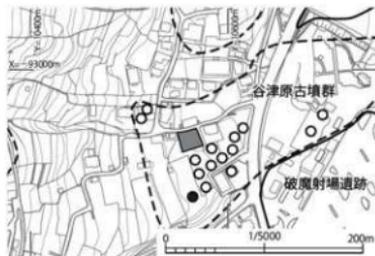
調査期間 平成26年10月7日～10月8日
平成26年11月19日～11月20日

調査の原因 店舗建替

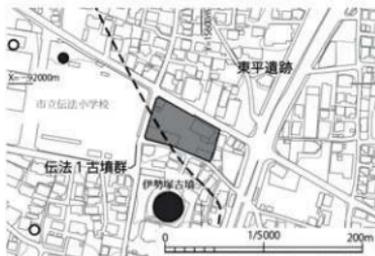
調査の概要 対象地内に、計2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

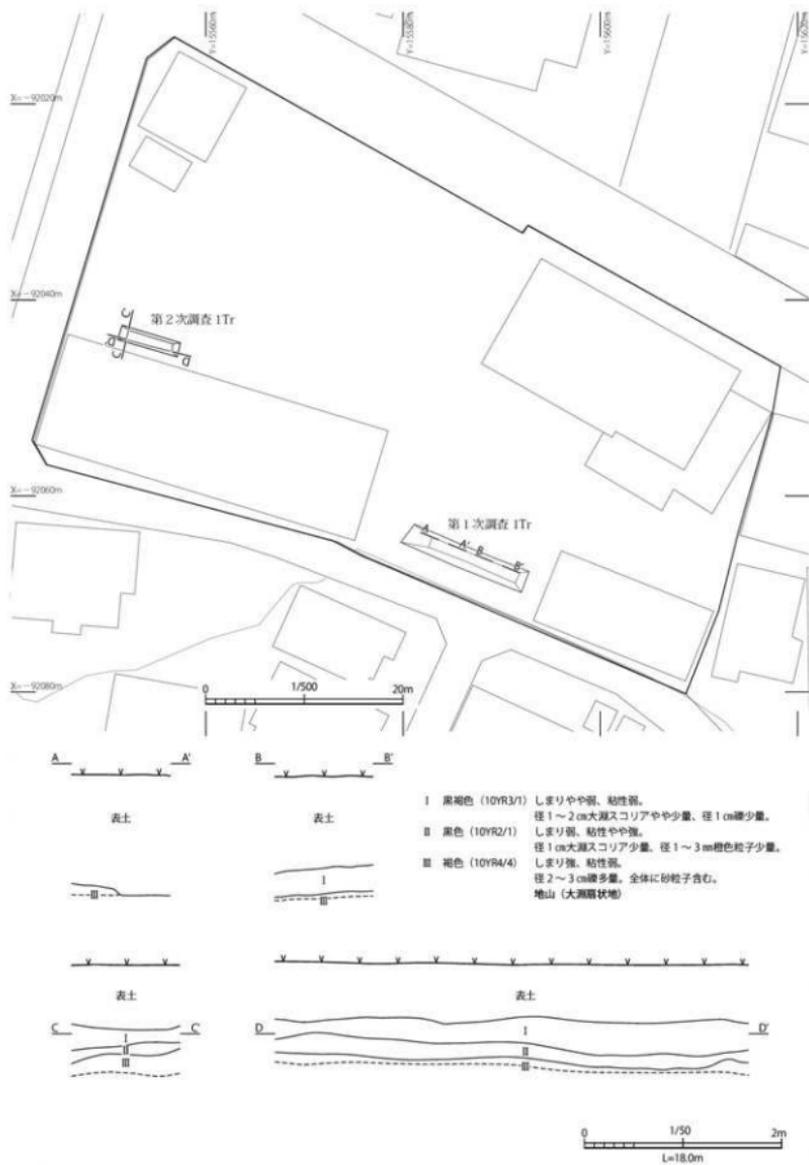
調査地は現店舗建設の際に行われた大規模な造成工事によって覆乱をうけていることが判明した。



第45図 谷津原古墳群第6次調査地点 位置図



第47図 東平遺跡第74地区 位置図



第48図 東平道跡第74地区 トレンチ配置図・セクション図

20. 東平遺跡第75地区

所在地 伝法2866-1

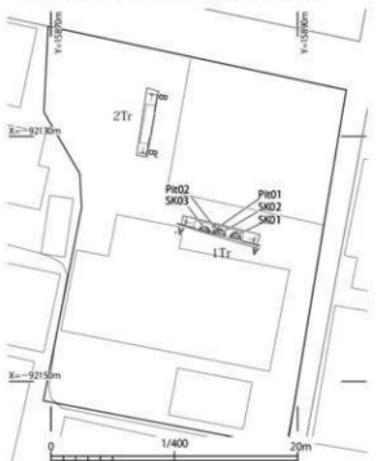
調査面積 11nf (対象面積 610nf)

調査期間 平成26年10月16日～10月17日

調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 1Trで土坑3基、ピット2基を検出した。また、須恵器、土師器、鉄器が出土したが、図化には至らなかった。土坑1基 (SK03) を半截したところ、掘り方が明瞭で、深さは90cmであった。堆積している覆土の状態から平安時代に伴う遺構と判断した。



第50図 東平遺跡第75地区 トレンチ配置図・セクション図

21. 東平遺跡第76地区

所在地 伝法3066

調査面積 14nf (対象面積 1,028nf)

調査期間 平成26年10月27日

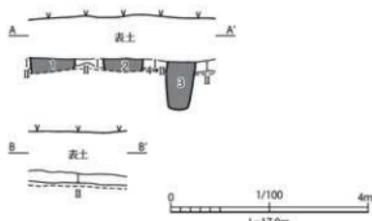
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 調査地は近代の耕作により攪乱を受けており遺構は検出されなかった。遺物は、須恵器の小破片数点が出土したが図化には至らなかった。



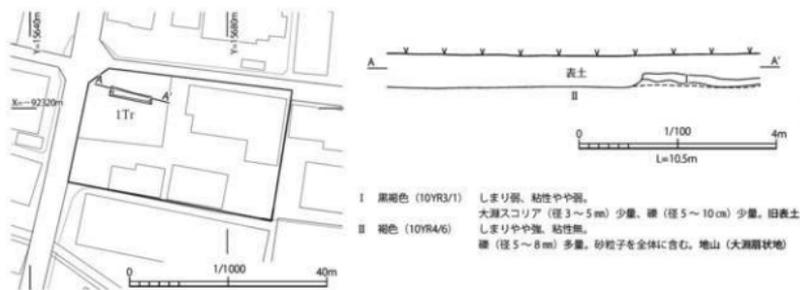
第49図 東平遺跡第75地区 位置図



- 1 黒色 (10YR2/1) しまりや弱、粘性弱。
大湖スコリア (径2～5mm) 少量、旧表土
- II 褐色 (10YR4/3) しまり弱、粘性強。
褐色粘土 (径1～3mm) 多量、礫 (径1～2cm) 多量、地山
- 1 黒褐色 (10YR3/1) しまり弱、粘性強。
大湖スコリア (径2～5mm) 少量、角礫 (径1cm) 多量、SK01覆土
- 2 黒褐色 (10YR3/1) しまり弱、粘性強。
大湖スコリア (径2～5mm) 少量、角礫 (径1cm) 多量、SK02覆土
- 3 黒褐色 (10YR3/1) しまり弱、粘性強。
大湖スコリア (径2～5mm) 少量、角礫 (径3～5cm) 少量、SK03覆土
- 4 暗褐色 (10YR3/3) しまり弱、粘性強。
大湖スコリア (径1～3mm) 少量、PR01覆土



第51図 東平遺跡第76地区 位置図



第52図 東平道跡第76地区 トレンチ配置図・セクション図

22. 土手内・中原2古墳群第14地区

所在地 伝法69-10 外

調査面積 22mf (対象面積 300mf)

調査期間 平成26年11月4日~11月17日

調査の原因 広見公園園路整備

調査の概要 対象地内に3本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

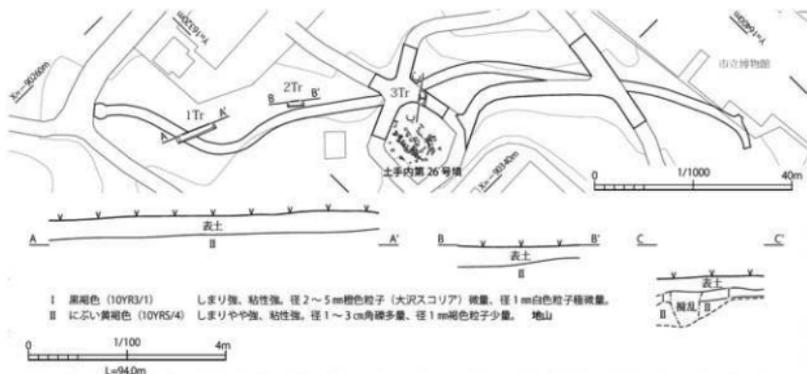
調査の結果 遺構、遺物共に確認されなかった。

調査地は過去に行われた公園整備に伴う土工事により、地山まで攪乱を受けていた。調査地南東では現地表に地山溶岩が露出していた。

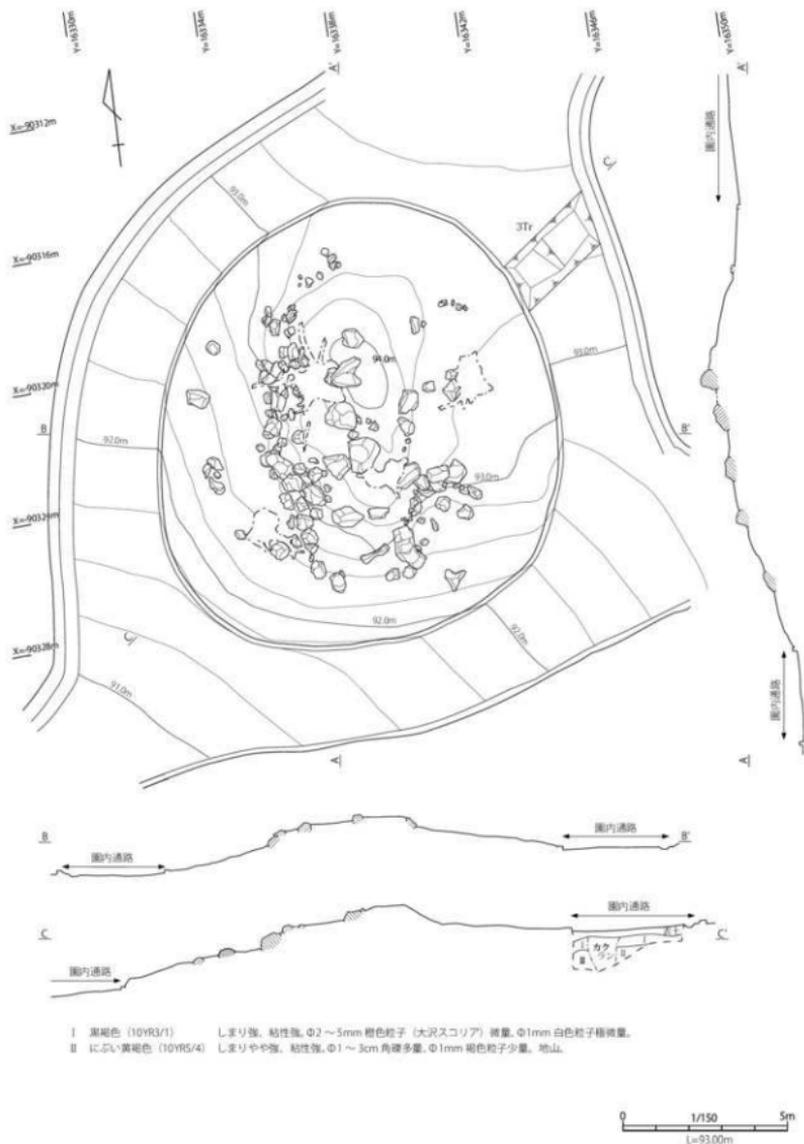
土手内第26号墳の周辺では、一部で黒褐色土(1層)が認められたものの、周溝等の古墳外部施設は確認されなかった。



第53図 土手内・中原2古墳群第14地区 位置図



第54図 土手内・中原2古墳群第14地区 トレンチ配置図・セクション図



第55図 土手内・中原2古墳群第14地区 土手内第26号墳 平面図・エレベーション図

23. 沢東A遺跡第10次調査地点 2次調査

所在地 久沢161-8 外

調査面積 45㎡ (対象面積 9,055㎡)

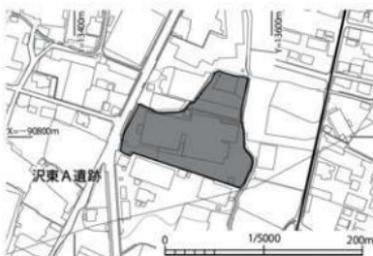
調査期間 平成26年12月2日

調査の原因 工場新築

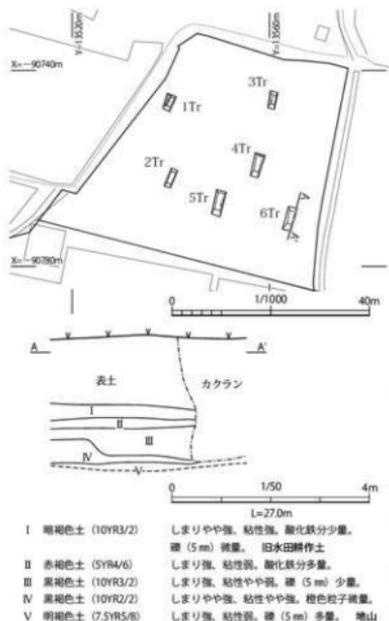
調査の概要 対象地内に6本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

過去の調査では、本調査地点よりも西方の第1・3・4次調査地点で多くの遺構・遺物が確認されていることから、遺跡の中心は本調査地点よりも西に位置するものと考えられる。



第56図 沢東A遺跡第10次調査地点 位置図

第57図 沢東A遺跡第10次調査地点
トレンチ配置図・セクション図

24. 沢東B遺跡第10地区

所在地 厚原148-1

調査面積 61㎡ (対象面積 2,183㎡)

調査期間 平成26年12月3日

調査の原因 不動産売買

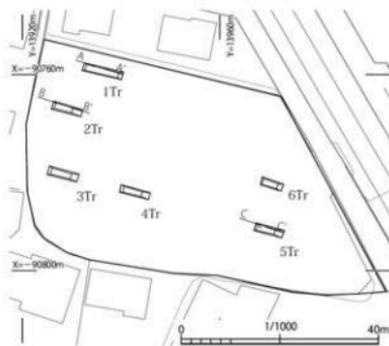
調査の概要 対象地内に6本のトレンチを設定し、遺構・

遺物の検出につとめた。

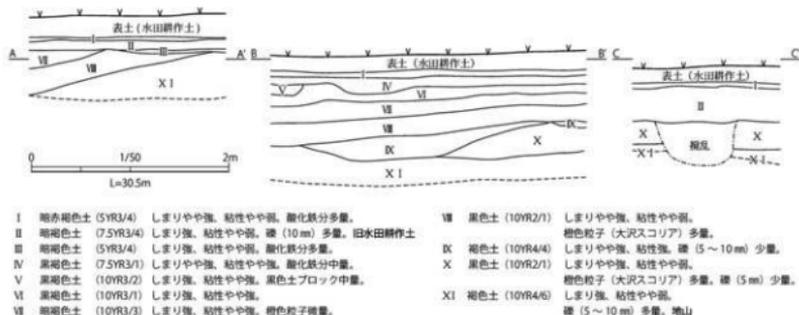
調査の結果 遺構・遺物は認められなかった。



第58図 沢東B遺跡第10地区 位置図



第59図 沢東B遺跡第10地区 トレンチ配置図



第60図 沢東B遺跡第10地区 セクション図

25. 上野遺跡第1地区 2次調査

所在地 北松野866-5の内 外

調査面積 33nf(対象面積 27,500nf)

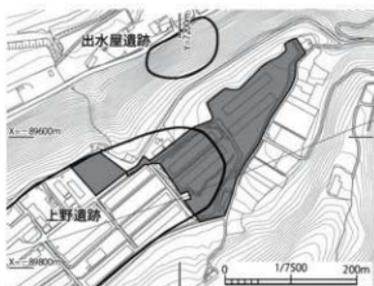
調査期間 平成26年12月3日

調査の原因 太陽光発電所建設

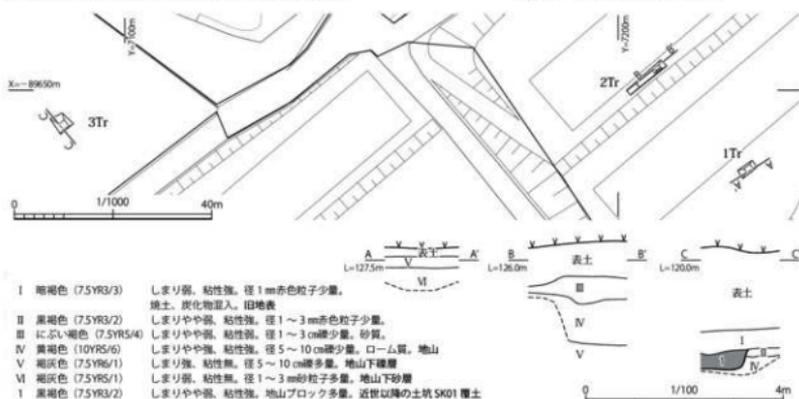
調査の概要 対象地内に3ヶ所のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

本地区は昭和40年にも確認調査が実施され、その後、養鶏場が建設されている。今回の調査によって、大規模な造成工事による地形変化があることが確認された。



第61図 上野遺跡第1地区 位置図



第62図 上野遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

26. 傘木B遺跡第1地区

所在地 伝法846-3 外

調査面積 14㎡(対象面積 4,683㎡)

調査期間 平成26年12月9日

調査の原因 宅地造成

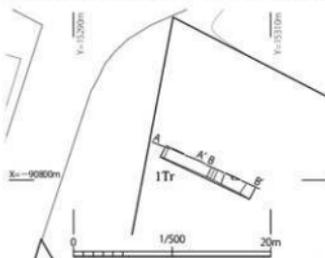
調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。

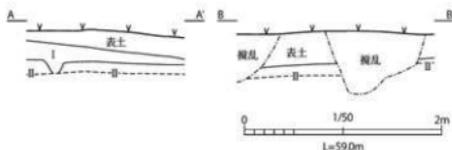
トレンチの土層堆積状況から、調査地は近現代以降の農地改良によって攪乱をうけていることが判明した。



第63図 傘木B遺跡第1地区 位置図



第64図 傘木B遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図



- I 黒褐色土層 (10YR2/2) しまりやや弱、粘性やや強。
黄褐色土ブロック少量。赤色砂子微量。
- II 褐色土層 (10YR4/6) しまり強、粘性やや弱。礫 (5~10mm) 多量。
黒色土ブロック少量。地山

27. 厚原遺跡第5地区

所在地 厚原725-1 外

調査面積 20㎡(対象面積 980㎡)

調査期間 平成26年12月15日

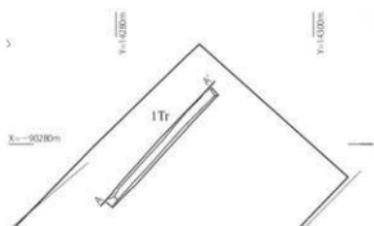
調査の原因 長屋住宅建設

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

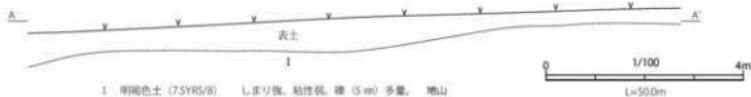
調査の結果 表土下が地山であり、遺構・遺物は認められなかった。



第65図 厚原遺跡第5地区 位置図



第66図 厚原遺跡第5地区 トレンチ配置図



- I 明褐色土 (7.5YR5/8) しまり強、粘性弱。礫 (5mm) 多量。地山

第67図 厚原遺跡第5地区 セクション図

28. 沢東A遺跡第14次調査地点

所在地 久沢30

調査面積 16㎡ (対象面積 2,360㎡)

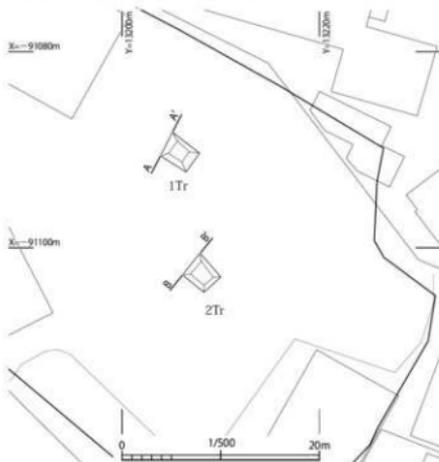
調査期間 平成27年1月19日

調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に2ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は認められなかった。

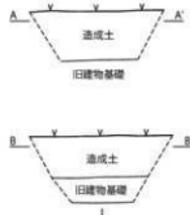
調査地は地表面1.4mまで工場造成工事に伴う埋土が行われ、その直下は潤井川の河川堆積層であった。



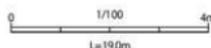
第69図 沢東A遺跡第14次調査地点 トレンチ配置図・セクション図



第68図 沢東A遺跡第14次調査地点 位置図



I 相沢色 (10YR4/1) 砂質土 (径2~5cm) 多量。湧水あり。
河川 (潤井川) 堆積物



29. 眞井遺跡第1地区

所在地 岩本268-14

調査面積 6㎡ (対象面積 139㎡)

調査期間 平成27年1月20日

調査の原因 個人住宅建設

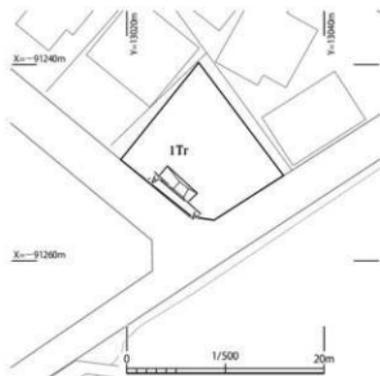
調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は認められなかった。

地表面から約80cm下には潤井川起源の河川堆積物が堆積していた。



第70図 眞井遺跡第1地区 位置図



第71図 貫井遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

- | | | |
|-----|-------------------|--|
| I | 黒褐色土層 (10YR3/2) | しまりやや強、粘性強。礫 (5mm) 少量。
旧水田耕作土 |
| II | 褐色土層 (10YR4/6) | しまり強、粘性弱。礫 (5mm) 中量。酸化鉄分中量。 |
| III | 黒褐色粘土層 (2.5YR3/2) | しまりやや弱、粘性強。礫 (10mm) 少量。
貫井(II)河川堆積物 |
| IV | 黒色砂層 (5Y2/1) | しまりやや強、粘性弱。
貫井(II)河川堆積物 |
| IV | 暗褐色砂礫層 (10YR3/4) | しまり強、粘性弱。礫 (3~5mm) 多量。
貫井(II)河川堆積物 |

30. 天間沢遺跡第41地区

所在地 天間615-1 外

調査面積 9㎡ (対象面積 507㎡)

調査期間 平成27年1月26日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

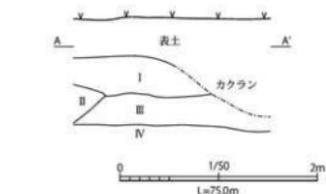
調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。調査地は過去の造成工事により、地山まで掘削を受けていた。



第72図 天間沢遺跡第41地区 位置図



第73図 天間沢遺跡第41地区 トレンチ配置図・セクション図



- | | | |
|-----|------------------|---|
| I | 黒褐色 (10YR3/2) | しまりやや弱、粘性強。
ロームブロック中量。近現代造成土 |
| II | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまり弱、粘性弱。
ロームブロック多量。礫 (径3cm) 多量。
近現代造成土 |
| III | 褐色 (10YR4/6) | しまりやや強、粘性強。
樹色粒子微量。地山 |
| IV | にぶい褐色 (7.5YR5/4) | しまり強、粘性やや弱。
礫 (径3~5cm) 中量。地山 |

31. 宇東川遺跡S地区

所在地 今泉 1693-3

調査面積 8㎡ (対象面積 208㎡)

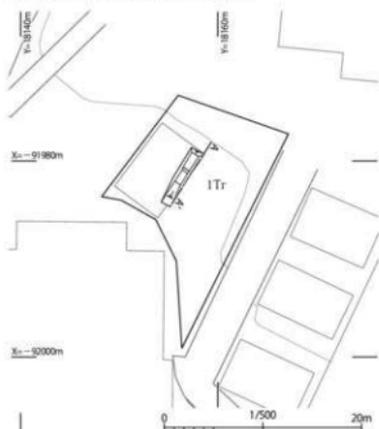
調査期間 平成27年2月3日

調査の原因 集合住宅建設

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構は検出されなかった。

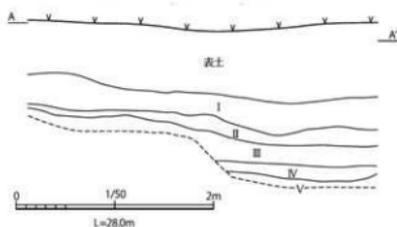
遺物は、表土中から土師器が、第IV層から縄文土器が出土したが、図化には至らなかった。



第75図 宇東川遺跡S地区 トレンチ配置図・セクション図



第74図 宇東川遺跡S地区 位置図



- I 黒色 (10YR2/1) しまりやや弱、粘性やや強。大溜スコリア (径5~8mm) 多量。
- II 黒褐色 (10YR3/1) しまりやや弱、粘性強。橙色粒子 (径1~3mm) 少量。
- III 黒褐色 (10YR3/2) しまりやや強、粘性強。赤色粒子 (径1mm) 微量、角礫 (5mm) 多量。
- IV 黒褐色 (10YR3/2) しまり強、粘性強。しまり強、粘性強。白色粒子 (径1mm) 極微量、角礫 (3~5cm) やや多量。縄文包査層
- V 暗褐色 (10YR3/4) しまり強、粘性強。替比奈赤岩礫層

32. 水戸島遺跡第1地区

所在地 水戸島2丁目212-4 外

調査面積 13㎡ (対象面積 1,433㎡)

調査期間 平成27年2月9日

調査の原因 貸店舗建設

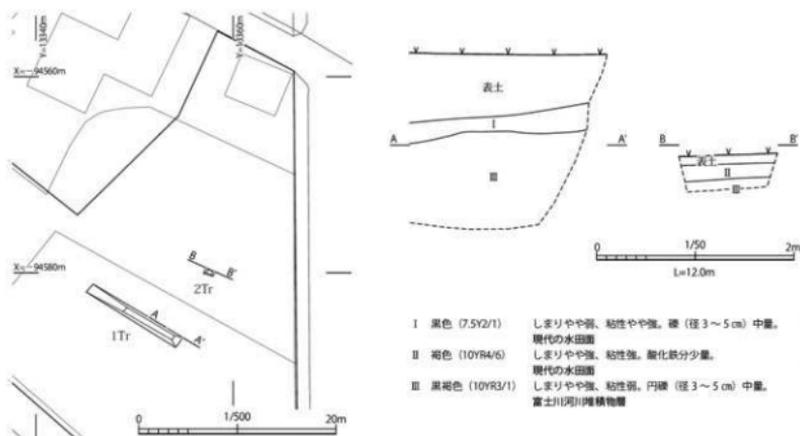
調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物共に確認されなかった。

トレンチ土層観察により、現代の水田耕作土下に砂礫層が厚く堆積している状況が認められ、調査地は富士川の大規模な氾濫原であると考えられる。



第76図 水戸島遺跡第1地区 位置図



第77図 水戸島遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

33. 宇東川遺跡T地区

所在地 原田630-1 外

調査面積 163㎡ (対象面積 3,863㎡)

調査期間 平成27年2月16日～2月19日

調査の理由 宅地造成

調査の概要 対象地内に7本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。



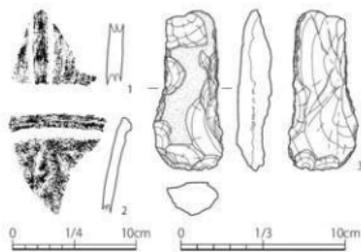
第78図 宇東川遺跡T地区 位置図

第6表 宇東川遺跡T地区 出土遺物観察表

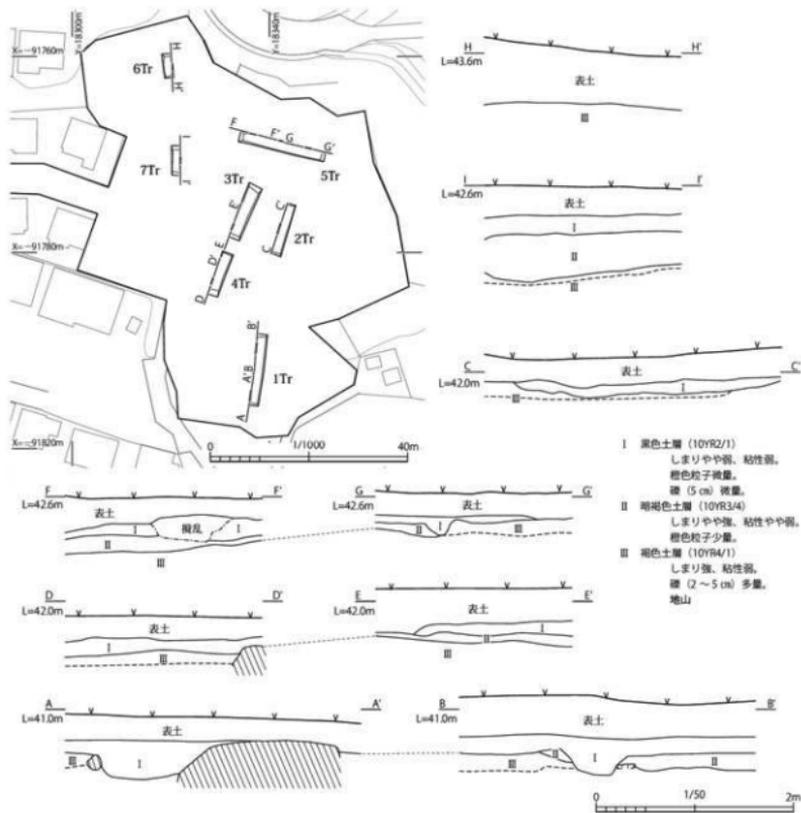
検出番号	長さ	写真図版	遺構名	種類	類別	測高(cm)	形状	胎土	内面色調	外面色調
第79図-1	R003	69頁	4Tr	縄文土器	深鉢	(5.0)	良好	やや粗、白色粒子・黒色粒子・雲母	10YR5/3 (にぶい黄褐)	5YR5/4 (にぶい赤褐)
第79図-2	R007	69頁	5Tr	縄文土器	深鉢	(7.8)	良好	やや粗、白色粒子	10YR6/3 (にぶい黄褐)	7.5YR5/3 (にぶい黒)
検出番号	長さ	写真図版	種類	類別	測長(cm)	測厚(cm)	測厚(cm)	重量(g)		
第79図-3	R008	69頁	石器	打製石斧	9.65	4.2	2.0	88.30		

調査の結果 縄文土器、石器などの遺物が出土したが、遺構は確認されなかった。調査地は近現代の造成により、地形を大きく改変されていた。

出土遺物 縄文土器片2点(第79図-1・2)、石器1点(第79図-3)を図化した。1は縦位の沈線区画が認められる胴部片で、2の口縁部片には横位の沈線とハの字文が認められる。3は打製石斧である。



第79図 宇東川遺跡T地区 出土遺物実測図



第80回 宇東川遺跡T地区 トレンチ配置図・セクション図

34. ナンカイボ遺跡第1地区

所在地 中之郷4110

調査面積 125㎡ (対象面積 4,585㎡)

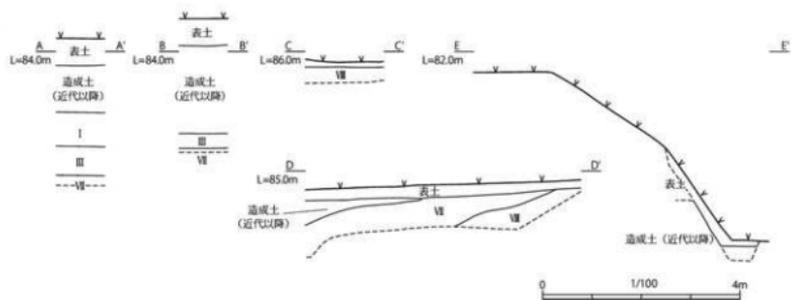
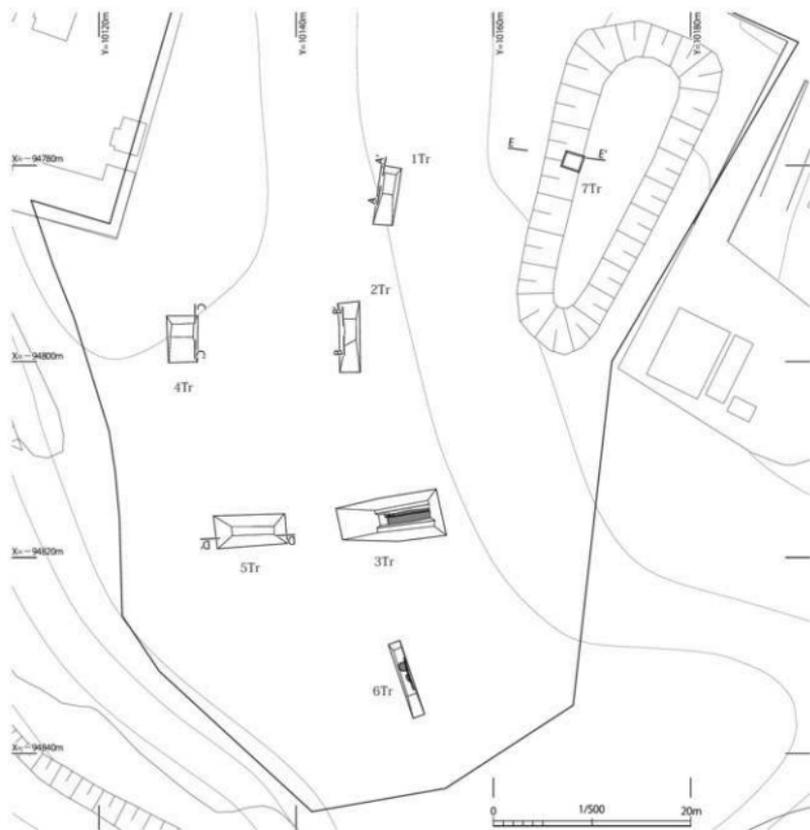
調査期間 平成27年3月2日~3月5日

調査の原因 太陽光発電施設建設

調査の概要 対象地内に7本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。



第81回 ナンカイボ遺跡第1地区 位置図



第82図 ナンカイボ遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図

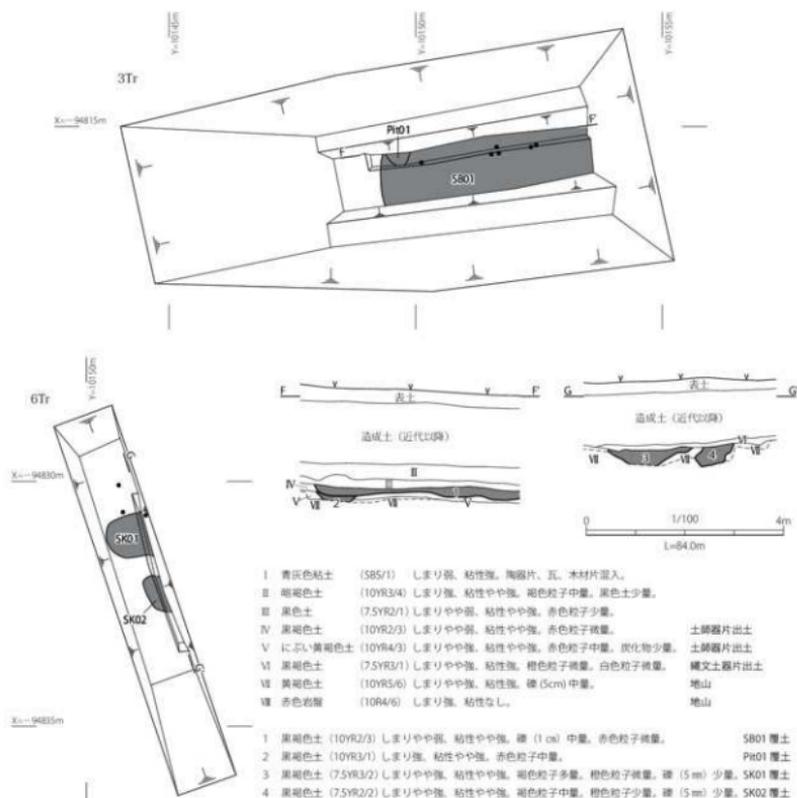
調査の結果 3Trで古墳時代中期の土師器を伴う竪穴建物跡(SB01)を検出し、6Trで縄文時代中期の土器と土坑(SK01・02)を検出した。その他のトレンチでは遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチの土層観察から、調査地は近代に大規模な造成が行われたことが確認された。西側(4・5・6Tr付近)にあった尾根を削平し、この尾根から南東に向かう谷(1・2・3Tr付近)を埋め、現状の平地を形成したものと考えられる。

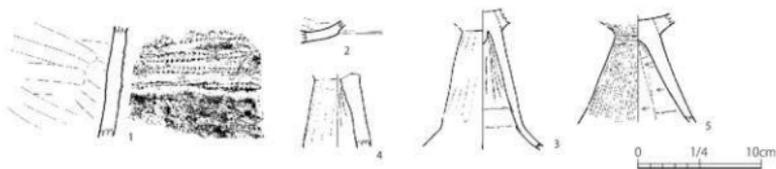
なお、調査地の北東(7Tr)では近代に調整池を作るための大規模な掘削が行われていた。

出土遺物 縄文土器1点(第84図-1)、土師器4点(第84図-2～5)を図示した。

1は横位に5条の連続竹管文が認められる縄文土器の胴部片である。2～5は古墳時代中期の土師器高坏である。2はTK73併行期に位置づけられる坏部片であり、3から5はTK73～208併行期に位置づけられる脚部である。3と4の内面上部には紋り成形痕が、3と5の内面下部には輪積み成形痕が認められる。3と4の外面には縦方向のヘラナデ調整が、5は外面にヘラミガキ調整、内面には横ヘラナデ調整が施されている。



第83図 ナンカイクボ遺跡第1地区 3Tr・6Tr平面図・セクション図



第84図 ナンカイクボ遺跡第1地区 出土遺物実測図

第7表 ナンカイクボ遺跡第1地区 出土遺物観察表

跡目番号	凡番号	写真図版	遺構名	類別	範囲	深高(cm)	地況	出土	内面色調	外面色調	
第84回-1	R010	70頁	6Tr	甕文土器	深鉢	(9.2)	良好	やや粗。白色粒子・赤色粒子・雲母	2.5YR5/6 (明赤褐)	2.5YR5/6 (明赤褐)	
跡目番号	凡番号	写真図版	遺構名	類別	範囲	深高(cm)	地況	残存率	内面色調	外面色調	備考
第84回-2	R001	70頁	1Tr	土師器	高坏	(1.8)	良好	-	2.5Y6/6 (橙)	2.5Y6/6 (橙)	坏部片
第84回-3	R004・007・008	70頁	SB01	土師器	高坏	(11.4)	不良	50%	10YR7/4 (にじい黄橙)	5YR6/6 (橙)	脚部
第84回-4	R006	70頁		土師器	高坏	(6.0)	良好	25%	7.5YR6/3 (にじい褐)	7.5YR4/1 (褐灰)	脚部、黒斑あり
第84回-5	R001・002・003	70頁	SB01	土師器	高坏	(8.9)	良好	75%	7.5YR6/3 (にじい褐)	7.5YR6/4 (にじい橙)	脚部

35. 厚原遺跡第6地区

所在地 厚原780-1

調査面積 11㎡ (対象面積 996㎡)

調査期間 平成27年3月17日

調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に3本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は認められなかった。

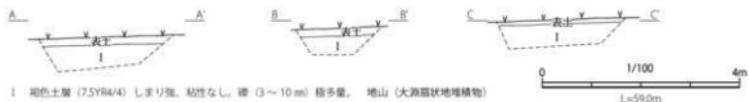
表土直下に地山が検出され、遺構が存在する土層はすでに削平を受けているものと考えられる。



第85図 厚原遺跡第6地区 位置図



第86図 厚原遺跡第6地区 トレンチ配置図



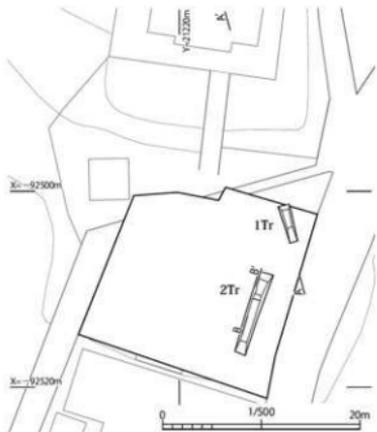
I 褐色土層 (7.5YR4/4) しまり強、粘性なし。礫 (3~10mm) 居多。地山 (大淵扇状地堆積物)

第87図 厚原遺跡第6地区 セクション図

第3節 平成27年度の発掘調査報告



第88図 天念寺遺跡第1地区 位置図



第89図 天念寺遺跡第1地区 トレンチ配置図

1. 天念寺遺跡第1地区

所在地 中里1464番4

調査面積 15㎡(対象面積 374㎡)

調査期間 平成27年4月6日

調査の原因 個人住宅新築

調査の概要 対象地内にトレンチを2本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 調査では遺構・遺物ともに確認されなかった。ただし、工事立会い時に土師器高環脚部1点が出土し、図示した(第90図)。

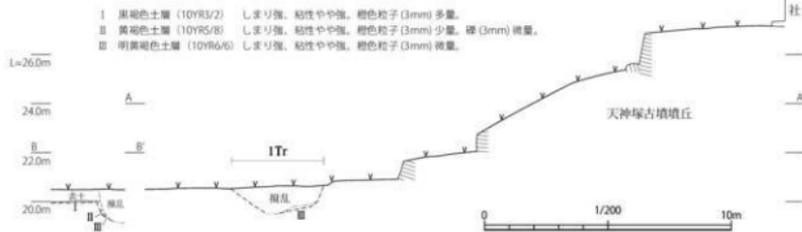
前方後円墳の可能性が指摘されている天神塚古墳の南側に隣接することから、墳裾の確定も期待されたが、敷地全体が大規模に削平を受けており、旧土が存在しないことが明らかとなり、墳裾の確定には至らなかった。

調査地南側でも休場ルーム対応層が存在せず、表土直下で黒色帯(BB IV～BB VII対応か)が検出された。

図示した土師器高環脚部は、内面に紋り成形層が残り、外面に縦ヘラミガキが施され、古墳時代中期(TK73～208併行期)に位置づけられる。



第90図 天念寺遺跡第1地区 遺物実測図



第91図 天念寺遺跡第1地区 セクション図

第8表 天念寺遺跡第1地区 出土遺物観察表

発掘番号	R番号	写真図版	遺構名	種類	形状	高さ(cm)	地層	胎土	内面色調	外面色調
第90図-1	R001	71頁	工事立会	土師器	高環	(5.0)	良好	精緻、白色粒子含む。	7.5YR4/2 (灰褐色)	5YR5/4 (ぶい・赤褐色)

2. 水神堂遺跡第3地区

所在地 原田799-1 外

調査面積 28㎡ (対象面積 2,092㎡)

調査期間 平成27年4月16日

調査の原因 宅地分譲地造成

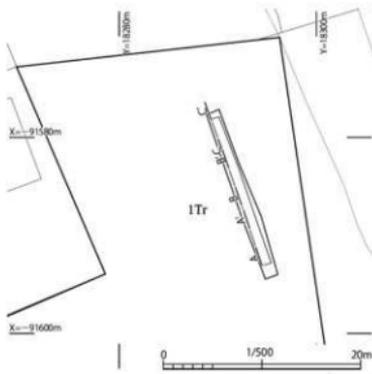
調査の概要 対象地内にトレンチを1本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。



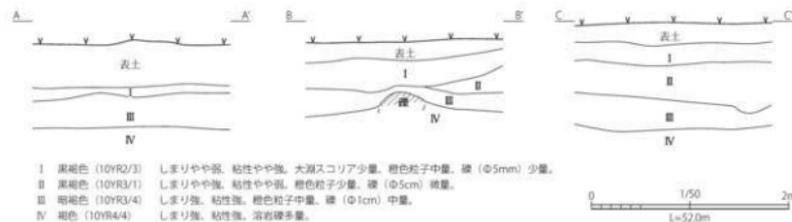
第92図 水神堂遺跡第3地区 位置図

調査の結果 遺構は確認されなかった。

遺物は、縄文土器、土師器、須恵器が出土したものの、すべて表土中から発見されたもので、図化には至らなかった。



第93図 水神堂遺跡第3地区 トレンチ配置図



第94図 水神堂遺跡第3地区 セクション図

3. 天間沢遺跡第42地区

所在地 天間600番1 外

調査面積 23㎡ (対象面積 1,510㎡)

調査期間 平成27年4月17日

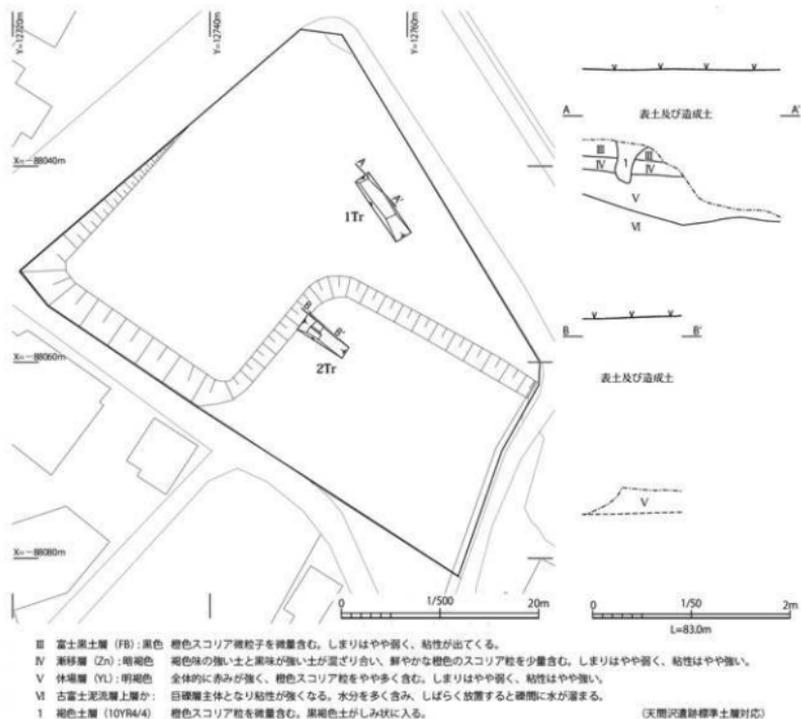
調査の原因 店舗建設

調査の概要 対象地内にトレンチを2本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 地山が大規模に削平されており、遺構および遺物は確認されなかった。一部で掘り込みが確認されたが、土の色調などから縄文時代とは断定できない。



第95図 天間沢遺跡第42地区 位置図



第96図 天間沢遺跡第42地区 トレンチ配置図・セクション図

4. 東平遺跡第78地区

所在地 伝法2548番2

調査面積 14nf (対象面積 208nf)

調査期間 平成27年4月23日

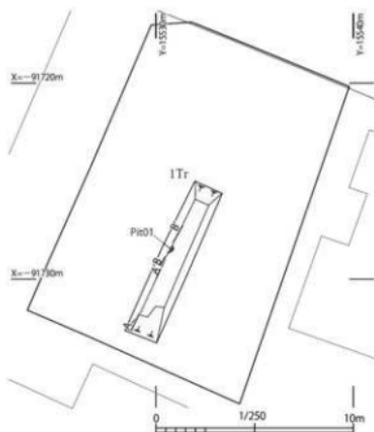
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内にトレンチを1本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

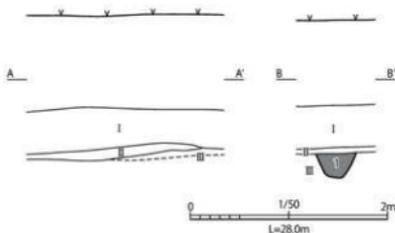
調査の結果 地表面から1.4mの深さで、地山を掘り込んだ遺構 (Pit001) を検出した。土層断面観察の結果、Pit001の覆土は東平遺跡でみられる奈良・平安時代の遺構覆土に類似する。ただし、トレンチ内から遺物が全く出土しなかったため、時期の決定には至らなかった。



第97図 東平遺跡第78地区 位置図



第98図 東平道跡第78地区 トレンチ配置図・セクション図



- I 暗褐色土層 (10YR3/3)
しまりやや強、粘性強、褐色粒子微量。
- II 黒褐色土層 (10YR2/1)
しまりやや強、粘性強、褐色粒子微量、礫(2mm)微量。
- III 褐色土層 (10YR4/6)
しまり強、粘性強、褐色粒子微量、礫(5~10mm)多量、
大瀝屑状地塊織物
- 1 黒色土層 (10YR2/1)
しまりやや強、粘性やや強、褐色Dのり微量、礫(5mm)少量、
Pit01 覆土

5. 沢上道跡第6次調査地点

所在地 岩淵85-10

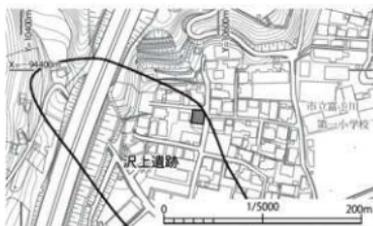
調査面積 8㎡(対象面積 143㎡)

調査期間 平成27年4月28日

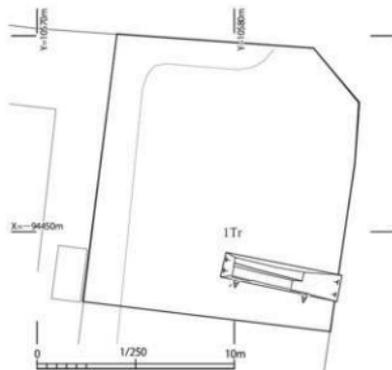
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内にトレンチを1本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

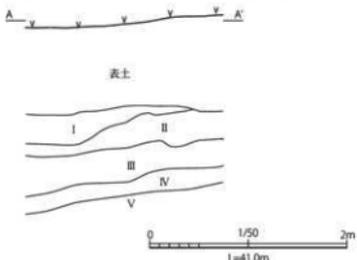
調査の結果 遺構・遺物共に検出されなかった。



第99図 沢上道跡第6次調査地点 位置図



第100図 沢上道跡第6次調査地点 トレンチ配置図・セクション図



- I 黒色土層 (10YR2/1) しまりやや強、粘性強、褐色粒子微量、礫(1cm)少量。
- II 濃い黄褐色土層 (10YR6/4) しまりやや強、粘性強、礫(1cm)多量、粘土中量。
- III 黒色土層 (10YR1.7/1) しまりやや強、粘性やや強、褐色粒子少量。
- IV 黒褐色土層 (10YR2/3) しまりやや強、粘性やや強、礫(1cm)極多量。
- V 暗褐色土層 (10YR3/4) しまり強、粘性やや強、礫(1cm)中量、地山

6. 伝法3古墳群第1地区

所在地 国久保3丁目9-10 外

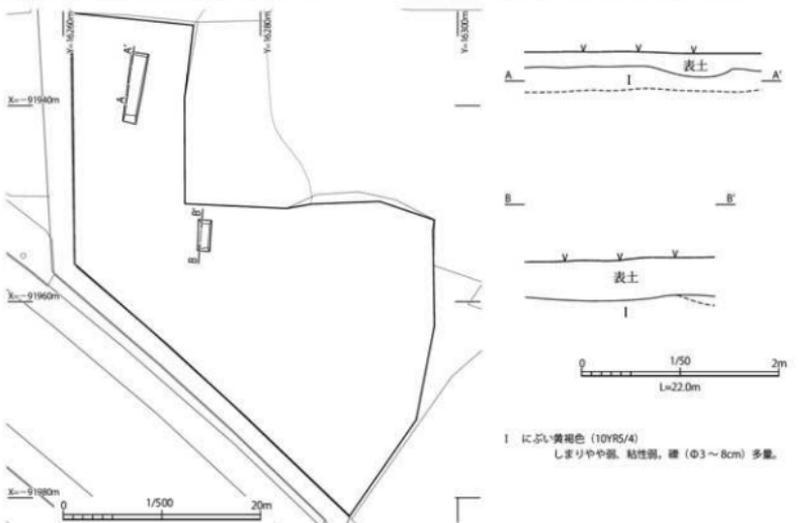
調査面積 15㎡ (対象面積 750㎡)

調査期間 平成27年5月25日

調査の原因 集合住宅新築

調査の概要 対象地内にトレンチを2本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物共に検出されなかった。



第101図 伝法3古墳群第1地区 位置図

第102図 伝法3古墳群第1地区 トレンチ配置図・セクション図

7. 沢東A遺跡第15次調査地点

所在地 久沢111-1

調査面積 197㎡ (対象面積 2,247㎡)

調査期間 平成27年6月2日～6月8日

調査の原因 工場新築

調査の概要 対象地内にトレンチを4本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 調査地北側に設定した1Trと4Trで、竪穴建物跡4軒 (SB01～04)、ビット2基 (Pi01～02)、土坑1基 (SK01)、溝1条 (SD01) を検出した。出土遺物 遺物は土師器、須恵器が出土し、2点図示した (第104図)。1は7世紀前半の土師器坏、2は7世紀代の土師器甕口縁部である。

第9表 沢東A遺跡第15次調査地点 出土遺物観察表

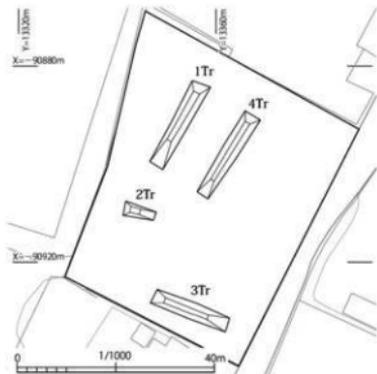
検出番号	R番号	写真図版	遺物名	種類	形状	高さ(cm)	地蔵	出土	内面色調	外面色調
第104図-1	R011	72頁	4Tr	土師器	坏	(3.6)	良好	精緻、白色粒子・赤色粒子含む。	5YR6/6 (橙)	5YR5/6 (橙)
第104図-2	R012	72頁	表様	土師器	甕	(3.5)	良好	精緻、白色粒子含む。	7.5YR5/3 (にぶい黄)	5YR5/4 (にぶい赤黄)



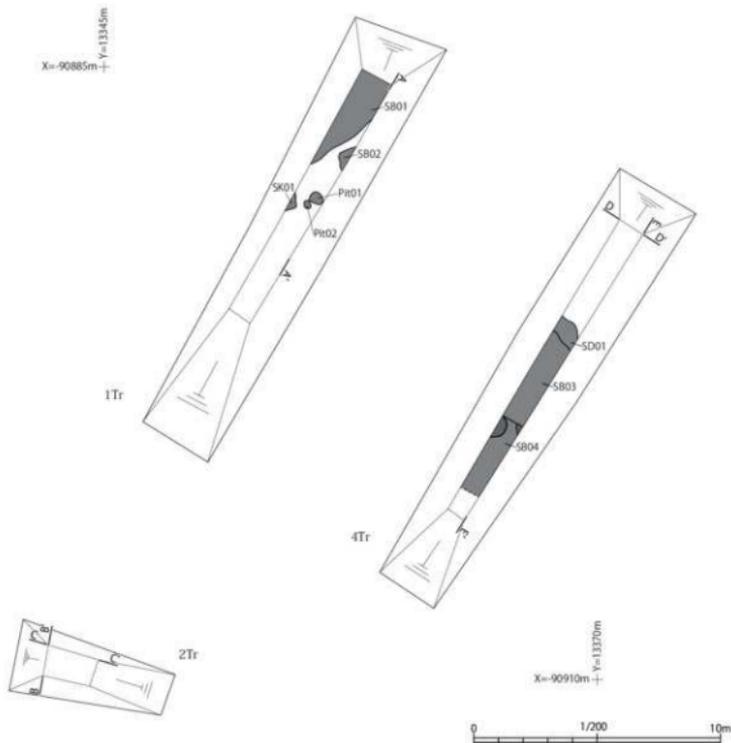
第103図 沢東A遺跡第15次調査地点 位置図



第104図 沢東A遺跡第15次調査地点 遺物実測図



第105図 沢東A遺跡第15次調査地点 トレンチ配置図



第106図 沢東A遺跡第15次調査地点 1Tr・2Tr・4Tr 平面図

8. 富士岡1古墳群第14地区

所在地 比奈2823-3の内

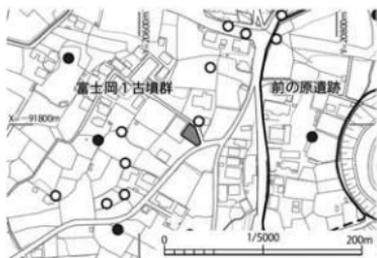
調査面積 6㎡ (対象面積 794㎡)

調査期間 平成27年7月2日

調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内にトレンチを1本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

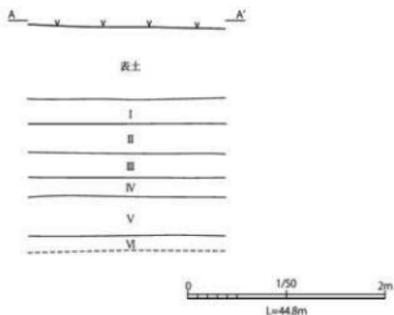
調査の結果 遺構・遺物共に検出されなかった。



第109図 富士岡1古墳群第14地区 位置図



第110図 富士岡1古墳群第14地区 トレンチ配置図・セクション図



- | | | |
|-----|-------|-----------------------------|
| I | 明褐色土層 | しまり強、粘性やや強。 |
| II | 黒褐色土層 | しまりやや強、粘性やや弱。大瀬スコリア中量。 |
| III | 黒褐色土層 | しまりやや強、粘性やや弱。大瀬スコリア多量。 |
| IV | 黒褐色土層 | しまりやや強、粘性やや強。大沢スコリア混入。 |
| V | 黒褐色土層 | しまりやや強、粘性やや強。大沢スコリア・白色粒子混入。 |
| VI | 黒褐色土層 | しまり強、粘性やや強。大沢スコリア微量。(黒色土対応) |

9. 沢東B遺跡第1地区2次調査

所在地 厚原147-12

調査面積 510㎡ (対象面積 795㎡)

調査期間 平成27年7月7日

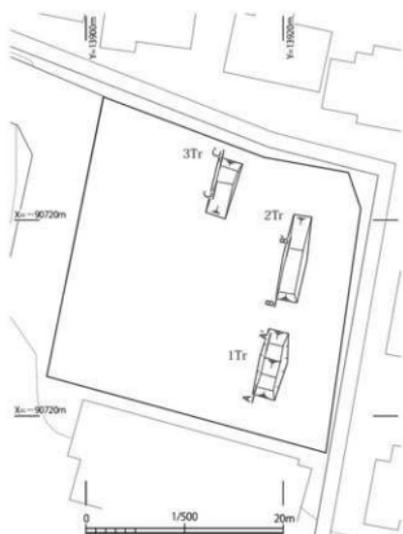
調査の原因 集合住宅新築

調査の概要 対象地内にトレンチを3本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

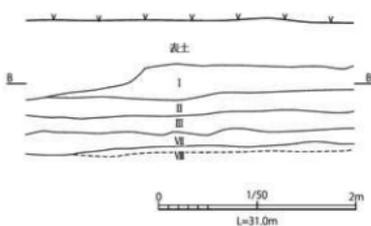
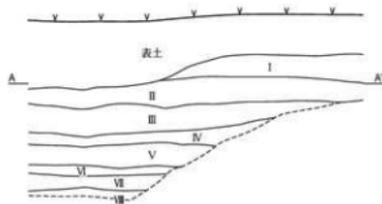
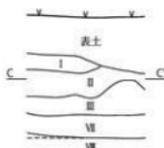
調査の結果 遺構・遺物共に検出されなかった。



第111図 沢東B遺跡第1地区 位置図



- I しぶい赤褐色土層 (5YR4/4)
しまり強、粘性強。礫(5mm)多量。
- II 黒褐色土層 (7.5YR3/1)
しまり強、粘性やや弱。
- III 暗褐色土層 (7.5YR3/4)
しまり強、粘性やや弱。黒色土少量。
- IV 黒褐色土層 (7.5YR3/2)
しまりやや強、粘性やや弱。礫(3mm)微量。
- V 褐色土層 (7.5YR4/4)
しまりやや強、粘性やや弱。礫(3~5mm)多量。
- VI 灰黄褐色土層 (10YR2/1)
しまりやや強、粘性やや弱。橙色粒子微量。
- VII 黒褐色土層 (10YR3/2)
しまりやや強、粘性やや弱。橙色粒子多量。礫(5mm)微量。
- VIII 褐色土層 (10YR4/6)
しまり強、粘性やや強。礫(5mm)少量。



第112図 沢東B遺跡第1地区 トレンチ配置図・セクション図



第113図 沖田遺跡第152次調査地点 位置図

10. 沖田遺跡第152次調査地点

所在地 宇東川東町42-6

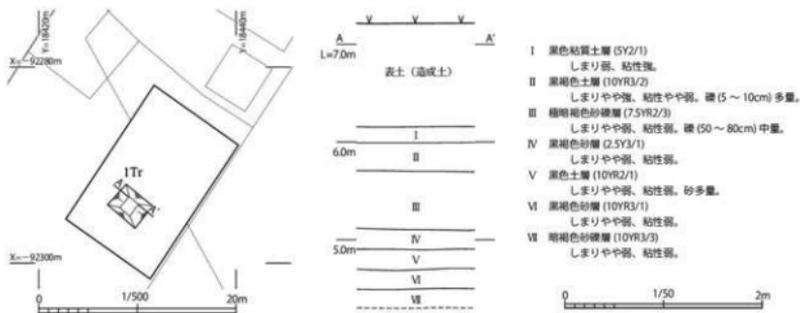
調査面積 10㎡ (対象面積 100㎡)

調査期間 平成27年7月21日

調査の原因 鉄塔建替

調査の概要 対象地内にトレンチを1本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物共に検出されなかった。



第114図 沖田遺跡第152次調査地点 トレンチ配置図・セクション図

11. 東平遺跡第77地区

所在地 伝法3040-1 外

調査面積 184㎡ (対象面積 2,802㎡)

調査期間 平成27年7月27日～29日

調査の原因 宅地造成

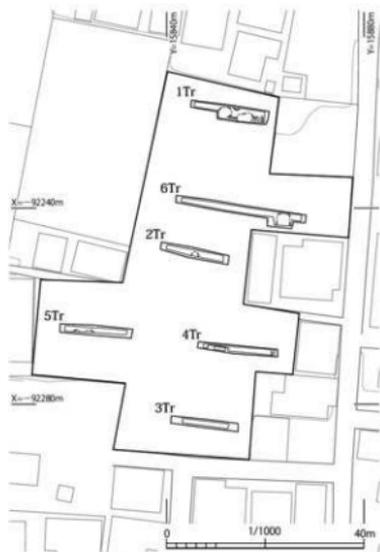
調査の概要 対象地内にトレンチを6本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 調査地の北端に設定した1Trで竪穴建物跡2軒(SB01～02)と土坑1基(SK01)を検出した。他のトレンチでは遺構は確認されなかった。

出土遺物 遺物は、1Tr・3Tr・6Trで少量の土師器片、須恵器片が出土し、3Trで出土した土師器片1点を図示した(第117図)。底部が回転糸切後未調整であり、10～11世紀のものと思われる。



第115図 東平遺跡第77地区 位置図



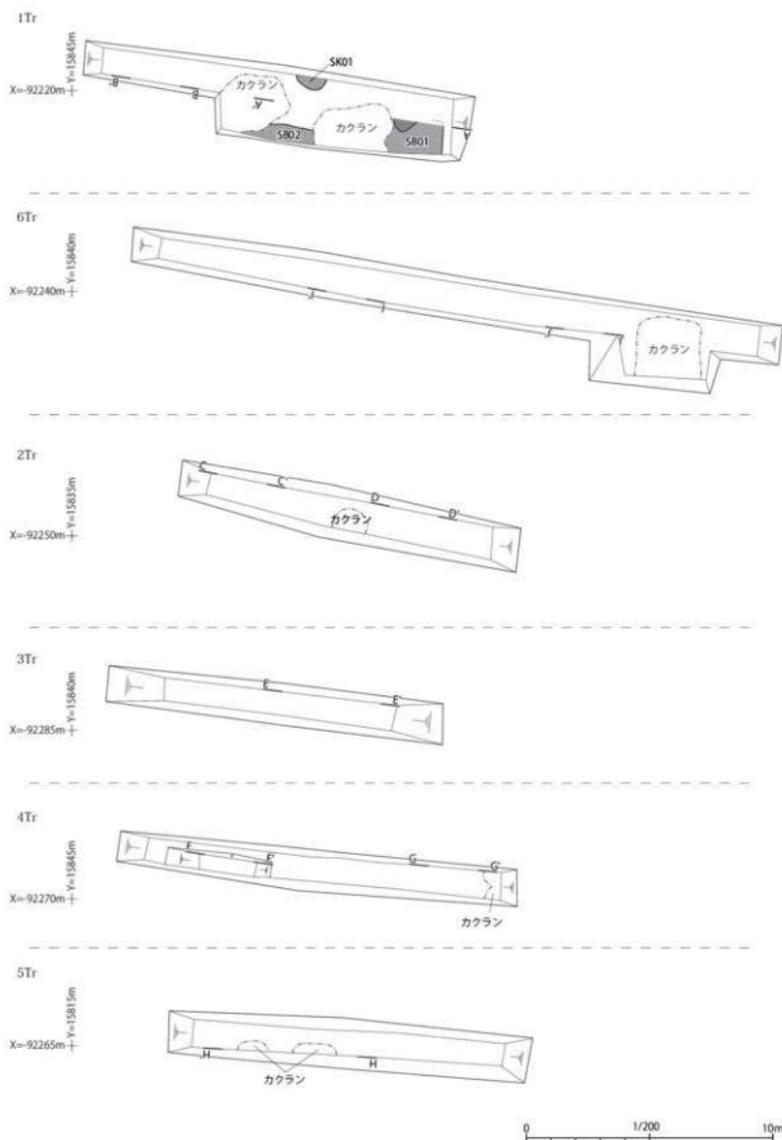
第116図 東平遺跡第77地区 トレンチ配置図



第117図 東平遺跡第77地区 遺物実測図

第10表 東平遺跡第77地区 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真図版	遺構名	類別	細目	高さ(cm)	地味	粘土	内面色調	外面色調	
第117図-1	R002	73頁	3Tr	土師器	坏	(2.8)	良好	精緻	白色粒子・赤色粒子・雲母含む	7.5YR6/6 (浅黄粉)	7.5YR6/6 (浅黄粉)



第118図 東平遺跡第77地区 トレンチ平面図



第119図 東平道跡第77地区 セクション図

12. 沖田道跡第153次調査地点

所在地 吉原一丁目1番1

調査面積 61㎡ (対象面積 10,434㎡)

調査期間 平成27年8月19日~8月21日

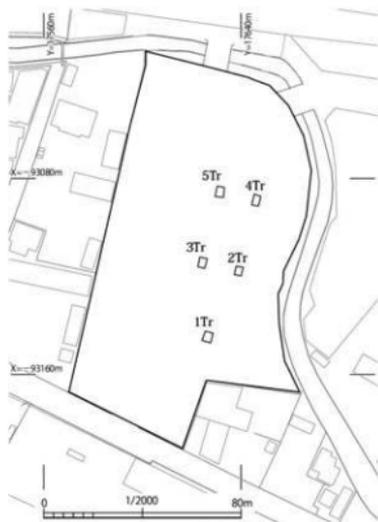
調査の原因 工場新築

調査の概要 対象地内に5ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、土層断面観察を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

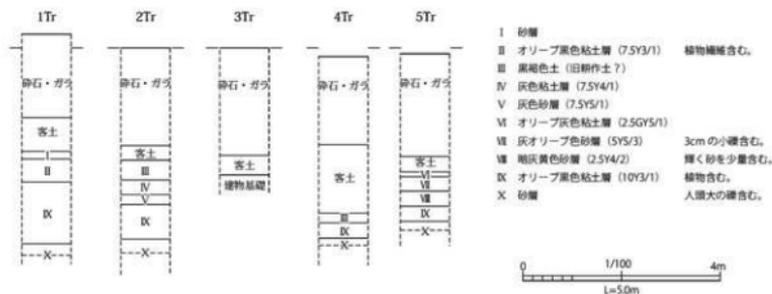
調査の結果 遺構・遺物共に検出されなかった。



第120図 沖田道跡第153次調査地点 位置図



第121図 沖田道跡第153次調査地点 トレンチ配置図



第122図 沖田遺跡第153次調査地点 セクション図

13. 富士岡1古墳群第15地区

所在地 比奈2832-1

調査面積 32nf (対象面積 300nf)

調査期間 平成27年8月27日

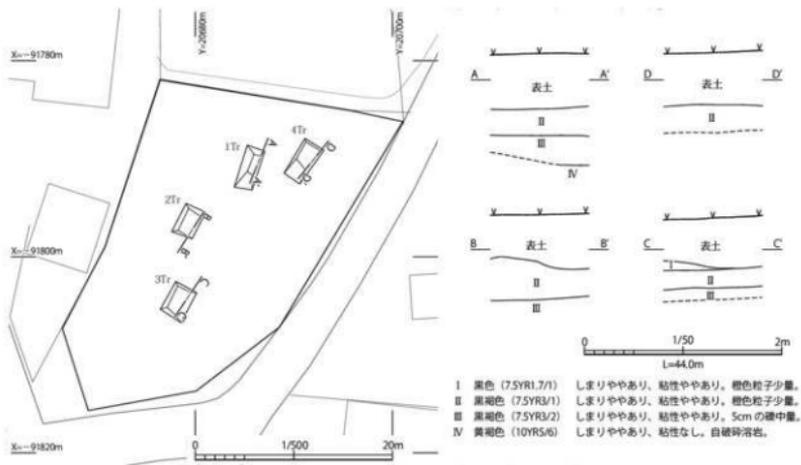
調査の原因 個人住宅建設

調査の概要 対象地内にトレンチを4本設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構は検出されなかった。遺物は、縄文土器が1点出土したが図化には至らなかった。



第123図 富士岡1古墳群第15地区 位置図



第124図 富士岡1古墳群第15地区 トレンチ配置図・セクション図

14. 中桁・中ノ坪遺跡第12地区

所在地 伝法1087-4外

調査面積 4㎡(対象面積 240㎡)

調査期間 平成27年10月21日

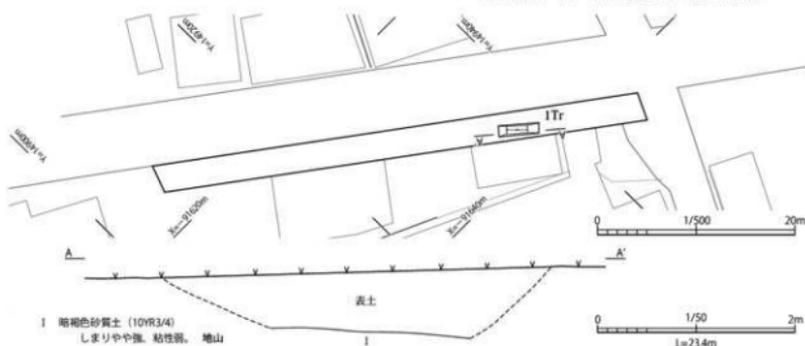
調査の原因 道路整備

調査の概要 対象地内に1ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構および遺物は確認されなかった。



第125図 中桁・中ノ坪遺跡第12地区 位置図



第126図 中桁・中ノ坪遺跡第12地区 トレンチ配置図・セクション図

15. 物見堂遺跡第2地区

所在地 岩淵1190外

調査面積 74㎡(対象面積 2,517㎡)

調査期間 平成27年11月9日～11月16日

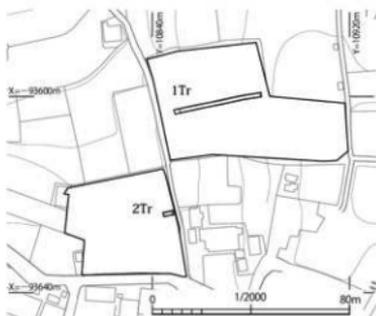
調査の原因 宅地分譲

調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。

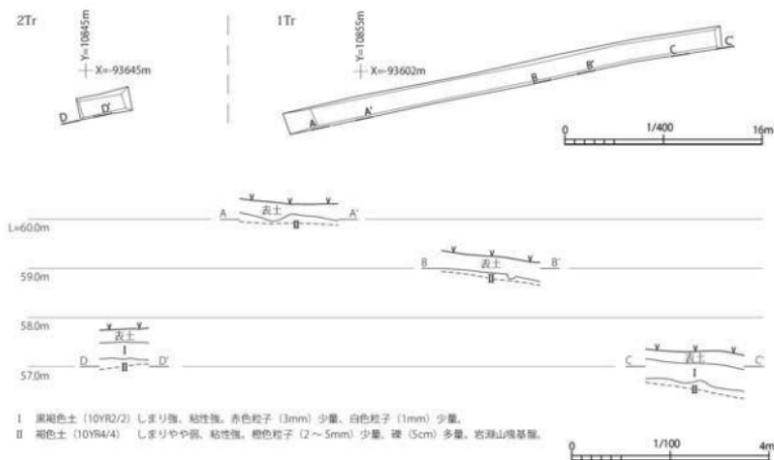
調査の結果 遺構・遺物は確認されなかった。



第127図 物見堂遺跡第2地区 位置図



第128図 物見堂遺跡第2地区 トレンチ配置図



第129図 物見堂遺跡第2地区 トレンチ平面図・セクション図

16. 厚原横道下道跡第5地区

所在地 伝法1237-1 外

調査面積 259㎡ (対象面積 10,371㎡)

調査期間 平成27年11月30日～12月3日

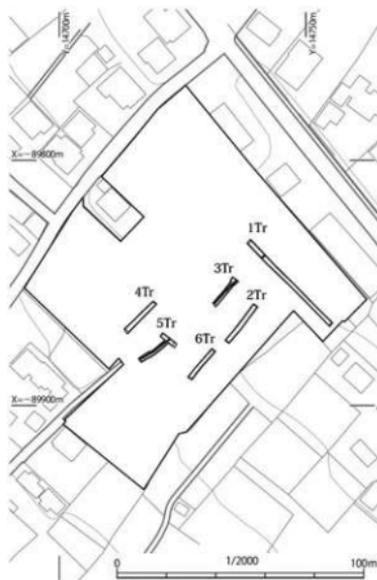
調査の原因 貸店舗建設

調査の概要 敷地内に6本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

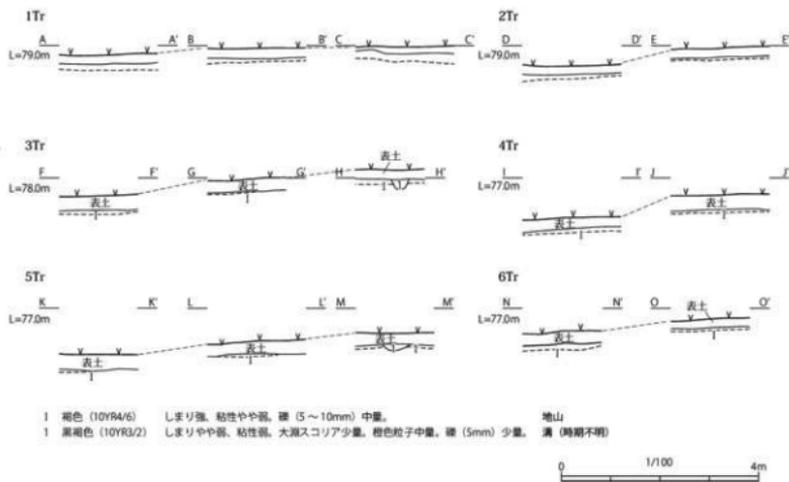
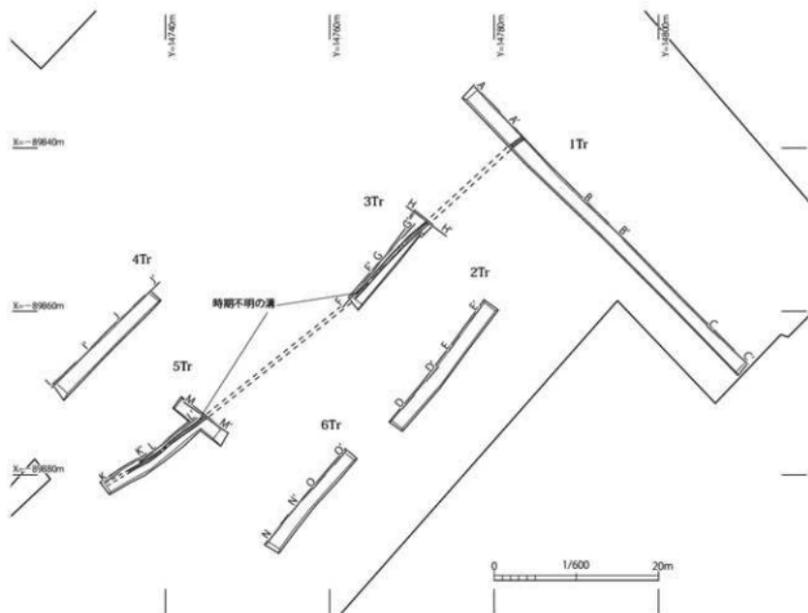
調査の結果 1Tr・3Tr・5Trにおいて、南北方向に延びる幅約50cmの浅い溝を検出したが、遺物の出土が無かったため時期不明とした。この溝以外、遺構および遺物は確認されなかった。



第130図 厚原横道下道跡第5地区 位置図



第131図 厚原横道下道跡第5地区 トレンチ配置図



第132図 厚原横道下道跡第5地区 トレンチ平面図・セクション図

17. 川坂遺跡第3地区

所在地 天間886番8

調査面積 19㎡ (対象面積 373㎡)

調査期間 平成27年12月22日

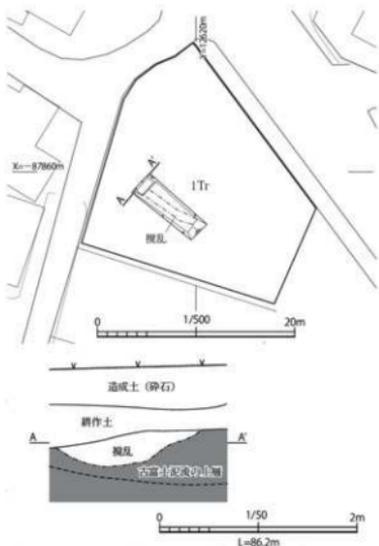
調査の原因 宅地造成

調査の概要 対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構および遺物は確認されなかった。



第133図 川坂遺跡第3地区 位置図



第134図 川坂遺跡第3地区 トレンチ配置図・セクション図

18. 天念寺遺跡第2地区

所在地 中里1406番2

調査面積 60㎡ (対象面積 783㎡)

調査期間 平成28年1月20日～1月22日

調査の原因 宅地造成

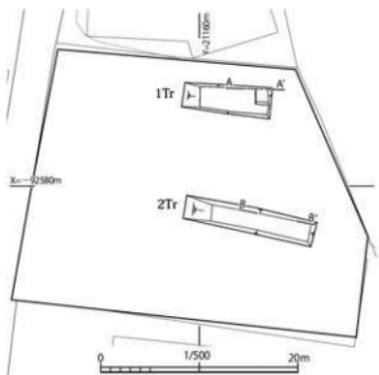
調査の概要 対象地内に2本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構および遺物は認められなかった。

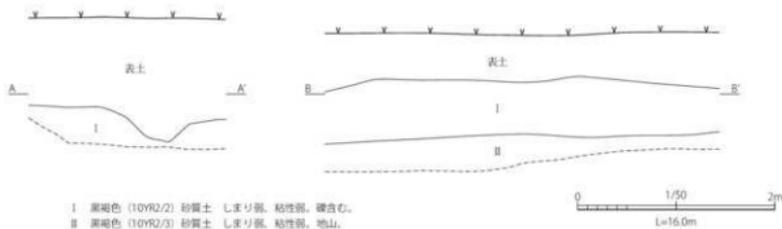


第135図 天念寺遺跡第2地区 位置図

土層観察の結果、敷地内には長期間にわたって水が流れていた、もしくは滞留していた可能性が考えられる。現在は埋め戻されたが、敷地北側には「湧玉池」と呼ばれる湧水箇所が存在し、扇状地堆積の影響と想定される。



第136図 天念寺遺跡第2地区 トレンチ配置図



第137図 天念寺遺跡第2地区 セクション図

19. 中島遺跡第10地区

所在地 原田730-1 外

調査面積 15㎡ (対象面積 742㎡)

調査期間 平成28年1月25日

調査の原因 不動産売買

調査の概要 対象地内に3本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 遺構、遺物は認められなかった。

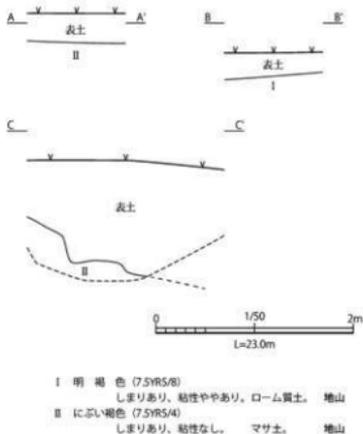
土層観察の結果、敷地西側は松原川に向かって急激に土地が傾斜しており、包蔵地内である敷地西側にも遺跡は存在しないことが明らかとなった。



第138図 中島遺跡第10地区 位置図



第139図 中島遺跡第10地区 トレンチ配置図・セクション図



20. 中原道跡第28地区

所在地 伝法540番1外

調査面積 479㎡ (対象面積 3,878㎡)

調査期間 平成28年2月22日～2月26日

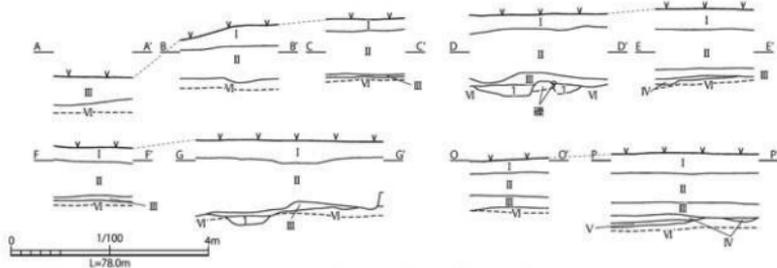
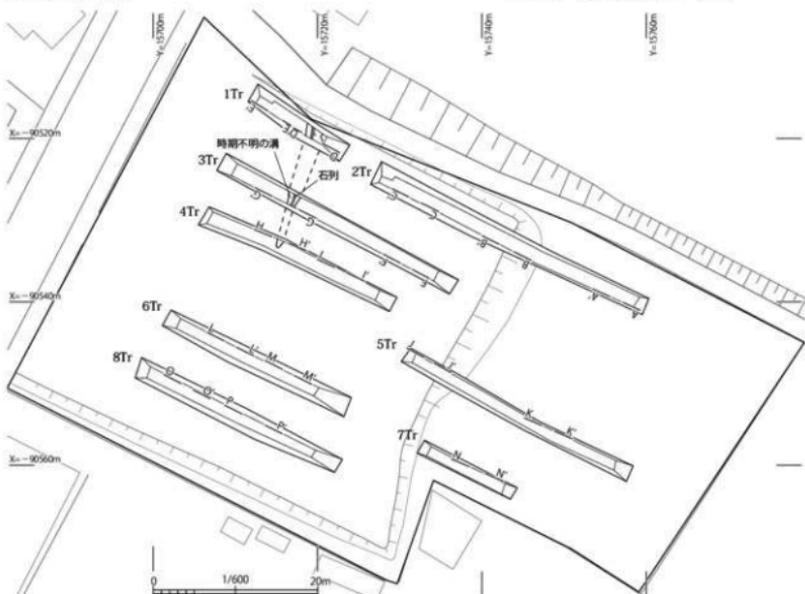
調査の原因 駐車場整備

調査の概要 対象地内に8本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

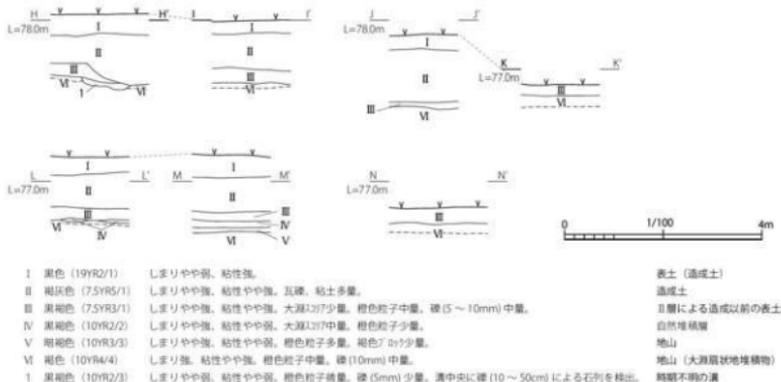
調査の結果 1Tr・3Tr・4Trで、時期不明の南北に走る溝状の掘り込みを検出した。その他には遺構や遺物は検出できなかった。



第140図 中原道跡第28地区 位置図



第141図 中原道跡第28地区 トレンチ配置図・セクション図



第142図 中原遺跡第28地区 セクション図

21. 沢東A遺跡第17次調査地点

所在地 久沢107-2

調査面積 13㎡ (対象面積 357㎡)

調査期間 平成28年3月1日

調査の理由 集合住宅新築

調査の概要 敷地内に2ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 明確な遺構は検出されなかったが、II層より遺物が出たことから遺物包含層が形成されているものと考えられる。

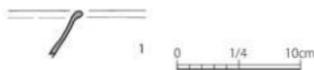
出土遺物 遺物は、2Trで数点の灰軸陶器片、土師器片が出土し、灰軸陶器碗の口縁部1点を図示した(第145図)。時期の特定は難しいが、10世紀代のものと推定される。



第143図 沢東A遺跡第17次調査地点 位置図



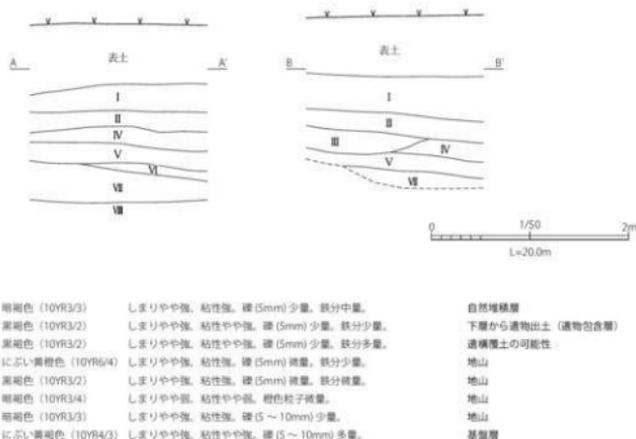
第144図 沢東A遺跡第17次調査地点 トレンチ配置図



第145図 沢東A遺跡第17次調査地点 遺物実測図

第11表 沢東A遺跡第17次調査地点 出土遺物観察表

検出番号	頁番号	写真図版	遺構名	種類	細目	面高(cm)	状態
第145図-1	R001	76頁	2Tr	灰軸陶器	碗	(1.9)	良好
				胎土	内面色調		外面色調
					精細、白色粒子含む。	5Y6/1 (灰)	5Y6/1 (灰)



第146図 沢東A遺跡第17次調査地点 セクション図

22. 宇東川遺跡隣接地 (V地区)

所在地 宇東川西町549番 外

調査面積 44㎡ (対象面積 2,835㎡)

調査期間 平成28年3月8日

調査の原因 宅地分譲造成

調査の概要 包蔵地の広がりを確認するために7ヶ所のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行った。

調査の結果 調査地中央や西側に設定した1~5Trでは遺構および遺物は認められなかった。一方、敷地東側に設定した6Tr・7Trでは松原川の河川堆積層が認められ、その最下層からローリングを受けた土師器・須恵器片3点が出土した。これは、松原川上流を中心に展開する宇東川遺跡に伴う遺物と考えられ、調査地に包含層が形成されているとは言えない状況を確認した。

出土遺物 出土した土器の内、土師器場の口縁部片1点を図示した(第148図)。駿東型の埴の口縁部で、8世紀代に位置づけられる。



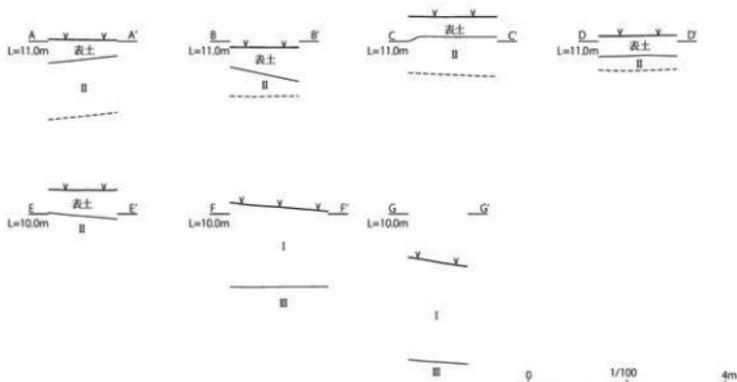
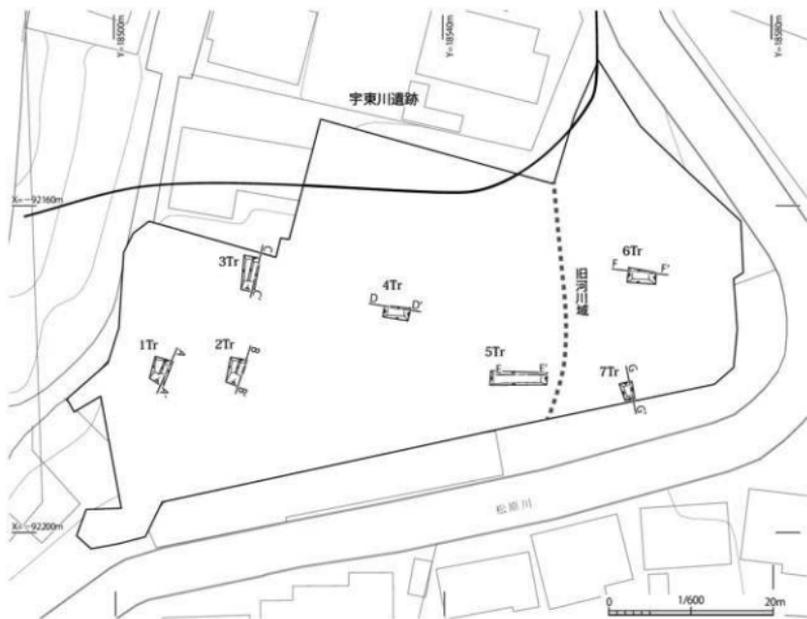
第147図 宇東川遺跡隣接地 (V地区) 位置図



第148図 宇東川遺跡隣接地 (V地区) 遺物実測図

第12表 宇東川遺跡隣接地 (V地区) 出土遺物観察表

検出番号	表番号	写真図版	遺構名	種類	組別	加高(m)	状況
第148図-1	R001	76頁	6Tr	土師器	埴	(2.6)	良好
				胎土	内面色調		外面色調
					粗、白色粘土含む。	2.5YR6/8 (橙)	5YR5/4 (にぶい赤相)



- | | | |
|----------------------|---------------------------|-------------------|
| I 黒褐色土層 (7.5YR2/2) | しまりなし、粘性ややあり。 | 松原川の氾濫に伴う河川堆積層 |
| II 黒褐色土層 (10YR3/1) | しまりあり、粘性ややあり。 | 火山堆積層 |
| III 黒褐色砂礫層 (10YR2/3) | しまりあり、粘性ややあり。礫(2~10cm)多量。 | 旧河川(松原川)の河床を構成する層 |

第149図 宇東川遺跡隣接地（V地区）トレンチ配置図・セクション図

23. 中原道跡第29地区

所在地 伝法561番10外

調査面積 209㎡ (対象面積 2,151㎡)

調査期間 平成28年3月23日

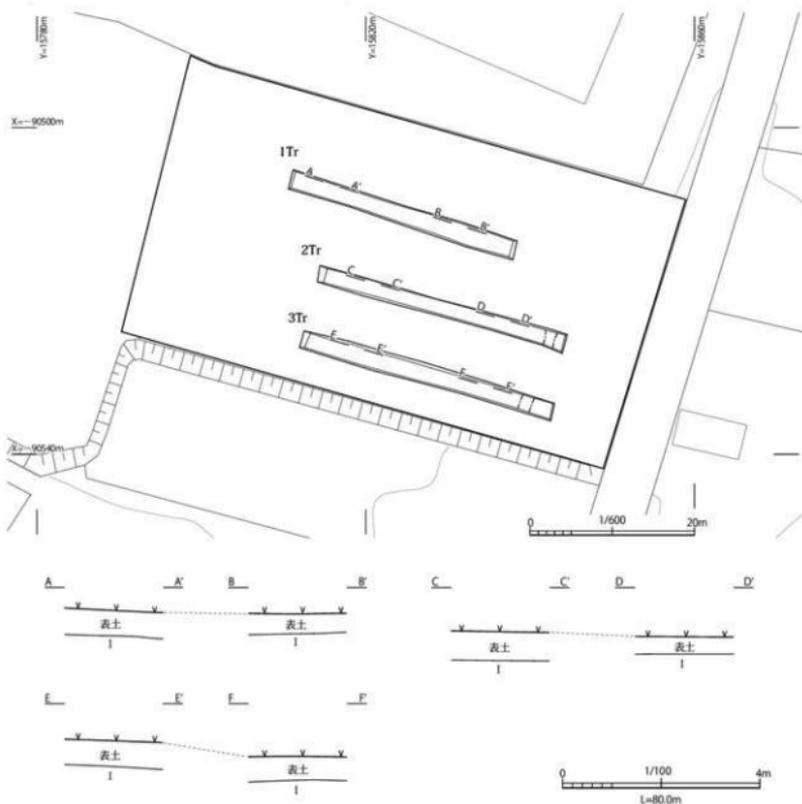
調査の原因 駐車場整備

調査の概要 対象地内に3本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。

調査の結果 遺構・遺物は検出されなかった。



第150図 中原道跡第29地区 位置図



I 褐色 (10YR4/4) しまり強、粘性弱。褐色粒子中量。礫 (5~10mm) 多量。地山 (大規模状地塊積物)

第151図 中原道跡第29地区 トレンチ配置図・セクション図

第4節 埋蔵文化財包蔵地の内容変更

埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺跡種類等の内容については、確認調査や現地踏査により得られた情報に基づいて、随時、変更や新規登録を行っている。

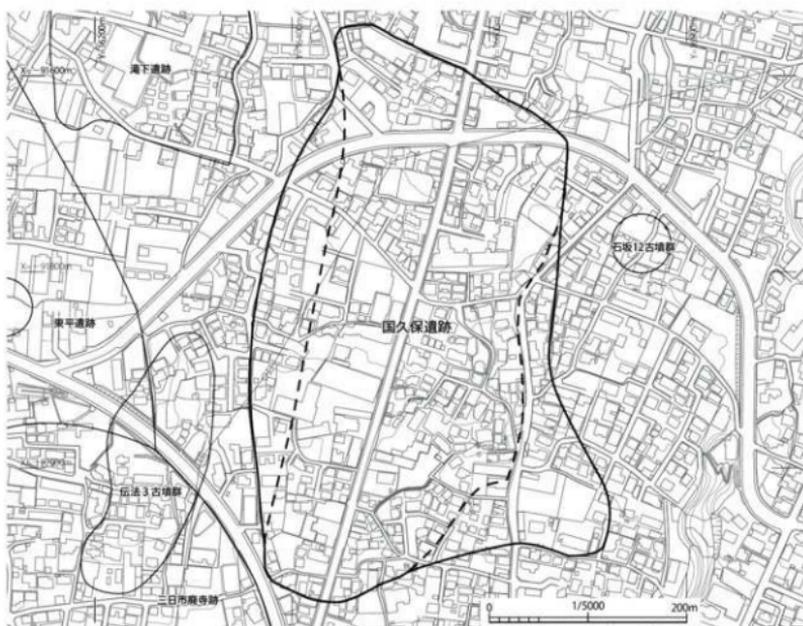
平成27年1月から平成28年12月の間に行われた、埋蔵文化財包蔵地の登録内容変更について、ここで報告する。

・登録内容の変更

遺跡番号	遺跡名	変更内容	変更年月日
45	国久保遺跡	包蔵地範囲を拡大(第152図参照)	H28.9.13
15	厚原横道下遺跡	包蔵地範囲を縮小(第153図参照)	H28.9.13
16	大石遺跡	包蔵地範囲を縮小(第154図参照)	H28.9.13
19	中原遺跡	包蔵地範囲を縮小(第155図参照)	H28.9.13

【地図の凡例】

範囲変更遺跡について、新規範囲を実線で、旧範囲を破線で、変更しない部分については、実線のみで示す。



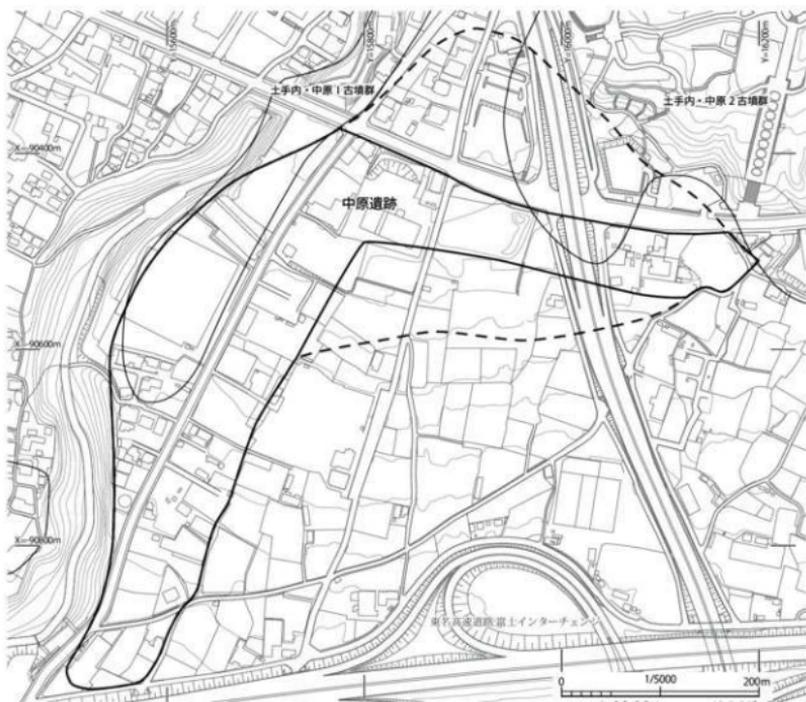
第152図 国久保遺跡



第153図 厚原横道下遺跡



第154図 大石遺跡



第155図 中原遺跡

1. 東平遺跡 第68地区



1. 1Tr (西から)



2. 2Tr (西から)

2. 東平遺跡 第69地区



1. 1Tr 拡張前全景 (東から)



2. 1Tr SB01・04・03 検出状況 (東から)



3. 2Tr SB02 検出状況 (東から)



出土遺物

3. 石坂11古墳群 第1地区



1. 重機掘削の様子 (北東から)



2. 1Tr (南から)

4. 滝下遺跡 M地区



1, 1Tr (西から)

5. 中吉原宿遺跡 第8地区



1, 1Tr (北東から)



2, 8Tr (北から)

6. 中吉原宿遺跡 第9地区



1, 1Tr (北東から)

7. 宇東川遺跡 M地区



1, SH01-SS1～4 (南東から)



2, SH01 (西から)

8. 国久保遺跡 第4地区



1. 1Tr (西から)

9. 川取遺跡 第2地区



1. 1Tr (南西から)

10. 東平遺跡 第71地区



1. 1Tr (南から)



2. 2Tr (南西から)

11. 比奈1古墳群 第10地区



1. 2Tr (東から)



2. 4Tr 南壁 (北東から)

12. 中野遺跡 第1地区



1. 1Tr (北西から)



2. 2Tr (北から)

13. 川窪遺跡 第2地区



1. 1Tr SB01 検出状況 (南西から)



2. 4Tr (北西から)

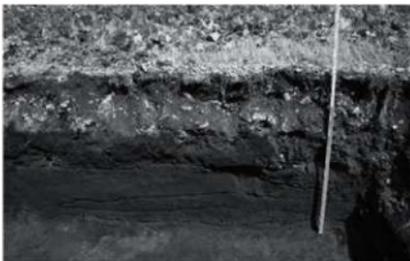


3. 7Tr SB02 検出状況 (南から)

14. 東平遺跡 第72地区



1. 2Tr (南東から)



2. 1Tr 北壁 (南から)

15. 林泉寺砦跡 第2地区



1. 2Tr (南東から)

16. 三新田遺跡 M地区



1. 1Tr (北から)

17. 東平遺跡 第73地区



1. 1Tr (南西から)

18. 谷津原古墳群 第6次調査地点



1. 2Tr (西から)



2. 2Tr北壁 (南から)

19. 東平遺跡 第74地区



1. 1次調査 1Tr (南西から)



2. 2次調査 1Tr南壁 (北から)

20. 東平遺跡 第75地区



1. 1Tr (南西から)



2. 1Tr SK03 (北東から)

21. 東平遺跡 第76地区



1. 1Tr (南東から)



2. 1Tr 北壁 (南から)

22. 土手内・中原2古墳群 第14地区



1. 1Tr (南西から)



2. 3Tr 南壁 (北から)

23. 沢東A遺跡 第10次調査地点



1. 1Tr (北西から)



2. 5Tr 東壁 (西から)

24. 沢東B遺跡 第10地区



1. 2Tr (南東から)



2. 1Tr北壁 (南から)

25. 上野遺跡 第1地区



1. 2Tr (南東から)



2. 3Tr北壁 (南から)

26. 傘木B遺跡 第1地区



1. 1Tr (南東から)



2. 1Tr北壁 (南西から)

27. 厚原遺跡 第5地区



1. 1Tr (南西から)

28. 沢東 A 遺跡 第14次調査地点



1, 2Tr (東から)

29. 貫井遺跡 第1地区



1, 1Tr 西壁 (北東から)

30. 天間沢遺跡 第41地区



1, 1Tr (南西から)

31. 宇東川遺跡 S地区



1, 1Tr 東壁 (西から)

32. 水戸島遺跡 第1地区



1, 1Tr (南東から)



2, 2Tr 北壁 (南から)

35. 厚原遺跡 第6地区



1, 調査地全景 (南東から)



2, 3Tr (南東から)

33. 宇東川遺跡 T地区



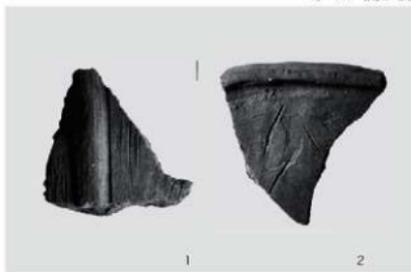
1. 4Tr (南から)



2. 5Tr (南東から)



3. 7Tr 東壁 (西から)



1

2



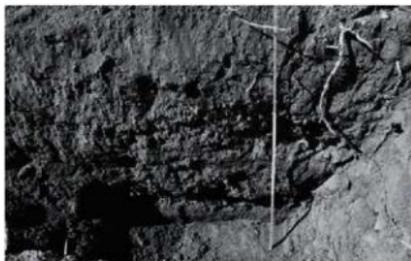
3

出土遺物

34. ナンカイクボ遺跡 第1地区



1. 5Tr (北西から)



2. 2Tr 西壁 (東から)

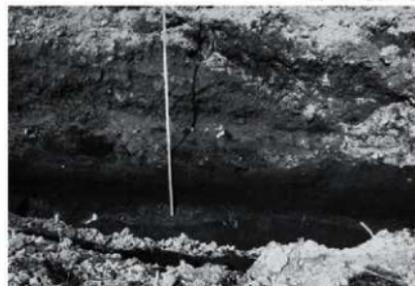
34. ナンカイイクボ遺跡 第1地区



3. 3Tr (西から)



5. 6Tr (南から)



4. 3Tr 北壁 (南から)



6. 6Tr 東壁 (西から)



1

2



3

5

4

出土遺物

1. 天念寺遺跡 第1地区



1, 2Tr (北東から)



2, 1Tr (南東から)



出土遺物

2. 水神堂遺跡 第3地区



1, 1Tr (南から)

3. 天間沢遺跡 第42地区



1, 1Tr (南から)

4. 東平遺跡 第78地区



1. 1Tr (北から)



2. 1Tr 西壁 (東から)

5. 沢上遺跡 第6次調査地点



1. 1Tr (北東から)

6. 伝法3古墳群 第1地区



1. 1Tr (南東から)

7. 沢東A遺跡 第15次調査地点



1. 1Tr (北から)



2. 4Tr 東壁 (西から)



1

2

出土遺物

8. 富士岡1古墳群 第14地区



1. 1Tr (西から)

9. 沢東B遺跡 第1地区



1. 3Tr (南東から)

10. 沖田遺跡 第152次調査地点



1. 1Tr (東から)

11. 東平遺跡 第77地区



1. 1Tr SB01・SB02 検出状況 (東から)



2. 4Tr 北壁 F-F' (南から)



1
出土遺物

12. 神田遺跡 第153次調査地点



1, 2Tr

15. 物見堂遺跡 第2地区



1, 1Tr (西から)

13. 富士岡1古墳群 第15地区



1, 2Tr (南西から)

14. 中桁・中ノ坪遺跡 第12地区



1, 1Tr (北東から)

16. 厚原横道下遺跡 第5地区



1, 1Tr (西から)



2, 5Tr (南から)

17. 川坂遺跡 第3地区



1. 1Tr (東から)

18. 天念寺遺跡 第2地区



1. 1Tr (南東から)

19. 中島遺跡 第10地区



1. 2Tr (北から)



2. 3Tr 南壁 (北から)

20. 中原遺跡 第28地区



1. 1Tr (北東から)



2. 1Tr 溝・石列 (西から)



3. 3Tr (西から)



4. 8Tr (南西から)

21. 沢東 A 遺跡 第 17 次調査地点



1. 1Tr (南西から)



1
出土遺物

23. 中原遺跡 第 29 地区



1. 2Tr (東から)

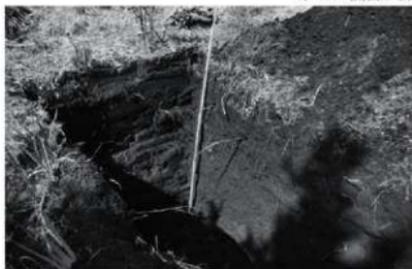
22. 宇東川遺跡 V 地区



1. 1Tr (南西から)



2. 4Tr (南東から)



3. 6Tr (東から)



1
出土遺物

第2章 沢東A遺跡第16次調査地点の調査

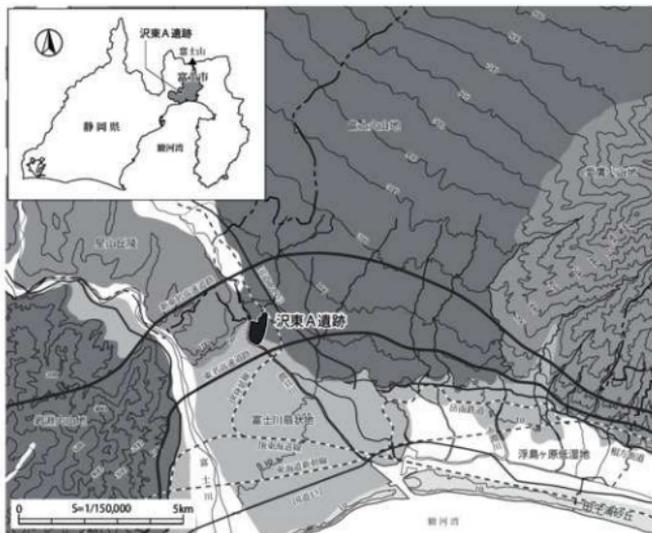
第1節 沢東A遺跡の概要

沢東A遺跡は、富士山南麓の調井川の流が流路を東に変更する場所に立地している。古代における調井川は氾濫により土地に肥沃な農作物を生む一方で、水害の被害は計り知れず、それにもかかわらず古墳時代中期以降7世紀代を中心に集落が営まれている。

古墳時代前期における遺構も少なからず認められるものの、本格的な集落形成は古墳時代中期後半である。調井川と凡夫川の合流する地点では、子持ち勾玉や滑石製模造品などが出土しており（富士市教委1995）、水辺における祭祀の存在も想定される。集落の急速な形成は自然発生では説明できず、外的要因を考えるべきである。大和王権による東国支配の影響と捉えることができるが、直接的には武蔵など新興勢力の影響も想定すべきである。

さて、沢東A遺跡ではこれまでに7,098㎡の本発掘調査が行われており、100軒の竪穴建物跡が調査されている。前述のように5世紀後半に集落形成が開始され、6世紀後半まで各時期10軒ほどの建物跡が認識されている。しかし、7世紀に入り爆発的に建物数が増加し34軒が認められる。一方で、その建物数は7世紀後半には継続せず8世紀後半には集落が壊滅を迎える。

沢東A遺跡は氾濫原における発掘調査のため、遺構検出や切りあい関係の把握に困難さが伴い、また、調井川との距離関係、言い換えれば、自然環境が異なる地点ごとに時期別の建物数が大きく異なることなども特徴といえるが、全体としては6世紀後半から7世紀前半における建物数の増加が特徴的といえる。そのような遺跡動態から中原第4号墳を含む伝法古墳群の展開との関係を想定することができる。



第156図 沢東A遺跡の立地と周辺地形図

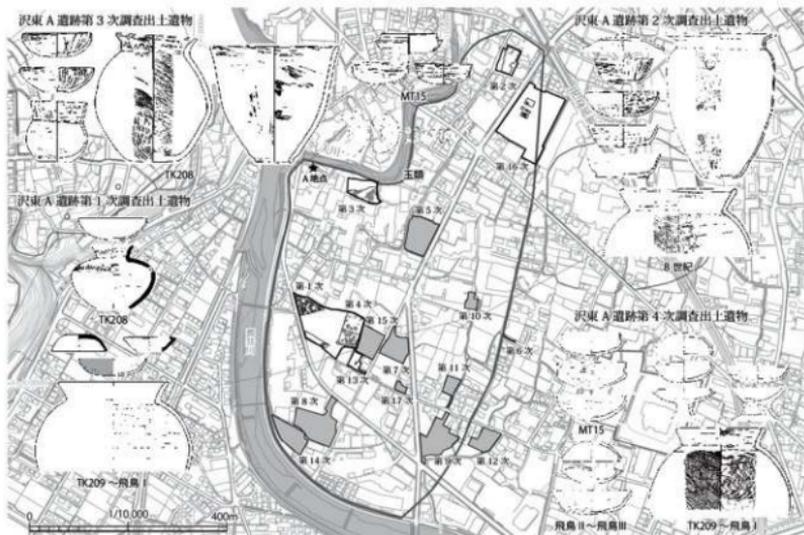
第13表 沢東A遺跡調査履歴一覧

調査地点名	(地区名)	調査年度	調査種類	調査の契機	調査の期間	主な時代	主な遺構	主な遺物	報告書
1次調査地点		S63	試掘	貸倉庫建設	S63.12.5～12.20	古墳後期～奈良	竪穴建物跡 32軒 竪穴土溝溝 1基 溝状遺構 8条 土坑 20基	土師器・須恵器	K
4次調査地点									
1次調査地点	(I・II地区)	H03	本発掘	遊技場建設	H3.5.20～9.30	古墳後期～奈良	竪穴建物跡 27軒 溝状土溝溝 2条 竪穴柱建物跡 3棟 丹戸跡・黒石遺構	土師器・須恵器・陶器 ヘマツイ入り小皿	A K
2次調査地点	(III地区)	H04 H05	本発掘	宅地造成	H5.2.10～2.19 H5.4.5～6.14	奈良 中世・近世	竪穴建物跡 9軒 土坑・ピット	土師器 かわらけ・飯笥	B
3次調査地点	(IV地区)	H06	試掘	資材置場造成	H6.4.20～5.12	古墳	竪穴建物跡 19軒 竪穴柱建物跡 1棟 竪穴土溝溝	土師器・須恵器 土持玉・石製模造品	C
4次調査地点	(V地区)	H06	本発掘		H6.9.16～H7.1.7		溝状遺構・土坑	土製納経車	
4次調査地点		H07	本発掘	貸倉庫建設	H7.4.18～12.17	古墳中期～末期	竪穴建物跡 44軒 竪穴柱建物跡 6棟	土師器・須恵器・磁石	D
5次調査地点		H12	試掘	工場建設	H12.4.12～4.21	古墳前期～平安	溝状遺構	土師器・須恵器	E
6次調査地点	(隣接地)	H12	試掘	宅地造成	H13.2.8	古墳前期	なし	土師器	E
7次調査地点		H15	試掘	貸倉庫建設	H16.3.6～3.15	古墳	竪穴建物跡 7軒	土師器・須恵器	F
8次調査地点		H16	試掘	工場建設	H16.8.6～8.18	なし	なし	なし	G
9次調査地点		H18	試掘	工場建設	H18.12.21～12.22	なし	なし	なし	H
10次調査地点		H19	試掘	倉庫建設	H19.10.25	なし	なし	なし	F
		H26	確認	工場新築	H26.12.2	なし	なし	なし	本書
11次調査地点		H19	試掘	月阿宅建設	H20.3.17	なし	なし	なし	F
12次調査地点	(包蔵地外)	H21	試掘	集合住宅建設	H21.11.19	中世・近世	水石跡	陶器	I
13次調査地点		H24	試掘	集合住宅建設	H24.8.6～8.9	古墳	竪穴建物跡	土師器・須恵器	J
14次調査地点		H26	確認	宅地造成	H27.1.19	なし	なし	なし	本書
15次調査地点		H27	確認	工場新築	H27.6.2～6.8	古墳・奈良・平安	竪穴建物跡・土坑・ピット・溝	土師器・須恵器	本書
16次調査地点		H27	確認	工場新築	H27.6.10～6.15	奈良	竪穴建物跡・土坑・ピット・溝	土師器・須恵器・鉄器	本書
17次調査地点		H27	確認	集合住宅新築	H28.3.1	なし	なし	瓦輪陶器・土師器	本書

報告書 (※ 編集・発行はすべて富士の教育委員会による。)

- A 『沢東A遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書』(1992)
 B 『富士市埋蔵文化財発掘調査報告書 第4巻 沢東A遺跡第2次調査』(1995)
 C 『沢東A遺跡 富士市埋蔵文化財発掘調査報告書』(1995)
 D 『沢東A遺跡 第V地区 第4次調査発掘調査報告書』(1997)
 E 『富士市内遺跡発掘調査報告書 平成11・12年度-』(2012)

- F 『平成15・19年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2009)
 G 『平成16年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2006) ※ Ⅹ地区として報告。
 H 『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2008)
 I 『平成21年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』(2011)
 J 『富士市内遺跡発掘調査報告書 平成24・25年度-』(2015)
 K 『沢東A遺跡 第1次』(2014)



第157図 沢東A遺跡 概要図

第2節 沢東A遺跡第16次調査地点の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

株式会社小林工器製作所（以下、事業者）は富士市久沢字板谷187番1ほか13筆（11,770.66㎡）において、工場新築工事を計画した。当該地の西半分が周知の埋蔵文化財包蔵地「沢東A遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会（以下、市教委）の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

当該地の北西に位置する沢東A遺跡第2次調査地点では、宅地造成工事に伴って平成5年に行われた本発掘調査で、奈良時代の竪穴建物跡が9軒検出・調査されている。そのため、当該地においても遺構・遺物が残存している可能性があることから、工事に先立って確認調査を実施する必要があることを事業者に伝えた。

平成27年6月9日、事業者から文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」と、「発掘調査承諾書」「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。

これを受けて文化振興課は、6月10日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第216号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。



第158図 調査地位置図

(2) 確認調査

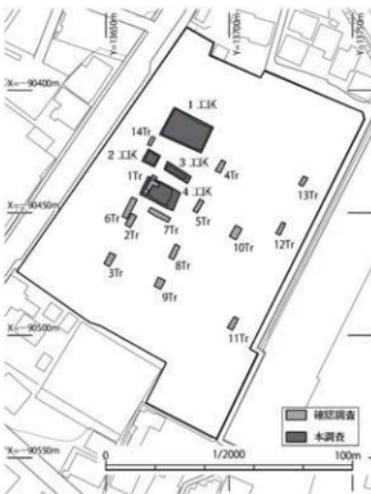
確認調査は平成27年6月10日から15日にかけて行った。

調査地内にトレンチを14本（179.756㎡）設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、調査地の北西に設定した1Tr・7Tr・14Trにおいて、古墳・奈良・平安時代のものと思われる竪穴建物跡3軒（SB101～103）を検出した。

遺物は、土師器や須恵器、鉄器がコンテナ1箱分出土し、6月19日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第224号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第224-2号）を提出した。これは、6月30日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第590号）。

6月23日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第231号）を提出した。また、事業者と、埋蔵文化財の保護に対する対応についての協議を開始した。



第159図 確認調査トレンチおよび本調査区配置図

(3) 本発掘調査

6月25日、県教委から、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された(教文第568号)。これを受けて、事業者と文化振興課は協議を行い、事業者からの委託により市教委が本発掘調査を実施することとなった。

6月22日、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」「発掘調査承諾書」が市教育長宛に提出された。7月24日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて、事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。7月29日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富市文発第337号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は平成27年8月4日から9月25日にかけて行った。

まず、工事計画に基づき、4ヶ所の調査工区(1工区～4工区、総面積409.308㎡)を設定し、調査を行った。その結果、1工区で2軒(SB204・205)、4工区で6軒(SB101・201～203・206・207)の竪穴建物跡や、土坑、溝状遺構などを完掘し、測量・写真撮影・観察等による記録保存を行った。

本発掘調査では、コンテナ3箱分の土師器・須恵器が出土し、9月29日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第515号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富市文発第515-2号)を提出した。これは、10月14日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1130号)。

10月28日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第772号)を提出した。

平成28年2月17日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富市文発第960号)、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 整理作業

現地調査の終了後、調査記録および出土遺物の整理作業が開始された。遺構測量図面の整理・編集、遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・写真撮影、文章執筆などの作業をすすめ、これらを編集して報告書を作成した。

平成29年3月31日、沢東A遺跡第16次調査地点埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。

本書にて報告する図面・発掘記録・出土遺物等の資料は、すべて市教委にて保管している。

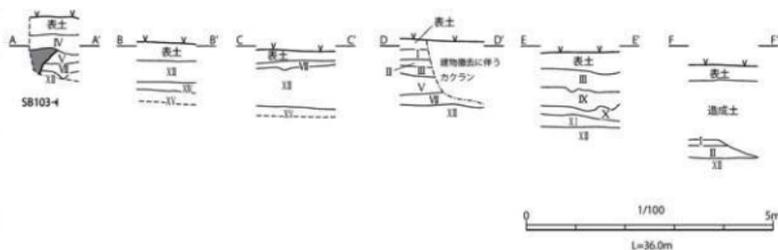
(5) 調査の体制

沢東A遺跡第16次調査地点に関する一連の調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
〔調査担当〕	市民部	部長	加納 孝則
	文化振興課	課長	町田しげ美
	文化財担当	統括主幹	前田 勝己
	埋蔵文化財調査室	主査	石川 武男
		上席主事	佐藤 祐樹
		臨時職員	服部 孝信
			小島 利史



第160図 調査の様子

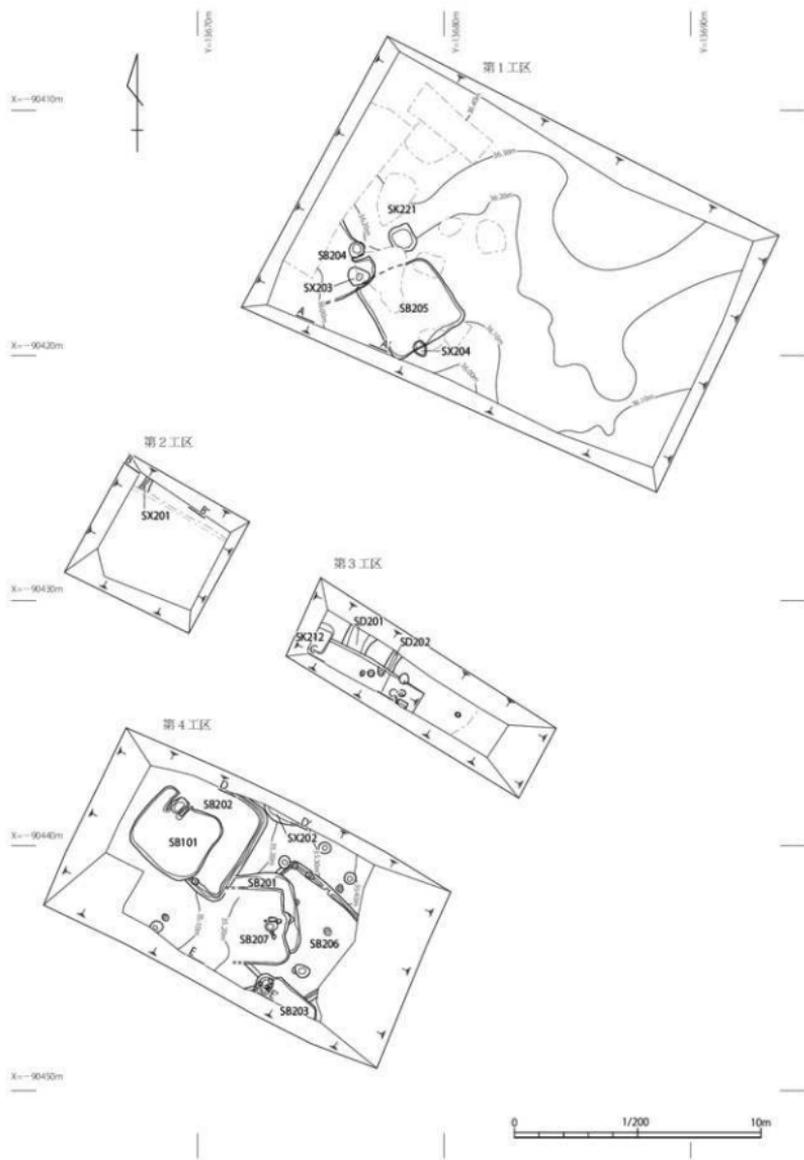


- | | |
|------------------------|------------------------------------|
| I 褐色土層 (10YR4/4) | しまり強、粘性弱、砂多量、礫 (8~10mm) 少量。 |
| II 灰黄褐色粘土層 (10YR4/2) | しまりやや弱、粘性強、礫 (5mm) 微量。 |
| III 黒褐色土層 (7.5YR3/2) | しまり強、粘性やや強、酸化鉄分多量、礫 (5mm) 少量。 |
| IV 褐色土層 (7.5YR4/4) | しまりやや強、粘性やや強、礫 (5mm) 多量。 |
| V 褐色砂質土層 (10YR4/6) | しまりやや弱、粘性弱、礫 (5mm) 少量。 |
| VI 暗褐色砂礫層 (10YR3/4) | しまりやや弱、粘性弱、礫 (5~10mm) 多量。 |
| VII 暗褐色土層 (10YR3/4) | しまりやや強、粘性弱、褐色粒子微量、礫 (5mm) 少量。 |
| VIII 暗褐色砂質土層 (10YR3/4) | しまりやや弱、粘性弱。 |
| IX 暗褐色砂質土層 (10YR3/4) | しまり弱、粘性弱、礫 (3mm) 微量。 |
| X 灰黄褐色砂質土層 (10YR4/2) | しまり強、粘性弱、礫 (3mm) 微量。 |
| XI 黒褐色土層 (7.5YR3/2) | しまりやや弱、粘性弱、礫 (5~10mm) 多量。 |
| XII 黒褐色土層 (7.5YR3/2) | しまりやや強、粘性やや強、褐色粒子微量、礫 (5~10mm) 中量。 |
| XIII 褐色土層 (10YR4/3) | しまり強、粘性弱、礫 (3~5mm) 多量。 |
| XIV 暗褐色土層 (10YR3/2) | しまり強、粘性弱、礫 (5mm) 少量。 |
| XV ぶい黄褐色土層 (10YR5/4) | しまり強、粘性弱、砂多量。 |

旧水田耕作土

地山
地山
地山

第161図 確認調査トレンチ 平面図・セクション図



第162図 本調査区 平面図

2. 調査の成果

(1) 確認調査

確認調査では、調査地にトレンチを14本(1Tr～14Tr)設定し(第161図)、重機による表土掘削後、人力により精査を行った。

その結果、調査地の北西側に設定した1Tr、7Tr、14Trで3軒の竪穴建物跡(SB101～103)を検出した。調査地の東側や南側に設定したその他のトレンチでは遺構は検出されず、調査地内に遺構が残存するのは北西部のみとみられ、これが集落の東端にあたる可能性が考えられる。

遺物は、土師器片や須恵器片、縄文土器片がコンテナ1箱分出土し、灰軸陶器1点、鉄製品1点を図示した。詳細については遺構外出土物の項で記述する(100頁、第196図-39・40)。

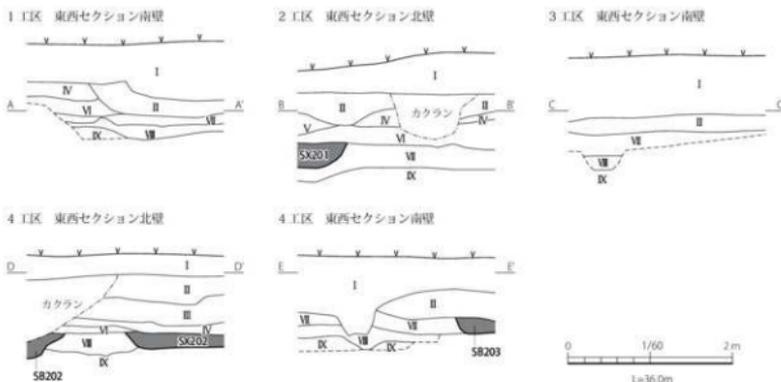
(2) 本発掘調査

本発掘調査では、工事計画に基づき、4ヶ所の調査工区(1工区～4工区、総面積409,308m²)を設定し、調査を行った。

その結果、1工区で2軒(SB204・205)、4工区で6軒(SB101・201～203・206・207)の竪穴建物跡や、2条の溝状遺構(SD201・202)、4基の性格不明遺構(SX201～204)、20基の土坑・ピット(Pit202～SK221)などを完掘した。



第163図 本調査区 調査前(北から)



- | | |
|-------------------------|---------------------------------|
| I 表土 | 建物除去に伴うカクラン及び造成土 |
| II 黒褐色土層 (10YR3/3) | しまり強、粘性やや強、礫(1cm)中量。(近現代造成土) |
| III 黒褐色土層 (7.5YR3/2) | しまり強、粘性やや強、礫(5mm)中量。(水田耕作土) |
| IV 黒褐色砂質土層 (10YR3/4) | しまりやや強、粘性やや弱、礫(5mm)中量。 |
| V 黒褐色砂質土層 (7.5YR3/2) | しまり強、粘性弱、礫(5mm)少量。 |
| VI 黒褐色砂質土層 (10YR3/4) | しまりやや弱、粘性弱、礫(5～10mm)で構成される。 |
| VII 褐色砂質土層 (10YR4/4) | しまりやや強、粘性弱、礫(5mm)少量。 |
| VIII 黒褐色砂質土層 (7.5YR3/2) | しまりやや強、粘性弱、礫(5mm)少量、褐色粒子中量。 |
| IX 褐色土層 (7.5YR4/4) | しまりやや強、粘性弱、礫(5mm)少量。(大規模状地堆積物層) |

第164図 本調査区 基本土層図

竪穴建物跡

SB101

位置 第4工区西側に位置する。

重複関係 (古) SB202 → SB101 (新)

主軸方位 N-39°-E

残存状況 確認調査ITrにおいてカマドおよび建物西側部分を確認し、本調査第4工区にて全体を検出した。主軸幅(南北)3.00m、直交幅(東西)3.25mを測り、平面形は隅丸方形を呈する。検出面からの深さは28cmである。

覆土 橙色粒子を含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

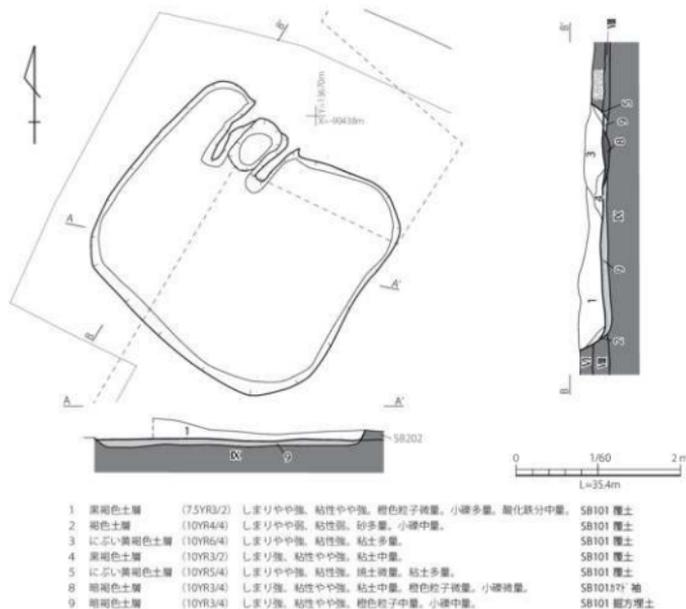
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方に暗褐色土を入れて床面とする。

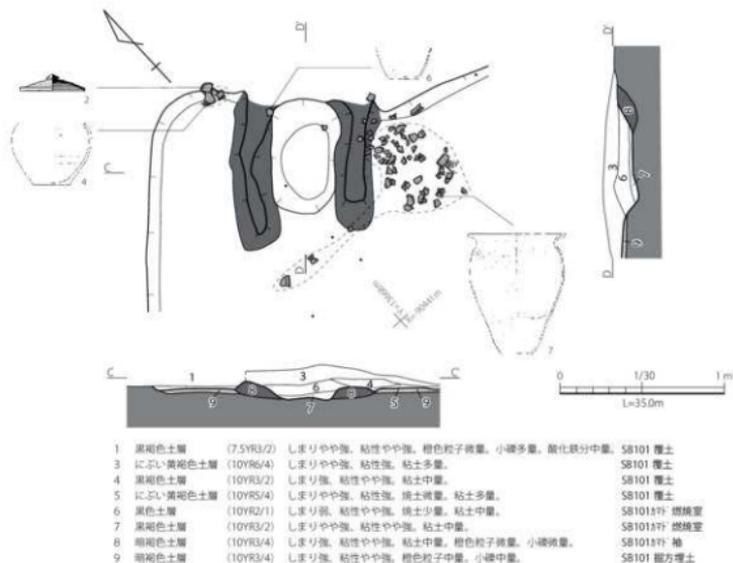
カマド 北壁の西寄りに位置する。残存する袖部や掘り方埋土は暗褐色土を用いて構築されているが、カマド崩落土とみられる覆土にはにぶい黄褐色粘土が認められることから、カマドの上部は粘土で構築されていたと考えられる。全長98cm、中央外寸幅84cm、中央内寸幅

38cmを測る。

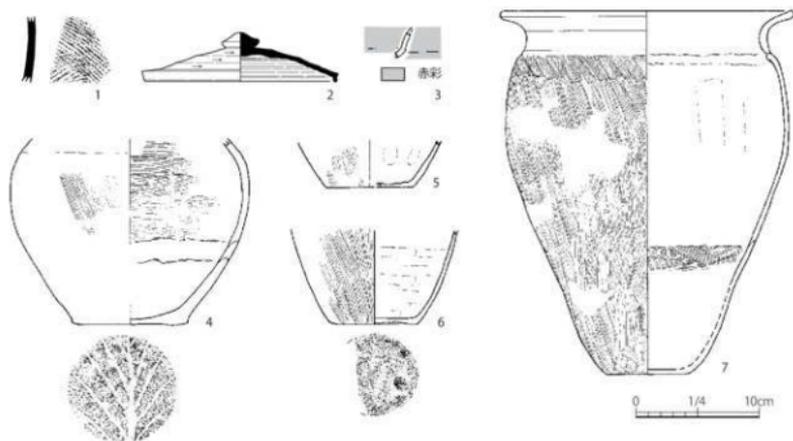
出土遺物 7点図示した(第167図-1~7)。1は須恵器の甕の破片である。外面はタタキ、内面はヘラケズリが施される。2は須恵器の摘蓋である。摘みは宝珠形である。胎土が砂っぽく、焼成はあまり良好ではない。3は内湾環の口縁部である。内外面ともに赤彩されている。4は駿東型球胴甕の胴部である。器高が低く、あまり胴が張らない。胴部最大径が上半にあるため、やや肩の張った形態を示す。内外面ともにハケ目調整が施されるが、器面荒れのため不鮮明である。5・6は遠江系水平口縁甕の底部である。底部は小さくゆるやかに胴部に至る。外面は細かなタテハケ、内面は板ナデ、もしくはユビオサエが施される。7も同じく遠江系水平口縁甕である。胴下半に乾燥工程による休止が認められる。頭部はやや直立気味に立ち上がり、口縁部は水平に広がる。所見(時期) 出土遺物より、8世紀後半から末頃の建物跡と考えられる。



第165図 SB101 平面図・セクション図



第166図 SB101カマド 平面図・セクション図



第167図 SB101 出土遺物実測図

SB201

位置 第4工区中央に位置する。

重複関係 (古) SB206 → SB201 → SB207 (新)

主軸方位 N - 82° - E

残存状況 北壁・東壁・南壁を検出した。西壁は覆乱により失われている。検出部分で、主軸幅(東西)2.35m、直交幅(南北)3.38mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの深さは25cmである。

第14表 SB101 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	種別 類別	口径 (cm)	口径 (cm)	口径 (cm)	状態	残存率	内面色調 外面色調	備考	
第167図-1	0064	—	SB101	須恵器 甕				良好	—	7.5YR5/1 (陶灰) 7.5YR5/1 (陶灰)		
第167図-2	0001	PL.7	SB101	須恵器 坏蓋	15.4		4.0	良好	60%	5Y6/1 (黄) 5B6/1 (青灰)	カマド出土	
第167図-3	0154	PL.7	SB101	土師器 坏			(2.2)	良好	—	7.5YR7/4 (にぶい・橙) 2.5YR5.8 (明赤)	内外赤彩	
第167図-4	0002 0003 0004	PL.7	SB101	土師器 甕			9.3	(15.2)	良好	50%	2.5Y4/4 (にぶい赤褐) 2.5Y3/3 (暗赤褐)	カマド出土
第167図-5	0064	PL.7	SB101	土師器 水平口縁甕		(7.0)	(3.8)	良好	40%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5Y6/3 (にぶい黄)		
第167図-6	0154 0090	PL.7	SB101	土師器 水平口縁甕		(6.8)	(7.6)	良好	30%	2.5Y4/4 (にぶい赤褐) 10Y6/4 (にぶい黄橙)	カマド出土	
第167図-7	0068 0069 0085 ~ 0088 0091 ~ 0094 0096 ~ 0109 0111 ~ 0113 0116 ~ 0118 0121 0123 ~ 0125 0127 ~ 0131 0133 0134 0136 ~ 0140 0188 0193 ~ 0195 0197 ~ 0200 0246 0247 0256 0259	PL.7	SB101	土師器 甕	(23.3)	6.6	20.5	良好	60%	10YR6/2 (灰黄褐) 10YR7/3 (にぶい黄橙)		

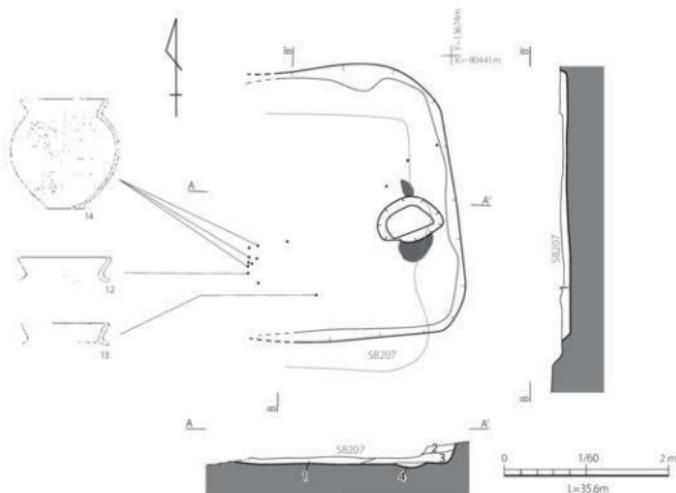
覆土 黒褐色土上の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 東壁中央に位置するが、直上にSB207のカマドが存在し、大半が失われており、掘り方と袖の一部が残存するのみであった。残存部分で、全長80cm、中央内寸58cmを測る。

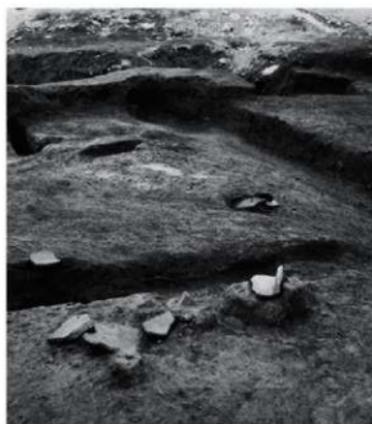


- 1 黄褐色土層 (10YR3/2) しまり目、粘性弱。粘土少量。SB201 覆土
- 2 黄褐色土層 (7.5YR3/2) しまりやや強。粘性弱。小礫少量。SB201 覆土
- 3 灰黄褐色土層 (10Y6/2) しまりやや強。粘性強。粘土中量。SB201H? 燻土
- 4 灰黄褐色土層 (10Y6/2) しまりやや強。粘性弱。粘土多量。SB101H? 燻土壁

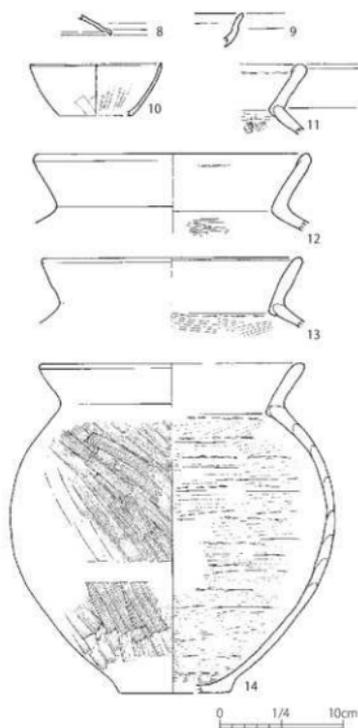
第168図 SB201 平面図・セクション図

出土遺物 7点図示した(第170図-8~14)。8は土師器の蓋の口縁部である。器壁は薄く、丁寧につくられている。9は内湾杯の口縁部である。胎土・焼成が良好ではなく、器面荒れのため表面の調整は観察できない。色調は橙色を呈する。10は甲斐型環である。器壁が薄く胎土も精緻である。底部外面はヘラケズリ、内面は放射状のヘラミガキが施される。11から14は口唇部内側の肥厚に差があるものの、すべて駿東型球胴甕である。14は底部が広く、胴部の球胴化が著しい。

所見(時期) 甲斐型環(10)と駿東型球胴甕が共存するのであれば、8世紀後半ごろの建物跡と考えられる。



第169図 SB201 遺物出土状況(西から)



第170図 SB201 出土遺物実測図

第15表 SB201 出土遺物観察表

神図番号	貝番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第170図-8	0066	PL.7	SB201	土師器 杯蓋			(1.7)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤陶) 5YR4/2 (灰陶)	
第170図-9	0066 0241	PL.7	SB201	土師器 杯			(2.8)	良好	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	
第170図-10	0066	PL.7	SB201	土師器 杯	(10.6)	(5.8)	4.3	良好	20%	5YR6/5 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	甲斐型
第170図-11	0066	PL.7	SB201	土師器 甕			(5.8)	良好	-	5YR4/3 (にぶい赤陶) 5YR4/3 (赤陶)	
第170図-12	0066 0229	PL.7	SB201	土師器 甕	(22.0)		(6.4)	良好	20%	5YR4/6 (赤陶) 5YR4/6 (赤陶)	12と同一?
第170図-13	0237	PL.7	SB201	土師器 甕	(20.8)		(5.8)	良好	35%	5YR5/6 (明赤陶) 5YR5/6 (明赤陶)	10と同一?
第170図-14	0066 0231 0232 0235 0241 0253 0256 0257 0261	PL.7	SB201 SB206	土師器 甕	(21.0)	(8.9)	26.9	良好	30%	5YR4/6 (赤陶) 2.5YR3/3 (暗赤陶)	図上脱元

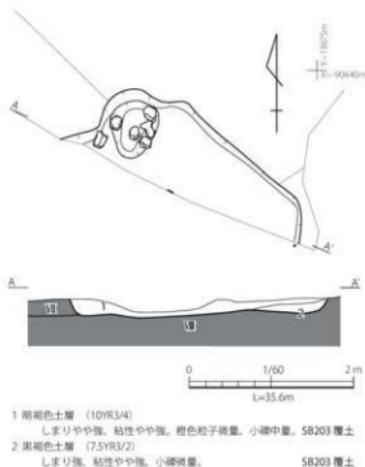
SB203

位置 第4工区南東に位置する。

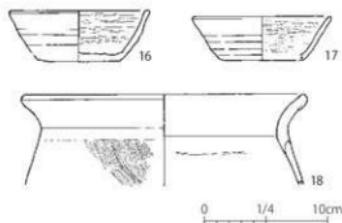
重複関係 (古) SB206 → SB203 (新)

主軸方位 N - 20° - W

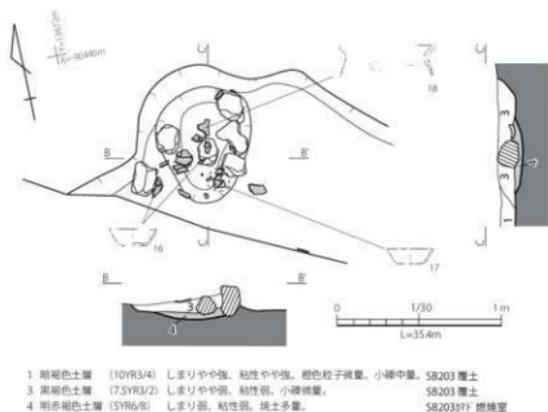
残存状況 南側の大半が調査区外にあり、カマドを含む北側の一部のみを検出した。検出部分で、北壁長およそ1.60m、東壁長およそ2.00mを測り、壁は直線的であるが平面形は不整形と推定される。検出面からの深さは20cmである。



第173図 SB203 平面図・セクション図



第174図 SB203 出土遺物実測図



第175図 SB203 カマド平面図・セクション図

第17表 SB203 出土遺物観察表

神岡番号	R番号	写真 図取	遺構名・ トレンチ	層位 組別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	形状	残存率	内面色調 外面色調	備考
第174図-16	0159 0162 0166 0167 0175 0176	PL.8	SB203	土師器 杯	11.1	6.6	4.2	良好	70%	2.5YR5/6 (明赤陶) 10YR3/4 (灰陶)	
第174図-17	0067 0157 0163	PL.8	SB203	土師器 杯	(11.0)	(5.8)	3.6	良好	20%	5YR4/6 (赤陶) 5YR5/6 (明赤陶)	
第174図-18	0182	PL.8	SB203	土師器 釜	(22.6)		(7.5)	良好	20%	2.5YR5/6 (明赤陶)	

覆土 黒褐色土と暗褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

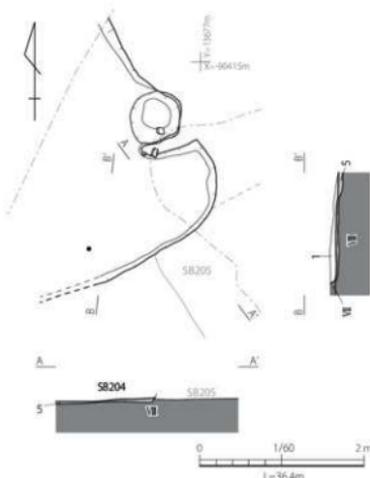
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 北壁の東端に位置する。燃烧室と、構築材と思われる砂岩を検出した。残存部分で全長85cm、中央内寸58cmを測る。

出土遺物 土師器を3点図示した(第174図-16~18)。16・17は鞍東型環である。16は特に器壁が厚い。18は鞍東型長胴甕である。口縁部が多少厚くつづられている。外面にはタテハケが施される。

所見(時期) 9世紀後半頃の建物跡と考えられる。



- 1 黒褐色土層 (10YR3/2) しまりやや強。粘性弱。焼土中量。粘土中量。
SB204 覆土
5 暗褐色土層 (7.5YR3/3) しまり強。粘性弱。小礫少量。
SB204 掘方覆土

第176図 SB204 平面図・セクション図

SB204

位置 第1工区南西に位置する。

重複関係 (古) SX203 → SB204 (新)

主軸方位 N-58°-E

残存状況 西側・南側は擾乱により失われており、カマドを含む北壁と東壁の一部を検出した。検出部分で、主軸幅(南北)2.75m、直交幅(東西)2.00mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの深さは7cmである。

覆土 黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

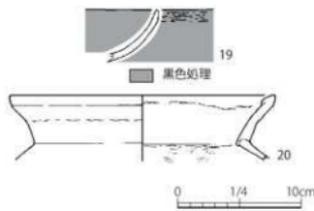
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方に暗褐色土を入れて床面とする。

カマド 北壁の東寄りに位置する。燃烧室と右袖を検出した。袖に芯材は確認されず、褐色粘土を用いて構築されたようである。残存部分で全長74cm、右袖幅24cm、中央内寸幅59cmを測る。

出土遺物 2点図示した(第177図-19・20)。19は内湾環である。底部を欠くものの、内外面ともに全面が黒色処理されている。20は鞍東型球胴甕の口縁部である。口唇部内面を若干肥厚させている。

所見(時期) 7世紀前半頃の建物跡と考えられる。



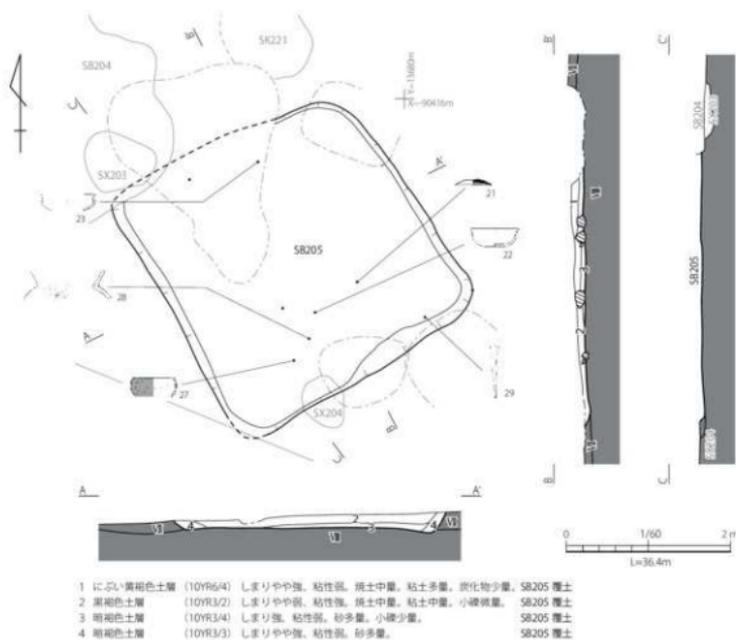
第177図 SB204 出土遺物実測図

第18表 SB204 出土遺物観察表

録図番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 観察	口径 (cm)	口径 (cm)	深高 (cm)	形状	残存率	内面色調 外面色調	備考
第177図-19 0027		PL.8	SB204	土師器 環			(4.3)	良好	-	2.5Y2/1 (黒) 2.5Y4/1 (黄灰)	黒色処理
第177図-20 0049		PL.8	SB204	土師器 甕	[21.4]		(5.2)	良好	-	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	



第178図 SB204カマド 平面図・セクション図



第179図 SB205 平面図・セクション図

SB205

位置 第1工区南西に位置する。

重複関係 (古) SX204 → SB205 → SB204 (新)

主軸方位 N - 31° - W

残存状況 西壁をSB204と植丸により切られるが、それ以外の壁はすべて検出されている。検出部分で、東西幅3.30m、南北幅3.42mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの深さは25cmである。

覆土 黒褐色土・暗褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

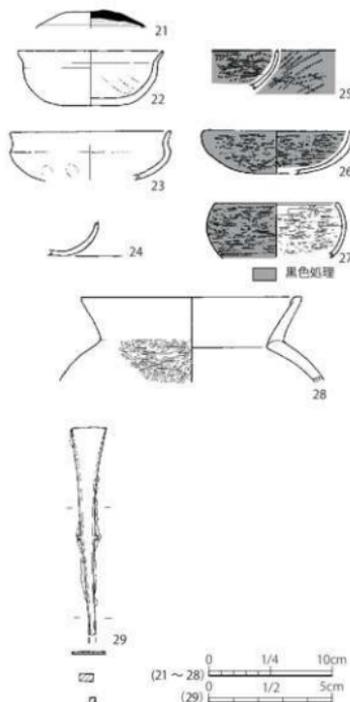
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出された範囲では確認されなかった。

出土遺物 9点図示した(第180図-21~29)。21は須恵器の坏蓋の破片である。22~24はいずれも色調が橙色を呈する。内湾坏とされるものである。22は口縁部が短く、直線的に広がる。23は反りながら口縁部に至るタイプである。25と26は内外面ともに黒色処理された内湾坏で、非常に細かなヘラミガキが施される。27は外面のみ黒色処理された坏である。25~26と同様、非常に細かなヘラミガキが施される。25~27の破片の断面はいずれもやや白色を呈する。28は駿東型球胴甕の口縁部である。口唇部は若干肥厚させている。29は平根方頭式鉄鍬である。刃部は直線的で鐵身部先端から、やや幅を狭めながら茎間に至る。間は棘間である。

所見(時期) 7世紀前半の建物跡と考えられる。



第180図 SB205 出土遺物実測図

第19表 SB205 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	口径 (cm)	口高 (cm)	胎成	残存率	内面色調 外面色調	備考			
第180図-21	0055	PL.8	SB205	須恵器 蓋			(1.4)	良好	-	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)				
第180図-22	0031 0036 0037 0038	-	SB205	土師器 坏	[11.6]		(4.5)	良好	30%	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)				
第180図-23	0038 0041 0051	-	SB205	土師器 坏	[10.8]		(4.0)	良好	25%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)				
第180図-24	0036	-	SB205	土師器 坏			(2.8)	良好	-	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)				
第180図-25	0030	PL.8	SB205	土師器 片			(3.2)	良好	-	10YR3/1 (黒褐) 10YR4/1 (褐灰)	黒色処理			
第180図-26	0036	PL.8	SB205	土師器 坏	[11.8]		(3.5)	良好	30%	10YR3/1 (黒褐) 10YR3/1 (黒褐)	黒色処理			
第180図-27	0054	PL.8	SB205	土師器 片	[10.0]		(4.5)	良好	30%	10YR5/2 (灰黄褐) 10YR3/1 (黒褐)	黒色処理			
第180図-28	0038 0053	PL.8	SB205	土師器 甕	[17.7]		(7.0)	良好	20%	5YR4/3 (にじみ赤褐) 5YR4/3 (にじみ赤褐)				
検出番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	種類 類別	全長 (cm)	鎌身~ 柄部長 (cm)	鎌身幅 (cm)	柄部幅 (cm)	柄部厚 (cm)	茎部長 (cm)	茎部幅 (cm)	茎部厚 (cm)	重量 (g)	備考
第180図-29	0056	PL.8	SB205	鉄製品 鉄鍬	(8.5)	4.6	1.5	0.6	0.3	3.9	0.25	0.25	9.28	平根方頭式

SB206

位置 第4工区東側に位置する。

重複関係 (古)SB206 → SB201・SB203・SB207(新)

主軸方位 N-47°-W

残存状況 東壁は調査区外にある。検出部分で、主軸幅(東西)4.68m、直交幅(南北)4.67mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの深さは28cmである。

覆土 黒褐色土と褐色土の自然堆積。

壁溝 一部途切れるところがあるが、ほぼすべての壁で確認された。幅約30cm、深さ約10cmを測る。

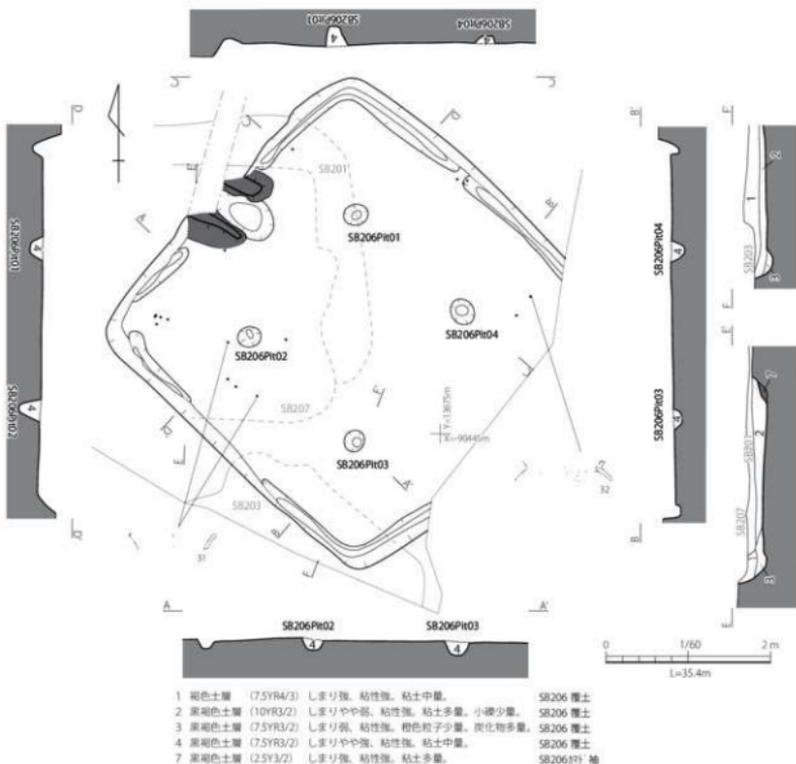
柱穴 4基検出された(SB206-Pit01～04)。径はいずれも30cm程、深さは10cmから28cmを測る。建物の

プランに対して整然と配置されており、各柱穴間の距離は、芯々で主軸方向約1.8m、直交方向約2.0mを測る。床 掘り方を床面とする。

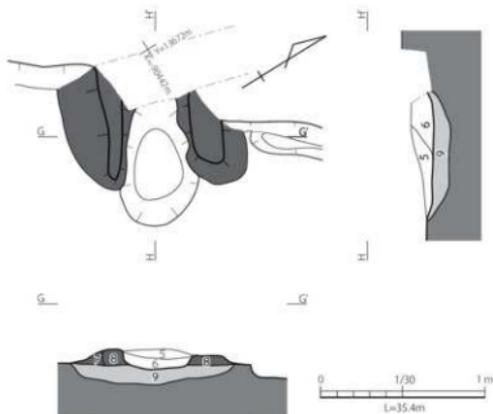
カマド 北壁中央に位置する。上半はSB201に切られて失われているが、燃焼室と両袖の下部を検出した。袖には芯材は確認されず、粘土を用いて構築されたようである。残存部分で全長99cm、中央外寸幅109cm、中央内寸幅36cmを測る。

出土遺物 3点図示した(第183図-30～32)。30は橙色を呈する内湾環である。31・32は駿東型球胴甕の破片である。32は肩部で、外面にはタテハケが、内面にはヨコハケが施される。

所見(時期) 7世紀代の建物跡と考えられる。

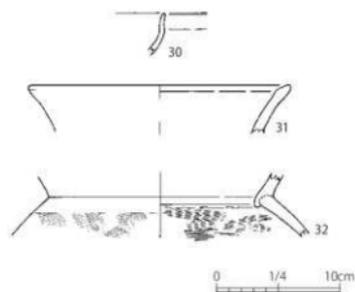


第181図 SB206 平面図・セクション図



- 5 棕色土層 (7.5YR6/6) しまりやや強、粘性弱、粘土多量。 SB206H1 燃焼室
 6 に近い黄褐色土層 (10YR5/4) しまりやや強、粘性やや強、粘土少量、粘土中量。 SB206H2 燃焼室
 7 黄褐色土層 (2.5Y3/2) しまり強、粘性強、粘土多量。 SB206H3 袖
 8 淡黄色土層 (2.5Y7/4) しまりやや弱、粘性強、粘土多量。 SB206H4 袖
 9 黄褐色土層 (2.5Y5/3) しまりやや強、粘性強、粘土中量。 SB206H5 壁方

第182図 SB206 カマド平面図・セクション図



第183図 SB206 出土遺物実測図



第184図 SB206 遺物出土状況(南西より)

第20表 SB206 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	部高 (cm)	焼成 残存率	内面色調 外面色調	備考	
第183図-30	0209	PL.8	SB206	土師陶 片			(3.4)	良好	-	5YR7/6 (裡) 5YR7/6 (裡)	
第183図-31	0255 0258	PL.8	SB206	土師陶 釜	[20.9]		(4.0)	良好	20%	7.5YR3/4 (胎体) 7.5YR3/4 (胎体)	
第183図-32	0179 0248 0261	PL.8	SB206	土師陶 釜			(5.1)	良好	20%	5YR4/6 (赤褐) 5YR4/6 (赤褐)	

SB207

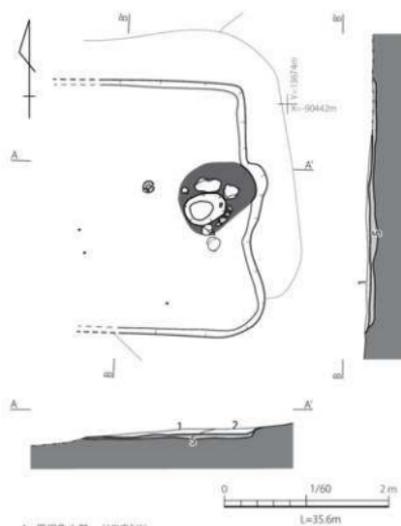
位置 第4工区東側に位置する。

重複関係 (古) SB206 → SB201 → SB207 (新)

主軸方位 N-92°-E

残存状況 西壁は擾乱によって失われているが、カマドを含む東壁と、北壁・南壁の一部を検出した。検出部分で、主軸幅(東西)1.85m、直交幅(南北)3.10mを測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの深さは7cmである。

覆土 粘土を含む黒褐色土の自然堆積。



- 1 黒褐色土層 (10Vt3/1)
しまり強、粘性強、粘土中量。SB207 覆土
- 2 黒褐色土層 (10Vt3/2)
しまりやや強、粘性強、粘土多量、小礫少量。SB207 覆土
- 5 灰黄褐色土層 (10Vt4/2)
しまりやや強、粘性弱、粘土微量、小礫多量。SB207 埋方覆土

第185図 SB207 平面図・セクション図

壁溝 検出されなかった。

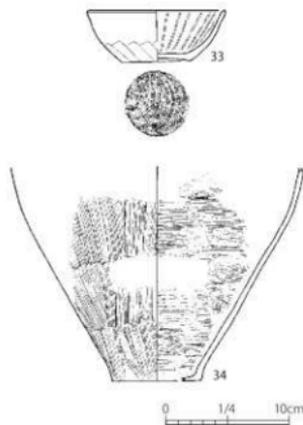
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方に灰黄褐色土を入れて床面とする。

カマド 東壁中央に位置する。両袖は残存しておらず、燃焼室のみ検出した。掘り方に灰黄褐色土を入れて燃焼室を構築していた。残存部分で、全長110cm、中央内寸幅37cmを測る。

出土遺物 2点図示した(第186図-33・34)。33は底部回転系切り未調整の坏である。底部外面のヘラケズリや、内面の放射状のヘラミガキなど、甲斐型の特徴をもつ。34は駿東型長脚甕である。径の小さな底部から、やや内湾しながらちあがる。内外面ともに細かなハケ目が施される。

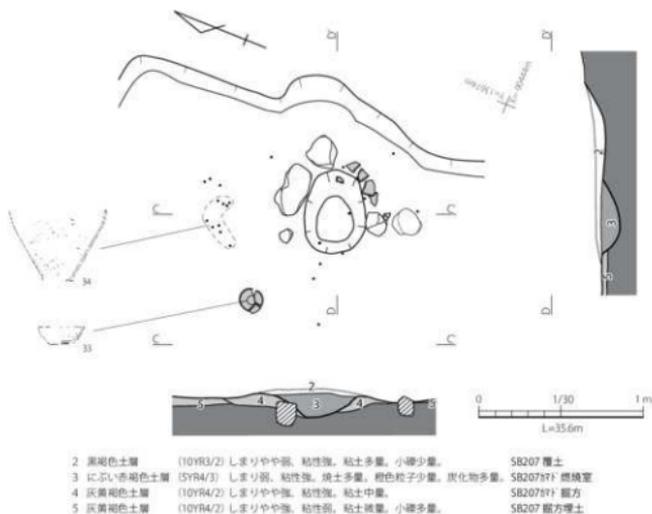
所見(時期) 9世紀中葉ごろの建物跡と考えられる。



第186図 SB207 出土遺物実測図

第21表 SB207 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第186図-33	0219		PL.8	土師器 坏	10.9	5.4	4.2	良好	90%	5YR6/8 (橙) 5YR6/8 (橙)	甲斐型
第186図-34	0141 0146 0147 0149 0150 0151 0152 0153		PL.8	土師器 甕		(7.1)	(17.5)	良好	20%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (明赤褐)	



第187図 SB207 カマド平面図・セクション図

溝状遺構

SD201

位置 第3工区西側に位置する。

重複関係 なし

主軸方位 N-31°-E

残存状況 南北方向に走る溝状遺構で、幅122cm、深さ13cm、断面形は浅い逆台形を呈する。第3工区内に長さ約90cm分が検出された。

覆土 橙色粒子を含む黒褐色土の自然堆積。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 出土遺物がなく、時期や性格は不明である。

SD202

位置 第3工区西側に位置する。

重複関係 なし

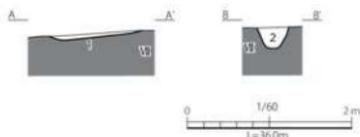
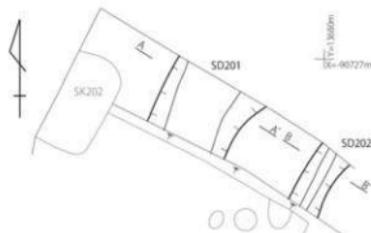
主軸方位 N-32°-E

残存状況 南北方向に走る溝状遺構で、幅45cm、深さ25cm、断面形は逆台形を呈する。SD201の80cm東に、長さ約80cm分が検出された。

覆土 橙色粒子を含む暗褐色土の自然堆積。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 出土遺物がなく、時期や性格は不明である。



- | | |
|---|----------|
| 1 黒褐色土層 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性やや弱、棕色粒子少量、小礫少量。 | SD201 覆土 |
| 2 暗褐色土層 (10YR3/3) しまりやや強、粘性やや強、棕色粒子少量、小礫少量。 | SD202 覆土 |

第188図 SD201・SD202 平面図・セクション図

性格不明遺構

SX201

位置 第2工区北西角に位置する。

重複関係 無し

残存状況 東壁のごく一部分を検出したのみである。掘り方に暗褐色土を入れており床面状の硬化面が認められる事、壁沿いに幅33cm、深さ6cmの壁溝状の掘り込みが認められる事、などから建物跡である可能性が考えられる。建物跡とする場合、確認調査I4Trで検出されたSB103と関連する可能性も考えられる。

覆土 橙色粒子を含む黒褐色土の自然堆積。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 出土遺物がなく、時期等は不明である。

SX202

位置 第4工区北側中央に位置する。

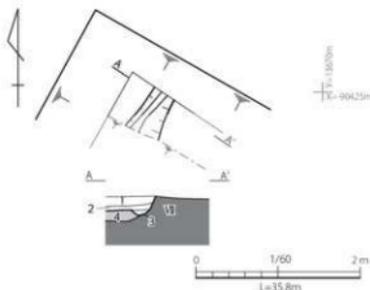
重複関係 無し

残存状況 南辺のごく一部を検出したのみで、大半は調査区外に位置する。検出部分で東西幅約1.80m、南北幅約0.40m、深さ22cmを測る。

覆土 橙色粒子を含む黒褐色土の自然堆積。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 出土遺物がなく、時期等は不明である。



- 1 黒褐色土層 (7.5YR3/2) しまりやや強、粘性やや弱。
橙色粒子微量、小礫微量。 SX201 覆土
- 2 黒褐色土層 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性やや強。
橙色粒子微量、小礫中量。 SX201 覆土
- 3 黒褐色土層 (10YR3/2) しまりやや弱、粘性やや強。
小礫微量。 SX201 覆土
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) しまり強、粘性やや弱。
橙色粒子中量。上面が硬化。 SX201 掘方覆土

第189図 SX201 平面図・セクション図

SX203

位置 第1工区南西に位置する。

重複関係 (古) SX203 → SB204 (新)

残存状況 SB204の床面下から検出された。

長径66cm、短径51cm、深さ12cmを測り、平面形は不整形な楕円形を呈する。

覆土 焼土を多量に含む黒褐色土。

出土遺物 少量出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 覆土に焼土が多量に含まれることから、消滅した建物跡のカマドの痕跡とも考えられる。

SX204

位置 第1工区南中央に位置する。

重複関係 (古) SX204 → SB205 (新)

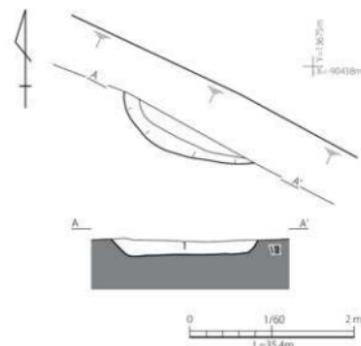
残存状況 SB205の床面下から検出された。

長径88cm、短径72cm、深さ5cmを測り、平面形は楕円形を呈する。

覆土 粘土を多量に含む暗灰黄色土。

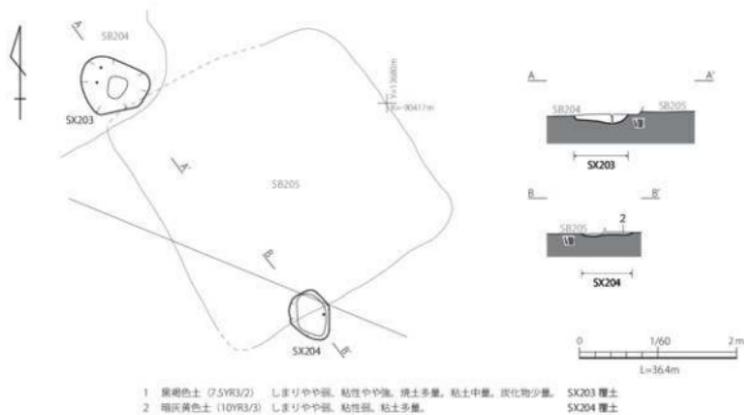
出土遺物 少量出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 覆土に粘土が多量に含まれることから、消滅した建物跡のカマドの痕跡とも考えられる。

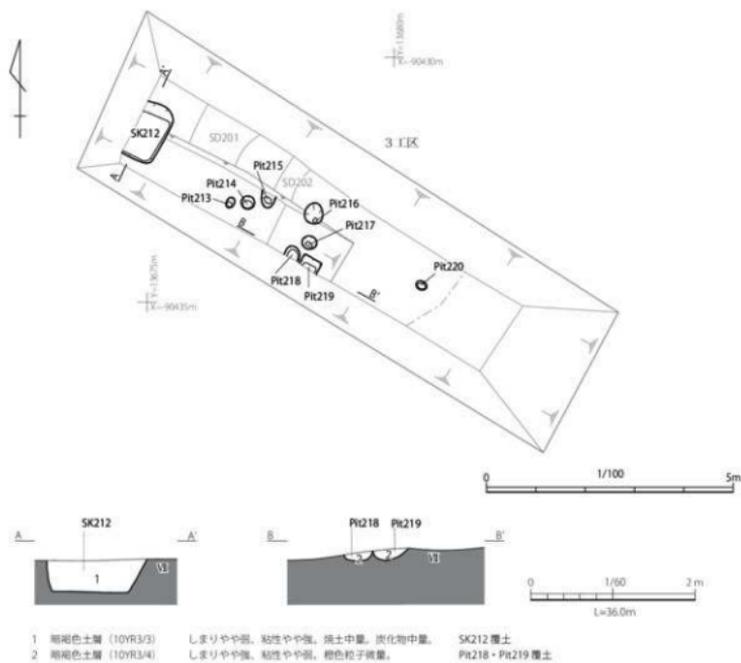


- 1 黒褐色土層 (10YR3/1) しまりやや強、粘性やや強。
橙色粒子微量、小礫微量。 SX202 覆土

第190図 SX202 平面図・セクション図



第191図 SX203・SX204 平面図・セクション図



第192図 3工区 土坑・ピット 平面図・セクション図

土坑・ピット

本調査区では、2基の土坑(SK212・221)と18基のピット(Plt202～211・213～220)が検出された。土坑・ピットの配置に、複数で遺構を構成するような規則性は見出せない。

残存状況 各遺構の概要を第22表に示す。

出土遺物 第195図-35はSK221から出土した土師器の内湾環である。器壁の厚い底部から、一度屈曲して、短い口縁部がつく。7世紀のものと考えられる。

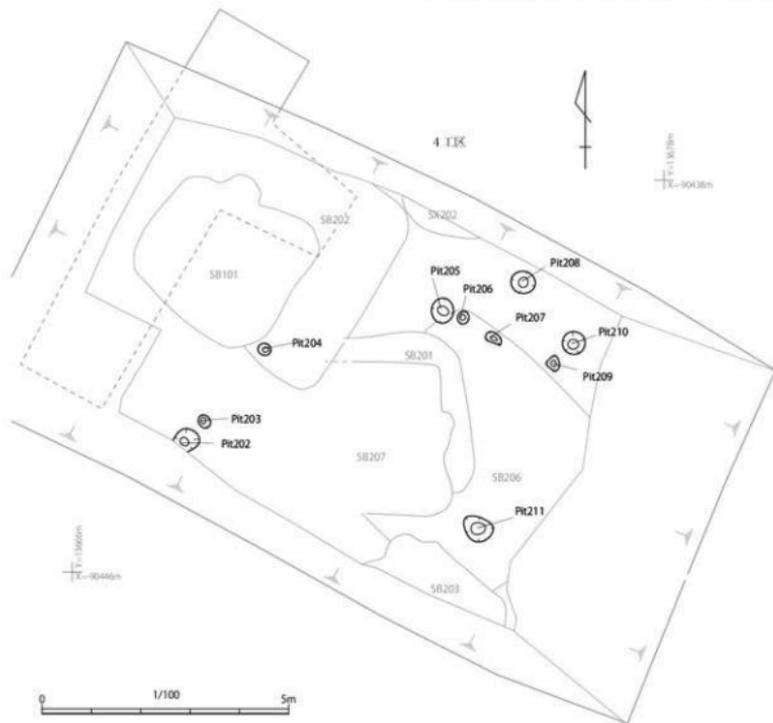
第22表 土坑・ピット規模等一覧表

遺構番号	工区	規模 (m)			平面形	断面形	出土遺物	土層
		長軸	短軸	深さ				
Plt202	4工区	50	50	5	円形	逆台形		B
Plt203	4工区	28	26	12	円形	U字形		B
Plt204	4工区	30	22	9	円形	逆台形		B
Plt205	4工区	55	46	6	楕円形	逆台形		B
Plt206	4工区	26	26	28	円形	U字形		C
Plt207	4工区	40	24	16	楕円形	U字形		C
Plt208	4工区	42	28	5	円形	U字形		C
Plt209	4工区	30	26	6	楕円形	U字形		B
Plt210	4工区	52	48	24	円形	U字形		C
Plt211	4工区	63	53	16	円形	U字形		B
SK212	3工区	126	(67)	40	方形	方形		A
Plt213	3工区	25	20	12	円形	U字形		B
Plt214	3工区	30	30	12	円形	U字形		C
Plt215	3工区	38	34	12	円形	U字形		C
Plt216	3工区	40	36	15	楕円形	U字形		B
Plt217	3工区	33	30	18	円形	U字形		C
Plt218	3工区	35	26	10	円形	逆台形		B
Plt219	3工区	45	38	15	方形	逆台形		B
Plt220	3工区	24	22	4	円形	逆台形		B
SK221	1工区	107	100	20	楕円形	逆台形	第195図-35	C

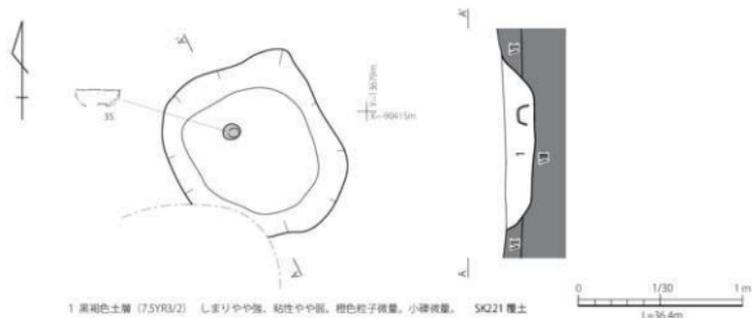
A 黒褐色(10YR3/3) しまりやや弱、粘性やや強、焼土中量、炭化物中量。

B 黒褐色(10YR3/4) しまりやや弱、粘性やや弱、棕色粒子微量。

C 黒褐色(7.5YR3/2) しまりやや弱、粘性やや弱、棕色粒子微量、小礫微量。

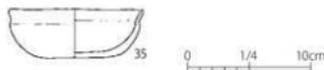


第193図 4工区 土坑・ピット 平面図

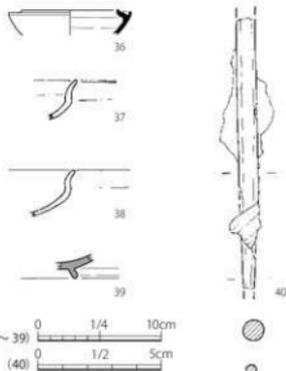


1 黒褐色土層 (7.5YR3/2) しまりやや強、粘性やや低、橙色粒子微量、小礫微量。 SK221 覆土

第194図 SK221 平面図・セクション図



第195図 SK221 出土遺物実測図



第196図 遺構外 出土遺物実測図

遺構外出土遺物

本調査工区や確認調査トレンチから出土した、遺構に伴わない遺物のうち、5点を図示した(第196図-36~40)。36は須恵器の坏H、37・38は土師器の内湾坏である。39は灰軸陶器の碗である。高台は低く、ナデも弱い。40は断面が円形の棒状鉄製品で、時期は不明である。

第23表 SK221 出土遺物観察表

検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第195図-35 0040		PL.8	SK221	土師器 片	10.8		4.0	良好	98%	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	

第24表 遺構外 出土遺物観察表

検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第196図-36 0011		PL.8	4I区	須恵器 坏	(9.0)		(2.1)	良好	20%	7.5YR6/1 (赭灰) N5/ (灰)	
第196図-37 0026		PL.8	11区	土師器 片			(3.2)	良好	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	33と同一?
第196図-38 0032		PL.8	11区	土師器 片			(3.8)	良好	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	34と同一?
第196図-39 0008		-	7I区	灰軸陶器 碗			(2.0)	軟質	-	5Y8/2 (灰白) 5Y8/2 (灰白)	

検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 類別	全長 (cm)	重量 (g)	備考
第196図-40 0003		PL.8	1I区	鉄製品 小刀	(11.1)	26.67	近代の可能性

第3章 中桁・中ノ坪遺跡の調査

第1節 中桁・中ノ坪遺跡の概要

1. 立地

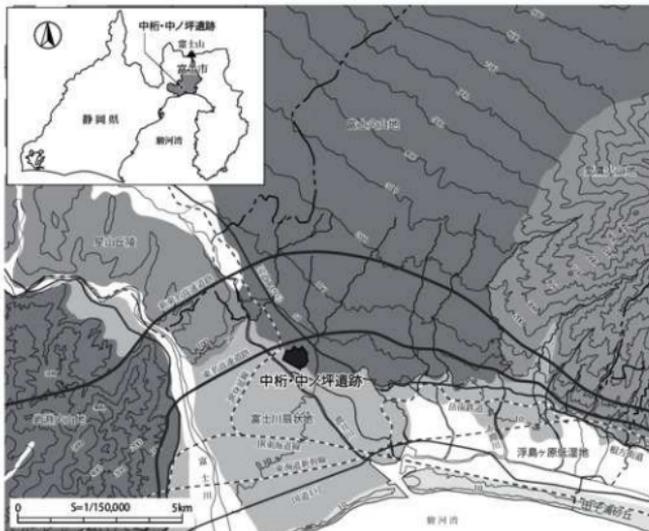
潤井川の北岸、沢東 A 遺跡の東方に立地している遺跡である。かつては「中桁遺跡」「中ノ坪遺跡」として区別されており、その名前で調査されたこともあったが、遺構のあり方からは二つの集落を区別することは困難であり、平成 17 年度に統合して名称を変更して現在の包蔵地名とした。

中桁・中ノ坪遺跡のさらに東方の潤井川流域には、東平遺跡が立地している。両遺跡の間には伝法沢とよばれる沢が存在し、その沢を遡ると中原 4 号墳が立地している。東平遺跡は駿河国富士郡の郡家と考えられており、8 世紀を中心とした集落形成が想定されてきた。また、集落の東側には「日本三代実録」貞観五年（863）六月二日条にて「以駿河国富士郡法照寺預之定額」とされた「法照寺」がかつて存在したと考えられており現在、「三

日市廃寺跡」として包蔵地登録されている。

また、中桁・中ノ坪遺跡の西側の潤井川沿いには沢東 A 遺跡が立地している。氾濫原における発掘調査のため、遺構検出や切りあい関係の把握に困難さが伴い、また、潤井川との距離関係、言い換えれば、遺構密度の高さや自然環境が異なる地点ごとに時期別の建物数が大きく異なることなども特徴といえるが、全体としては 6 世紀後半から 7 世紀前半における建物数の増加が特徴的といえる（第 2 章参照）。

沢東 A 遺跡では、古墳時代前期における遺構も少なからず認められるものの、本格的な集落形成は古墳時代中期後半である。沢東 A 遺跡ではこれまでに 7,098㎡の本発掘調査が行われており、100 軒の堅穴建物跡が調査されている。5 世紀後半に集落形成が開始され、6 世紀後半まで各時期 10 軒ほどの建物跡が認識されている。



第 197 図 中桁・中ノ坪遺跡の位置と周辺地形図

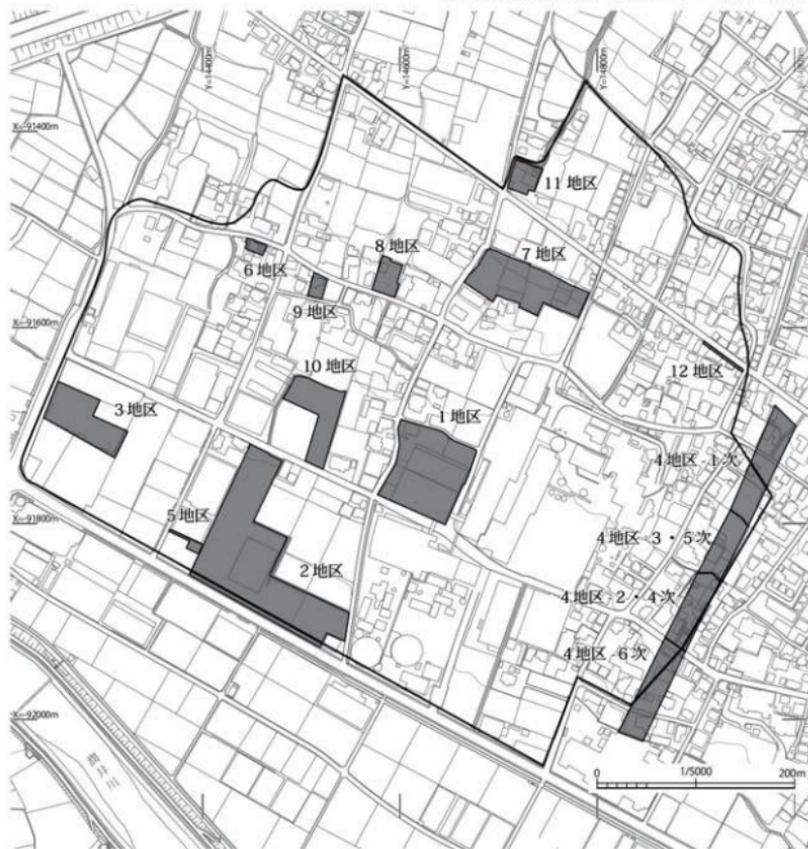
しかし、7世紀に入り爆発的に建物数が増加し34軒が認められる。一方で、その建物数は7世紀後半には継続せず8世紀後半には集落が壊滅を迎える。

潤井川と凡夫川の合流する地点では、子持ち勾玉や滑石製模造品などが出土しており（富士市教委1995）、水辺における祭祀の存在も想定される。集落の急速な形成は自然発生では説明できず、外的要因を考えるべきである。大和王権による東国支配の影響と捉えることができるが、直接的には武蔵など新興勢力の影響も想定すべきである。

2. これまでの調査

中桁・中ノ坪遺跡では、平成27年までに試掘確認調査・本発掘調査を合わせて12地区の調査が行われている。そのうち平成25年度までに3,476㎡の本発掘調査が行われており、60軒の堅穴建物跡が調査されている。

本書では、第7地区、第11地区の本発掘調査の成果を報告する。これまでの調査では、古墳時代前期に集落としての萌芽を見ることができると、単発的であり建物跡としては検出されていない。5世紀後半以降、10世紀前半に至るまで途中、途切れることなく集落が継続している状況が見られる。建物数のピークは6世紀前半



第198図 中桁・中ノ坪遺跡 調査履歴図

の7軒と8世紀後半の11軒に見ることができる。伝法古墳群が展開する6世紀後半から7世紀後半まではあまり活発な集落とは現状では考えられない。

遺跡は、沢東A遺跡と同じように潤井川の氾濫原に立地しており、遺構密度の高さや自然環境が異なる地点ごとに時期別の建物数が大きく異なることなども特徴といえる。第1地区では42軒の建物跡（時期不明15軒）が検出され、6世紀前半に7軒検出されているものの6世紀後半から7世紀前半の建物跡は見つかっていない。しかし、より潤井川に近い第2地区においてその時期を理めるように建物跡が見つかり、土地の比較的安定した時期には潤井川付近においても集落が広く展開していたものと考えられる。

また、遺跡は現在、工場や田畑が密集する地域に展開しており、本格的な遺跡調査が行われてから歴史が短い。そのため、現在までの調査において明らかとなっている情報が、中桁・中ノ坪遺跡の本来の姿をどれほど浮かび上がらせているか分からない。大規模な公共工事などの実施に伴い古くから認識されてきた東平遺跡に匹敵するような集落構造をもっていた可能性も十分に考えられるが、今後の課題となっている。

そのような状況にあって、比較的小規模な調査ではあるが、「神功開寶」が出土した第11地区や比較的規模の大きな溝が検出された第7地区の調査成果は今後、遺跡の構造を考える上で重要となる。

第25表 中桁・中ノ坪遺跡 調査履歴一覧

調査年度	地区・調査回数	調査地 調査の目的	調査面積 (㎡)	調査期間	調査員	遺構	遺物	回数	備考
H11	1地区-1次 試掘	伝法寺田畑 1211-4 外 倉庫跡	6,432 112	H11.10.18 ～10.21	古墳	堀穴瓦葺跡	土師	1	
H11	1地区-2次 試掘	伝法寺田畑 1211-4 外 倉庫跡	6,432 124	H11.12.1 ～12.3	古墳	堀穴瓦葺跡	土師	1	
H15	1地区-3次 試掘	伝法寺田畑 1211-4 外 工場跡	6,586 1,490	H15.5.20 ～10.3	古墳 奈良・平安	堀穴瓦葺 奈良・平安	土師・奈良系 奈良系	1	
H17	2地区-1次 試掘	伝法寺中桁 1316 外 店舗跡	12,091 450	H17.10.3 ～10.7	古墳	堀穴瓦葺跡	土師系・奈良系・陶器	2	
H17	2地区-2次 試掘	伝法寺中桁 1316 外 店舗跡	10,209 180	H18.1.16 ～2.6	古墳	堀穴瓦葺跡 5軒	土師系・奈良系・陶器	2	
H20	3地区 試掘	伝法寺 1320-24 外 不動態瓦葺	2,262 27	H20.6.25 ～6.27	なし	なし	なし	3	
H21	4地区-1次 試掘	伝法地内 本市大丸瀬集落	32	H21.12.8	なし	なし	奈良県教育委員会 による調査		
H22	4地区-2次 試掘	伝法地内 本市大丸瀬集落	20	H22.7.7	平安	堀穴瓦葺跡	土師系		奈良県教育委員会 による調査
H22	4地区-3次 試掘	伝法地内 本市大丸瀬集落	12	H22.9.22	奈良・平安	堀穴瓦葺跡	土師系・奈良系・瓦物陶器		奈良県教育委員会 による調査
H22	4地区-3次 試掘	伝法地内 本市大丸瀬集落	10	H23.1.6	なし	なし	奈良県教育委員会 による調査		
H23	4地区-7次 本調査	伝法田畑 1110-8 外 本市大丸瀬集落	300	H23.6.8	奈良・平安	堀穴瓦葺跡・土坑・ビット	土師系・奈良系・奈良系土・奈良系土	4	奈良県教育委員会 による調査
H23	4地区-8次 試掘	伝法地内 本市大丸瀬集落	18	H23.8.29	奈良・平安 調査	なし	土師系・陶磁器		奈良県教育委員会 による調査
H23	4地区-8次 本調査	伝法田畑 1110-8 外 本市大丸瀬集落	1,519	H23.11.22 ～H24.2.13	奈良・平安	H23.11.22 ～H24.2.13	なし	4	奈良県教育委員会 による調査
H24	5地区 試掘	伝法寺中桁 1320番4の内 新倉庫跡(南側)と埋設 溝跡	302 24	H24.4.24	なし	なし	なし	5	
H24	6地区-1次 試掘	厚原 427-1 倉庫跡	220 22	H24.7.18 ～7.20	奈良	堀穴瓦葺跡 2軒	土師系	5	
H24	6地区-2次 試掘	厚原 427-1 倉庫跡	104 77	H24.8.27 ～10.9	奈良・平安	堀穴瓦葺跡 4軒	土師系・奈良系	5	
H24	7地区-1次 試掘	伝法寺中桁 1265-1 外 不動態瓦葺	3,592 465	H25.1.21 ～1.31	奈良・平安	堀穴瓦葺跡 23件・土坑・ビット	土師系・奈良系・土師	6	
H25	6地区 本調査	厚原 441番1、442番1・2・3 宅地造成分庫	636 32	H25.5.20 ～5.21	奈良・平安	ビット	土師系・奈良系	5	
H25	7地区-2次 試掘	伝法寺中桁 1265番1 倉庫跡	31 31	H25.11.5	奈良・平安	堀穴瓦葺跡・ビット	土師系・奈良系	5	
H25	7地区-2次 本調査	伝法寺中桁 1265-1 外 生活小溝施設改修	3,592 318	H25.12.4 ～H26.2.21	奈良・平安	堀穴瓦葺跡・溝状遺構・土坑・ビット	土師系・奈良系・土師	6	
H25	10地区 試掘	伝法寺中桁 1265番1 倉庫跡	2,709 69	H26.1.28 ～1.29	古墳～平安	堀穴瓦葺跡・ビット	土師系・奈良系・陶器	5	
H26	11地区-1次 本調査	伝法寺中桁 1056-1 外 長屋瓦葺跡	816 111	H26.9.11 ～9.17	奈良・平安	堀穴瓦葺跡・土坑・ビット	土師系・奈良系・瓦物陶器・奈良系土	6	
H26	11地区-2次 本調査	伝法寺中桁 1056-1 外 長屋瓦葺跡	12 12	H26.10.1 ～10.17	奈良・平安	堀穴瓦葺跡・土坑・ビット	土師系・奈良系・瓦葺(神功開寶)	6	
H26	7地区-3次 本調査	伝法寺中桁 1265-1 外 生活小溝施設改修	3,592 157	H27.1.7 ～2.12	奈良・平安	堀穴瓦葺跡・溝状遺構・土坑・ビット	土師系・奈良系・瓦物陶器・瓦	6	
H27	12地区 試掘	伝法 1087-4 外 道路敷	240 4	H27.10.21	なし	なし	なし	6	

文献1 奈良県教育委員会 2004『中桁遺跡』

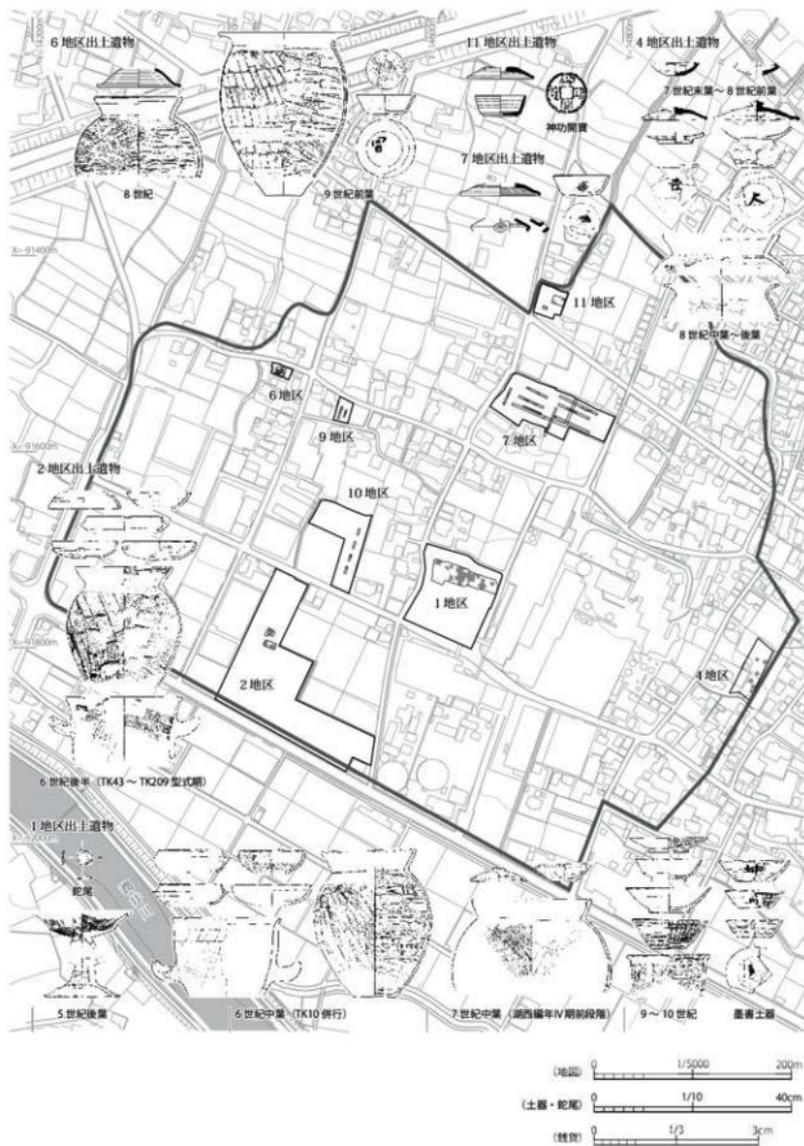
2 奈良県教育委員会 2007『中桁・中ノ坪遺跡 第2地区』

3 奈良県教育委員会 2010『平成14・20年度 奈良市内遺跡発掘調査報告書』

4 奈良県教育委員会 2013『平成13年度・中ノ坪遺跡、厚原集落文化センター一帯発掘調査 第24号』

5 奈良県教育委員会 2015『奈良市内遺跡発掘調査報告書 平成24・25年度』奈良県文化財調査報告書 第37巻

6 本稿



第199図 中折・中ノ坪遺跡 遺跡概要図

第2節 第7地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

地権者（個人）は、福祉施設建設事業に伴い、所有する富士市伝法1257-1外7筆（3,592㎡）の一部を売却することを計画した。

当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「中桁・中ノ坪遺跡」の範囲内であることから、地権者は遺跡が残存しない範囲を優先して売却するために事前に確認調査を行うことを希望し、平成25年1月9日、富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」を提出した。

これを受けて文化振興課は、1月16日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（高教文発第480号）、文化振興課職員による確認調査を行うこととなった。

(2) 確認調査

確認調査は平成25年1月21日から1月31日にかけて行われた。

調査地に11本のトレンチ（464.524㎡）を設定し、重機による表土掘削後、人力により精査し、遺構・遺物の検出につとめた。その結果、奈良・平安時代のものとみられる竪穴建物跡や溝状遺構、土坑、ピットなどの遺構が多数検出され、調査地全域に遺跡が残存していることが明らかとなった。

遺物は、土師器や須恵器、石器がコンテナ1箱分出土し、1月31日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（高教文発第505号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（高教文発第505-2号）を提出した。これは、2月12日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（高教文発第1555号）。

2月8日、地権者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（高教文発第522号）を提出した。また、地権者には、当該地において土木工事を行う際には埋蔵文化財の保護を図る必要がある旨を説明した。

(3) 本発掘調査

2次調査 確認調査の結果を受け、当該地で生活介護施設建設事業を計画する社会福祉法人インクルふじ（以下、事業者）と文化振興課との間で、遺跡の取り扱いについての協議が平成25年7月17日から開始された。事業計画は、確認調査対象地のおよそ西半分にあたる、富士市伝法字中桁1257-1外3筆（1983.66㎡）に全面的な盛土を行い、遺跡保護層を確保した上で建物を建設するというもので、9月19日、文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」が事業者から県教育長宛に提出された。10月3日、県教育長から、遺跡の保護が図れない擁壁および施設搬入路建設部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知され（高教文第1127号-2）、事業者がこれを伝達した（高教文発第431号）。10月4日、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」が、事業者ならびに地権者から「発掘調査承諾書」が市教育長宛に提出された。10月15日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。11月21日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し（高教文発第522号）、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は平成25年12月4日から平成26年2月21日にかけて行われた。



第200図 第7地区 位置図

東側の擁壁建設部分(第1調査区)、南側・西側の擁壁建設部分(第2調査区)、施設搬入路建設部分(第3調査区)に調査区(計318.236㎡)を設定し、重機による表土掘削後、人力により精査した。その結果、奈良・平安時代の竪穴建物跡4軒、溝状遺構6条、土坑、ピットなどを検出・発掘し、測量・写真・観察等による記録保存を行った。

また、遺物はコンテナ3箱分の土師器・須恵器・石器が出土し、2月24日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富教文発第677号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第677-2号)を提出した。これは、3月4日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1913号)。

2月24日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富教文発第678号)を提出した。2月28日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富教文発第706号)、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

3次調査 2次調査終了後、事業者と周辺地権者との協議により工事計画が変更されることとなり、平成26年9月22日、文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」が事業者から県教育長宛に再度提出された。10月2日、県教育長から、工事範囲が変更となる擁壁および施設搬入路建設部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知され(教文第1124号-2)、事業者これに伝達した。事業者からの本発掘調査実施依頼を受けて、10月24日、事業者と富士市長、市教

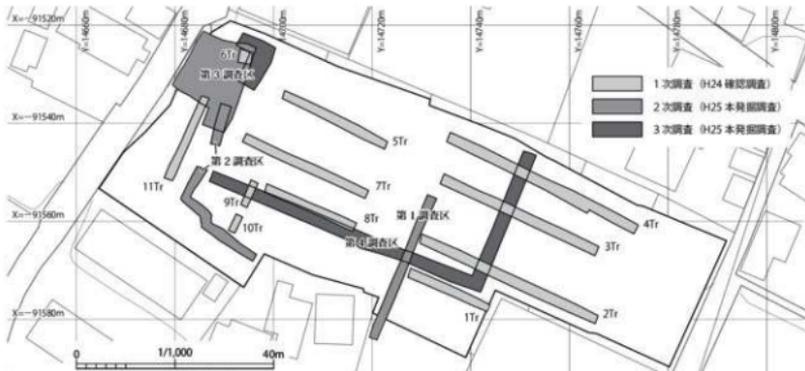
育長の3者間で締結していた文化財調査に関する協定については調査終了日を変更して再締結し、事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約を改めて締結した。12月25日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富教文発第574号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は平成27年1月7日から2月12日にかけて行われた。

施設搬入路建設部分(第3調査区拡張)と、東側・南側の擁壁建設部分(第4調査区)に調査区(計157.163㎡)を設定し、重機による表土掘削後、人力により精査した。その結果、奈良・平安時代の竪穴建物跡2軒、溝状遺構5条、土坑、ピットなどを検出・発掘し、測量・写真・観察等による記録保存を行った。

遺物は、コンテナ1箱分の土師器・須恵器・灰軸陶器・瓦が出土し、2月13日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富教文発第653号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第653-2号)を提出した。これは、3月2日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1914号)。

2月13日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富教文発第654号)を提出した。3月17日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富教文発第743号)、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。



第201図 確認調査トレンチおよび本発掘調査区配置図

(4) 整理作業

平成26年9月1日、事業者と富士市長との2者間で結ばれた整理作業に関わる業務委託契約により、出土遺物の整理作業が開始された。遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測作業をすませ、平成27年2月24日、事業者に対し、整理作業に関わる業務の完了報告を行い（富教文発第692号）、業務委託金の精算をもって、整理作業に関わる業務委託契約が終了した。

また、平成27年4月1日から発掘調査報告書（本書）刊行のための整理作業を開始し、発掘記録図面類・観察表等の整理、遺構図・遺物図のトレース作業、遺物の写真撮影、報告の執筆等を行い、これらを編集して報告書を作成した。

平成29年3月31日、中街・中ノ坪遺跡第7地区埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。

(5) 調査の体制

本書で報告する一連の調査は、以下の体制で実施した。
平成24年度（1次調査、確認調査）

〔事務局〕 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

教育次長 鈴木 清二

文化振興課 課長 渡井 義彦
主幹 前田 勝己

〔担当〕 埋蔵文化財調査室 席上主事 佐藤 祐樹
臨時職員 小島 利史

平成25・26年度（2・3次調査、本発掘調査）

〔事務局〕 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

教育次長 鈴木 清二

文化振興課 課長 渡井 義彦
(H26) 統括主幹 前田 勝己

(H25) 主幹 前田 勝己

〔担当〕 埋蔵文化財調査室 席上主事 佐藤 祐樹
臨時職員 若林 美希

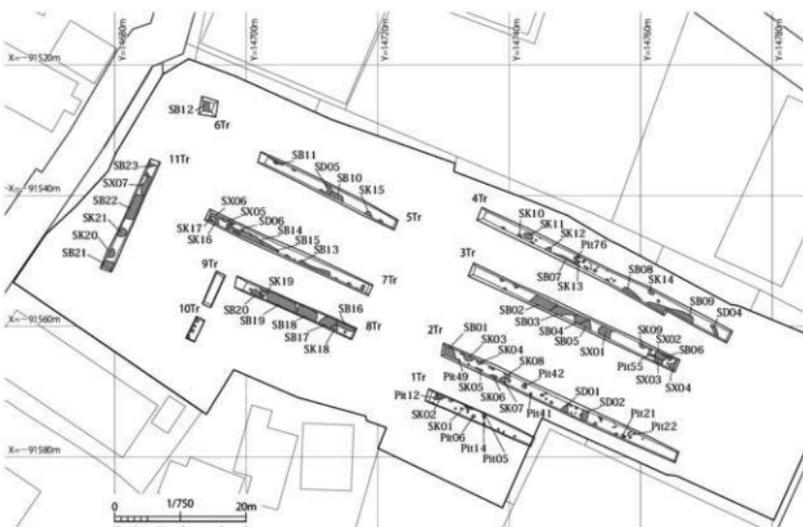
平成27年度（整理作業）

〔事業主体〕 富士市教育委員会 教育長 山田 幸男

〔事務局〕 富士市民民部 部長 加納 孝則

文化振興課 課長 町田 しげ美
統括主幹 前田 勝己

〔担当〕 埋蔵文化財調査室 席上主事 佐藤 祐樹



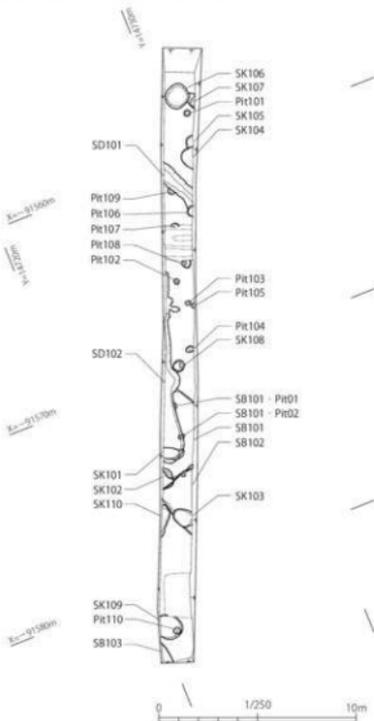
第202図 確認調査 遺構検出状況

2. 調査の成果

(1) 確認調査

確認調査では、調査地に11本のトレンチを設定した(第202図)。重機による表土掘削後、人力により精査した結果、竪穴建物跡23軒、土坑21基、ピット107基、溝状遺構5条、性格不明遺構7基とみられる、多数の遺構が検出された。このうち、3TrのSB02は、第4調査区のSB401と同一遺構と認められる。遺物はコンテナ1箱分の土師器・須恵器・石器が出土した。SB02出土遺物についてはSB401出土遺物として報告する(127頁、第234図)。それ以外の遺物については図化に至らなかった。

これらの遺構・遺物は奈良時代から平安時代のもとの位置づけられ、調査地全域に当該期の遺跡が濃密に残存していることが明らかとなった。



第203図 第1調査区 全体図

(2) 本発掘調査(第1調査区)

第1調査区の調査では、擁壁建設計画に合わせ、調査地の中央やや南寄りに、東西幅約1.6m、南北長約31.5mの調査区を設定した。

重機により遺構確認面まで掘削した後、人力により遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、竪穴建物跡4軒(SB101～104)、溝状遺構2条(SD101・102)、土坑10基(SK101～110)、ピット10基(Pit101～110)を検出・調査し、測量や写真撮影等による記録保存を行った。

竪穴建物跡

SB101

位置 第1調査区のやや南寄りに検出された。

重複関係 (古) SB102 → SB101

→ SD102, SK101, SK102 (新)

主軸方位 N - 15° - W (検出された壁から推定)

残存状況 南東部、北西部が調査区外にあり、さらにSD102、SK101、SK102に切られており、南壁と東壁の一部が検出されたのみであった。しかし、SK102の底面から南西コーナーが検出されたため、南北幅およそ3.80m、東西幅およそ3.40mの方形を呈すると推定される。検出面からの深さは40cmを測る。

覆土 ローム土を含む黒色土・黒褐色土上の自然堆積層。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 SD102に切られるが、床面から2基のピット(SB101 - Pit01・02)が検出された。SB101 - Pit01は床面の北東に位置すると推定でき、南北径30cm、深さ10cmを測る。SB101 - Pit02は南北径30cm、東西径35cm、深さ18cmを測り、床面の中央付近に位置すると推定される。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。調査区外に位置すると考えられる。

出土遺物 2点図示した(第205図-1・2)。1の須恵器坏蓋、2の須恵器高台坏、いずれも8世紀代に位置づけられるものである。

所見(時期) 出土遺物から、8世紀代の建物跡と考える。

SB102

位置 第1調査区の南寄りで見出された。

重複関係 (古) SB102→

SB101、SB104、SK102、SK103 (新)

主軸方位 N-15°-W (検出された壁から推定)

残存状況 南東側の半分以上が調査区外にあるため、規模等の全容は明らかでないが、検出された北壁は約1.90m、西壁は約2.40mを測り、東西幅2.20m以上、南北幅2.80m以上の方形を呈すると推定される。検出面からの深さは50cmを測る。

覆土 ローム土を含む黒褐色土・黒色土の自然堆積層。

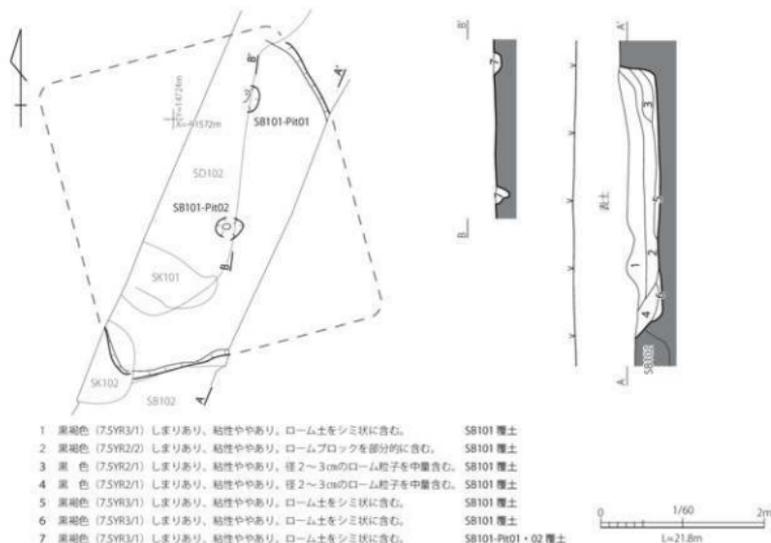
壁溝・柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とするが、部分的に硬化している範囲が認められた。

カマド 検出されなかった。北壁際に、床面のわずかな落ち込みと粘土・炭化材の広がりが認められており、北壁に存在した可能性が考えられる。

出土遺物 3点図示した(第207図-3~5)。3は土師器鍋の口縁部、4は8世紀後半から9世紀初頭に位置づけられる土師器水平口縁部の口縁部、5は須恵器坏蓋である。

所見(時期) 出土遺物から、8世紀後半ごろの建物跡と考える。



- 1 黒褐色(7.5YR3/1)しまりあり。粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。 SB101 覆土
- 2 黒褐色(7.5YR2/2)しまりあり。粘性ややあり。ロームブロックを部分的に含む。 SB101 覆土
- 3 黒色(7.5YR2/1)しまりあり。粘性ややあり。径2~3cmのローム粒子を中層含む。 SB101 覆土
- 4 黒色(7.5YR2/1)しまりあり。粘性ややあり。径2~3cmのローム粒子を中層含む。 SB101 覆土
- 5 黒褐色(7.5YR3/1)しまりあり。粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。 SB101 覆土
- 6 黒褐色(7.5YR3/1)しまりあり。粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。 SB101 覆土
- 7 黒褐色(7.5YR3/1)しまりあり。粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。 SB101-PW01・02 覆土

第204図 SB101 平面図・セクション図



第205図 SB101 出土遺物実測図

第26表 SB101 出土遺物観察表

検出番号	具番号	写真 図版	遺物名	類別 用途	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地蔵	残存率	内面色調 外面色調	備考
第205図-1	11	PL.16	SB101	須恵器 坏蓋			(1.6)	良好	-	N5/ N6/ (灰白)	
第205図-2	1	PL.16	SB101	須恵器 高台坪	(10.8)	(1.1)		良好	20%	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	反転復元

SB104

位置 第1調査区東壁の南寄りで見出された。

重複関係 (古) SB102 → SB104 (新)

主軸方位 不明

残存状況 調査区東壁セクションにて、幅1.30m、深さ0.45mの落ち込みとして検出されたため、平面プランや規模等は不明である。

覆土 ローム土・炭化材を含む黒褐色土が堆積していた。

壁溝 セクションでは確認されなかった。

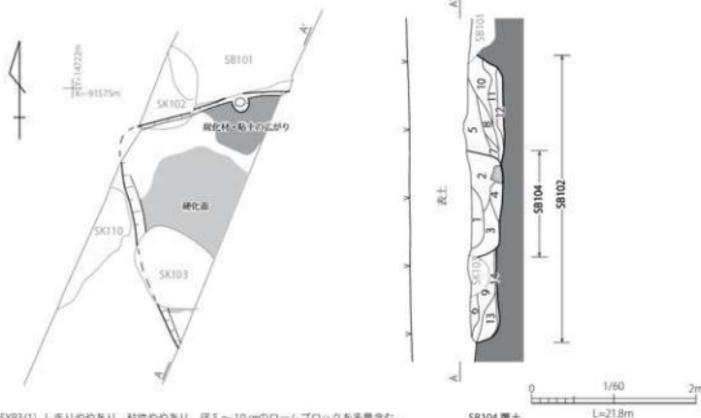
柱穴 不明である。

床 掘り方を床面としていたようである。

カマド 不明である。

出土遺物 なし

所見 (時期) 出土遺物がないため、時期不明とする。



- 1 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径5～10cmのロームブロックを多量含む。
- 2 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径1～3cmのロームブロックを多量含む。
- 3 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に含む。
- 4 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性ややあり。径5～10cmのロームブロック・炭化材を中量含む。
- 5 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。カマドの粘土をシミ状に含む。
- 6 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性あり。
- 7 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 8 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性あり。ロームブロックを中量。カマドの粘土をシミ状に含む。
- 9 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりややあり、粘性あり。ロームブロックを中量含む。
- 10 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。径5～10cmのロームブロックを少量。炭化材を少量含む。
- 11 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。ロームブロックを全体的にシミ状に含む。
- 12 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性あり。ロームブロックを全体的にシミ状に含む。
- 13 黒色 (7.5YR2/1) しまりあり、粘性あり。ローム粒子を少量含む。
- 14 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に含む。

- SB104 覆土
SB104 覆土
SB104 覆土
SB104 覆土
SB102 覆土

第206図 SB102・SB104 平面図・セクション図



第207図 SB102 出土遺物実測図

第27表 SB102 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名	種類 説明	口径 (cm)	底径 (cm)	深高 (cm)	地成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第207図-3	2	PL.16	SB102	土師器 埴			(2.7)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR4/3 (にぶい赤褐)	
第207図-4	12	PL.16	SB102	土師器 罎			(2.0)	良好	-	10YR6/3 (にぶい黄褐色) 10YR6/3 (にぶい黄褐色)	
第207図-5	12	PL.16	SB102	須置器 坏蓋			(1.6)	良好	-	7.5Y7/1 (灰白) 7.5Y7/1 (灰白)	

SB103

位置 第1調査区の南端で検出された。

重複関係 なし

主軸方位 不明

残存状況 東壁の一部を検出したのみで、平面プランや規模等の全容は不明である。検出面からの深さは56cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土 ローム土や粘土を含む黒褐色土の自然堆積層。

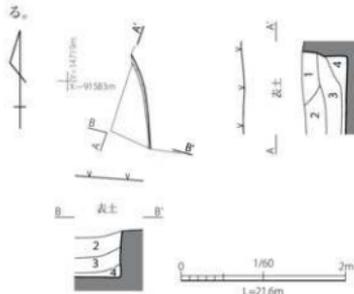
壁溝・柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。覆土中に粘土が含まれることから、北壁に存在した可能性が考えられる。

出土遺物 須恵器环蓋1点を図示した(第208図-6)。8世紀代に位置づけられる。

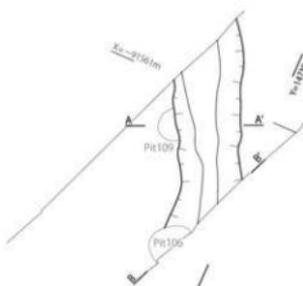
所見(時期) 出土遺物から8世紀代の建物跡とみられる。



第209図 SB103 平面図・セクション図

第28表 SB103 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真図取	遺構名	種類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第208図-6	13	PL.16	SB103	須恵器 环蓋	(14.9)		(2.5)	良好	20%	5Y6/1 5Y6/1 (R) (R)	反転復元



第210図 SD101 平面図・セクション図

溝状遺構

SD101

位置 調査区の北寄りで検出された。

重複関係 (古) Pit109 → SD101 → Pit106 (新)

主軸方位 N-24°-W

残存状況 検出部分で、幅約0.8m、長さ約2.7m、検出面からの深さ0.16~0.28mを測る。周辺に並行する溝状遺構は検出されていない。

覆土 ローム土を含む黒色土・黒褐色土の自然堆積層。

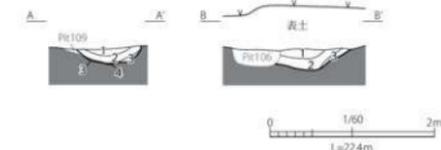
出土遺物 遺物が出土したが、図化には至らなかった。

所見(時期) 時期不明とする。

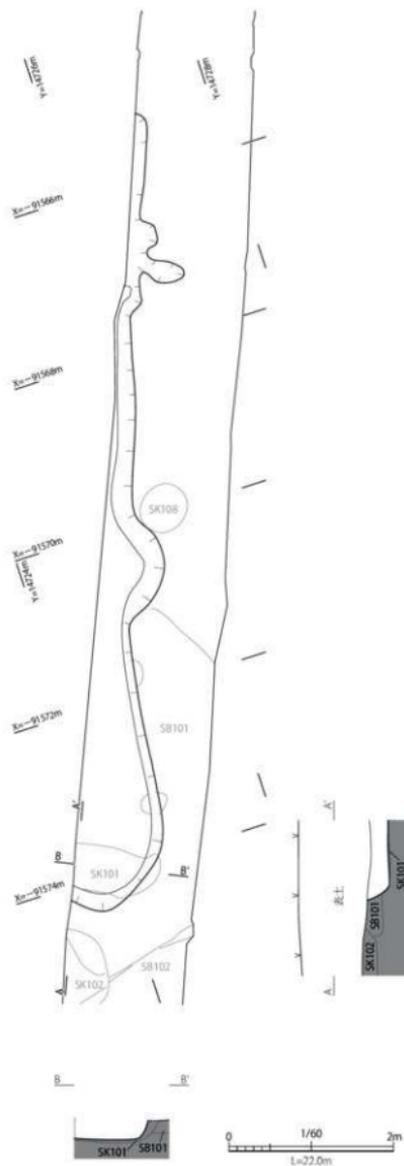


第208図 SB103 出土遺物実測図

- | | | | |
|---|----------------|--|----------|
| 1 | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性ややあり、カマドの粘土をシミ状に含む。 | SB103 覆土 |
| 2 | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性ややあり、ロームブロックを少量含む。 | SB103 覆土 |
| 3 | 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり、赤色粒子を中量含む。 | SB103 覆土 |
| 4 | 黒褐色 (7.5YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり、ロームブロックを多量、ローム土をシミ状に含む。 | SB103 覆土 |



- | | | | |
|---|----------------|----------------------------|----------|
| 1 | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。 | SD101 覆土 |
| 2 | 黒色 (7.5YR2/1) | しまりなし、粘性ややあり、ロームブロックを少量含む。 | SD101 覆土 |
| 3 | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性ややあり、ローム土をシミ状に含む。 | SD101 覆土 |
| 4 | 黒褐色 (7.5YR3/1) | しまりなし、粘性ややあり、赤色粒子を少量含む。 | SD101 覆土 |



第211図 SD102 平面図・セクション図

SD102

位置 第1調査区中央の西壁際で検出された。第4調査区のSD403と同一遺構と考えられる。

重複関係 (古) SB101、SK101 → SD102 (新)

主軸方位 N - 18° - E

残存状況 検出部分で、南北長約9.80m、東西幅約1.2m、深さ約0.25mを測る。西壁はやや蛇行し、南端で東に曲がり調査区外に至る。

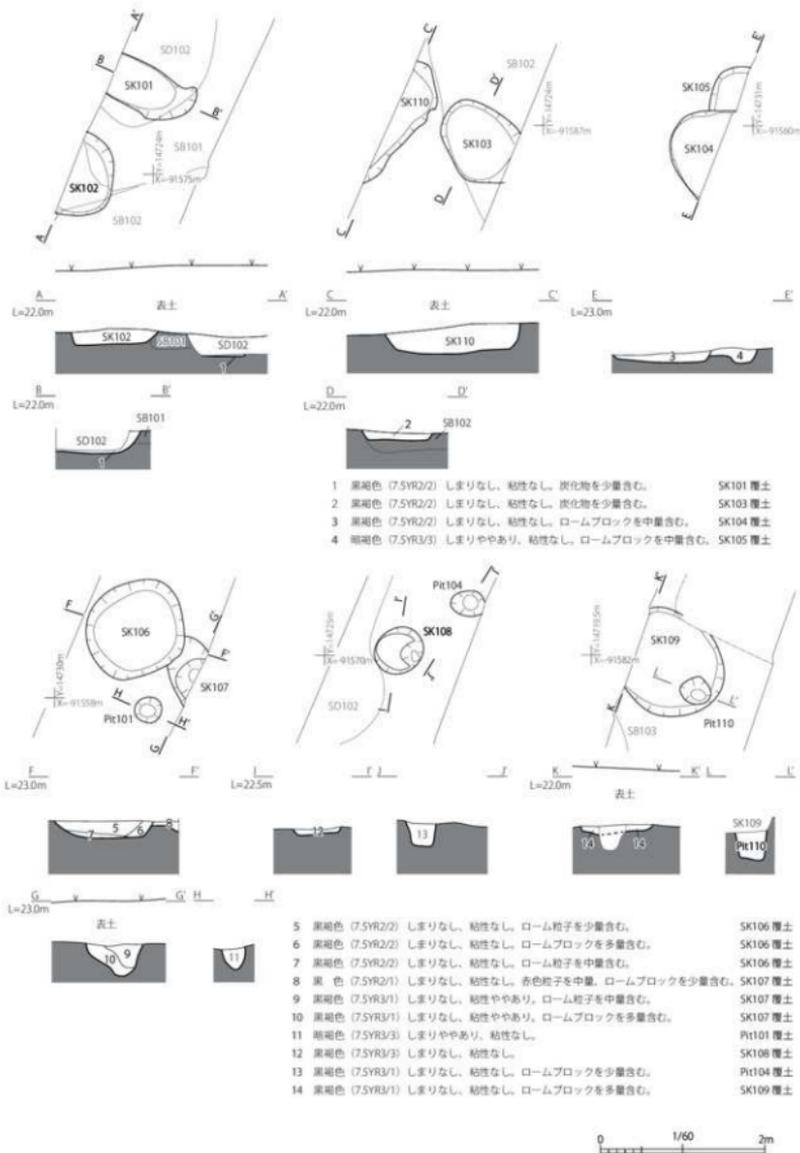
土坑・ピット

第1調査区では、10基の土坑と10基のピットが検出された。各遺構の概要を第29表に示す。

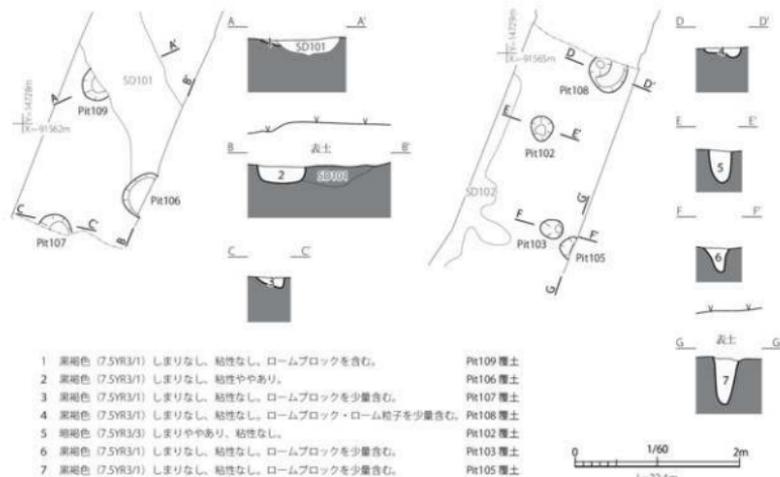
土坑・ピットの配置に、複数で遺構を構成するような規則性は見出せない。

第29表 第1調査区 土坑・ピット一覧

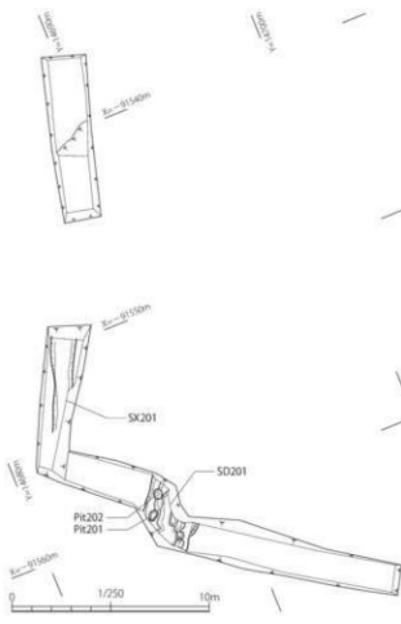
遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	切り合い関係 (古→新)	時期
SK101 (104)	50	30		楕円形	平底	SD102 → SK101	不明
SK102 (110)	(50)	14		円形	平底	SB101 → SK102	中近世
SK103 (103)	90	18		楕円形	平底	SB102 → SK103	中近世
SK104 (110)	(60)	10		円形	平底	SK105 → SK104	中近世
SK105 (35)	(35)	20		円形	丸底	SK105 → SK104	古代?
SK106 (124)	120	20		円形	平底	SK107 → SK106	中近世
SK107 (84)	(60)	36		楕円形	丸底	SK107 → SK106	古代?
SK108 (62)	60	17		円形	平底		中近世
SK109 (120)	120	10		円形	平底	PH110 → SK109	中近世
SK110 (160)	(40)	23		楕円形	平底		中近世?
PH101	35	30	29	円形	丸底		古代
PH102	30	25	34	円形	丸底		古代
PH103	28	25	29	円形	丸底		古代
PH104	40	38	33	円形	平底		古代
PH105	27	(15)	30	円形	丸底		古代
PH106	60	(30)	21	円形	平底	SD101 → PH106	古代?
PH107	38	(20)	13	円形	丸底		古代?
PH108	45	(40)	14	円形	丸底		不明
PH109	40	(30)	11	円形	丸底	PH109 → SD101	古代?
PH110	19	34	37	円形	平底	PH110 → SK109	古代



第212図 SK101～110、Pit101・104・110 平面図・セクション図



第213図 Pit102・103・105～109 平面図・セクション図



第214図 第2調査区 全体図

(3) 本発掘調査 (第2調査区)

第2調査区の調査では、擁壁建設計画に合わせ、調査地の西寄りに、東西長約19.25m、南北長約21.25m、幅約1.75mのL字型の調査区を設定した。

重機により遺構確認面まで掘削した後、人力により遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、溝状遺構1条 (SD201)、性格不明遺構1基 (SX201)、ピット2基 (Pit201・202) を検出・調査し、測量や写真撮影等による記録保存を行った。

溝状遺構

SD201

位置 第2調査区の南側中央で検出された。

重複関係 (古) SD201 → Pit201、Pit202 (新)

主軸方位 N-35°-E

残存状況 検出部分で、南北長約3.20m、東西幅約2.80m、深さ0.72mを測る。壁はなだらかではなく、緩やかな段をもって底面へ至る。

覆土 ローム土や石を含む黒褐色土・黒色土の自然堆積。
 出土遺物 8点図示した (第216図-7～14)。7は土師器鞍東型埴の底部である。底部外面は糸切後、外周をヘラケズリしており、糸切痕が残る中央部に「里」と読

める黒書が記されている。8は口縁部を横ナデする土師器杯で、7世紀代以前のもつとみられる。9の土師器杯には内外面に赤彩が施されている。10・11は須恵器高台杯の底部で、高台より底部がやや張り出す10は8世紀中葉に位置づけられるものである。12は灰釉陶器の碗、13は土師器甕、14は須恵器甕である。所見(時期) 出土遺物の時期幅が広く、遺構の時期は特定しがたい。

性格不明遺構

SX201

位置 第2調査区の西側中央で検出された。

重複関係 なし

主軸方位 $N-22^{\circ}-E$

残存状況 検出部分で、東西幅およそ1.20～0.9m、南北長約4.80m、深さおよそ0.75mを測る。断面形はU字形を呈する。

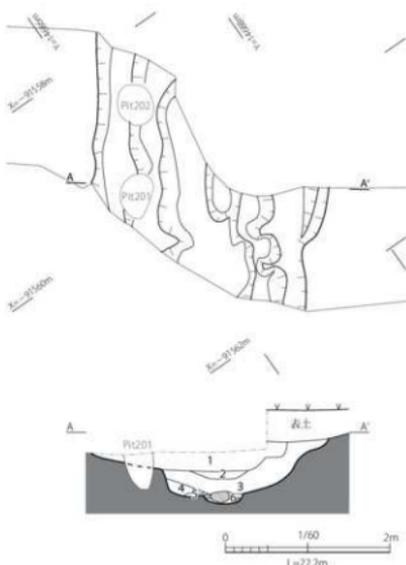
覆土 ローム土を含む黒色土、小石を含む黒褐色土の自然堆積層。

出土遺物 灰釉陶器碗の底部片1点を図示した(第218図-15)。三日月高台を有し、O-53窯式期に位置づけられる。

所見(時期) 灰釉陶器や土師器とともにプラスチック片が出土したことから、水路等に伴う掘り込みの可能性が考えられる。

ビット

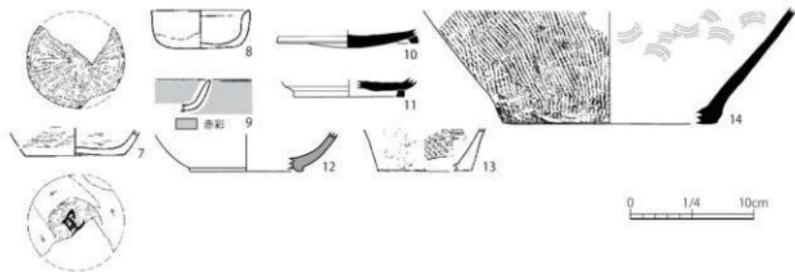
第2調査区では2基のビットが検出された。各遺構の概要を第32表に示す。



- 1 黒色(7.5YR2/1) しまりなし、粘性ややあり。
径1～3cmの小石を少量含む。
- 2 黒褐色(7.5YR3/1) しまりあり、粘性なし。
径1～3cmの小石を多量含む。
- 3 黒褐色(7.5YR3/1) しまりあり、粘性ややあり。
赤色粒子を少量、径3cmの小石を少量含む。
- 4 黒褐色(7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。
ローム土をシミ状に含む。
- 5 黒褐色(7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。
ロームブロックを中量含む。
- 6 黒褐色(7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。
こぶし大～人頭大の石で構成される。

※1～6はすべてSD201覆土

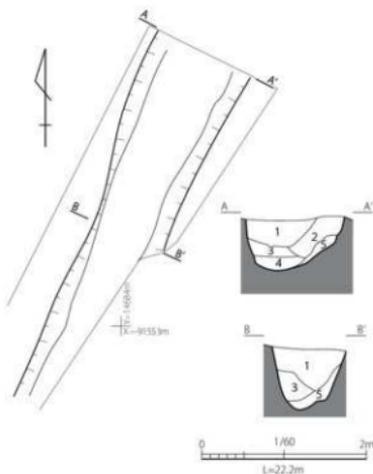
第215図 SD201 平面図・セクション図



第216図 SD201 出土遺物実測図

第30表 SD201 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真図版	遺物名	種類 細目	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第216図-7	23	PL.16	SD201	土師器 坏		7.8	(2.1)	良好	60%	2.5YR4/8 (赤褐) 5YR4/6 (赤褐)	墨書 反転復元
第216図-8	19 20 23	PL.16	SD201	土師器 坏	7.8	5.0	3.1	良好	95%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第216図-9	23	PL.16	SD201	土師器 坏			(2.6)	良好	-	2.5YR5/8 (明赤褐) 2.5YR5/8 (明赤褐)	
第216図-10	23	PL.16	SD201	須恵器 高台坏		(11.3)	(1.4)	良好	50%	5Y6/1 (灰) N6/ (灰)	反転復元
第216図-11	23	PL.16	SD201	須恵器 高台坏		(8.9)	(1.4)	良好	25%	N5/ (灰白) N5/ (灰白)	反転復元
第216図-12	23	PL.16	SD201	灰釉陶器 碗		(8.1)	(1.0)	良好	20%	5Y7/2 (灰白) 5Y8/1 (灰白)	反転復元
第216図-13	23	PL.16	SD201	土師器 釜		(7.6)	(3.5)	良好	20%	7.5YR5/3 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	反転復元
第216図-14	23	PL.16	SD201	須恵器 甕		(17.3)		良好	20%	2.5YR5/1 (黄灰) 7.5YR5/1 (黄灰)	反転復元



- 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性なし。
やや砂質、径1～5cmの小石を少量含む。SX201 覆土
- 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりややあり、粘性ややあり。 SX201 覆土
- 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。
やや砂質、径2～5cmの小石を中量含む。SX201 覆土
- 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。
やや砂質、径5～10cmの小石を多量含む。SX201 覆土
- 黒色 (7.5Y2/1) しまりあり、粘性ややあり。
ロームブロックを少量含む。 SX201 覆土

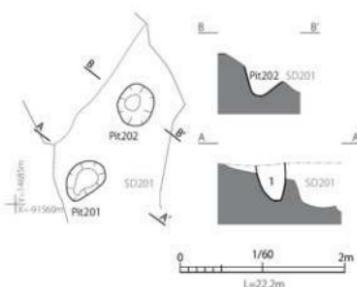
第217図 SX201 平面図・セクション図

第31表 SX201 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真図版	遺物名	種類 細目	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第218図-15	15	PL.16	SX201	灰釉陶器 碗		(5.3)	(1.9)	良好	20%	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	反転復元



第218図 SX201 出土遺物実測図



- 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性あり。
ロームブロックを少量含む。 Pit201 覆土

第219図 Pit201・202 平面図・セクション図

第32表 第2調査区 土坑・ピット一覧

遺物 番号	規模 (m)		平面形	所出市	切り台・階段 (点・数)
	長軸	短軸			
Pit201	50	45	30	楕円形	丸底 SD201 → Pit201
Pit202	50	45	36	円形	丸底 SD201 → Pit202

(4) 本発掘調査 (第3調査区)

第3調査区は、調査地北西部での施設搬入路建設計画に合わせ、第2次調査で南北幅約12.5m、東西幅約12.5mの方形の調査区を、第3次調査ではその北東に、南北幅約8.00m、東西幅約7.00mの拡張区を設定し、調査を行った。重機により遺構確認面まで掘削した後、人力により遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、溝状遺構4条 (SD301～304)、土坑8基 (SK301～308)、ピット7基 (Pit301～307) を検出・調査し、測量や写真撮影等による記録保存を行った。

溝状遺構

SD301

位置 第3調査区の東寄り検出された。

重複関係 (古) SD301 → SK303, SK304 (新)

主軸方位 N-0°-E

残存状況 調査区の北壁から東壁に向けて延びる。

検出部分で、南北長約13.50m、東西幅約0.90～1.70mを測る。北側では上面に大きく削平を受けているようで、検出面からの深さは北と南で異なり、0.36～0.66mである。断面形は不定形で、壁はなだらかではなく、緩やかな段をもって底面へ至る。

覆土 ローム土や小石を含む黒褐色土・黒色土の自然堆積層。

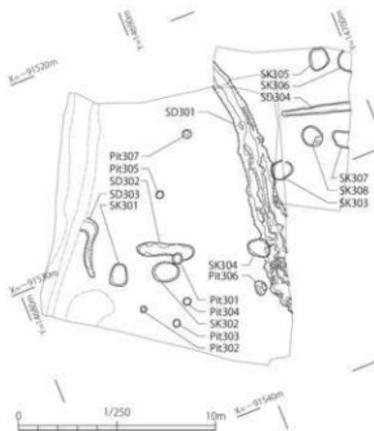
出土遺物 多くの土師器、須恵器などが出土し、35点を図示した (第225・226図-16～50)。

16～21, 24は土師器鞍東型坏で、16と19の底部は糸切後ヘラケズリされ「家」の墨書が記されている。18と24にも墨書が認められるが、文字は不明である。

22と23は土師器甲斐型坏である。26は土師器小型甕、27は須恵器の甕あるいは甕の底部、28は底部に木葉痕が残る土師器甕、29は土師器水平口縁甕の口縁部である。30と31は須恵器のつまみ蓋、32から41は須恵器の高台坏、42から48は須恵器の甕である。

49は瓦片で内面に布目、外面に格子タタキ目が残る。50は鍛き石である。

所見 (時期) 出土した遺物はおおむね8世紀代に位置づけられる。覆土に小砂利を含むことから、水が流れていたことが想定できるが、人工的な溝なのか、自然流路なのかの特定は難しい。この溝の東側に建物跡が検出されることから、集落の区画溝である可能性もある。また、



第220図 第3調査区 全体図

遺物が多く出土しており、祭祀的な意味をもつ意図的な投棄の可能性が考えられる。

SD302

位置 第3調査区の中央付近で検出された。

重複関係 (古) SD302 → Pit301 (新)

主軸方位 N-68°-W

残存状況 平面形は、両端が丸く収まる長楕円形を呈し、東西長約2.90m、南北幅約0.70mを測る。底面は平底で、検出面からの深さはおよそ0.10mである。

覆土 黒褐色土が堆積していた。

出土遺物 少量出土したが、図示には至らなかった。

所見 (時期) 時期や性格は不明である。

SD303

位置 第3調査区の西南寄り検出された。

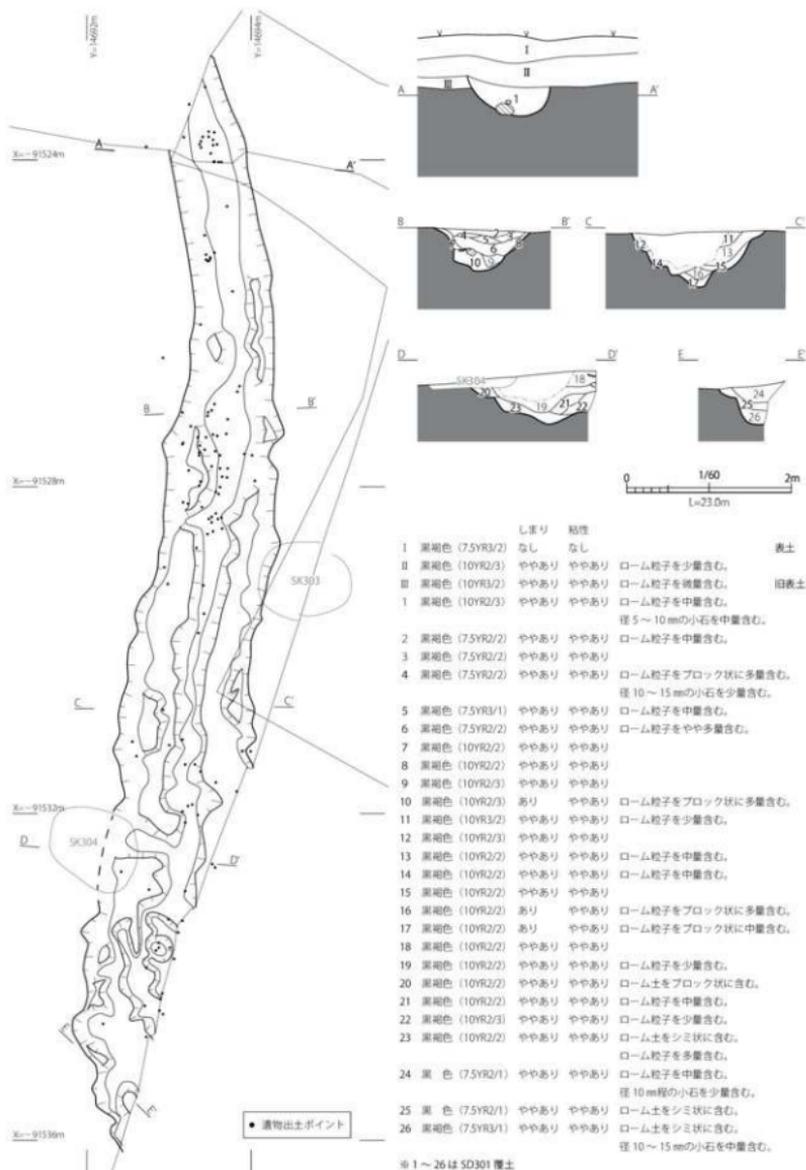
重複関係 なし

残存状況 調査区を南北に走る掘削に西側を切られていた。東西方向から大きく屈曲して南北方向に延び、南端は丸く収まる。残存で、南北長3.00m、幅0.30～0.60m、検出面からの深さはおよそ0.10mを測る。

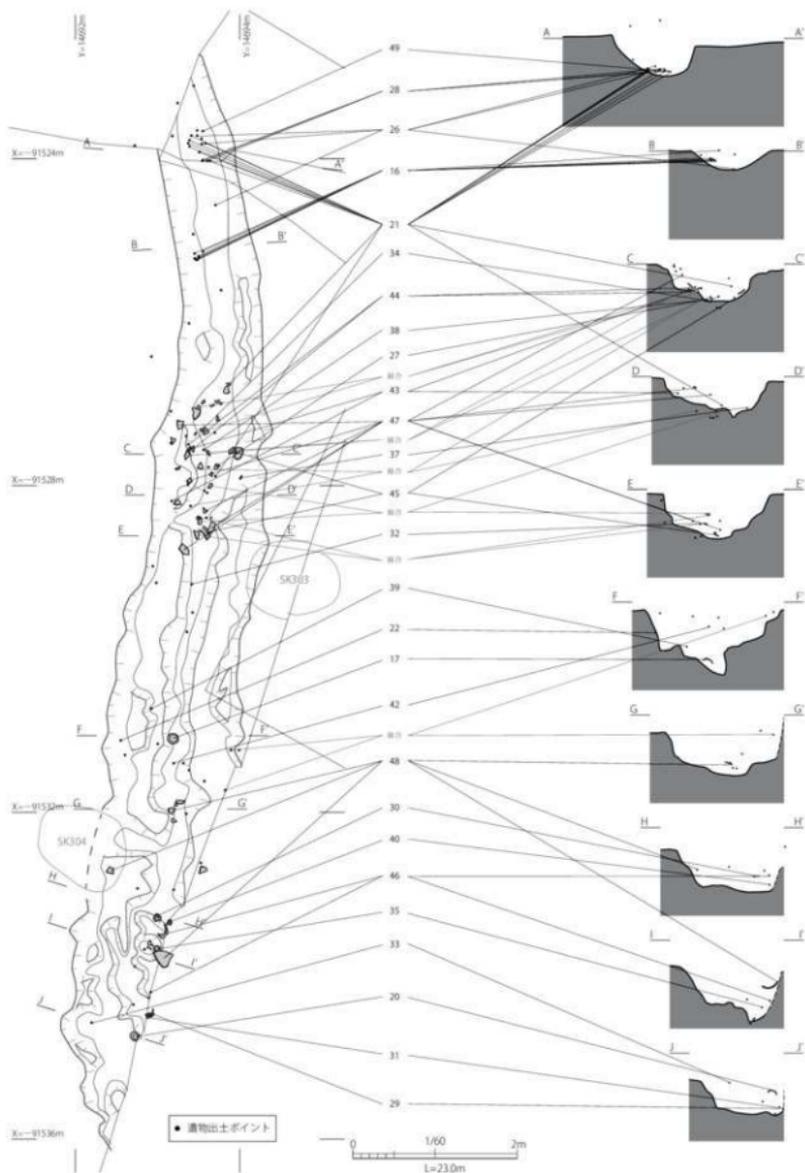
覆土 黒色砂質土が堆積していた。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

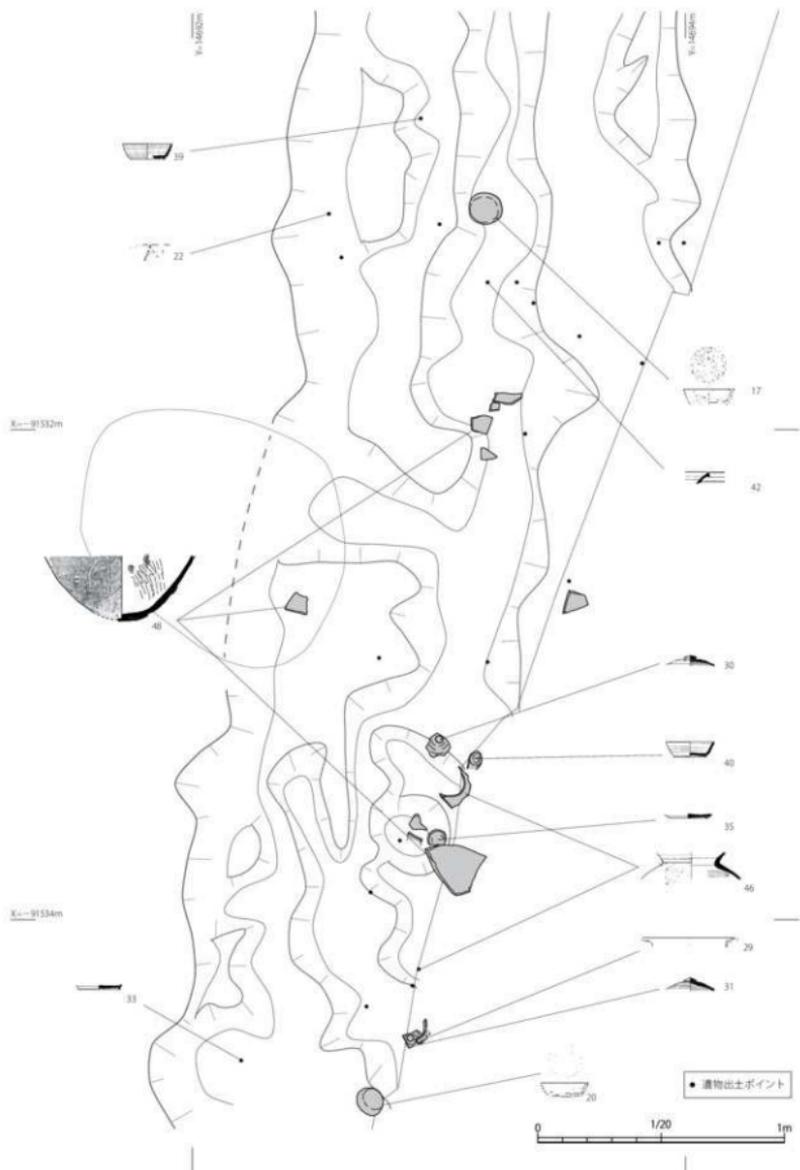
所見 (時期) 時期や性格は不明である。



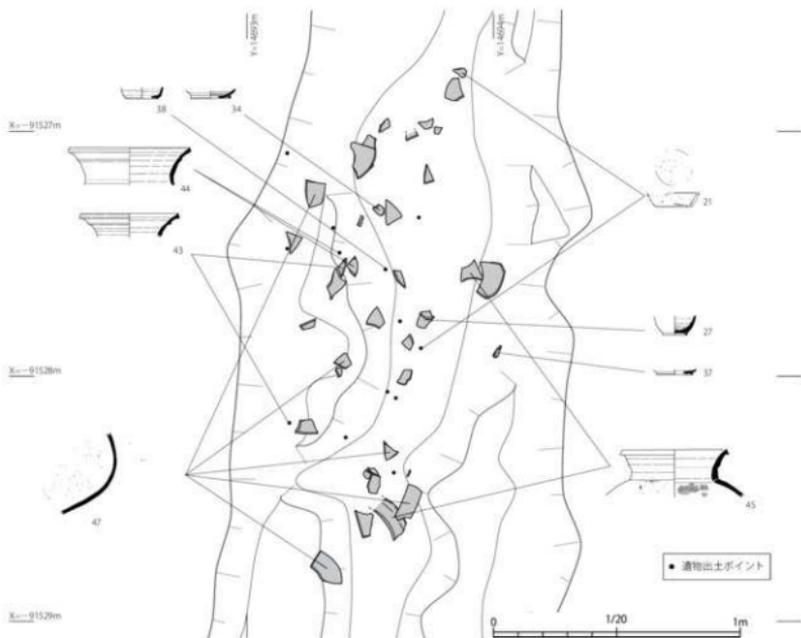
第221図 SD301 平面図・セクション図



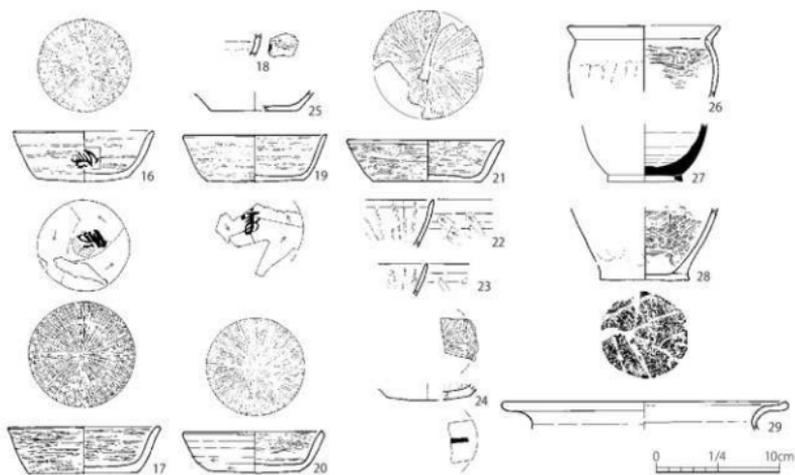
第222図 SD301 遺物出土状況 平面図・エレベーション図



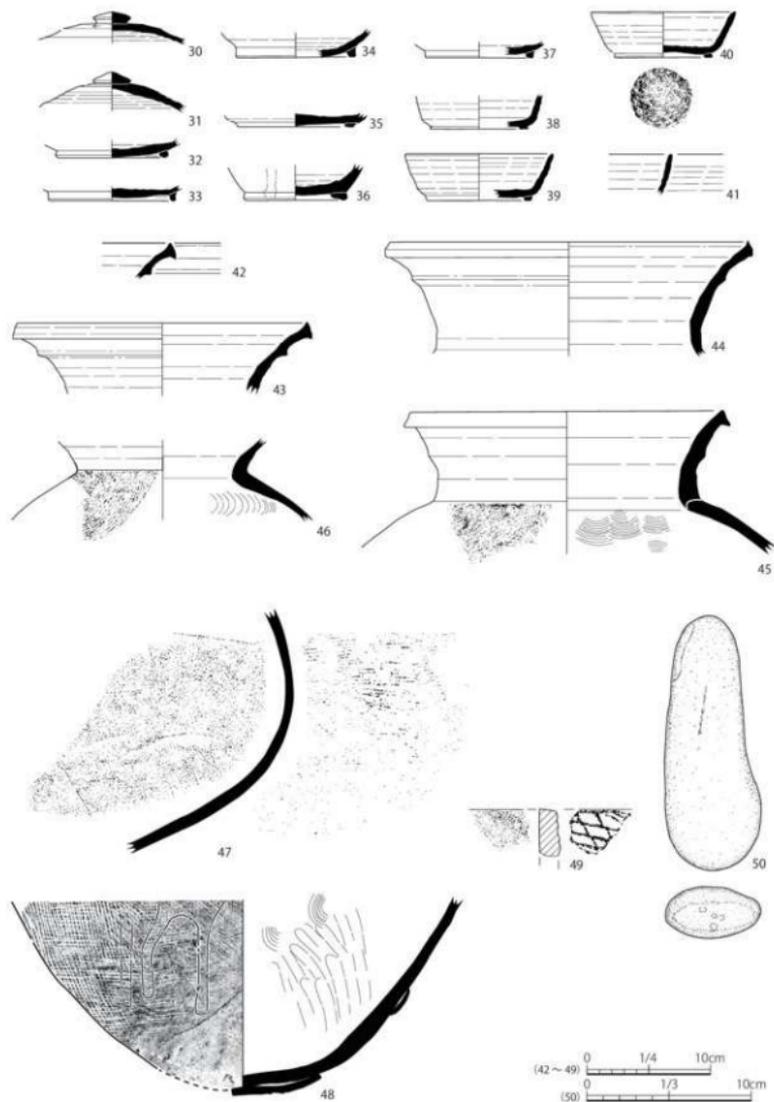
第223図 SD301 遺物出土状況概図(南)



第224図 SD301 遺物出土状況概図(北)



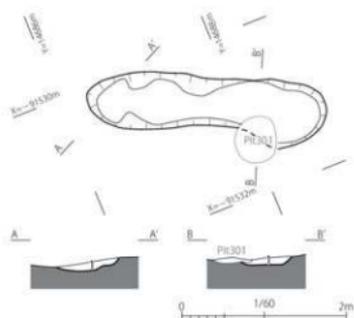
第225図 SD301 出土遺物実測図①



第226図 SD301 出土遺物実測図②

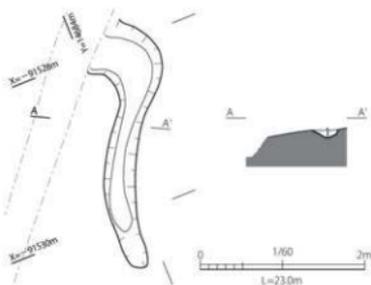
第33表 SD301 出土遺物観察表

神田番号	品番号	写真 図版	遺物名	種類 説明	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第225図-16	42 43 44 45 46 47 35 77	PL.17	SD301	土師器 杯	11.2	7.4	4.1	良好	85%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	墨書
第225図-17	118	PL.16	SD301	土師器 杯	12.1	8.7	3.8	良好	ほぼ完形	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第225図-18	35	-	SD301	土師器 杯			(1.8)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	墨書
第225図-19	35 77	PL.17	SD301	土師器 杯	(11.5)	(7.9)	3.9	良好	40%	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	墨書 反転復元
第225図-20	134	PL.16	SD301	土師器 杯	11.2	7.2	3.3	良好	完形	10R5/6 (赤) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
第225図-21	61 76 150 35 81 248 ~ 253	PL.17	SD301	土師器 杯	12.5	8.8	3.4	良好	60%	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	反転復元
第225図-22	67	PL.17	SD301	土師器 杯			(3.9)	良好	-	2.5YR6/6 (橙)	22と 同一個体
第225図-23	73	PL.17	SD301	土師器 杯			(2.6)	良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	22と 同一個体
第225図-24	73	PL.17	SD301	土師器 杯		(6.7)	(1.3)	良好	20%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	反転復元
第225図-25	73	PL.17	SD301	土師器 杯		(7.2)	(1.7)	良好	20%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	反転復元
第225図-26	35 62 215 216	PL.17	SD301	土師器 小型壺	(12.0)		(5.8)	良好	20%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	反転復元
第225図-27	101	PL.17	SD301	須恵器 瓶 (直)		(6.0)	4.7	良好	25%	N4/ (灰) 2.5Y7/3 (黄灰)	反転復元
第225図-28	147 148 149 77 35 154	PL.18	SD301	土師器 壺		7.2	(5.9)	良好	60%	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	本変京 反転復元
第225図-29	132	PL.17	SD301	土師器 壺	(23.2)		(2.2)	良好	20%	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/4 (にぶい橙)	反転復元
第226図-30	126	PL.18	SD301	須恵器 蓋		つまみ径3.0	(2.6)	良好	80%	2.5Y6/1 (黄灰) N6/ (灰)	一部反転復元
第226図-31	133	PL.18	SD301	須恵器 蓋		つまみ径3.0	(3.1)	良好	25%	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	一部反転復元
第226図-32	60	PL.18	SD301	須恵器 高台杯		(8.5)	(1.5)	良好	20%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y7/1 (灰白)	反転復元
第226図-33	32	PL.18	SD301	須恵器 高台杯		(10.3)	(1.1)	良好	25%	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	反転復元
第226図-34	90	PL.18	SD301	須恵器 高台杯		(9.6)	(2.2)	良好	20%	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	反転復元
第226図-35	128	PL.18	SD301	須恵器 高台杯		9.3	(1.0)	良好	80%	5Y6/1 (灰) 5Y5/1 (灰)	一部反転復元
第226図-36	34	PL.17	SD301	須恵器 高台杯		8.0	(2.9)	良好	70%	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	反転復元
第226図-37	102 37	PL.18	SD301	須恵器 高台杯		(8.6)	(1.3)	不良	20%	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y8/1 (灰白)	反転復元
第226図-38	144	PL.18	SD301	須恵器 高台杯		7.9	(2.7)	良好	20%	7.5Y4/1 (灰) 7.5Y4/1 (灰)	反転復元
第226図-39	66	PL.18	SD301	須恵器 高台杯	(11.8)	(8.3)	3.8	良好	20%	N4/ (灰) N4/ (灰)	反転復元
第226図-40	125	PL.18	SD301	須恵器 高台杯	(11.5)	7.9		良好	50%	N5/ (灰) N5/ (灰)	一部反転復元
第226図-41	80	PL.18	SD301	須恵器 高台杯			(3.2)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
第226図-42	55	PL.18	SD301	須恵器 壺			(2.7)	良好	-	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	
第226図-43	96 138	PL.18	SD301	須恵器 壺	(23.6)			良好	20%	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	反転復元
第226図-44	95 143	PL.18	SD301	須恵器 壺	(29.0)		(9.3)	良好	25%	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	反転復元
第226図-45	93 114	PL.18	SD301	須恵器 壺	(25.2)		(11.6)	良好	20%	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	反転復元
第226図-46	71 127	PL.18	SD301	須恵器 壺			(6.8)	良好	40%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	反転復元
第226図-47	37 88 105 108 113 116	PL.19	SD301	須恵器 壺			(17.5)	良好	-	2.5YR6/1 (黄灰) 2.5YR6/1 (黄灰)	
第226図-48	121 123 131 78	PL.19	SD301	須恵器 壺		14.5	(15.0)	良好	30%	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/1 (黄灰)	一部反転復元
第226図-49	247	PL.18	SD301	瓦 平瓦	残存長 3.8	残存幅 5.0		良好	-	7.5Y7/6 (橙) 7.5Y7/6 (橙)	
第226図-50	73	PL.19	SD301	石磨 砥石	長さ 15.6	短径 5.8	厚さ 3.1				



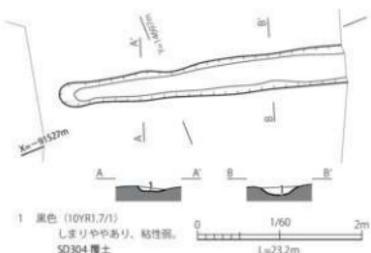
1 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を中量含む。SD302 覆土

第 227 図 SD302 平面図・セクション図



1 黒色 (7.5YR2/1) しまりなし、粘性なし、全体的に砂質。SD303 覆土

第 228 図 SD303 平面図・セクション図



1 黒色 (10YR1.7/1) しまりややあり、粘性弱。SD304 覆土

第 229 図 SD304 平面図・セクション図

第 35 表 Pit302 出土遺物観察表

検出番号	R 番号	写真図版	遺物名	類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第 230 図-51-36	PL.19	Pit302	須恵器 埴	(11.4)		(4.0)		良好	25%	2.5Y6/2 (灰黄) 7.5Y6/1 (灰)	反転復元

SD304

位置 第3調査区拡張部の中央で検出された。

重複関係 なし

残存状況 東西方向に直線的に伸び、西端は丸く取まる。東側は調査区外にあり、全長は不明。検出部分で、東西長 3.50m、幅 0.25～0.45m を測る。断面形は浅い U 字形を呈し、検出面からの深さはおよそ 0.10m である。覆土 黒色土が堆積していた。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見 (時期) 時期や性格は不明である。

土坑・ピット

第3調査区では、8基の土坑と7基のピットが検出された。各遺構の概要を第34表に示す。

土坑・ピットの配置に、複数で遺構を構成するような規則性は見出せない。また、SK301～308の土坑8基は中近世のものと考えられる。

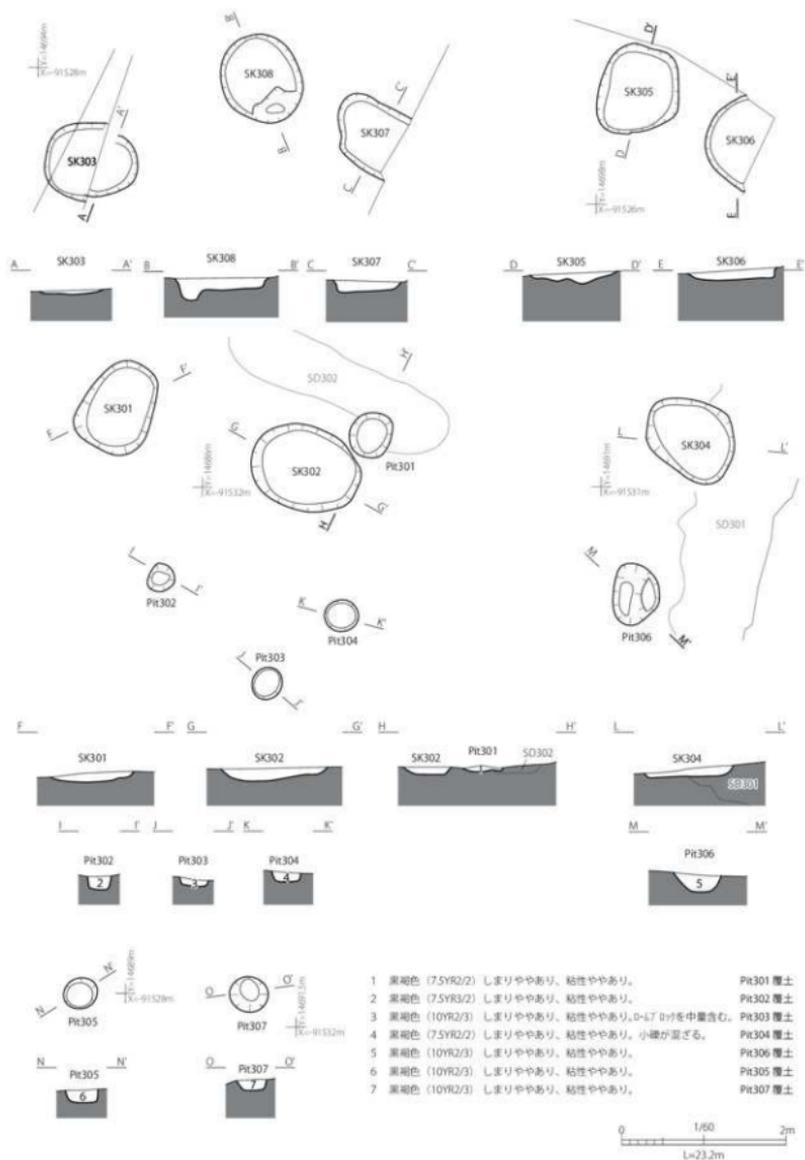
遺物は、Pit302から出土した須恵器埴身1点を図示した(第230図-51)。8世紀末から9世紀初頭に位置づけられるものである。

第 34 表 第 3 調査区 土坑・ピット一覧

遺構番号	全長	短軸	深さ	平面形	断面形	切りかへ関係 (古→新)
SK301	114	84	12	楕円形	平底	
SK302	135	102	16	楕円形	平底	
SK303	114	96	11	円形	平底	SD301 → SK303
SK304	120	90	12	楕円形	平底	SD301 → SK304
SK305	120	97	10	楕円形	平底	
SK306	(107)	(74)	9	(円形)	平底	
SK307	(88)	80	15	(楕円形)	平底	
SK308	109	93	14	楕円形	平底	
Pit301	57	50	7	円形	平底	SD302 → Pit301
Pit302	33	30	15	円形	平底	
Pit303	39	36	9	円形	平底	
Pit304	41	39	12	円形	平底	
Pit305	42	37	15	円形	平底	
Pit306	76	56	21	楕円形	丸底	
Pit307	47	43	12	円形	平底	



第 230 図 Pit302 出土遺物実測図



第231図 SK301～308、Pit301～307 平面図・セクション図

(5) 本発掘調査 (第4調査区)

第4調査区の調査では、新たな擁壁設計図に合わせ、調査地のやや東寄りから中央付近に、幅約2.75m、東西長約60.00m、南北長約30.00mのL字型の調査区を設定した。重機により遺構確認まで掘削した後、人力により遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、竪穴建物跡2軒 (SB401・402)、溝状遺構4条 (SD401～404)、土坑9基 (SK401～409)、ピット89基 (Pit401～489) を検出・調査し、測量や写真撮影等による記録保存を行った。

竪穴建物跡

SB401

位置 調査区の南北方向に延びる範囲の中央で検出された。1次調査3TrのSB02と同一遺構と判断した。

重複関係 (古) SB401 → Pit432 (新)

主軸方位 N-30°-E (検出された壁から推定)

残存状況 東壁と床面の一部が検出されたのみで、西側の大部分が調査区外にあると考えられる。また、北壁をPit432に切られている。検出部分で南北幅2.32m、検出面からの深さ0.36mを測る。

覆土 ローム土を含む黒色土・黒褐色土が堆積していた。壁溝・柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

方マド 検出範囲では確認されなかった。

出土遺物 2点図示した (第234図・52・53)。52は須恵器ハソウの胴部片で、胴部形は算盤玉状を呈し、屈曲部に注口がつくりつけられている。ハソウの最終段階のものともみられ、8世紀前半に位置づけられる。53は8世紀代の須恵器坏蓋である。

所見 (時期) 出土遺物からは、8世紀前半の建物跡と考えられる。

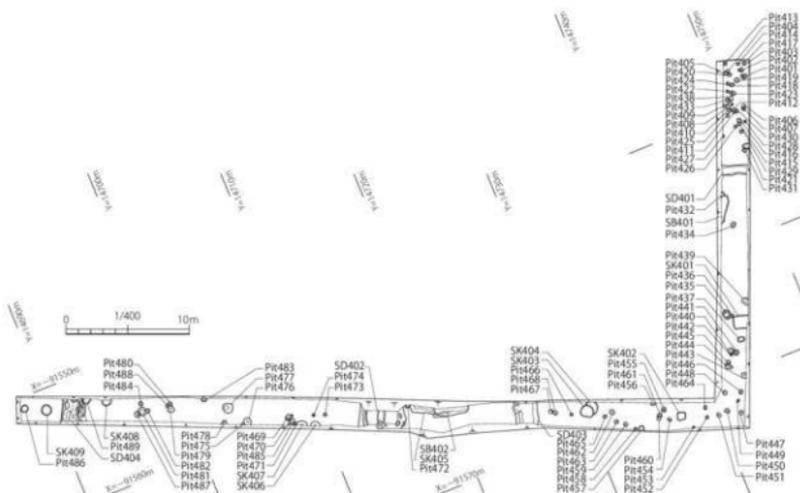
SB402

位置 第4調査区の東西方向に延びる範囲の中央寄りで検出された。

重複関係 (古) SB402 → SK405 (新)

主軸方位 N-10°-E (検出された壁から推定)

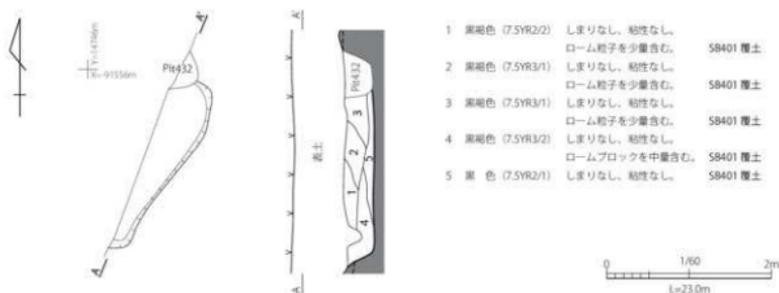
残存状況 南壁と床面の一部が検出されたのみで、北側の大部分が調査区外にあると考えられる。また、西壁をSK405に切られている。検出部分で東西幅2.95m、検出面からの深さ0.56mを測る。



第232図 第4調査区 全体図

覆土 粘土や炭化材が混ざる黒褐色土が堆積していた。
 壁溝・柱穴 検出されなかった。
 床 掘り方を床面とする。
 カマド 検出範囲では確認されなかった。
 出土遺物 少数出土したが、図示には至らなかった。
 所見(時期) 方形プランが検出され、上面で遺物が出

土したため建物跡としたが、覆土には混ざりが多く、自然堆積のようにみられないこと、粘土が混ざるのも西南コーナー付近でカマド粘土の拡がりとは言い切れないことなどから、奈良・平安時代の建物跡と断定はできない。中近世以降の遺構、あるいはSD402・403と同様に戦中・戦後の掘削の可能性も考えられる。



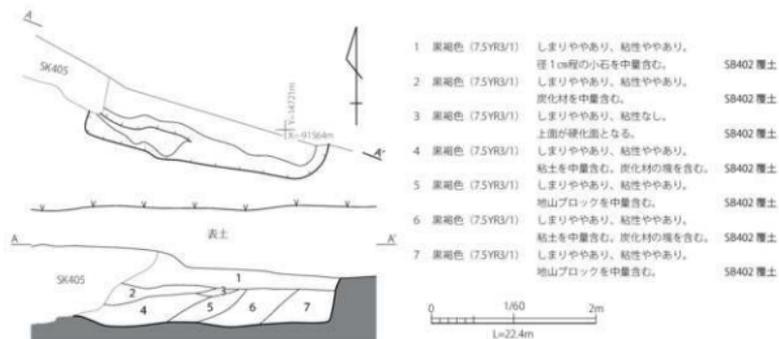
第233図 SB401 平面図・セクション図



第234図 SB401 出土遺物実測図

第36表 SB401 出土遺物観察表

押込番号	B番号	写真 図版	遺構名	種別 形質	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第234図-52	カクニ0050	PL.19	SB401	須恵器 ハソウ	注口径1.4	(2.8)	良好	20%	SY6/1 (灰) 7.5YR6/1 (灰)	反転復元	
第234図-53	カクニ0050	PL.19	SB401	須恵器 坏蓋	(17.5)	(2.3)	良好	20%	SY7/2 (灰白) SY7/1 (灰白)	反転復元	



第235図 SB402 平面図・セクション図

溝状遺構

SD401

位置 調査区の南北方向に延びる範囲の中央やや北寄り
で検出された。

重複関係 なし

主軸方位 N-68°-W

残存状況 東西方向に延びる溝だが、両端は調査区外に
あり全長は不明である。幅はおよそ0.80m、検出面か
らの深さはおよそ0.20mを測る。

覆土 ローム土を含む黒褐色土が堆積していた。

出土遺物 数点の遺物が出土したが図示には至らなかつ
た。

所見(時期) 時期、性格等は不明である。

SD402

位置 調査区の東西方向に延びる範囲の中央で検出され
た。

重複関係 なし

主軸方位 N-22°-E

残存状況 南北方向に延びる溝と捉えたが、調査区南壁
で南端が検出された。北端は調査区外にあり全体の規模
は明らかでない。検出部分で幅およそ3.50~3.80mを
測る。床面は平らで、検出面から床面までの深さはおよ
そ1.25mを測る。床面の中央には幅0.64m、深さ0.12m

の溝状の掘り込みが認められる。壁は垂直に近く立ち上
がり、西壁の下部には低い段がつくられ、東壁には幅
24~38cm、奥行き14~24cmの掘り込みが互い違いに
3ヶ所設けられている。

覆土 最下層の黒色土の上に、赤褐色の砂を含む黒褐色
土が互層状に堆積していた。

出土遺物 最下層から須恵器片1点と近代(昭和)の瓦
片1点が出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 覆土の黒褐色土から遺物が出土せず、堆
積状況から一時期に埋め戻されたものとみられること、
遺構の使用時あるいは廃絶直後の堆積とみられる黒色土
中から近代の瓦が出土したことなどから、戦時中の防空
壕のような施設と考えられる。床面に掘られた浅い溝は
雨水などの排水溝として、東壁の3ヶ所の掘り込みは出
入りのための足掛け穴として、設けられたものと推測さ
れる。

SD403

位置 調査区の東西方向に延びる範囲のやや東寄り
で検出された。第1調査区のSD102と同一遺構と考えら
れる。

重複関係 なし

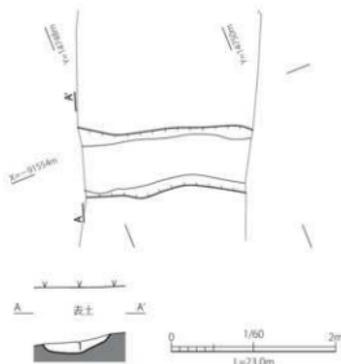
主軸方位 N-18°-E

残存状況 南北方向に走る溝として捉えたが、北側・
南側は調査区外にあり、調査時には全体の規模は明らか
とならなかった。検出部分で、幅およそ1.80mを測
る。床面は平らで、壁は外へ開く。検出面から床面ま
での深さは、およそ0.80mである。東壁が第1調査区
で検出されたSD102と一致したことから、同一遺構と
して捉えられる。SD102の検出状況を合わせると、南
北長およそ9.80mの長方形の平面プランが推定できる。
SD403は北端に近い部分となり、SD102南端の深さが
約0.25mであることから、南へ行くほど浅くなるよう
である。

覆土 黒褐色土・極暗褐色土の自然堆積層。

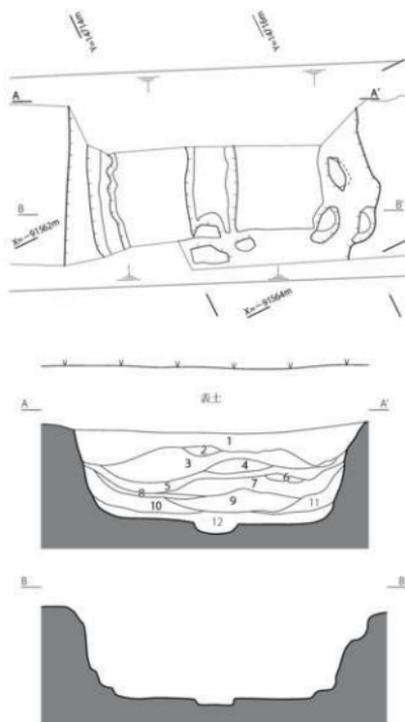
出土遺物 奈良時代の須恵器片が少量出土したが、混入
したものと考えられ、図示にも至らなかった。

所見(時期) SD402と同様に、近代の防空壕のような
掘り込みと考えられる。



1 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりなし、粘性なし、やや砂質。
ローム粒子を中量含む。 SD401 覆土

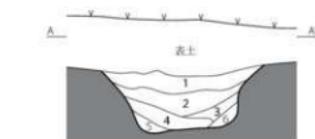
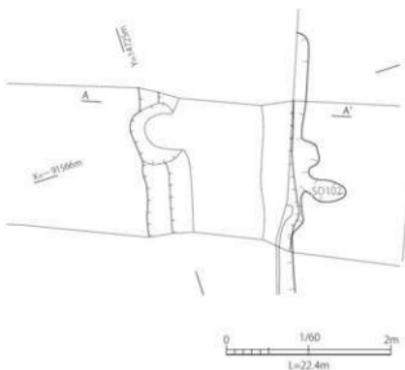
第236図 SD401 平面図・セクション図



- 1 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を少量含む。
- 2 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を中量含む。
- 3 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を多量含む。
- 4 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を多量含む。
- 5 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を多量含む。
- 6 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を中量含む。
- 7 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を多量含む。
- 8 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を少量含む。
- 9 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を多量含む。
- 10 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を少量含む。
- 11 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりなし、粘性ややあり。径2mm程の赤褐色の砂を少量含む。
- 12 黒色 (7.5YR/1) しまりなし、粘性ややあり。鉄分の固結がスジ状に認められる。

※ 1～12 はすべて SD402 覆土

第237図 SD402 平面図・セクション図



- 1 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。地山粒子を中量、炭化材を少量含む。SD403 覆土
- 2 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。径2mm程の地山アロックを中量含む。SD403 覆土
- 3 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。径1cmの小石を中量含む。SD403 覆土
- 4 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。地山粒子を少量含む。SD403 覆土
- 5 暗褐色 (7.5YR2/3) しまりあり、粘性なし。地山粒子を多量含む。SD403 覆土
- 6 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりあり、粘性なし。径1cm程の小石を中量含む。SD403 覆土

第238図 SD403 平面図・セクション図

SD404

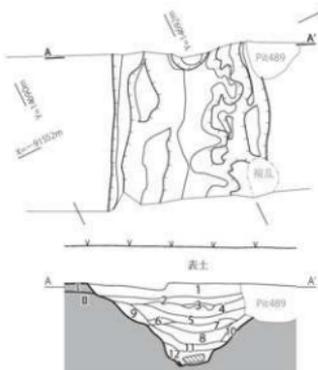
位置 東西方向に延びる調査区の西端で検出された。

重複関係 (古) SD404 → Pi489 (新)

主軸方位 N-26°-E

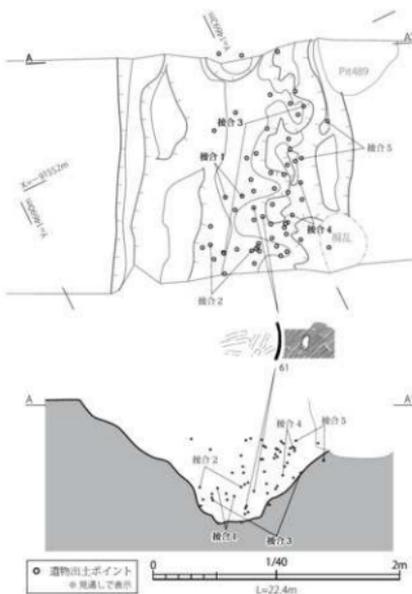
残存状況 南北方向に延びる溝で、北側と南側は調査区

外にある。東壁の北を Pi489 に、南を視乱に切られて
いる。検出部分で、幅およそ 1.90m を測る。断面は逆
三角形を呈し、検出面からの深さはおよそ 1.00m であ
る。調査区北壁際の最下層に、方形の石を横に置き小石

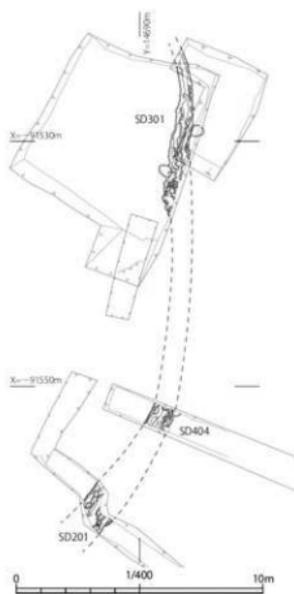


- 1 黒褐色 (10YR3/2) しまりややあり、粘性ややあり、褐色粒子を少量含む。 旧表土
 - II 地山
 - 1 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。
径 1mm のオレンジ粒子を中量、径 2mm 程の小石を少量含む。
 - 2 黒褐色 (7.5YR3/1) しまりなし、粘性なし。径 1mm のオレンジ粒子を少量含む。
 - 3 黒色 (7.5YR2/1) しまりあり、粘性なし。径 5mm の小石を極少量含む。
非常に硬く、上面が硬化面となる。
 - 4 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性なし。オレンジ粒子を中量含む。
 - 5 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりなし、粘性ややあり。オレンジ粒子を中量含む。
 - 6 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性なし。径 5mm の小石を少量含む。
 - 7 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。オレンジ粒子を中量含む。
 - 8 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。オレンジ粒子・地山粒子を中量含む。
 - 9 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりややあり、粘性ややあり。地山粒子を中量含む。
 - 10 暗褐色 (7.5YR3/3) しまりややあり、粘性ややあり。地山粒子を中量含む。
 - 11 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性ややあり。径 2mm の地山粒子を多量含む。
 - 12 黒褐色 (7.5YR2/2) しまりあり、粘性ややあり。オレンジ粒子・地山粒子を中量含む。
- ※1~12はすべてSD404層土

第239図 SD404 平面図・セクション図



第240図 SD404 遺物出土状況図



第241図 SD201・SD301・SD404 平面図

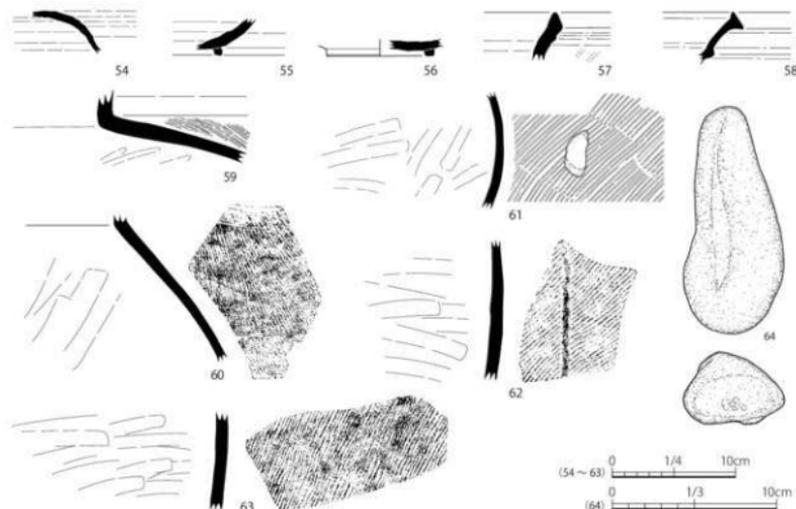
でかためたような部分が認められ、そこから遺物も出土しているが、人為的な造作か断定はできない。

覆土 黒褐色土・暗褐色土・黒色土の自然堆積層であるが、3層上面が硬化面となる。

出土遺物 須恵器 10点と石器 1点を図示した(第242図-54~64)。54は坏蓋の天井部片である。欠損しているが摘みを有する蓋で、7世紀末から8世紀初頭に位

置づけられる。55と56は高台杯の底部片である。55は碗の可能性もある。57・58は甕の口縁部片、59から63は甕の肩から胴部の破片で、内面は板ナデ、外面はタタキで調整されている。坏身と甕は8世紀代に位置づけられる。64は敲き石である。

所見(時期) 第3調査区のSD301、第2調査区のSD201と同一遺構になると考えられる。



第242図 SD404 出土遺物実測図

第37表 SD404 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	遺物名	類別 図版	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第242図-54	270	PL.19	SD404	須恵器 坏蓋			(3.4)	良好	-	N5/(灰) N5/(灰)	
第242図-55	237	PL.19	SD404	須恵器 高台杯			(3.0)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) N6/(灰)	
第242図-56	262	PL.19	SD404	須恵器 高台杯	(8.5)	(1.3)	良好	-	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)		反転復元
第242図-57	266	PL.19	SD404	須恵器 甕			(3.7)	良好	-	5Y7/1 (灰白) 10Y7/1 (灰白)	
第242図-58	231	PL.19	SD404	須恵器 甕			(4.2)	良好	-	5Y6/1 (灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
第242図-59	207	PL.19	SD404	須恵器 甕			6.0	良好	-	5Y7/1 (灰白) 10Y6/2 (オリーブ灰)	
第242図-60	193 240	PL.19	SD404	須恵器 甕			(11.9)	良好	-	5Y6/1 (灰) 7.5Y7/1 (灰白)	
第242図-61	261 268	PL.19	SD404	須恵器 甕			9.4	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 7.5Y5/3 (灰オリーブ)	
第242図-62	192	PL.19	SD404	須恵器 甕			11.2	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 5Y7/2 (灰白)	
第242図-63	239	PL.19	SD404	須恵器 甕			4.8	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
第242図-64	274	PL.19	SD404	石器 敲石	長径 13.9	短径 6.1	厚さ 4.4				

土坑・ビット

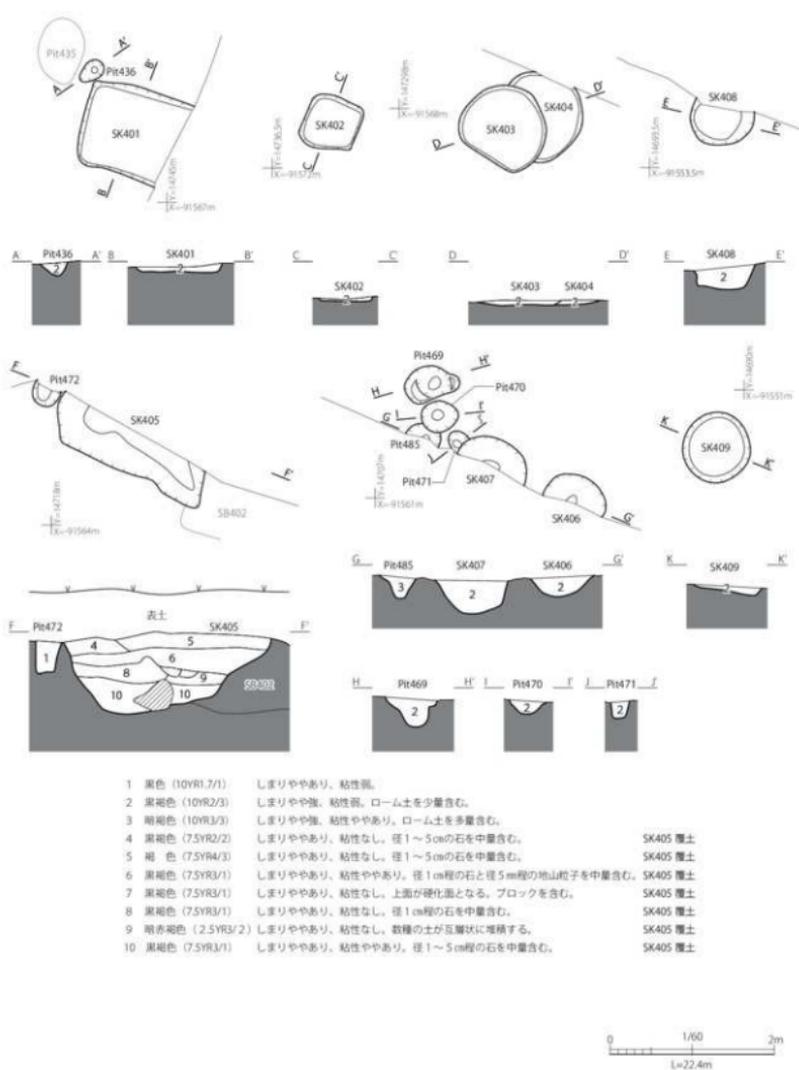
第4調査区では、9基の土坑と89基のビットが検出された。各遺構の概要を第38表に示す。

土坑・ビットの配置に、複数で遺構を構成するような規則性は見出せない。

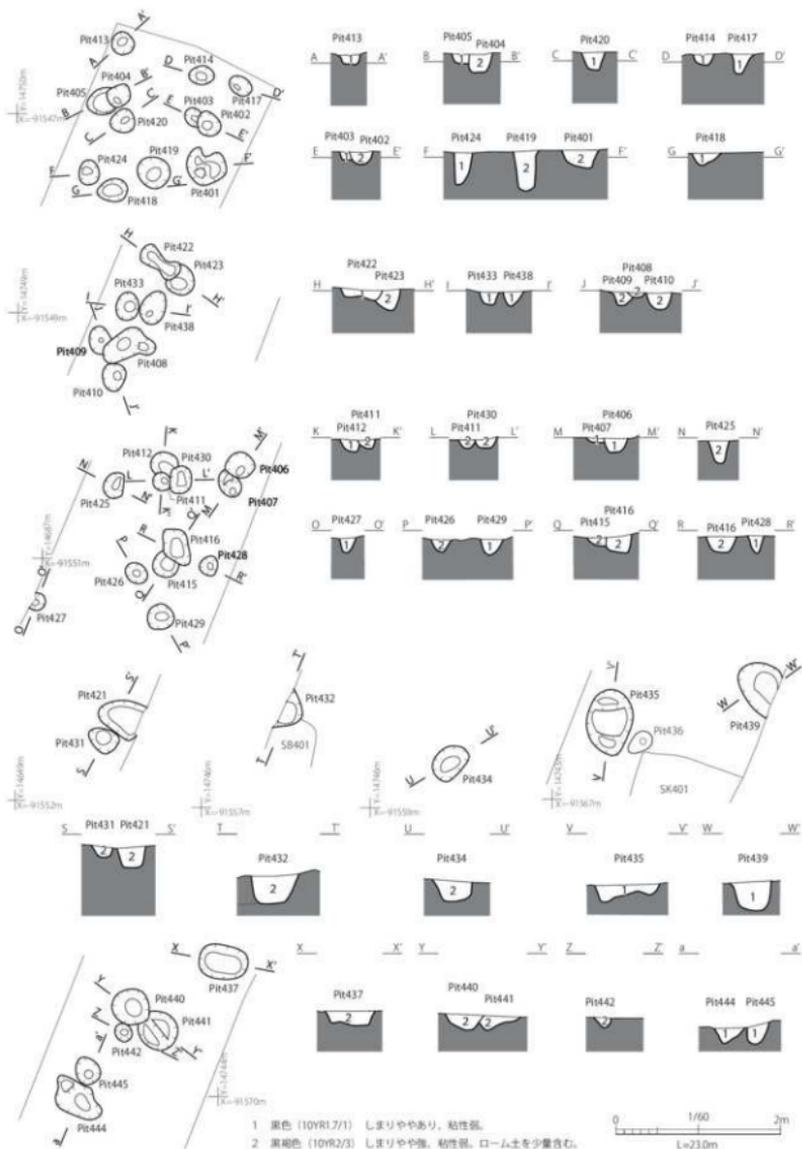
第38表 第4調査区 土坑・ビット一覧

遺構番号	規模 (cm)			平面形	断面形	切り合い関係 (古→新)
	長編	短編	深さ			
SK401 (120)	106	10		方形	平底	
SK402	66	63	8	方形	平底	
SK403	105	100	6	円形	平底	SK404 → SK403
SK404	103	(73)	7	円形	平底	SK404 → SK403
SK405	250	55	100	不定形	丸底	
SK406	70	(38)	25	円形	丸底	
SK407	86	(40)	42	円形	丸底	
SK408	76	(53)	27	円形	平底	
SK409	80	80	10	円形	平底	
Pt401	47	40	24	不定形	丸底	
Pt402	30	24	18	楕円形	丸底	Pt403 → Pt402
Pt403	17	(15)	12	円形	丸底	Pt403 → Pt402
Pt404	32	22	34	楕円形	尖底	Pt405 → Pt404
Pt405 (36)	30	30	12	楕円形	平底	Pt405 → Pt404
Pt406	31	30	26	円形	丸底	Pt407 → Pt406
Pt407	33	26	14	楕円形	丸底	Pt407 → Pt406
Pt408	61	30	24	不定形	丸底	Pt409 → Pt408
Pt409	35	25	24	楕円形	尖底	Pt409 → Pt408
Pt410	34	25	24	楕円形	丸底	
Pt411	24	22	23	円形	尖底	Pt412 → Pt411 → Pt430
Pt412 (29)	29	24		円形	尖底	Pt412 → Pt411 → Pt430
Pt413	26	24	15	円形	丸底	
Pt414	28	20	15	楕円形	丸底	
Pt415	30	(30)	15	円形	丸底	Pt415 → Pt416
Pt416	46	29	27	楕円形	平底	Pt415 → Pt416
Pt417	27	20	25	楕円形	丸底	
Pt418	34	25	16	楕円形	丸底	
Pt419	39	35	50	円形	丸底	
Pt420	29	24	22	楕円形	丸底	
Pt421 (50)	29	24	22	楕円形	平底	
Pt422	55	22	19	不定形	平底	Pt423 → Pt422
Pt423	33	(30)	25	円形	丸底	Pt423 → Pt422
Pt424	27	22	40	楕円形	丸底	
Pt425	30	25	29	円形	丸底	
Pt426	22	21	15	円形	丸底	
Pt427	21	(18)	19	円形	平底	
Pt428	22	20	23	円形	尖底	
Pt429	31	27	23	楕円形	丸底	
Pt430	33	(20)	16	楕円形	丸底	Pt412 → Pt411 → Pt430
Pt431	37	26	15	楕円形	平底	
Pt432	50	(29)	35	円形	平底	SB401 → Pt432
Pt433	31	24	16	楕円形	丸底	
Pt434	42	29	27	楕円形	丸底	
Pt435	81	56	22	楕円形	丸底	
Pt436	38	22	17	楕円形	丸底	
Pt437	57	39	18	楕円形	平底	
Pt438	40	26	24	楕円形	尖底	
Pt439	50	50	36	楕円形	丸底	

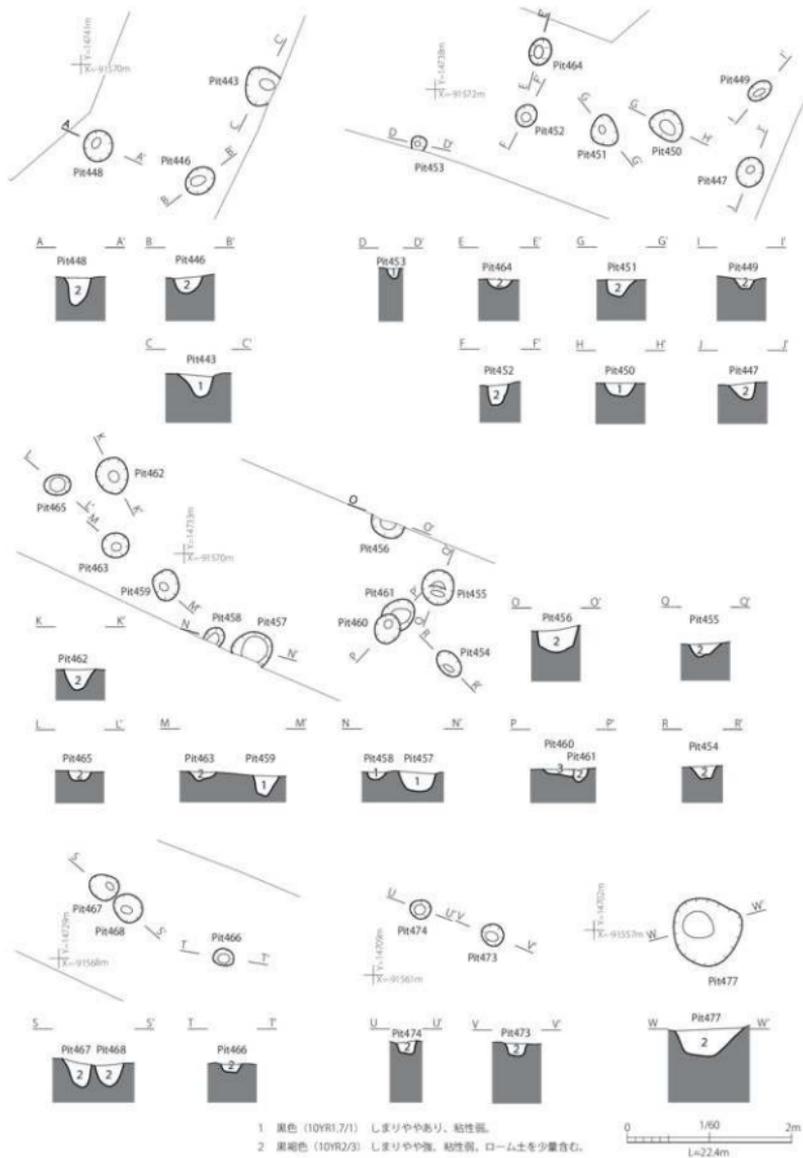
遺構番号	規模 (cm)			平面形	断面形	切り合い関係 (古→新)
	長編	短編	深さ			
Pt440	42	40	22	円形	丸底	
Pt441	48	42	19	楕円形	丸底	Pt441 → Pt440
Pt442	24	20	12	楕円形	丸底	
Pt443	44	34	28	楕円形	丸底	
Pt444	66	40	25	不定形	丸底	
Pt445	30	25	27	楕円形	丸底	
Pt446	35	26	20	楕円形	丸底	
Pt447	35	28	21	楕円形	丸底	
Pt448	35	30	35	楕円形	丸底	
Pt449	29	20	16	楕円形	丸底	
Pt450	39	30	17	楕円形	丸底	
Pt451	36	30	21	楕円形	丸底	
Pt452	25	24	26	円形	丸底	
Pt453	19	16	12	円形	丸底	
Pt454	32	23	19	楕円形	尖底	
Pt455	40	34	22	楕円形	丸底	
Pt456	40	(21)	10	円形	丸底	
Pt457	45	(36)	24	円形	丸底	
Pt458	(23)	22	11	楕円形	丸底	
Pt459	34	26	25	楕円形	丸底	
Pt460	37	30	24	楕円形	丸底	Pt461 → Pt460
Pt461 (24)	26	22	(円形)	丸底	丸底	Pt461 → Pt460
Pt462	40	38	26	円形	丸底	
Pt463	30	28	10	円形	丸底	
Pt464	30	24	13	楕円形	丸底	
Pt465	28	28	13	円形	平底	
Pt466	25	20	11	楕円形	平底	
Pt467	33	29	35	楕円形	丸底	
Pt468	35	29	30	楕円形	丸底	
Pt469	66	39	37	楕円形	丸底	
Pt470	40	36	18	楕円形	丸底	
Pt471	30	27	25	円形	丸底	
Pt472	30	(24)	36	(円形)	丸底	
Pt473	27	25	17	円形	丸底	
Pt474	26	24	15	円形	丸底	
Pt475	29	(15)	42	(円形)	丸底	
Pt476	61	60	33	円形	丸底	
Pt477	81	70	41	楕円形	丸底	
Pt478	40	(31)	37	(円形)	丸底	
Pt479 (52)	56	24	24	不定形	丸底	Pt479 → Pt480
Pt480	37	32	23	楕円形	丸底	Pt479 → Pt480
Pt481	66	53	36	楕円形	平底	Pt482 → Pt481
Pt482 (33)	32	22	(楕円形)	平底	丸底	Pt482 → Pt481
Pt483	39	(29)	35	楕円形	丸底	
Pt484	35	30	20	楕円形	丸底	
Pt485	39	(22)	26	(円形)	尖底	
Pt486	30	30	18	円形	丸底	
Pt487 (43)	44	29	(楕円形)	丸底	丸底	
Pt488	27	(23)	13	(円形)	丸底	
Pt489	86	(45)	46	(円形)	丸底	SD404 → Pt489



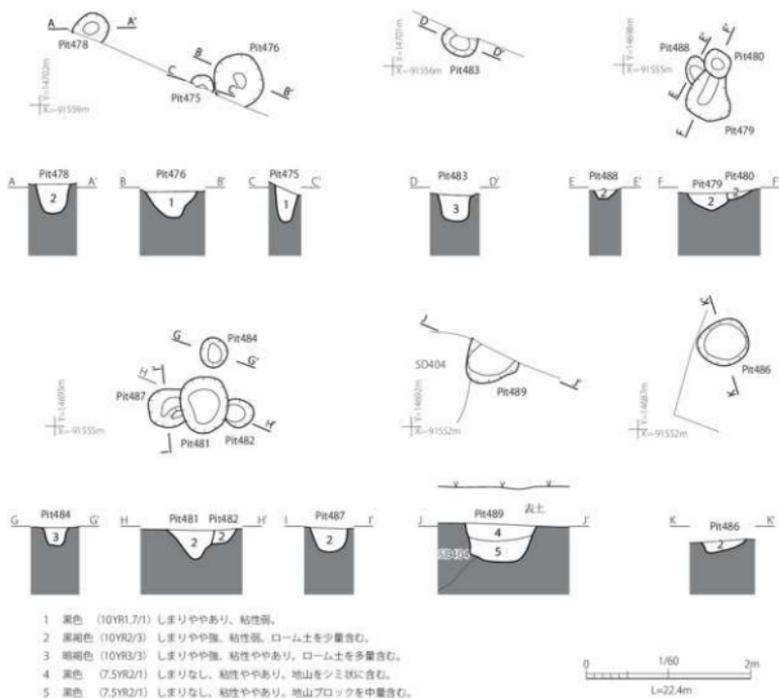
第243図 SK401~409、Pit436・469~472・485 平面図・セクション図



第244図 Pit401～435・437～442・444・445 平面図・セクション図



第 245 図 Pit443～468・473・474・477



第246図 Pit475・476・478～484・486～489

表採遺物

遺構には伴わないものであるが、調査中に出土した遺物から須恵器甕の口縁部片1点を図示した(第247図-65)。外面に波状文が施されている。



第247図 表採遺物 実測図

第39表 表採遺物 観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名	種別 器名	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第247図-65	185		PL.19 表採	須恵器 甕			(4.1)	良好	-	5Y7/2 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	

第3節 第11地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（個人）は、自身が所有する富士市伝法字中ノ坪1056-1外4筆（816.38㎡）において、長屋住宅新築工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「中桁・中ノ坪遺跡」の範囲内にあることから、平成26年9月2日、事業者より富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出された。これを受けて文化振興課は、9月9日、文化財保護法第99条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富教文発第345号）、文化振興課職員による確認調査を行うこととなった。

(2) 確認調査

確認調査は9月11日から17日にかけて行った。

旧建物が解体された跡地に地山が露出しており、すでに堅穴建物跡とみられるプランが確認される状況であったため、その範囲（1Tr）と、長屋住宅新築に伴って合併浄化槽が設置される予定の範囲（2Tr）に方形のトレンチを設定した（総面積110.960㎡）。2Trの重機掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、旧建物の基礎により一部が破壊されていたものの、1Trでは堅穴建物跡3軒と多数の土坑・ピットが確認され、2Trでも、少なくとも1軒の堅穴建物跡とみられるプランが検出された。

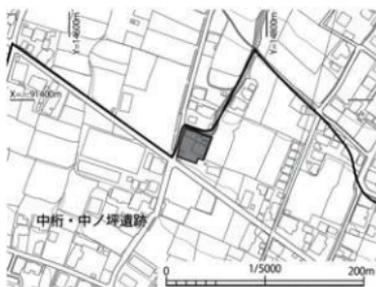
遺物は、土師器や須恵器、灰釉陶器、鉄製品がコンテナ1箱分出土し、9月22日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第364号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第364-2号）を提出した。これは、10月9日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1167号）。

9月19日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富教文発第362号）を提出した。また、事業者には、工事計画の変更あるいは本発掘調査の実施の必要がある旨を伝えた。

(3) 本発掘調査

9月25日、確認調査の結果を受けて、県教育長から、遺跡の保護が図れない合併浄化槽建設範囲（12m）について、本発掘調査を実施するよう指示が通知され（教文第1082号-2）、事業者にこれを伝達した。

9月30日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて、



第248図 調査位置図



第249図 トレンチおよび本調査区配置図

事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。

10月3日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富教文発第405号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は10月1日から10月17日にかけて、確認調査2Trの範囲(11.972m²)を調査区として行われた。

その結果、奈良・平安時代の遺構と考えられる竪穴建物跡2軒、土坑1基、ピット4基を検出・完掘し、測量・写真・観察等による記録保存を行った。

また、コンテナ1箱分の土師器・須恵器が出土し、10月14日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富教文発第432号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第432-2号)を提出した。10月27日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けた(教文第1251号)。

10月16日、事業者ならびに県教委宛に「発掘調査結果概要」(富教文発第439号)を提出した。10月24日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富教文発第465号)、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

(4) 整理作業

調査終了後、発掘調査報告書(本書)刊行のための整理作業を開始し、発掘記録図面類・観察表等の整理、遺構図・遺物図のトレース作業、遺物の写真撮影、報告の執筆等を行い、これらを編集して報告書を作成した。

平成29年3月31日、中桁・中ノ坪遺跡第7地区埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。



第250図 1Tr 遺構検出状況(南西より)

(5) 調査の体制

本書で報告する一連の調査は、以下の体制で実施した。

平成26年度(確認調査、本発掘調査)

(事務局)	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
		教育次長	鈴木 清二
	文化振興課	課長	渡井 義彦
		主幹	前田 勝己
(担当)	埋蔵文化財調査室	首席主事	佐藤 祐樹
		臨時職員	若林 美希

平成27年度(整理作業)

(事業主体)	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
(事務局)	富士市民政部	部長	加納 孝則
	文化振興課	課長	町田 しげ美
		統括主幹	前田 勝己
(担当)	埋蔵文化財調査室	首席主事	佐藤 祐樹

2. 調査の成果

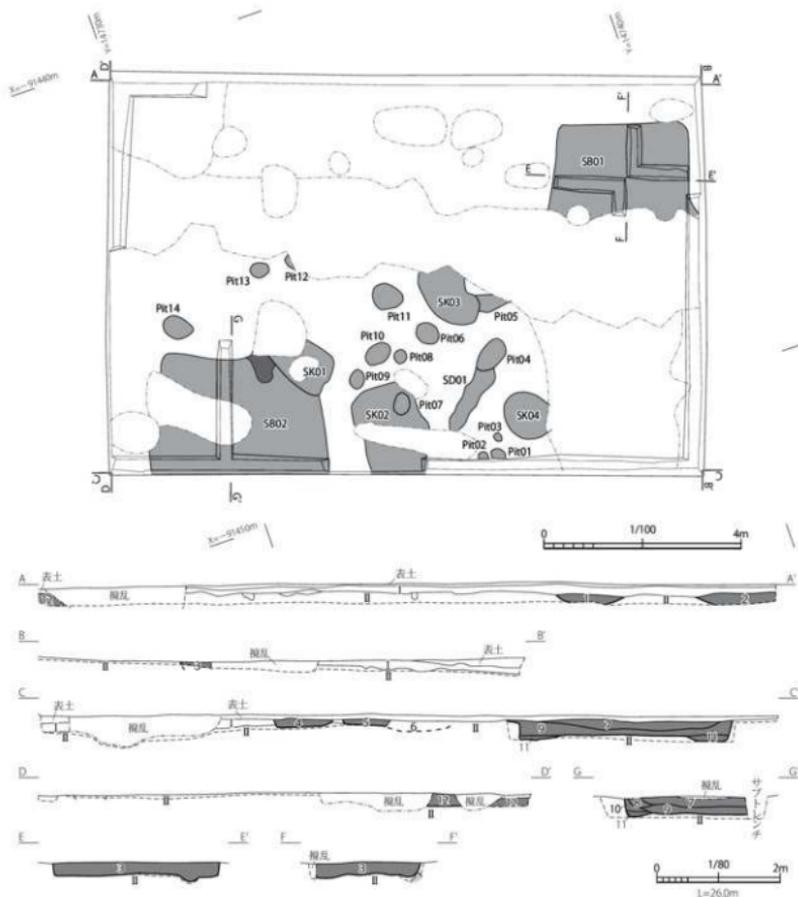
(1) 確認調査

1Trでは、竪穴建物跡3軒(SB01・02・04)、溝状遺構1基(SD01)、土坑4基(SK01～04)、ピット14基(Pit01～14)とみられる遺構プランが検出された。

SB01は1Trの北東部分で検出された。南側は攪乱により大きく失われている。東西幅は2.70m、南北幅は残存で1.70mを測り、検出面からの深さは20～25cmである。SB02は1Trの南西部で検出された。南側はトレンチ外にありSK01や攪乱により削られている部分もあるが、平面プランは方形を呈するとみられる。東西幅は3.46m、検出された南北幅は2.30mを測り、検出面からの深さは25～30cmである。北壁のやや東寄りに粘土の広がり認められ、おそらくカマドが存在したものと考えられる。覆土は、褐色粒子・小礫を含む黒褐色土が自然堆積しており、土層断面観察では、掘り方を床面とし、幅40～50cmほどの壁溝を有していた様子が認められる。SB01とSB02の主軸は、ほぼ同方位に向けられており、およそN-20°-Eを示す。

SB04は1Tr北西角の土層断面で確認された。平面プラン・規模等は不明である。覆土は褐色粒子を微量に含む黒色土で、検出面からの深さは20cmを測る。

2Trの範囲には本発掘調査を実施したため、詳細は次項での報告とする。



- | | |
|-----------------|---|
| Ⅰ 黒褐色 (10YR2/2) | しまり強、粘性弱。褐色粒子を微量含む。 |
| Ⅱ 暗褐色 (10YR3/4) | しまり強、粘性弱。ローム層。 |
| Ⅲ 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性弱。II層の土がブロック状に中量混ざる。径5mmほどの小礫が混ざる。 |
| Ⅳ 黒褐色 (10YR2/2) | しまり強、粘性弱。径1mmほどの褐色粒子を中量含む。径5～30mmの小礫が混ざる。 |
| Ⅴ 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性弱。褐色粒子を中量含む。径5～10mmの小礫が中量混ざる。 |
| Ⅵ 黒褐色 (10YR2/2) | しまり強、粘性なし。径1～3mmの褐色粒子を少量含む。 |
| Ⅶ 黒褐色 (10YR2/2) | しまり強、粘性弱。径1～3mmの褐色粒子を少量含む。 |
| Ⅷ 黒褐色 (10YR2/3) | しまりやや強、粘性弱。径1mmの褐色粒子を中量、径5mmの小礫を多量含む。 |
| Ⅷ 黒褐色 (10YR2/2) | しまり強、粘性なし。径1～3mmの褐色粒子を微量。径5mmの小礫を少量含む。 |
| Ⅸ 黒褐色 (10YR2/2) | しまりやや強、粘性弱。径1～3mmの褐色粒子を少量。径5mmの小礫を中量含む。 |
| Ⅹ 黒褐色 (10YR2/3) | しまり強、粘性弱。径1～3mmの褐色粒子を少量含む。 |
| Ⅺ 暗褐色 (10YR3/3) | しまり強、粘性弱。II層の土が少量混ざる。 |
| Ⅻ 黒色 (7.5YR2/1) | しまり強、粘性弱。径1mmほどの褐色粒子を微量含む。II層の土が微量混ざる。 |

- | |
|---------|
| 白黄土 |
| 地山 |
| Pt16 覆土 |
| Pt17 覆土 |
| SB01 覆土 |
| SK05 覆土 |
| SK02 覆土 |
| SK02 覆土 |
| SB02 覆土 |
| SB04 覆土 |

第251図 1Tr 遺構検出状況図・セクション図

(2) 本発掘調査

本発掘調査では、奈良・平安時代の遺構と考えられる
 竪穴建物跡2軒 (SB03・SB05)、土坑1基 (SK31)、ピット
 4基 (Pit15・18~20) を検出・完掘した。

竪穴建物跡

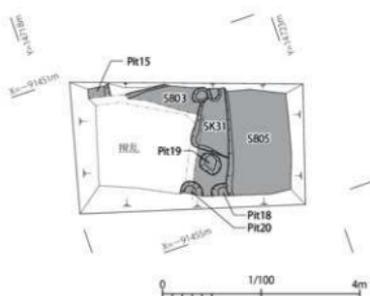
SB03

位置 調査区の中央に位置する。

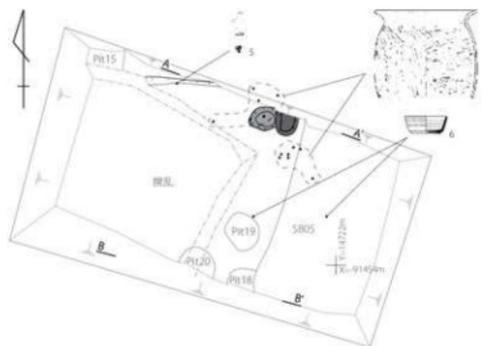
重複関係 (古) SK31 → SB03

→ SB05、Pit18、Pit20 (新)

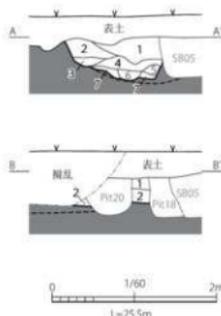
主軸方位 不明



第252図 本調査区 全体図



- | | | |
|----------|-----------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 | (75YR3/1) | しまりややあり、粘性なし。ローム粒子を中量、炭化材を少量含む。 |
| 2 黒褐色 | (75YR3/1) | しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。 |
| 3 黒褐色 | (10YR2/2) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土をシズク状に含む。 |
| 4 にじみ黄褐色 | (10YR4/3) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土を多量、炭化材を中量含む。 |
| 5 にじみ黄褐色 | (10YR4/3) | しまりややあり、粘性ややあり。粘土が主体。 |
| 6 黒褐色 | (10YR3/2) | しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子を多量含む。 |
| 7 灰褐色 | (75YR4/2) | しまりなし、粘性なし。砂質土。径1~5mmの小石を少量含む。 |



- | |
|----------------|
| SB03 覆土 |
| SB03 覆土 |
| SB03 覆土 |
| 破壊されたSB03カマドの土 |
| SB03カマド袖横埋土 |
| SB03カマド埋置覆土 |
| SB03カマド掘り方埋土 |

第253図 SB03 平面図・セクション図

残存状況 東壁をSB05に、西壁を旧建物による掘乱で
 切れ、北壁と南壁は調査区外に位置しており、北壁と
 カマドの一部が検出されたのみであるため、平面プラン
 や規模等は不明である。検出面からの深さはおよそ30
 cmを測る。

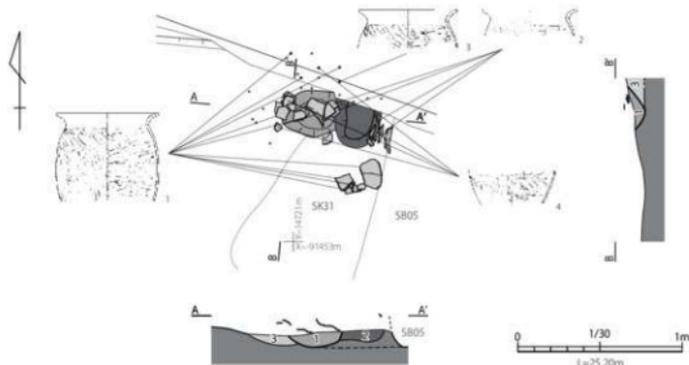
覆土 ローム粒子を含む黒褐色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

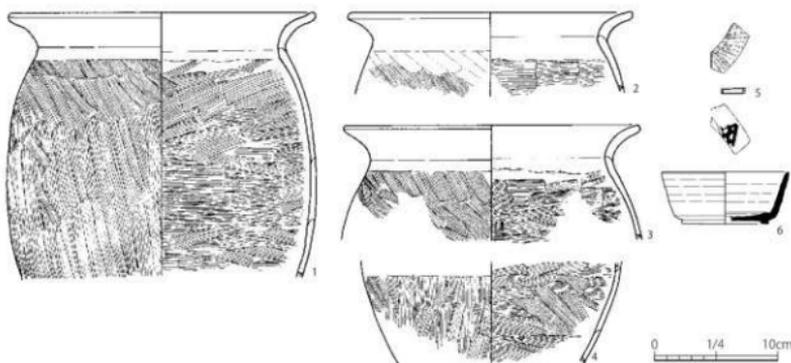
床 掘り方を床面とする。

カマド 調査区北壁際に、粘土でつくられた東袖と燃焼
 室の一部が残存していた。残存部分で、燃焼室は東西
 幅33cm、南北幅29cmを測り、東袖の幅は27cmである。
 袖と燃焼室の上部には粘土が堆積しており、燃焼室内お
 よび東袖周辺からは壊された土器器底が出土したことか
 ら、カマドは建物廃絶時に破壊されたものとみられる。
 出土遺物 6点図示した(第255図-1~6)。1~4は
 土器器底東型長脚甕である。5は黒書のある土器器底
 部片である。残存する黒書は「田」と読めるが、本地区
 の南に位置する第7地区SD201で「里」と読める黒書
 が出土しており、同様に「里」である可能性も考えられ
 る。6は体部が箱形を呈する須恵器高台である。
 所見(時期) 出土遺物から、8世紀末から9世紀初頭
 の建物跡と位置づけられる。



- 1 にぶい褐色 (7.5YR5/4) しまりややあり、粘性ややあり、粘土を多量含む。 カマド焼成空層土
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/4) しまりややあり、粘性ややあり、茶褐色土が部分的に混ざる。カマド焼成灰土
- 3 灰褐色砂質土 (7.5YR4/2) しまりなし、粘性なし。径1～5mmの小石を少量含む。 カマド窯り方層土

第254図 SB03カマド 平面図・セクション図



第255図 SB03 出土遺物実測図

第40表 SB03 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	遺構名	類別 器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第255図-1	0139 0172 0174 0216	PL.22	SB03	土師器 長胴甕	(24.4)	(24.1)	良好	30%	5YR5/4 (にぶい赤陶)	反転復元	
	0221 0229 0238 0242								5YR5/4 (にぶい赤陶)		
	0243 0244 0245 0251										
	0253 0262 0263										
第255図-2	0239 0240 0249	PL.22	SB03	土師器 長胴甕		(8.4)	良好	-	5YR5/6 (明赤陶) 5YR3/3 (暗赤陶)	反転復元	
第255図-3	0258	PL.22	SB03	土師器 長胴甕	(22.6)	(6.6)	良好	20%	7.5YR5/4 (にぶい陶) 7.5YR5/4 (にぶい陶)	反転復元	
第255図-4	0228 0232 0246 0251	PL.22	SB03	土師器 長胴甕	(23.6)	(10.3)	良好	25%	5YR5/4 (にぶい赤陶)	反転復元	
									5YR5/4 (にぶい赤陶)		
第255図-5	0189	PL.22	SB03	土師器 坪				良好	-	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR6/6 (橙)	
第255図-6	0181	PL.22	SB03	須恵器 高台坪	(10.1)	(6.9)	4.3	良好	30%	SB5/1 (青灰) N4/ (灰)	反転復元

SB05

位置 調査区東寄りで検出された。

重複関係 (古) SK31 → SB03

→ Pit18 → SB05 (新)

主軸方位 N-17°-E (検出された西壁から推定)

残存状況 北壁・東壁・南壁は調査区外にあり、西壁の一部を検出したのみであるため、平面プラン・規模等は不明である。検出された西壁は直線的で2.35mを測り、東西検出幅は北壁で1.5m、南壁で1.4mを測る。

覆土 粘土粒子・赤色粒子を含む黒色土・黒褐色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

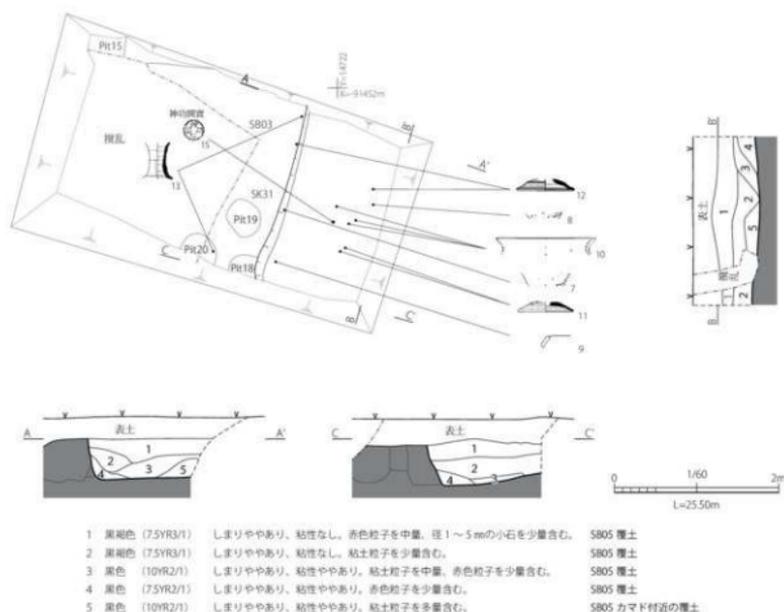
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出範囲では確認されなかった。

出土遺物 「神功開寶」1点を含む、9点を図示した(第257図-7~15)。7は土師器の鞍東型坏, 8は甲斐型坏である。いずれも8世紀後半に位置づけられる。9は土師器鞍東型甕の口縁部で、10も土師器甕の口縁部である。11・12は須恵器坏蓋で、8世紀代に位置づけられる。13は須恵器瓶の頸部、14は灰釉陶器碗の口縁部片である。15は皇朝十二銭の3番目「神功開寶」である。床面の検出範囲中央付近から出土した。

所見(時期) 出土した土師器坏と須恵器蓋から8世紀後半の建物跡と考えられる。「神功開寶」の初鑄年が765年であることも矛盾しない。



第256図 SB05 平面図・セクション図

土坑・ピット

本調査区では、1基の土坑と4基のピットが検出された。各遺構の概要を第42表に示す。

SK31

位置 調査区の中央北寄り、SB03の下から検出された。

重複関係 (古) SK31 → SB03 →

Pit18 → SB05 (新)

残存状況 北側は調査区外、東側はSB05に切られており、南西角部分のみ検出された。西壁・南壁ともに直線的である。東西残存幅0.85m、南北検出幅1.45m、検出面からの深さは13cmを測る。

覆土 ローム粒子を少量含む黒色土が堆積していた。

出土遺物 少量の遺物が出土したが、図化には至らなかった。

所見(時期) 時期、性格等は不明である。

Pit15

位置 調査区の北西角で検出された。

重複関係 なし

残存状況 北側・西側は調査区外にあり、南側は掘乱によって失われている。底面は平らで、検出された東壁は垂直に近く立ち上がり、直線的である。検出部分の規模は、南北幅0.28m、東西幅0.40m、深さ19cmである。

覆土 小石を含む黒褐色土が堆積していた。

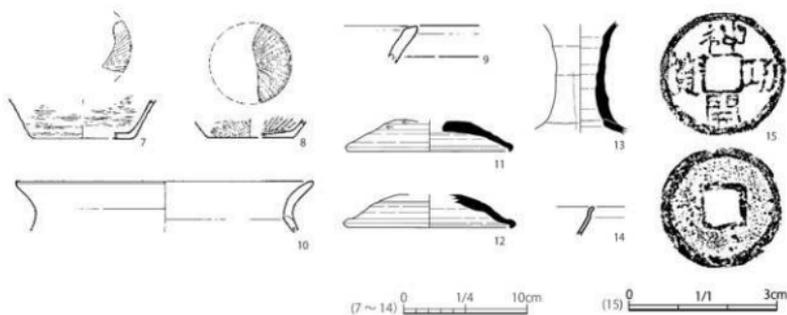
出土遺物 土師器環1点を図示した(第259図-16)。9世紀代に位置づけられる鞍東型環である。

所見(時期) 遺物の時期からは9世紀以降の遺構と言えるが、性格等は不明である。

Pit18

位置 調査区南壁際の中央で検出された。

重複関係 (古) SB03 → Pit18 → SB05 (新)



第257図 SB05 出土遺物実測図

第41表 SB05 出土遺物観察表

納品番号	R番号	写真 図版	遺構名	種類 説明	口径 (cm)	底径 (cm)	深高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第257図-7	0149		PL.22 SB05	土師器 平		(7.9)	(3.1)	良好	20%	2.5Y5/6 (明赤陶) 2.5Y5/6 (明赤陶)	反転復元
第257図-8	0215 0221		PL.22 SB05	土師器 平		(6.8)	(1.5)	良好	25%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	反転復元
第257図-9	0177		PL.22 SB05	土師器 壺			3.0	良好	-	7.5YR5/4 (にぶい濁) 7.5YR5/3 (にぶい濁)	
第257図-10	0193 0202 0204 0220 0221		PL.22 SB05	土師器 壺	(23.8)		(4.1)	良好	20%	7.5YR5/4 (にぶい濁) 7.5YR5/4 (にぶい濁)	反転復元
第257図-11	0174 0222 0223		PL.22 SB05	須恵器 平蓋	13.0		(2.5)	良好	60%	7.5Y6/1 (灰) 10Y5/1 (灰)	
第257図-12	0153 0156		PL.22 SB05	須恵器 平蓋	(13.1)		(2.6)	不良	-	5Y7/2 (灰白) 5Y7/2 (灰白)	反転復元
第257図-13	0104 0105		PL.22 SB05	須恵器 瓶			(9.0)	良好	55%	N7/ (灰白) N7/ (灰白)	一部反転復元
第257図-14	0174		- SB05	灰陶内器 碗			(2.4)	良好	-	7.5Y6/2 (灰オリーブ) 5Y7/1 (灰白)	
第257図-15	0188		PL.22 SB05	鏡 神功御寶							

残存状況 南側は調査区外にあり、東側はSB05に切られるため、西北部分のみが検出された。底面は平底で、平面プランは楕円形あるいは隅丸方形を呈するものと推定される。検出部分で東西幅33cm、南北幅27cm、検出面からの深さ49cmを測る。

覆土 黒色土が堆積していた。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 時期、性格等は不明である。

Pit19

位置 調査区の中央やや北寄りで検出された。

重複関係(古)SB03 → Pit19(新)?

残存状況 平面形は円形で、南北径40cm、東西径35cm

を測る。検出面からの深さは15cmである。

出土遺物 少量出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 時期、性格等は不明である。

Pit20

位置 調査区南壁際の中央で検出された。

重複関係(古)SB03 → Pit20(新)

残存状況 南側は調査区外にあり、西側上部は掘乱に切られている。丸底で、平面形は円形を呈すると推定される。検出部分の規模は東西径52cm、南北幅31cmである。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 時期、性格等は不明である。

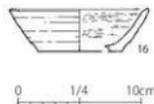


- 1 赤褐色 (7.5YR2/2) しまりなし、粘性なし。小石を中量含む。 Pit15 覆土
- 2 黒色 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。 SK31 覆土
- 3 黒色 (7.5YR2/1) しまりややあり、粘性ややあり。径1~3mmの小石を少量含む。 Pit18 覆土
- 4 赤褐色 (7.5YR2/2) しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを中量含む。 Pit20 覆土

第258図 土坑・ピット 平面図・セクション図

第42表 第11地区 土坑・ピット一覧

遺構番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ	平面形	断面形	切り合い関係 (古→新)
SK31	(145)	(85)	13	(方形)	平底	SK31 → SB03 → Pit18 → SB05
Pit15	(40)	(28)	19	(方形)	平底	
Pit18	(33)	(27)	49	(隅丸方形)	平底	SB03 → Pit18 → SB05
Pit19	40	35	15	円形	平底	SB03 → Pit19
Pit20	52	(31)	47	(円形)	丸底	SB03 → Pit20



第259図 Pit15 出土遺物実測図

第43表 Pit15 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真図版	遺構名	種類別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第259図-16	0224	PL.22	Pit15	土師器 坏	(11.0)	(6.8)	(3.4)	良好	20%	5YR4/4 (にぶい赤陶) 7.5YR4/2 (灰陶)	反転図元

第4章 舟久保遺跡の調査

第1節 舟久保遺跡の概要

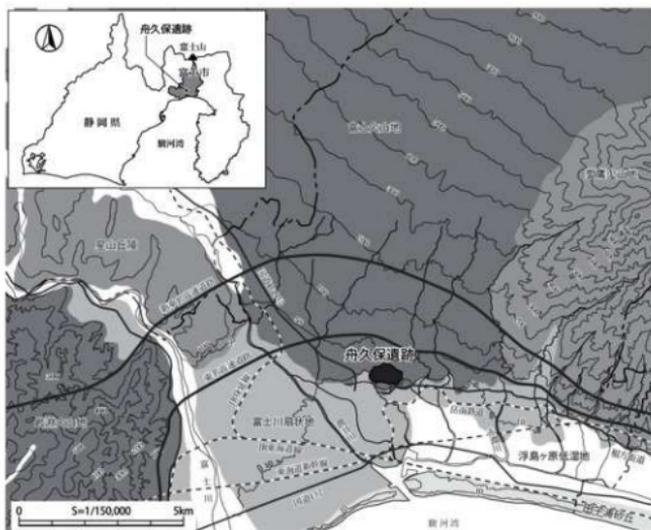
舟久保遺跡は、富士山南麓にひろがる低丘陵上、標高20～40mほどに立地し、包蔵地範囲は東西約1,000m、南北約650mの広さである。かつては北に広く、南北約1,250mを測る範囲を設定していたが、50地区に及ぶ発掘調査の結果、北半に遺跡の広がりが認められなかったことから、平成22年に現在の範囲に縮小した。

これまでに行われた発掘調査では、縄文土器片や、古墳時代の土師器も出土し、第34地区においては古墳1基（今泉6丁目第1号墳）が発見されているものの遺跡の主たる時代は奈良・平安時代である。古墳時代は墓域であり、生活域ではなかったものの、8世紀に入り、富士群である東平遺跡の整備とともに、同じ街道沿いの舟久保遺跡が計画的に整備されたものと捉えることができる。

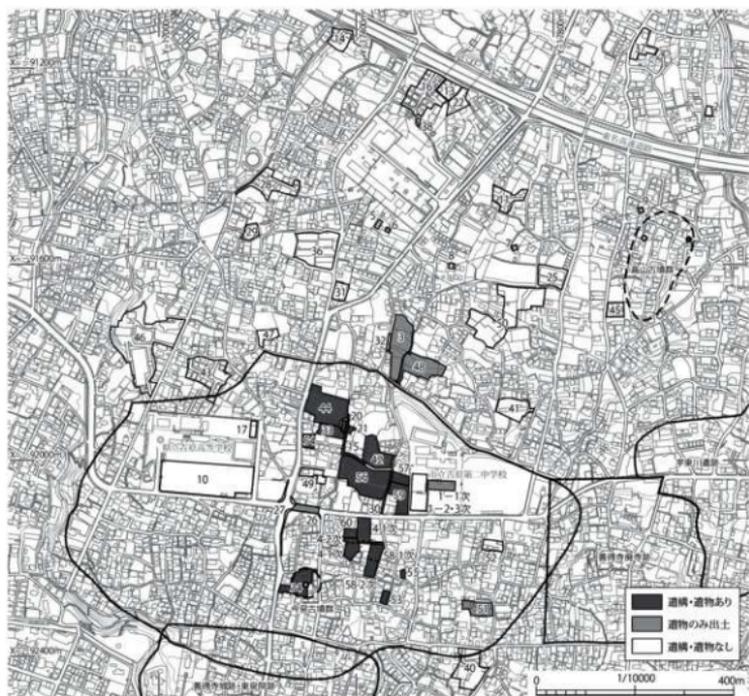
県立吉原高等学校と市立吉原第二中学校の間の、東西約220m、南北400mの範囲に竪穴建物跡50軒、掘立柱建物跡8棟が検出されている（第262図）。このうち、掘立柱建物跡は東西45m、南北25mほどの範囲（第33・44地区）に、同一方向を意識して建てられていた様子が認められ、ひとつの群と捉えられるものである。舟久保遺跡では、昭和34年3月、市立吉原第二中学校校庭での採土工事の際に1千余点の土師器片が出土し、その中に「倉」と墨書された坏があった（中野・佐藤1960）ことから、この地に公的な倉が存在した可能性が指摘されている。第33・44地区で検出された掘立柱建物群もまた、倉庫群の存在をうかがわせるものである。

参考文献

中野 国雄・佐藤 民雄 1960「吉原発見の土師器と竪穴」『戦国考古』第4号



第260図 舟久保遺跡の位置と周辺地形図



第261図 舟久保遺跡 調査履歴図

第44表 舟久保遺跡 調査履歴一覧表

調査年度	地区・区画 調査種類	調査地 調査の形態	調査面積 (㎡) 調査面積 (a)	調査期間	時代	遺構	遺物	文庫
S54	遺1地区 試掘	今泉 1955 市立吉野第二中学校校舎改築	1,781 304.6,22 210 ~ 0.25		なし		縄文土器・土師器・東屋簀	
S55	遺1地区 試掘	今泉 1955 市立吉野第二中学校校舎改築	1,781 304.6,23 ~ 0.26		なし		縄文土器・土師器・東屋簀	
S57	遺2地区 試掘	今泉 28 22-1 熊野中学校建設		507.7,16	なし		なし	
S61	遺3地区 試掘	今泉 1996-1 農村立地造成	4,321 861.10,1 300 ~ 10.8		なし		縄文土器・土師器・東屋簀	
S61	遺4地区 試掘	今泉 6 丁 1000-1 再 スエーデンクラブ建設	2,665 861.11,4 300 ~ 11.21	9世紀	竪穴建物跡 5軒、ピット 7基		土師器、東屋簀、鉄輪陶器、灰輪陶器	1
H02	遺5地区 試掘	今泉 2307-3 再 鉄骨増築	314 H2.8,1 ~ 8.3		なし		なし	
H02	遺6地区 試掘	今泉 2272-2 鉄骨増築	116 H2.8,1 4 ~ 8.3		なし		なし	
H02	遺7地区 試掘	今泉 2435-8 鉄骨増築	196 H2.8,1 4 ~ 8.3		なし		なし	
H02	遺8地区 試掘	今泉 2430-2 鉄骨増築	128 H2.8,1 4 ~ 8.3		なし		なし	
H02	遺9地区 試掘	今泉 2677-2 鉄骨増築	175 H2.8,1 4 ~ 8.3		なし		なし	
H03	遺10地区 試掘	今泉 2160 県立吉野高等学校附属施設建設	13,020 H3.8,12 236 ~ 8.22		なし		なし	
H03	遺11地区 試掘	今泉 2409-4 再 宅地造成	2,050 H3.10,14 92 ~ 10.18		なし		なし	
H04	遺13地区 試掘	今泉 3330-1 再 宅地造成	1,263 H4.7,9 178 ~ 4.8		なし		なし	
H04	遺14地区(隣接地) 試掘	今泉 3336(1) 再 共用住宅建設	1,214 48 H4.6,9		なし		なし	
H04	遺15地区 試掘	今泉 1980-1 再 今泉郡文字4号線改良	800 H4.9,21 125 ~ 10.14	鎌倉	竪穴建物跡 1軒、ピット		土師器、東屋簀	
H04	遺16地区 試掘	今泉 3336(3) 再 宅地造成	3,803 H4.10,5 500 ~ 10.19		なし		なし	
H04	遺17地区 試掘	今泉 2160 県立吉野高等学校付属施設建設	455 H4.10,16 14 ~ 10.23		なし		なし	

調査年度	地区・古墳調査区画	所在地 調査区画の名称	調査面積 (㎡)	調査内容	時代	遺構	建物	文書
H05	第20地区 本調査	今泉 1979-1 外 共同住宅建設	200 295	H5.6.28 ～7.30	奈良・平安	竪穴建物跡 5軒	土師器・灰瓦器	2
H05	第21地区 本調査	今泉 1980-5 共同住宅建設	221 165.31	H5.6.31 ～9.3	奈良・平安	竪穴建物跡 1軒	土師器・灰瓦器	2
H05	第22地区 試掘	今泉 2012-1 外 共同住宅建設	849 52	H5.3.1 ～8.3	なし	なし	なし	
H05	第23地区 試掘	今泉 2511-1 共同住宅建設	2,194 59	H5.10.26	なし	なし	なし	
H05	第24地区 試掘	今泉 20040-20 外 市道改良	2,132 9	H5.11.5	なし	なし	土師器	
H05	第27地区 試掘	今泉 2041 市道改良	2,132 7	H5.11.5 ～11.8	なし	なし	なし	
H05	第28地区 試掘	今泉 231414 外 宅地造成	3,328 230	H6.1.11 ～1.13	なし	なし	なし	
H05	第29地区 試掘	今泉 1312-2 外 市道改良	980 90	H6.1.12 ～1.14	なし	なし	なし	
H05	第30地区 試掘	今泉 1928-4 外 今泉商業1号線改良	566 39	H6.2.1 ～2.3	なし	なし	なし	
H06	第1地区 試掘	今泉 2575-1 外 共同住宅建設	884 70	H6.4.23 ～4.26	なし	なし	なし	
H06	第32地区 試掘	今泉 1996-1 今泉商業1号線改良	98 14	H7.2.1	なし	なし	なし	
H06	第33地区-1次 試掘	今泉 2028-1 共同住宅建設	1,164 600	H7.3.1 ～3.8	新石器建物跡7棟、竪穴建物跡1軒、土坑、ビット	土師器・灰瓦器・鉄製品	2	
H07	第33地区-2次 試掘	今泉 2028-1 共同住宅建設	1,164 600	H7.3.1 ～9.11	新石器建物跡7棟、竪穴建物跡1軒、土坑、ビット	土師器・灰瓦器・鉄製品	2	
H07	第34地区 試掘	今泉 6丁目 1992 外 共同住宅建設	2,263 212	H7.5.23 ～6.2	古墳1基(今泉6丁目第1号墳)	瓦葺2点・灰瓦器・土師器		
H07	第36地区 試掘	今泉 688-6 共同住宅建設	6,198 60	H8.1.16 ～1.22	なし	なし	なし	
H07	第37地区(調査中)	今泉 2843-6 共同住宅建設	1,947 41	H8.2.13	なし	なし	なし	
H08	第38地区 試掘	今泉 3339-2 外 農地造成	115 12	H8.4.18	なし	なし	なし	
H10	第40地区 試掘	今泉 7丁目 1250-1 外 今泉公園建設	3,774 25	H10.5.20	なし	なし	なし	
H11	第41地区 試掘	北山田725-1 外 宅地造成	2,467 94	H12.3.14 ～3.22	なし	なし	なし	
H11	第42地区-1次 試掘	今泉 1982 外 宅地造成	2,496 390	H12.10.4 ～10.12	奈良・平安	竪穴建物跡 6軒	土師器・灰瓦器	3
H13	第43地区-2次 工事完了	今泉 1982 外 宅地造成	2,496 6	H13.7.3 ～7.5	奈良・平安	竪穴建物跡 1軒	土師器・灰瓦器	3
H13	第43地区 試掘	今泉 2126-1 宅地造成	4,850 192	H13.9.12 ～9.14	なし	なし	なし	4
H13	第43地区 試掘	今泉 2827-1 宅地造成	990 21	H14.2.5	なし	なし	なし	4
H14	第46地区 試掘	今泉 2204 外 軒屋2号ビル建設	12,800 15	H14.5.27	なし	なし	なし	5
H16	第44地区 試掘	今泉 2024-1 外 宅地造成	4,884 512	H16.6.15 ～4.26	奈良・平安	竪穴建物跡1棟、ビット10基	土師器片	6
H18	第47地区 試掘	今泉 679-13 共同住宅建設	928 124	H18.5.30 ～6.1	なし	なし	なし	7
H19	第48地区 試掘	今泉 2448 外 宅地造成	3,315 352	H19.5.2	なし	なし	縄文土師片	8
H19	第49地区 試掘	今泉 2031-4 外 共同住宅建設	919 18	H19.12.17	なし	なし	なし	
H20	第50地区 試掘	今泉 2485-1 外 宅地造成	8,065 500	H21.3.2 ～3.13	なし	なし	なし	5
H24	第51地区 試掘	今泉 6丁目 1215-2 外 宅地造成	1,339 103	H24.5.23 ～5.25	奈良・平安	なし	土師器	9
H24	第52地区 試掘	今泉 6丁目 1658-5 外 竪穴建物建設	864 12	H25.2.27	なし	なし	なし	9
H26	第53地区-1次 試掘	今泉 6丁目 1627-6 外 公園整備	393 14	H26.4.17 ～4.23	奈良	土坑・ビット	土師器	6本
H26	第53地区-2次 本調査	今泉 6丁目 1627-6 外 公園整備	113 112	H26.6.9 ～7.9	平安	竪穴建物跡 3軒、土坑、ビット	土師器・灰瓦器・石器	本番
H26	第1地区-2次 試掘	今泉 1935 奈良第一小学校区内運動場拡張	2,459 40	H26.8.6 ～8.12	なし	なし	なし	本番
H26	第3地区-2次 試掘	今泉 1969-3 個人住宅造成	269 5	H26.8.8	奈良・平安	ビット2基	土師器・灰瓦器	本番
H26	第4地区 試掘	今泉 2030-1 個人住宅造成	730 25	H26.9.24	奈良・平安	竪穴建物跡 3軒、土坑2基、ビット1基	土師器・灰瓦器	本番
H26	第55地区 試掘	今泉 6丁目 1603-6 外 個人住宅造成	163 15	H26.11.25	奈良・平安	竪穴建物跡 3軒	土師器・灰瓦器	本番
H26	第56地区 試掘	北山田 608-1 外 個人住宅造成	4,851 346	H27.5.12 ～5.20	平安	竪穴建物跡、溝、土坑、ビット	土師器・灰瓦器、瓦器内装	本番
H27	第1地区-3次 試掘	今泉 1935 奈良第一小学校区内運動場拡張	2,459 35	H27.8.18	なし	なし	なし	本番
H27	第53地区-1次 試掘	今泉 1936-6 竪穴建物建設	670 53	H27.9.3	奈良	竪穴建物跡	土師器・灰瓦器	本番
H27	第58地区-1次 試掘	今泉 6丁目 1634-1 外 公園整備	817 28	H27.11.24 ～11.27	平安	竪土師	土師器・灰瓦器	本番
H27	第58地区-2次 本調査	今泉 1936-6 個人住宅造成	222 39	H28.1.6 ～1.29	奈良・平安	竪穴建物跡 2軒、ビット11基、土坑1基	土師器・灰瓦器	本番
H27	第59地区 試掘	今泉 1658-1 外 テナント建設	1,728 59	H28.2.1 ～2.3	奈良・平安	竪穴建物跡	土師器・灰瓦器	本番
H27	第4地区-2次 試掘	今泉 6丁目 1600-2 外 宅地造成・公園	3,624 58	H28.2.15 ～2.18	縄文 奈良・平安	ビット・土坑	縄文土師・土師器・灰瓦器・瓦器内装	本

文獻 1 富士市教育委員会 1991『富士市埋蔵文化財発掘調査報告 第2集』『舟久保遺跡6丁目地区』。

2 富士市教育委員会 1996『舟久保遺跡 第20・21・33・34地区発掘調査報告書』。

3 富士市教育委員会 2012『富士市内遺跡発掘調査報告書 平成11・12年度』。富士市埋蔵文化財調査報告書 第53集。

4 富士市教育委員会 2013『富士市内遺跡発掘調査報告書 平成13・14年度』。富士市埋蔵文化財調査報告書 第54集。

5 富士市教育委員会 2010『平成14・15年度 富士市内遺跡発掘調査報告書 埋蔵文化財発掘調査報告書』。

6 富士市教育委員会 2006『平成16年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』。

7 富士市教育委員会 2008『平成17・18年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』。

8 富士市教育委員会 2009『平成15・19年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』。

9 富士市教育委員会 2015『富士市内遺跡発掘調査報告書 平成24・25年度』。富士市埋蔵文化財調査報告書 第57集。

※ 平成28年度本調査実施のため、調査報告書。

第12・18・19・23・24・35・39地区工事完了後の調査結果。



第262図 舟久保遺跡 遺構分布状況図

第2節 第1地区の調査成果

1. 第1地区について

先に示した第44表のとおり、昭和54・55年度に富士市立吉原第二中学校校舎改築工事にともなうて行った試掘調査が舟久保遺跡における最初の発掘調査であることから、同校の敷地全体を、舟久保遺跡第1地区と呼称している。

昭和54・55年度に行われた試掘調査（1次調査）では遺構は確認されなかったものの、数十点の土器片が出土している。大半は土師器片だが、縄文土器片・須恵器片も数点含まれていた。

また、発掘調査による発見ではないが、昭和34年3月に行われた同校校庭での採土工事の際に、土師器の坏・甕などの破片1千余点が出土しており、この中には、外面に「倉」と墨書された坏がある（中野・佐藤1960）。

2. 調査の概要

(1) 2次調査

富士市（以下、事業者）は、富士市今泉1955番地に所在する市立吉原第二中学校の屋内運動場改築工事を、平成27～28年度にかけて実施することを計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、埋蔵文化財の対応について協議を行った。現在の屋内運動場の解体工事は平成27年度に予定されていることから、平成26年度には屋内運動場の周囲について、遺跡の残存状況や検出深度を明らかにするための確認調査を実施することとなった。

平成26年3月5日、事業者から富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が提出された。7月23日、静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に文化財保護法第99条にもとづく「発掘調査について」（富教文発第239号）を提出し、8月4日から12日にかけて、文化振興課職員により確認調査を実施した。

屋内運動場の南側、北側、東側の3ヶ所に3本のトレンチ（40.127m）を設定し、重機による表土掘削後、人力により精査し、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。今回の調査箇所については、過去の造成工事により地山（II層）

まで削平されているところがあるものの、部分的に舟久保遺跡の遺構検出面である土層（I層）が確認されているため、屋内運動場の下については解体工事後に改めて調査が必要であると考えられる。

8月22日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富教文発第310号）を送付した。

(2) 3次調査

屋内運動場の解体終了後、建物が存在した部分について確認調査を実施することとなった。平成27年8月11日、県教育長宛に文化財保護法第99条にもとづく「発掘調査について」（富市文発第390号）を提出し、8月18日、文化振興課職員により確認調査を実施した。

トレンチを7ヶ所（34.818m）設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。

調査の結果、調査地は過去の造成工事により地山まで削平されており、遺構および遺物は確認されなかった。

確認調査の結果について、8月24日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第407号）を送付した。

参考文献

中野 国雄・佐藤 民雄 1960「吉原発見の土師器と竈穴」『歴史考古』第4号



第263図 舟久保遺跡第1地区 位置図

第3節 第20地区の調査成果

第20地区と周辺の調査について

平成5年、富士市今泉1979外において、市道（今泉掘文字4号線）改良工事に伴う本発掘調査が行われた。これを舟久保遺跡第20地区1次調査と呼称する。この調査では、8世紀後半に位置づけられる5軒の竪穴建物跡が発見された。

また、第20地区の南西に位置する第33地区の調査では、竪穴建物跡1軒、掘立柱建物跡7棟が検出されている。

両地区の遺構の配置状況および切り合い関係、出土遺物の年代などから、住居あるいは倉庫群である掘立柱建物の造営・廃絶後、竪穴建物がつくられたと考えられている（富士市教育委員会1996）。

平成16年には第20地区の北東に位置する第44地区の南端において掘立柱建物跡が1棟検出されており、第33地区の掘立柱建物群と軸を同方向に向けていることから、一つのまとまりをなすものと推定されている（富士市教育委員会2006）。

2次調査の概要

事業者は富士市今泉1980-3（205m²）において個人住宅建設工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、平成26年8月17日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。9月5日、県教育長宛に文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」（富教文発第334号）を提出し、平成26年9月8日、文化振興課職員により確認調査が実施された。

平成5年には市道改良工事に伴って当該地の南半分に対して本発掘調査を実施し、5軒の竪穴建物跡を検出している（第20地区1次調査）。今回は敷地の北半分に建物を建設する計画であることから、遺構の拡がりを確認できる調査である。

対象地北側に1本のトレンチ（5.330m²）を設定し、人力により表土翻削および精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

耕作による擾乱のため旧表土は失われており、遺構の残存状況も良好ではなかったが、トレンチ内に2基の

ビット（Pit01・02）が検出された。先述のとおり、近接する第33地区や第44地区では、合計8棟の掘立柱建物跡が検出されており、検出されたビットが掘立柱建物跡を構成する可能性も考えられるが、今回の調査では明らかとはならなかった。

遺物は土師器・須恵器が出土し、9月11日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第346号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第346-2号）を提出した。これらの遺物については、9月30日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第1119号）。

9月12日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富教文発第353号）を送付した。

参考文献

富士市教育委員会 1996『舟久保遺跡 第20・21・33・34地区発掘調査報告書』

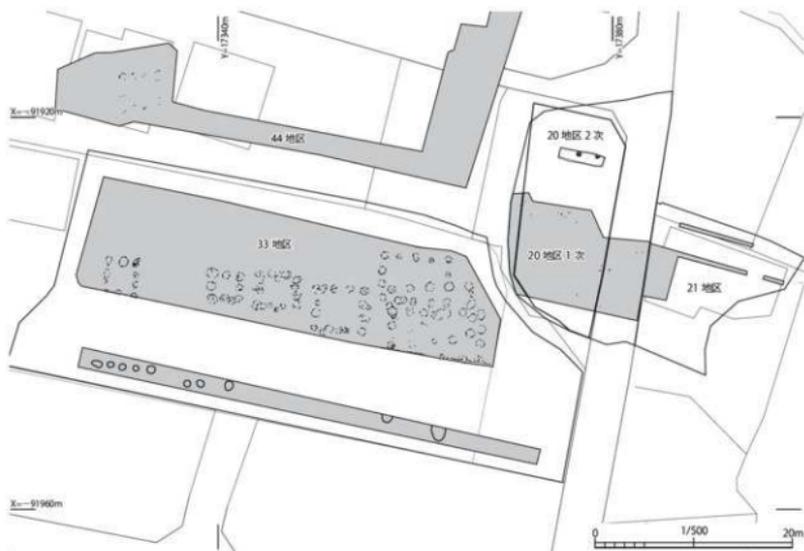
富士市教育委員会 2006『平成16年度 富士市内遺跡発掘調査報告書』



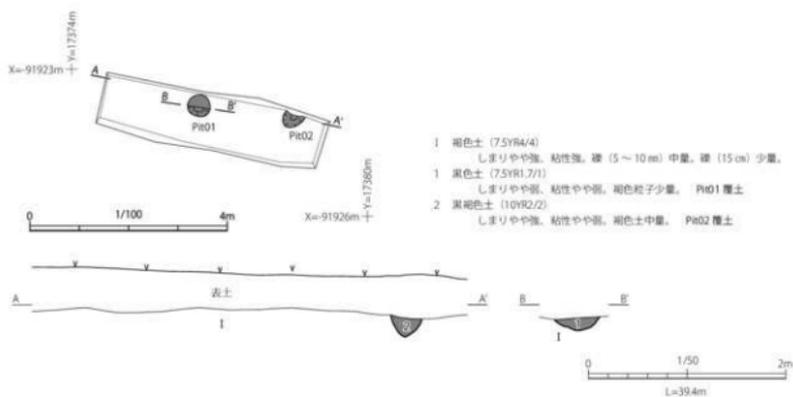
第265図 舟久保遺跡第20地区 位置図



第266図 舟久保遺跡第20地区1次調査全景（平成5年）



第267図 舟久保遺跡第20地区2次調査 トレンチ配置図



第268図 舟久保遺跡第20地区2次調査 トレンチ平面図・セクション図

第4節 第54地区の調査成果

調査の概要

事業者は所有する富士市今泉 2030-1 (730m²) について不動産売買を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会文化振興課へ事前の確認調査を希望した。平成 26 年 9 月 9 日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出され、9 月 22 日、県教育長宛に文化財保護法第 99 条にもとづく「発掘調査について」(富教文発第 365 号)を提出し、平成 26 年 9 月 24 日、文化振興課職員により確認調査を実施した。

対象地内に 2 本のトレンチ (24.768m²) を設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構および遺物の検出につとめた。

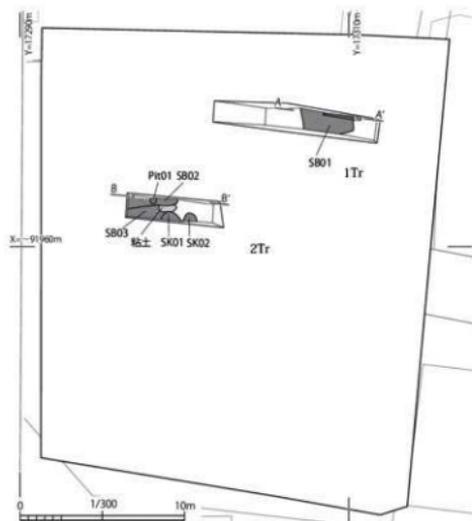
調査の結果、1Tr で 1 軒 (SB01)、2Tr で 2 軒 (SB02・03) の堅穴建物跡と、土坑・ピットを検出した。堅穴建物跡はいずれも奈良・平安時代の遺構とみられ、過去の調査事例からは、当該地周辺は遺構が密集している地区と考えられる。

遺物は、土師器・須恵器が出土したが図示には至らなかった。9 月 29 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富教文発第 381 号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第 381-2 号)を提出した。この遺物については 10 月 16 日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている。

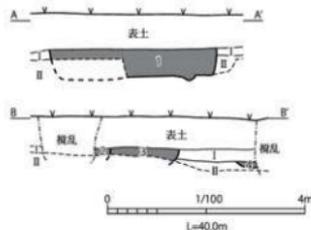
10 月 2 日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富教文発第 390 号)を提出した。



第 269 図 舟久保遺跡第 54 地区 位置図



第 270 図 舟久保遺跡第 54 地区 トレンチ配置図・セクション図



- I 黒褐色土 (10YR3/2)
 - しまりやや弱、粘性強。褐色粒子少量。
- II 暗褐色土 (10YR3/3)
 - しまり強、粘性やや強。褐色粒子少量。
 - 礫 (10 ~ 30 cm) 少量。地山
- 1 黒褐色土 (10YR3/2)
 - しまりやや弱、粘性強。褐色粒子少量。
 - 礫 (5 mm) 少量。SB01 覆土
- 2 黒褐色土 (10YR3/2)
 - しまりやや弱、粘性やや強。
 - 褐色粒子中量。Pit01 覆土
- 3 黒褐色土 (10YR3/1)
 - しまりやや強、粘性やや強。
 - 褐色粒子少量。礫 (5 mm) 少量。SB02 覆土
- 4 黒色土 (10YR2/1)
 - しまりやや強、粘性強。
 - 褐色粒子少量。礫 (5 mm) 少量。Pit02 覆土

第5節 第55地区の調査成果

調査の概要

事業者は富士市今泉六丁目663番6,663番8(163.30m)において個人住宅の建替工事を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、工務所を通じ、文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。

当該地の南に位置する舟久保遺跡第53地区では、平成26年6～7月に本発掘調査を実施し、平安時代の竪穴建物跡3軒、土坑、ピットが検出されている。

平成26年9月29日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出され、現存建物の解体後、確認調査を行うこととなった。11月14日、県教育長宛に文化財保護法第99条にもとづく「発掘調査について」を提出し、平

成26年11月25日、文化振興課職員により確認調査を実施した。

対象地内に1本のトレンチ(14.92m)を設定し、重機による表土削削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

調査の結果、トレンチの中央で、カマドを伴う竪穴建物跡3軒(SB01～03)を検出した。3軒とも、北辺にカマドをもち、切り合い関係が認められた。平面プラン及び土層断面観察からSB01→SB02→SB03の順に時代が下がるものと考えられる。建物跡の規模は、最も新しいSB03で南北幅4.00mほどを測る。

遺物は、土師器、須恵器、鉄器などが出土し、12月1日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富教文発第521号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第521-2号)を提出した。これらの遺物については12月10日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1497号)。

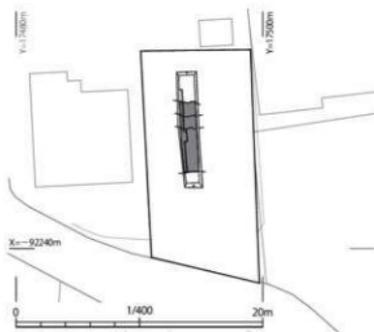
確認調査の結果について、12月3日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」を送付した。

出土遺物

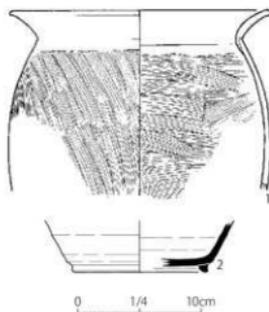
2点図示した(第273図)。1はSB02から出土した土師器鞍東型長制甕である。口縁部が外反し、8世紀後半に位置づけられる。2はトレンチから出土した須恵器高台坪で、8世紀前半に位置づけられる。



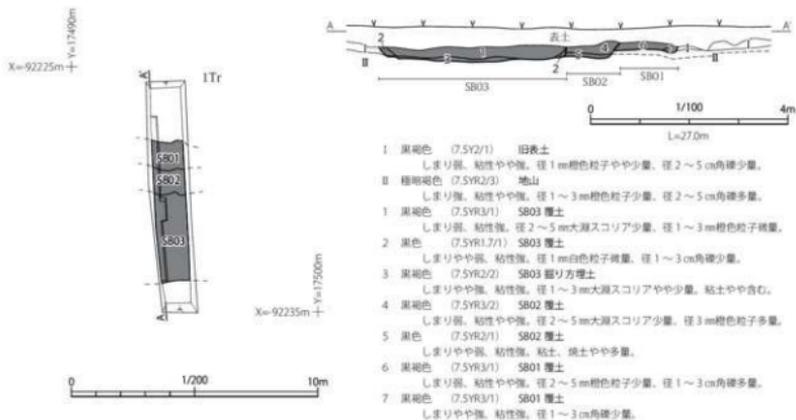
第271図 舟久保遺跡第55地区 位置図



第272図 舟久保遺跡第55地区 トレンチ配置図



第273図 舟久保遺跡第55地区 出土遺物実測図



第274図 舟久保遺跡第55地区 1トレンチ 平面図・セクション図

第45表 舟久保遺跡第55地区 出土土物観察表

神田番号	R番号	写真 採取	遺構名・ トレンチ	概別 範囲	口径 (cm)	底径 (cm)	深さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第273図-1	0027	PL.24	SB02	土師器 壺	(20.5)		(15.2)	良好	20%	5YR4/3 (にふい赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	反転復元
第273図-2	0022	PL.24	ITr	銅器 帯 環	(10.5)	(4.2)		良好	20%	5Y6/1 (黄) 2.5Y5/1 (黄灰)	反転復元

第6節 第56地区の調査成果

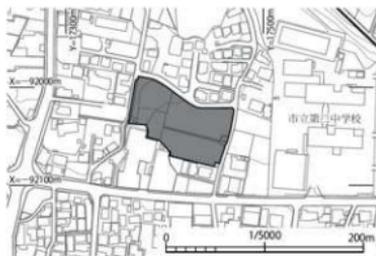
調査の概要

事業者は、富士市依田橋字手取海道上698-1外6筆(4851.4㎡)において介護施設等建設工事を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、事業者と文化振興課との間で埋蔵文化財の対応について協議し、確認調査を実施することとなった。

平成26年12月19日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出され、平成27年5月12日から20日にかけて、文化振興課職員による確認調査を実施した。

確認調査では、対象地内に7本のトレンチ(総面積345.66㎡)を設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。

その結果、対象地の北に設定した1Trと東に設定し



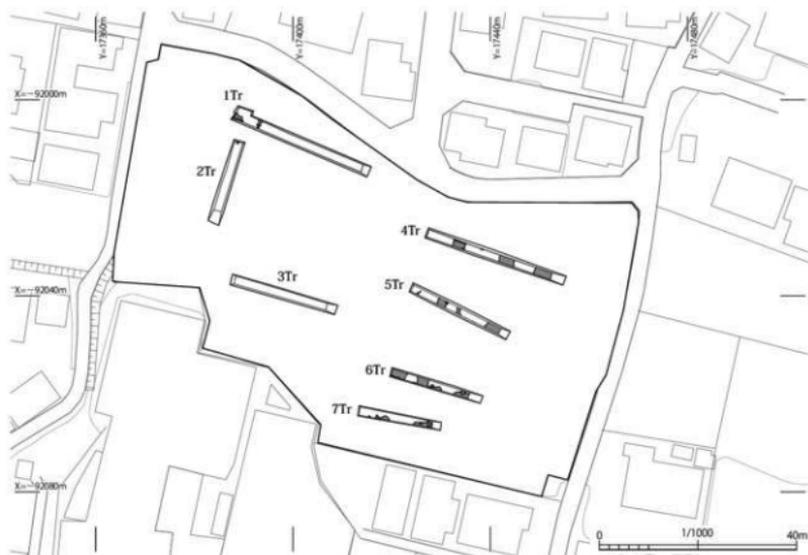
第275図 舟久保遺跡第56地区 位置図

た4・5・6・7Trにおいて、8世紀後半から9世紀代の土師器を伴う堅穴建物跡16軒(SB01～SB16)を検出し、対象地東側に集落が広がっていた様子が推測された。その他に溝1条(SD01)、土坑2基(SK01-SK02)、ピット6基(Ph01～Ph06)も検出された。

遺物は、土師器・須恵器・灰軸陶器が出土し、5月25日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第159号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第159-2号）を提出した。これらの遺物については、6月1日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けてい

る（教文第398号）。

確認調査の結果について、6月4日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第183号）を送付した。

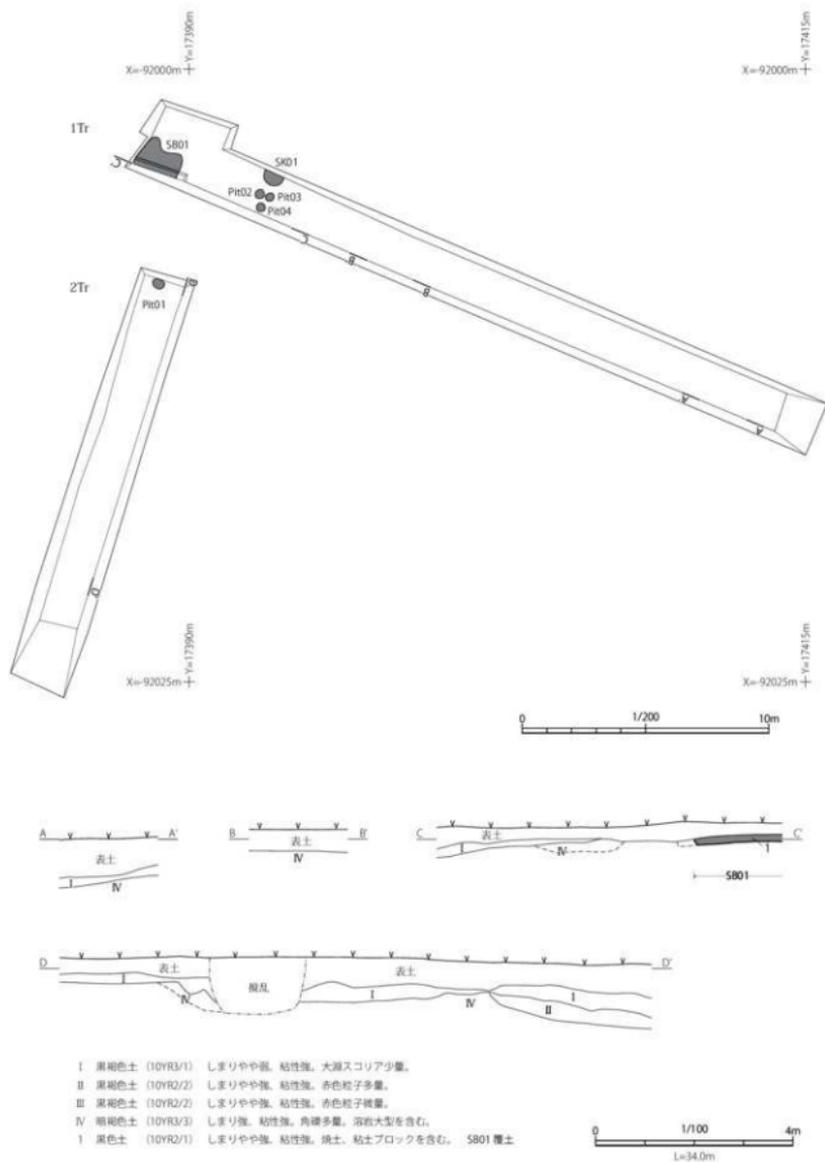


第276図 舟久保遺跡第56地区 トレンチ配置図

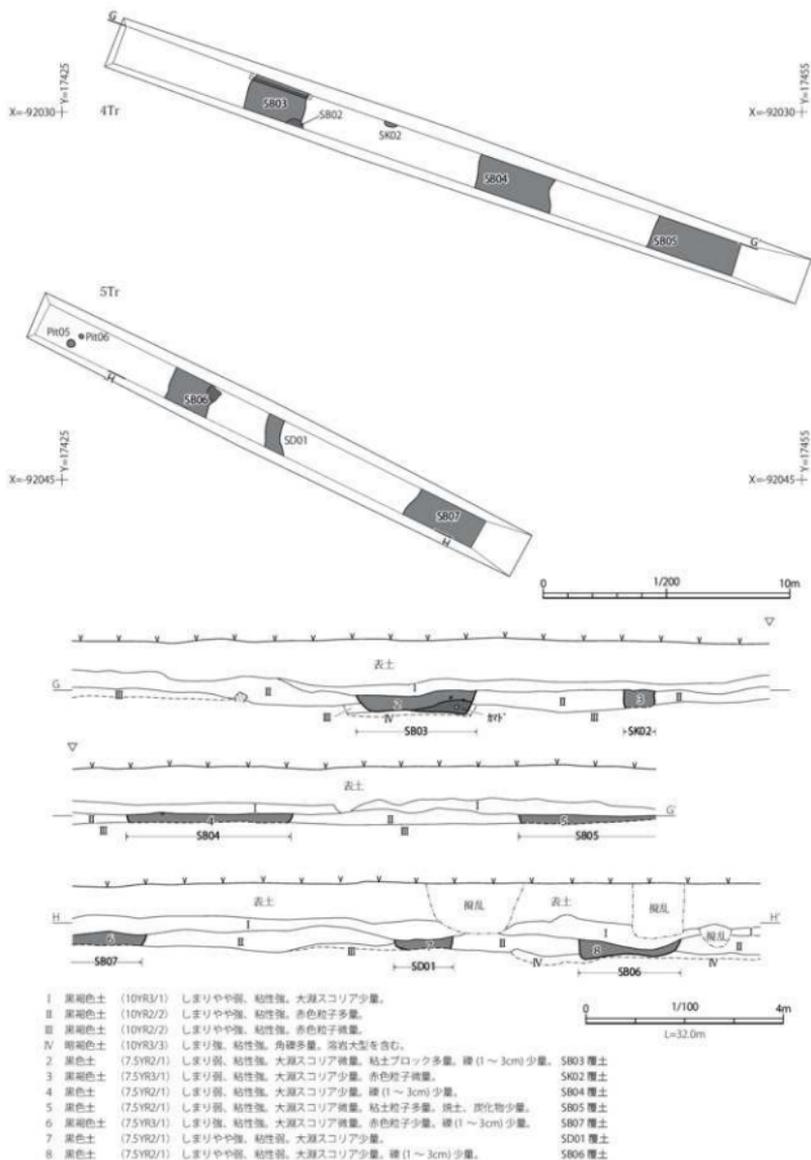


- | | |
|--------------------|------------------------|
| I 黒褐色土 (10/R3/1) | しまりや中強、粘性強、大層スコリア少量。 |
| II 黒褐色土 (10/R3/2) | しまりや中強、粘性強、赤色粒子多量。 |
| III 黒褐色土 (10/R3/2) | しまりや中強、粘性強、赤色粒子微量。 |
| IV 暗褐色土 (10/R3/3) | しまり強、粘性強、角礫多量、溶岩大型を含む。 |

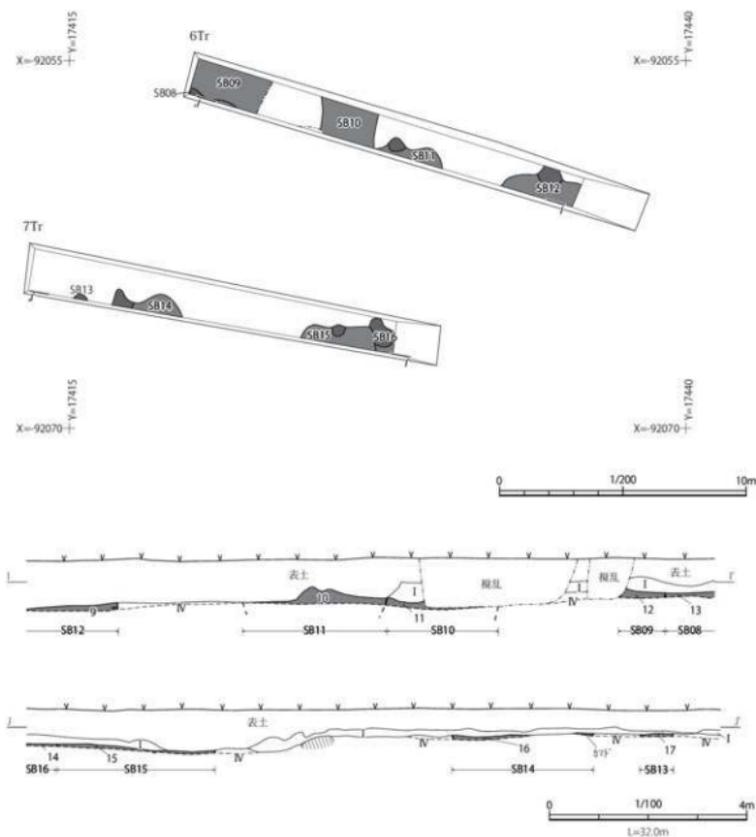
第277図 舟久保遺跡第56地区 3Tr 平面図・セクション図



第278図 舟久保遺跡第56地区 1・2Tr 平面図・セクション図



第 279 図 舟久保遺跡第 56 地区 4・5Tr 平面図・セクション図



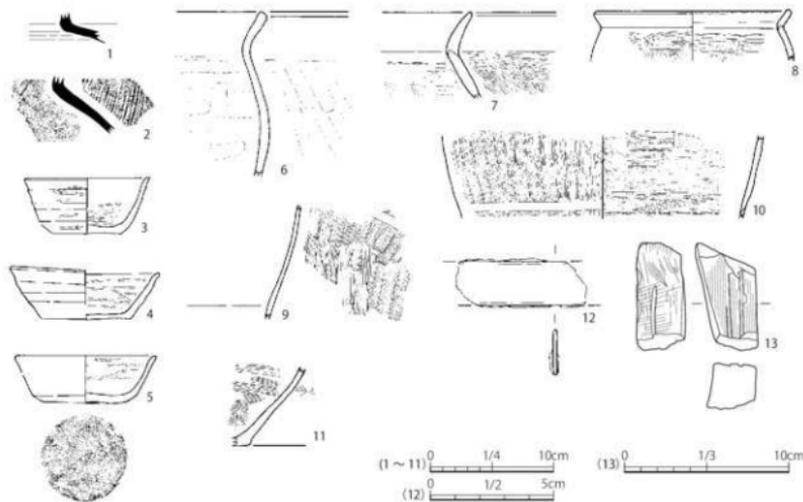
- | | | | | |
|-----|---------|------------|-------------------------------------|---------|
| I | 黒褐色土 | (10YR3/1) | しまりやや弱、粘性強、大澱スコリア少量。 | |
| II | 黒褐色土 | (10YR2/2) | しまりやや強、粘性弱、赤色粒子多量。 | |
| III | 黒褐色土 | (10YR2/2) | しまりやや強、粘性弱、赤色粒子少量。 | |
| IV | 暗褐色土 | (10YR3/3) | しまり強、粘性強、角礫多量、溶岩大型を含む。 | |
| 9 | 黒色土 | (7.5YR2/1) | しまりやや弱、粘性弱、大澱スコリア少量、赤色粒子微量。 | SB12 礫土 |
| 10 | 黒色土 | (7.5YR2/1) | しまりやや強、粘性弱、大澱スコリア少量、礫 (5cm) 少量。 | SB11 礫土 |
| 11 | 黒色土 | (7.5YR2/1) | しまりやや強、粘性弱、大澱スコリア少量、礫 (5cm) 少量。 | SB10 礫土 |
| 12 | 黒褐色土 | (7.5YR3/1) | しまりやや強、粘性やや強、大澱スコリア少量、礫 (1~3cm) 少量。 | SB09 礫土 |
| 13 | 黒褐色土 | (7.5YR2/1) | しまりやや強、粘性やや強、大澱スコリア少量、赤色粒子微量。 | SB08 礫土 |
| 14 | 黒褐色土 | (7.5YR2/2) | しまりやや強、粘性やや強、赤色粒子多量、礫 (5mm) 微量。 | SB16 礫土 |
| 15 | 黒褐色土 | (10YR2/3) | しまりやや弱、粘性弱、赤色粒子中量、礫 (5mm) 中量。 | SB15 礫土 |
| 16 | 黒褐色土 | (10YR2/3) | しまりやや弱、粘性弱、赤色粒子微量、礫 (5mm) 少量。 | SB14 礫土 |
| 17 | にぶい黄褐色土 | (10YR5/4) | しまりやや強、粘性やや強、粘土多量、塊土微量。 | SB13 礫土 |

第280図 舟久保遺跡第56地区 6・7Tr 平面図・セクション図

出土遺物

13点図示した(第281図)。1・2は須恵器甕の頸部片で、どちらも8世紀代のものである。3から5は土師器鞍車型坏で、3は9世紀後半、4と5は9世紀前半に位置づけられる。6から11は土師器の甕である。6はハケ目調整を省略する鞍車型甕で9世紀後半から10世紀代に位置づけられる。7も鞍車型甕とみられるが、口

縁部の肥厚が認められず、8世紀後半のものとする。8はロクロ成形の小型甕である。9は8世紀後半から9世紀代の水平口緑釉胴部、10は鞍車型長胴甕の胴部片、11は鞍車型土師甕の底部である。12は不明鉄製品、13は砥石である。



第281図 舟久保遺跡第56地区 出土遺物実測図

第46表 56地区 出土遺物観察表

標記番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	検出 層別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	形状	残存率	内面・外面 彩色調査	備考
第281図-1	0042	PL.26	SB07	須恵器 甕			(2.4)		良好	-	10YR6/1 (陶灰) 5Y7/1 (灰白)	
第281図-2	0011	PL.26	3Tr	須恵器 甕			(2.5)		良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y7/1 (灰白)	
第281図-3	0057	PL.26	6Tr	土師器 坏	[9.8]	5.4	4.5		良好	30%	2.5YR4/6 (赤褐) 2.5YR4/6 (赤褐)	一部反転復元
第281図-4	0053	PL.26	SB15	土師器 坏	11.9	7.1	4.0		良好	80%	2.5YR4/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	反転復元
第281図-5	0040	PL.26	5Tr	土師器 坏	[11.2]	7.0	3.9		良好	60%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	一部反転復元
第281図-6	0048	PL.26	6Tr SB08	土師器 甕			(13.5)		良好	-	10YR6/4 (にぶい黄褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
第281図-7	0024	PL.26	SB05	土師器 甕			(7.0)		良好	-	5Y5/4 (にぶい赤褐) 5Y5/4 (にぶい赤褐)	
第281図-8	0039	PL.26	5Tr	土師器 坏	[15.0]		(4.2)		良好	20%	5YR4/3 (にぶい赤褐) 5YR4/2 (灰褐)	反転復元
第281図-9	0056	PL.26	SB03 カマド	土師器 甕			(9.4)		良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
第281図-10	0015	PL.26	SB02	土師器 甕			(6.7)		良好	-	10YR6/3 (にぶい黄褐) 5YR6/6 (橙)	反転復元
第281図-11	0030	PL.26	SB06	土師器 甕			(6.3)		良好	-	2.5Y4/4 (にぶい赤褐) 2.5Y4/4 (にぶい赤褐)	
第281図-12	0003	PL.26	1Tr	鉄製品 不明	長さ (5.3)	幅 1.8	厚さ 0.15	7.8				
第281図-13	0011	PL.26	3Tr	石製品 砥石	長さ (6.5)	幅 3.7	厚さ 2.8	83.13				

第7節 第58地区の調査成果

調査の概要

事業者は富士市今泉6丁目1634-1外(817㎡)において不動産売買を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、事業者と富士市民部文化振興課との間で埋蔵文化財の対応について協議した。平成27年10月26日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出され、確認調査を実施することとなった。11月17日、県教育長宛に文化財保護法第99条にもとづく「発掘調査について」を提出し(富市文発第814号)、平成27年11月24日から27日にかけて、文化振興課職員により確認調査を実施した。

対象地に4ヶ所のトレンチ(総面積27.73㎡)を設定し、重機による表土掘削後、人力により精査を行い、遺構や遺物の検出につとめた。その結果、2Trにおいて遺構覆土とみられる焼土を含む黒色土の堆積が認められた。対象地南側に設定した4Trでは、過去の造成工事



第282図 舟久保遺跡第58地区 位置図

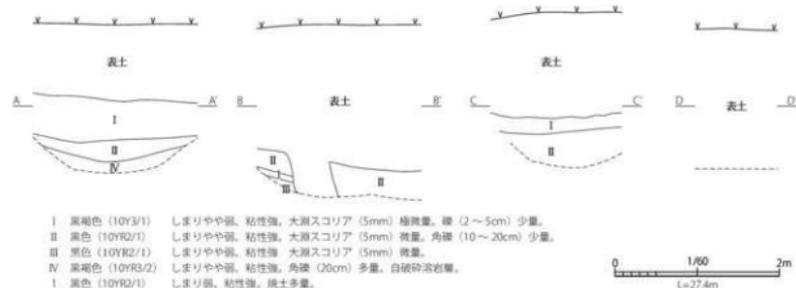
時に厚い埋め土が施されており、基礎層であるIV層に達する事ができなかった。

遺物は、少量であるが土師器片、須恵器片が出土し、11月30日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第829号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富市文発第829号)を提出した。これらの遺物については、12月11日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1434号)。

確認調査の結果について、12月15日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第847号)を送付した。



第283図 舟久保遺跡第58地区 トレンチ配置図



第284図 舟久保遺跡第58地区 セクション図

第8節 第59地区の調査成果

調査の概要

事業者は富士市今泉字舟久保 1658-1 外 (1728 m²) において、テナント建設を計画した。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、事業者と富士市市民部文化振興課との間で埋蔵文化財の対応について協議を行った。平成 28 年 1 月 13 日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」および「発掘調査承諾書」が提出され、確認調査を実施することとなった。1 月 29 日、県教育長宛に文化財保護法第 99 条にもとづく「発掘調査について」を提出し (富市文発第 920 号)、平成 28 年 2 月 1 日から 3 日にかけて、文化振興課職員により確認調査を実施した。

対象地に 2 本のトレンチ (総面積 58.65 m²) を設定し、重機による表土掘削後、人力により遺構や遺物の検出につとめた。その結果、対象地の北側に設定した 1Tr において 5 軒の竪穴建物跡 (SB01 ~ 05) を検出した。

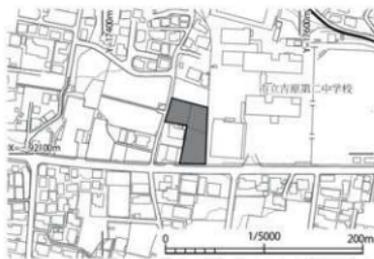
2Tr では、北端で SB01 南壁を確認できたものの、他に遺構は検出されなかった。

遺物は、建物跡に伴ってコンテナ 1 箱の上層器片、須恵器片が出土し、2 月 10 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」 (富市文発第 942 号) を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」 (富市文発第 942-2 号) を提出した。これらの遺物については、2 月 18 日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている (教文第 1747 号)。

確認調査の結果について、2 月 15 日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」 (富市文発第 958 号) を送付した。

出土遺物

2 点図示した (第 286 図)。1 は SB04 から出土した須恵器製の口縁部片、2 は SB01 から出土した土師器製東粟型の口縁部片である。いずれも 8 世紀代に位置づけられるものである。



第 285 図 舟久保遺跡第 59 地区 位置図



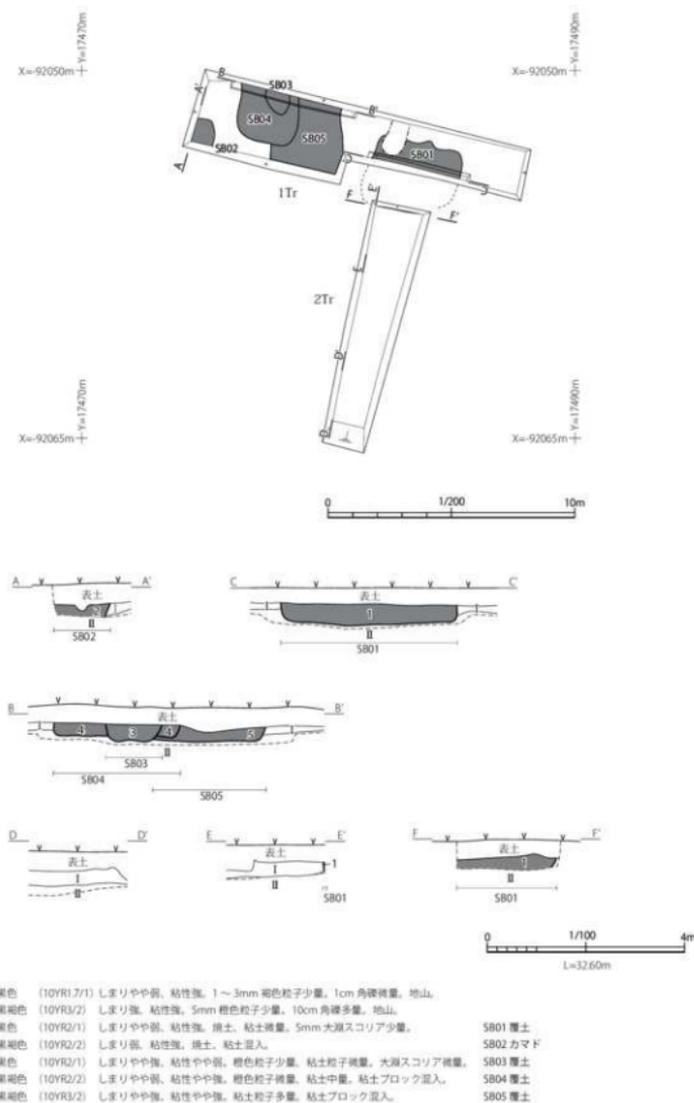
第 286 図 舟久保遺跡第 59 地区 出土遺物実測図



第 287 図 舟久保遺跡第 59 地区 トレンチ配置図

第 47 表 59 地区 出土遺物観察表

検出番号	R 番号	写真 図版	遺構名 (トレンチ)	種別 範囲	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	状況	残存率	内面色調 外面色調	備考
第 286 図-1	0001	PL.27	SB04 (1Tr)	須恵器 製	-	-	(4.7)	良好	-	2.5Y7/2 (灰黄) 2.5Y6/1 (黄灰)	
第 286 図-2	0008	PL.27	SB01 (2Tr)	土師器 製	-	-	(3.7)	良好	-	5YR5/3 (にじい赤黄) 5YR4/3 (にじい赤黄)	



第288図 舟久保遺跡第59地区 1・2Tr 平面図・セクション図

第9節 第53地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者（水の上新内会）は、富士市今泉6丁目1627-6外（393.39㎡）において公会堂新築工事を計画した。当該地区が周知の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、埋蔵文化財の対応について協議を開始し、遺跡の残存状況について明らかにするための確認調査を実施することとなった。平成26年4月15日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財発掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。4月15日、県教育長宛に文化財保護法第99条にもとづく「発掘調査について」を提出し（富教文発第53号）、平成26年4月17日から23日にかけて、文化振興課職員による確認調査を実施した。

(2) 確認調査

確認調査では、対象地内に1本のトレンチ（13.555㎡）を設定し、重機による掘削後、人力により精査し、遺構および遺物の検出につとめた。その結果、トレンチの中央から南にかけて、地表下30cmから奈良時代のもつとみられる土坑やピットが検出された。遺物は、少量であるが土師器片が出土し、4月24日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富教文発第74号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富教文発第74-2号）を提出した。これらの遺物については、5月14日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている（教文第297号）。

確認調査の結果については、4月24日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」を送付した（富教文発第75号）。

確認調査結果と建物建設計画を照らし合わせると、工事による遺跡の破壊は免れないため、5月20日、建物建設部分について本発掘調査を実施するよう県教育長より指示が通知された（教文第345号の2）。事業者からは「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出され、5月29日、文化財保護法第99条にもとづく「発掘調査について」を県教育長に提出し（富教文発第134号）、文化振興課職員による本発掘調査を実施することとなった。



第289図 舟久保遺跡第53地区 位置図



第290図 舟久保遺跡第53地区 トレンチおよび本調査区配置図



第291図 舟久保遺跡第53地区 本発掘調査風景

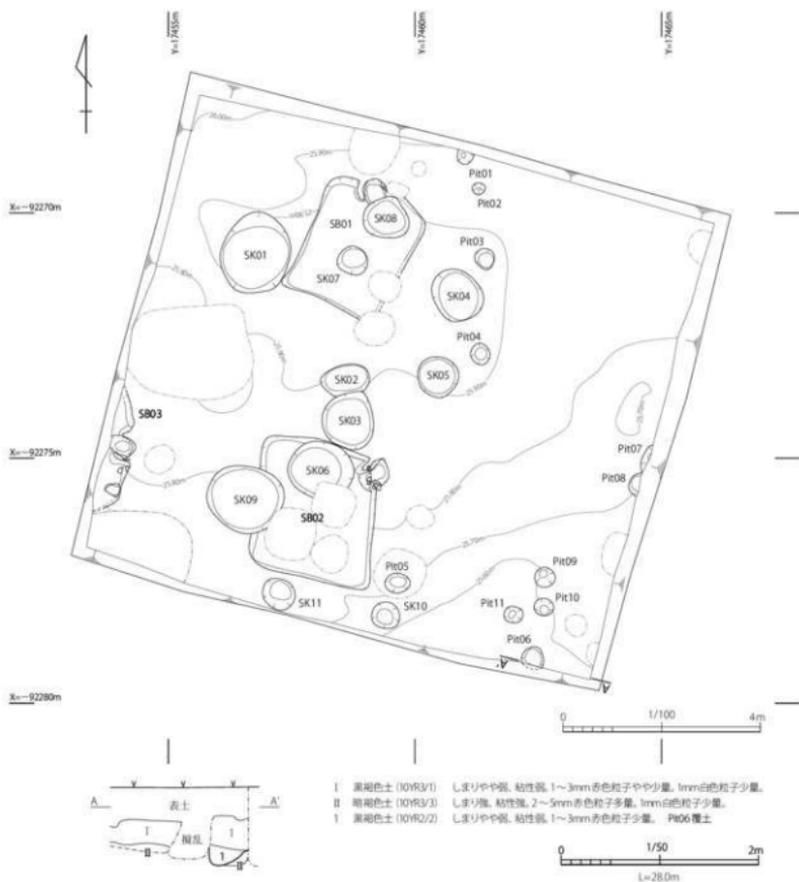
(3) 本発掘調査

本発掘調査は、平成26年6月9日から7月9日にかけて行った。建物建設予定範囲に本発掘調査区(112.47㎡)を設定し、重機により遺構検出面まで掘り下げたのち、人力により遺構および遺物の検出につとめた。

その結果、カマドを有する竪穴建物跡3軒(SB01～03)、ピット11基(Pit01～11)、土坑11基(SK01～11)を検出、完掘した。遺物はコンテナ3箱分の土師器・須恵器・灰釉陶器・石器が出土し、7月9日、富

士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富教文発第215号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第215-2号)を提出した。これらの遺物については、7月23日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第727号)。

本発掘調査の結果について、8月27日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」を送付した(富教文発第316号)。



第292図 本調査区 平面図・基本土層図

2. 調査の成果

竪穴建物跡

SB01

位置 調査区中央やや北西寄りに位置する。

重複関係 (古) SB01 → SK01・SK07・SK08 (新)

主軸方位 N-23.5°-E

残存状況 全体的に上面が削平され、壁および床面はほぼ失われていた。北東角を覆乱により切られ、西壁の一部はSK01に切られる。建物内にはSK07・SK08が掘り込まれている。主軸(南北)長2.52m、直交(東西)長2.40mを測り、平面プランは隅丸方形を呈する。

壁溝 確認されなかった。

柱穴 確認されなかった。

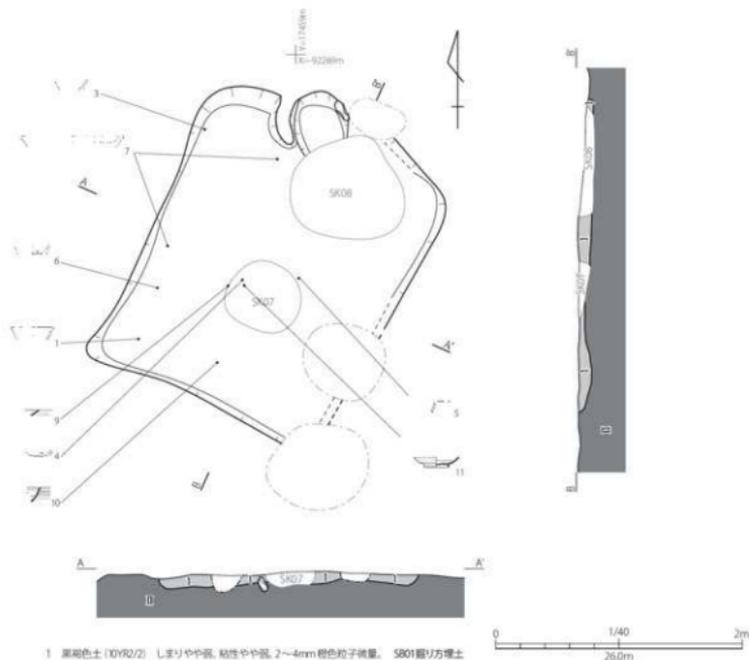
床 床面は削平され、深さ20cmの掘り方理土のみが検出された。

カマド 北壁中央に位置する。残存状況は不良で、黄褐色

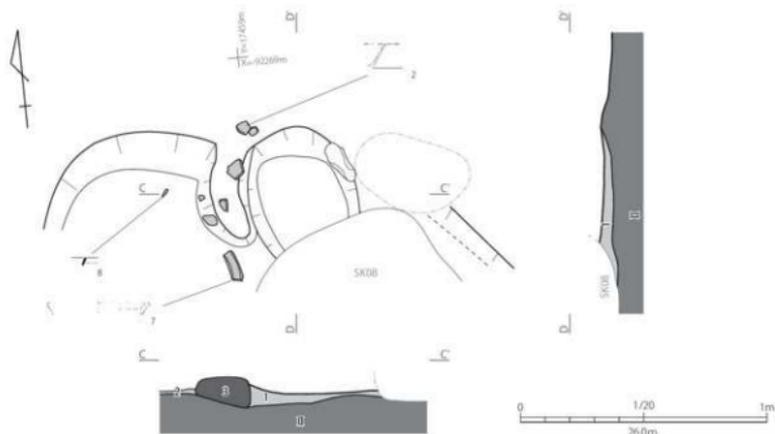
色粘土と黒褐色土で築かれた左袖の下半が検出されたが、右袖と燃焼室の一部はSK08と覆乱により削られている。残存で、全長47cm、中央内寸幅21cm、中央外寸幅32cmを測る。

出土遺物 11点図示した(第295図-1~11)。1~5は土師器の坏である。2は器高が高く、埴としてもよいかもしれない。6は木葉痕が残る土師器甕の底部、7は土師器甲斐型甕の口縁部である。8は須恵器坏の口縁部片、9から11は灰釉陶器で、9は皿、10と11は碗である。いずれもO-53室式期に位置づけられるとみられる。

所見(時期) 出土遺物から、本建物跡の時期は10世紀代に位置づけられる。



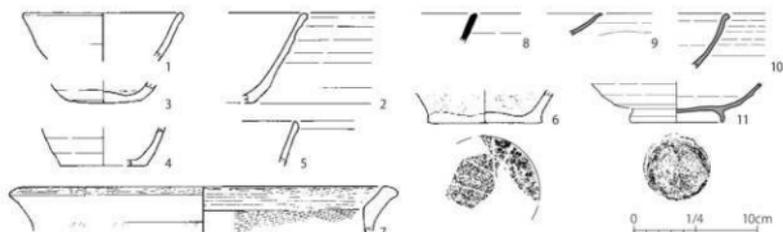
第293図 SB01 平面図・セクション図



- Ⅱ 暗褐色土 (10YR3/3) しまり強、粘性強。2~5mm赤色粘土多量。1mm白色粘土少量。
 Ⅲ 黒褐色土 (10YR2/2) しまりやや弱。粘性強。2~5mm黄土・灰化物少量。
 Ⅳ 黒褐色土 (10YR2/2) しまりやや弱。粘性やや弱。2~4mm棕色粘土少量。
 Ⅴ 灰黄褐色土 (10YR2/4) しまり強。粘性強。にぶい黄褐色土 (10YR2/2) 粘土多量。

地山
 カマド廻り方埋土
 SB01廻り方埋土
 カマド地

第294図 SB01カマド 平面図・セクション図



第295図 SB01 出土遺物実測図

第48表 SB01 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	遺構名	植物 産物	口径 (cm)	胴径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第295図-1	058	PL.30	SB01 土師器 杯		(12.6)		(3.8)	良好	20%	5YR5/6 (橙) 5YR5/6 (橙)	反転復元
第295図-2	051	PL.30	SB01 土師器 杯 (残)				(6.4)	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
第295図-3	025	PL.30	SB01 土師器 杯			(7.0)	(3.3)	良好	25%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	反転復元
第295図-4	002	PL.30	SB01 土師器 杯			(6.0)	(1.8)	良好	25%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	反転復元
第295図-5	012	PL.30	SB01 土師器 杯				(3.8)	良好	-	7.5YR5/4 (にぶい梅) 7.5YR5/4 (にぶい梅)	
第295図-6	075	PL.30	SB01 土師器 壺		(9.2)	(2.6)	(良)	25%	5YR4/2 (灰褐) 7.5YR4/3 (梅)		反転復元
第295図-7	010 023	PL.30	SB01 土師器 壺		(29.3)		(3.8)	良好	20%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	反転復元
第295図-8	024	-	SB01 土師器 杯 (残)				(2.4)	良好	-	5Y5/1 (灰) N5/ (灰)	
第295図-9	003	PL.30	SB01 灰輪陶器 甕				(1.8)	良好	-	5YR/1 (灰白) 5YR/1 (灰白)	
第295図-10	059	-	SB01 灰輪陶器 甕				(4.4)	良好	-	5Y6/1 (灰) 5Y6/1 (灰)	
第295図-11	067	PL.30	SB01 灰輪陶器 甕			7.3	(3.2)	良好	60%	2.5Y6/2 (灰黄) 2.5Y6/2 (灰黄)	一部反転復元

SB02

位置 調査区中央南寄りに位置する。

重複関係 (古) SB02 → SK03・SK06・SK09 (新)

主軸方位 N-9.7°-E

残存状況 壁のコーナーは残存しているものの、壁や床面の一部をSK03・SK06・SK09および掘乱により削られている。主軸(南北)長2.84m、直交(東西)長2.44mを測り、平面プランは隅丸方形を呈する。

覆土 黒褐色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 北東角に位置する。上面は削平されていたが、芯材に20cm大の玄武岩角礫を用い、黄褐色粘土と黒褐色土でつくられた両袖と燃焼室が検出された。全長65cm、中央内寸幅20cm、中央外寸幅60cmを測る。

出土遺物 カマド周辺から出土した土師器2点を図示

した(第297図-12・13)。粗製土器の裏あるいは場で、おそらくは同一個体になるとみられる。詳細が不明であり、時期を特定しがたいが、8世紀後半から9世紀代のものと推定しておく。

所見(時期) 出土遺物より、8世紀後半から9世紀代の建物跡とする。

SB03

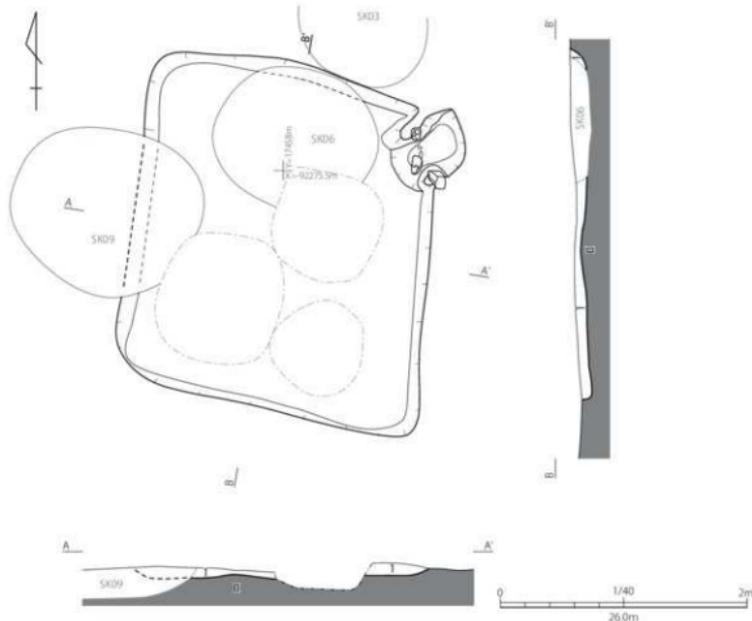
位置 調査区南西隅に位置し、カマドが存在する東壁を検出したが、それ以外の大部分は調査区外にある。

重複関係 検出部分では無し。

主軸方位 不明

残存状況 カマドと東壁の一部を検出したのみで、全体の詳細は不明である。検出された東壁は長さ2.70mを測る。南側は屈曲しており、南東コーナーとなる可能性もある。

壁溝 検出されなかった。



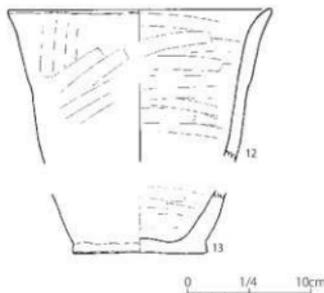
1 黒褐色土(10YR3/2) しまりやや強、粘性弱、1~3mm赤色粒子やや多、1mm白色粒子少。SB02 覆土

第296図 SB02 平面図・セクション図

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方が床面である。

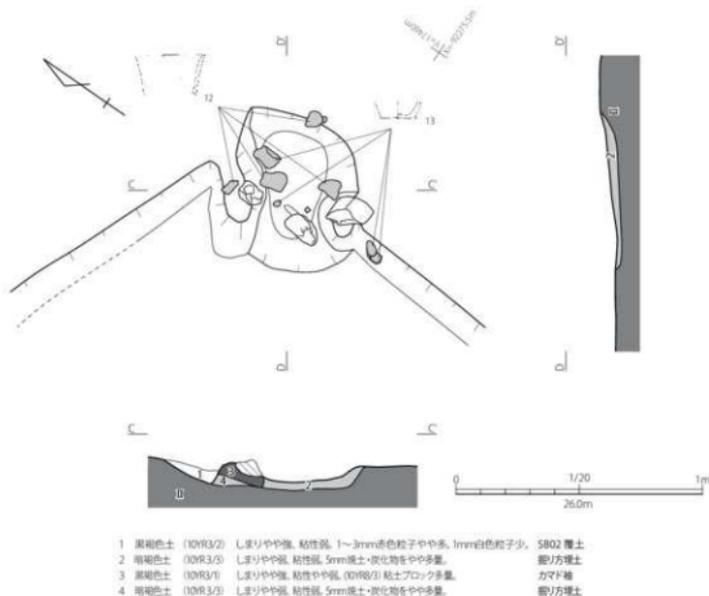
カマド 東壁に位置する。30cm大の角礫を芯材に黒褐色土と黄褐色粘土でつくられた両袖と、焼土を覆土とする燃焼室が検出された。袖は良好に残存しており、カマドの規模は検出全長70cm、中央内寸幅36cm、中央外寸幅86cmを測る。煙道は燃焼室から急に立ち上がる。カマドの掘り方埋土に焼土や粘土が混入していることや、カマドの南側に粘土や袖石となりそうな石が残存していることなどから、カマドを造り替えている可能性、あるいは別の建物が切り合って存在した可能性が考えられる。



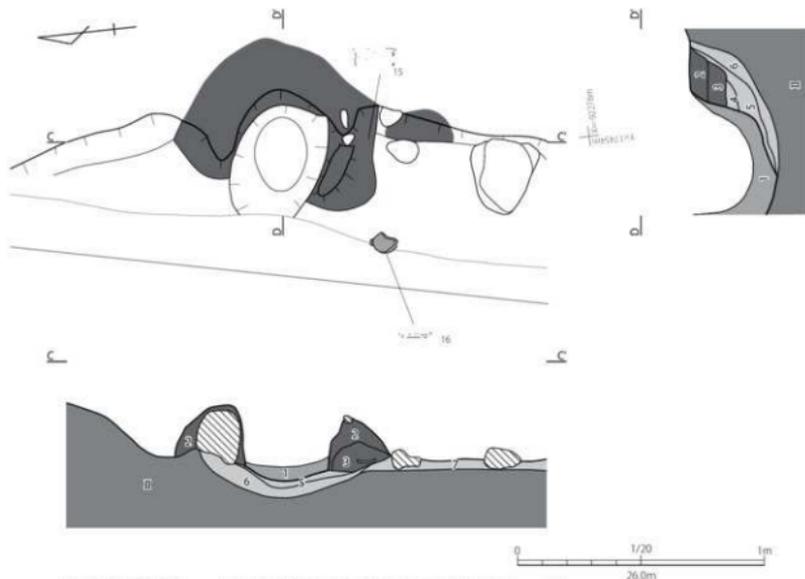
第297図 SB02 出土遺物実測図

第49表 SB02 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名	種類 期間	口径 (cm)	底径 (cm)	深高 (cm)	構成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第297図-12	027 029 030 033	PL-30	SB02	土師器 釜(柄)	(21.0)	(12.5)		良好	20%	10YR5/4 5YR5/4 (にぶい・黄褐色)	反転復元 12と同一個体か
第297図-13	020 028 034 035 036	PL-30	SB02	土師器 釜(柄)		(10.8)	(5.2)	良好	40%	10YR3/2 7.5YR4/3 (黒褐色)	反転復元 13と同一個体か

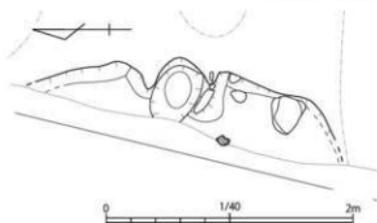


第298図 SB02 カマド 平面図・セクション図



- | | | |
|---------------------|--------------------------------|----------|
| II 明褐色土 (10YR3/3) | しまり強、粘性強。2～5mm赤色粒子多。1mm白色粒子少量。 | 地山 |
| 1 赤褐色土 (2.5YR4/6) | しまり強、粘性強。焼土全体に含む。 | カマド煙焼室 |
| 2 にぶい黄褐色土 (10YR7/4) | しまり強、粘性強。粘土ブロック多量。 | カマド構築粘土 |
| 3 黒褐色土 (10YR3/1) | しまり弱、粘性強。1～3mm粘土ブロック。焼土・炭化物少量。 | カマド構築粘土 |
| 4 黒褐色土 (10YR3/2) | しまりやや弱、粘性強。焼土・炭化物少量。 | カマド蓋り方埋土 |
| 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) | しまり強、粘性強。焼土少量。 | カマド蓋り方埋土 |
| 6 黒褐色土 (10YR3/2) | しまりやや弱、粘性強。焼土含む。粘土ブロック少量。 | カマド蓋り方埋土 |
| 7 黒褐色土 (10YR2/2) | しまり強、粘性強。焼土・炭化物少量。 | カマド蓋り方埋土 |

第299図 SB03 カマド 平面図・セクション図



第300図 SB03 平面図



第301図 SB03 出土遺物実測図

第50表 SB03 出土遺物観察表

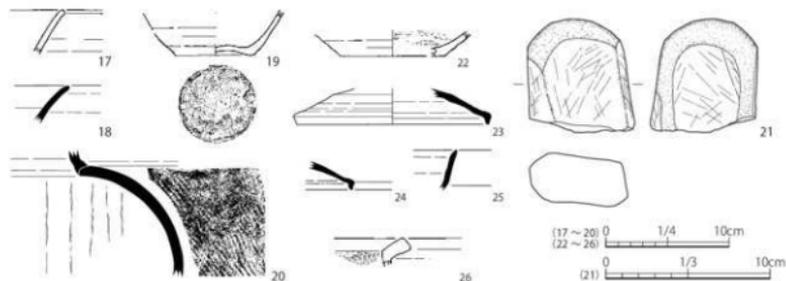
検出番号	R番号	写真 図説	遺構名	類別 細別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	状況	残存率	内面色調 外面色調	備考
第301図-14 048		PL.30	SB03	須恵器 高台坪			(3.5)	良好	-	5Y7/1 (灰白) 5Y6/1 (灰)	
第301図-15 070		PL.30	SB03	土師器 小型罐	(12.8)		(5.5)	良好	20%	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	反転復元
第301図-16 069		PL.30	SB03	土師器 坪		(8.3)	(1.5)	良好	40%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR4/4 (にぶい赤褐)	反転復元

出土遺物 3点図示した(第301図-14~16)。14は体部が箱形を呈する須恵器高台杯で8世紀後半に位置づけられる。15はカマド袖から出土した土師器小型甕で、胎土に葉母を含む。16の土師器鞍東型杯の底部片は8世紀後半から末に位置づけられる。

所見(時期) 出土遺物から、8世紀後半の建物跡と考えられる。



第302図 SB03 カマド(南から)



第303図 土坑・ピット・遺構外 出土遺物実測図

第51表 土坑・ピット・遺構外 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名	類別 説明	口径 (cm)	底径 (cm)	胎高 (cm)	胎底	残存率	内面色調 外面色調	備考
第303図-17	060	PL.30	SK01	土師器			(3.6)	良好	-	2.5YR5/6 (明赤陶) 5YR3/2 (暗赤陶)	
第303図-18	043	PL.30	SK01	須恵器			(3.0)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
第303図-19	013	PL.30	SK01	土師器 杯		6.3	(3.7)	良好	70%	7.5YR4/2 (灰褐) 7.5YR4/2 (灰褐)	一部反転復元
第303図-20	015	PL.30	SK01	須恵器			(10.1)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) 10YR4/2 (灰)	
第303図-21	043	PL.30	SK01	石函 瓶石	長径 (7.0)	短径 6.6		厚さ 3.3			
第303図-22	019	PL.30	SK05	土師器			(8.3)	良好	25%	7.5YR4/2 (灰褐) 7.5YR5/3 (にぶい赤)	反転復元
第303図-23	071	PL.30	SK011	須恵器 杯蓋	(15.4)		(3.0)	良好	20%	5Y7/1 (灰白) 5Y6/1 (灰)	反転復元
第303図-24	042	PL.30	Pi06	須恵器 杯蓋			(2.3)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 7.5Y6/1 (灰)	
第303図-25	001	PL.30	表様	須恵器 杯			(3.2)	良好	-	2.5Y6/1 (黄灰) N6/ (灰)	
第303図-26	004	PL.30	遺構外	土師器 甕			(2.4)	良好	-	2.5Y4/4 (にぶい赤陶) 2.5Y4/4 (にぶい赤陶)	

ピット・土坑

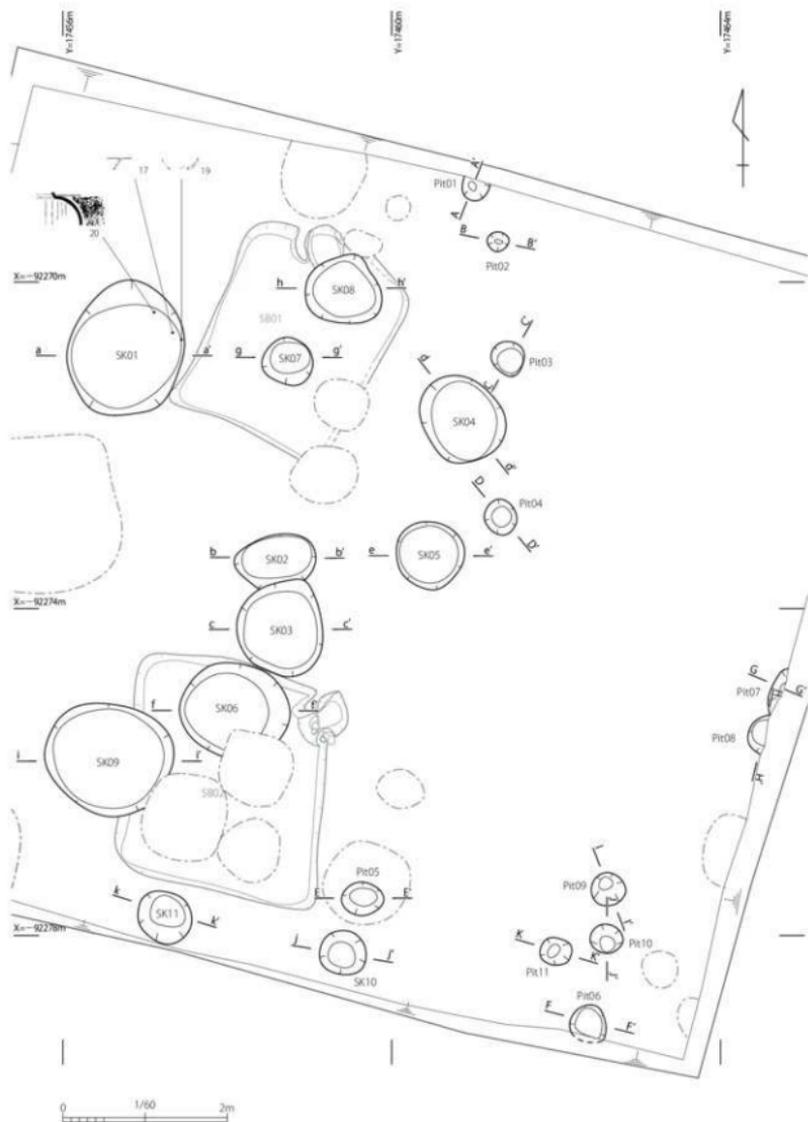
本調査区内において、11基のピット(Pi01~11)と11基の土坑(SK01~11)が検出された。

各遺構の規模等については第52表のとおりである。

出土遺物 ピットおよび土坑から出土した遺物から8点を図示した(第303図-17~24)。17から21はSK01から、22はSK05から、23はSK11から、24はPi06から出土した。19は底部が回転糸切後未調整の土師器鞍東型杯で10世紀に位置づけられる。21は砥石である。23と24の須恵器杯蓋は8世紀代に位置づけられる。

遺構外出土遺物

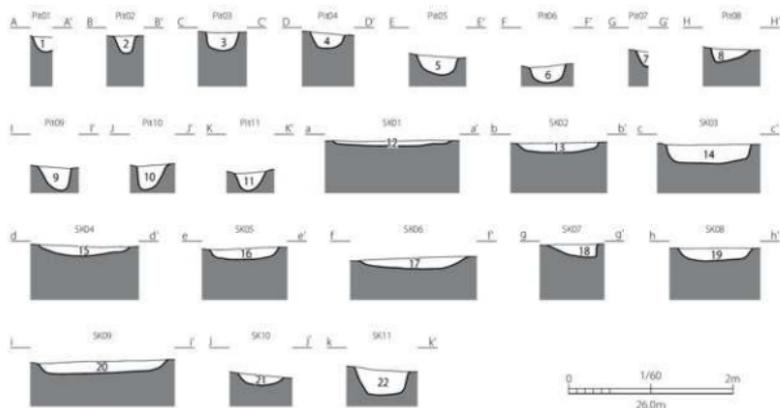
2点図示した(第303図-25・26)。25は須恵器杯、26は9世紀後半に位置づけられる甲斐型甕の口縁部片である。



第304図 土坑・ピット 平面図

第52表 土坑・ピット一覧

遺構番号	規模 (m)			平面形	切り合い部 (古→新)	出土遺物 (第303図)	遺構番号	規模 (m)			平面形	切り合い部 (古→新)	出土遺物 (第303図)
	長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ			
SK01	164	142	5	楕円形		17~21	PH01	-	33	17	円形		
SK02	100	58	12	楕円形	SK02 → SK03		PH02	26	24	30	円形		
SK03	118	110	22	楕円形	SB02 → SK02 → SK03		PH03	40	40	22	円形		
SK04	111	94	12	楕円形			PH04	42	38	18	円形		
SK05	83	83	14	円形		22	PH05	51	41	22	楕円形		
SK06	134	114	13	楕円形	SB02 → SK06		PH06	-	45	20	円形		24
SK07	60	58	16	円形	SB01 → SK07		PH07	-	62	19	楕円形		
SK08	94	84	15	楕円形	SB01 → SK08		PH08	-	48	16	楕円形		
SK09	152	135	14	楕円形	SB02 → SK09		PH09	40	36	27	楕円形		
SK10	57	54	13	楕円形			PH10	36	35	28	楕円形		
SK11	66	64	31	楕円形		23	PH11	38	33	23	楕円形		



- | | | |
|-----------------------|--|---------|
| 1 黒色 (10YR2/1) 粘質土 | しまりやや強、粘性やや弱。径2~3mm褐色粒子微量。 | PH01 覆土 |
| 2 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径1~2mm褐色粒子微量。 | PH02 覆土 |
| 3 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径1~4mm褐色粒子微量。 | PH03 覆土 |
| 4 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径2~5mm褐色粒子微量。 | PH04 覆土 |
| 5 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径2~3mm褐色粒子微量。 | PH05 覆土 |
| 6 黒色 (10YR1.7/1) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径1~2mm褐色粒子少量。径2~3mm褐色粒子微量。 | PH06 覆土 |
| 7 黒色 (10YR1.7/1) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径2~4mm褐色粒子。径2~3mm褐色粒子微量。 | PH07 覆土 |
| 8 黒色 (10YR1.7/1) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径1mm白色粒子。径2~3mm褐色粒子微量。 | PH08 覆土 |
| 9 黒色 (10YR1.7/1) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径2~4mm白色粒子少量。径1~3mm褐色粒子微量。 | PH09 覆土 |
| 10 黒色 (2.5Y2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径2~4mm褐色粒子微量。 | PH10 覆土 |
| 11 黒色 (10YR1.7/1) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径1~2mm褐色粒子少量。径2~5mm白色粒子微量。 | PH11 覆土 |
| 12 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径2~3mm褐色粒子微量。 | SK01 覆土 |
| 13 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性弱。径1~3mm赤色粒子やや多量。径1mm白色粒子少量。 | SK02 覆土 |
| 14 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性弱。径1~3mm赤色粒子・径1mm白色粒子極少量。 | SK03 覆土 |
| 15 黒褐色 (10YR2/3) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径2~5mm白色粒子少量。 | SK04 覆土 |
| 16 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径2~5mm褐色粒子微量。 | SK05 覆土 |
| 17 黒褐色 (10YR3/2) 粘質土 | しまりやや弱、粘性やや弱。径1~3mm赤色粒子やや少量。径1~3cm礫多量。 | SK06 覆土 |
| 18 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径2~3mm褐色粒子微量。 | SK07 覆土 |
| 19 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径1~3mm褐色粒子微量。 | SK08 覆土 |
| 20 黒褐色 (10YR3/1) 粘質土 | しまりやや弱、粘性弱。径1~3mm赤色粒子やや少量。径1mm白色粒子極少量。径2~5mm礫少量。 | SK09 覆土 |
| 21 黒色 (10YR1.7/1) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径2~4mm褐色粒子・径3~7mm褐色粒子微量。 | SK10 覆土 |
| 22 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土 | しまり弱、粘性やや弱。径2~5mm褐色粒子・径1~2mm白色粒子少量。 | SK11 覆土 |

第305図 土坑・ピット セクション図

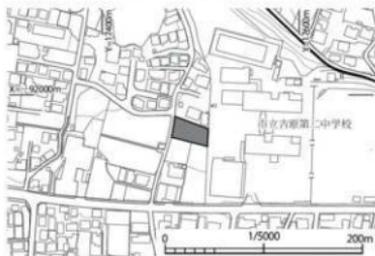
第10節 第57地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

事業者は、富士市今泉字舟久保 1958-6 (670.21㎡) において集合住宅新築工事を計画した。当該地区が周辺の埋蔵文化財包蔵地「舟久保遺跡」の範囲内に位置することから、富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。当該地区の西側において平成27年度に実施された確認調査で奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されていることから、当該地区においても遺跡が残存している可能性があるため、文化振興課による確認調査を実施することとなった。

平成27年5月7日、事業者から市教育長宛に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出された。8月25日、県教育長宛に文化財保護法



第306図 舟久保遺跡第57地区 位置図



第307図 舟久保遺跡第57地区 トレンチ・本調査区配置図

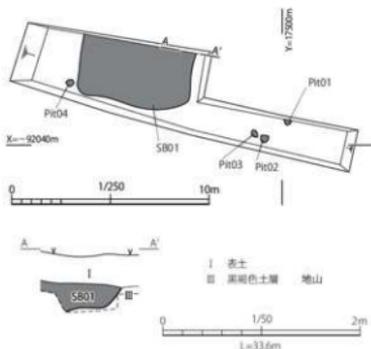
第99条にもとづく「発掘調査について」を提出し（富市文発第406号）、平成27年9月3日、文化振興課職員による確認調査を実施した。

(2) 確認調査

確認調査では、対象地内に1本のトレンチを設定し、重機による掘削後、人力により精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、奈良時代の堅穴建物跡とみられる方形のプラン (SB01) と、ピット4基 (Pit01~04) を検出した。ただし、SB01は東西幅5.60mを測り、規模が大きいため、複数の建物跡が切り合っている可能性が考えられる。遺物は、土師器・須恵器の破片が7点出土し、9月7日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第443号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富市文発第443-2号)を提出した。これらの遺物については9月15日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1015号)。

確認調査の結果について、9月8日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」を送付した(富市文発第445号)。確認調査の結果を受け、10月19日、県教育長から、遺跡の保護が図れない建物建設部分について、本発掘調査を実施するよう指示が通知された(教文第1159号)。



第308図 舟久保遺跡第57地区 トレンチ平面図・セクション図

すでに10月1日には、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」ならびに「発掘調査承諾書」が提出されており、11月2日、事業者と富士市長、市教育長の間で文化財調査に関する協定が締結された。平成28年1月4日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富市文発第874号)、文化振興課職員による本発掘調査が実施されることとなった。

(3) 本発掘調査

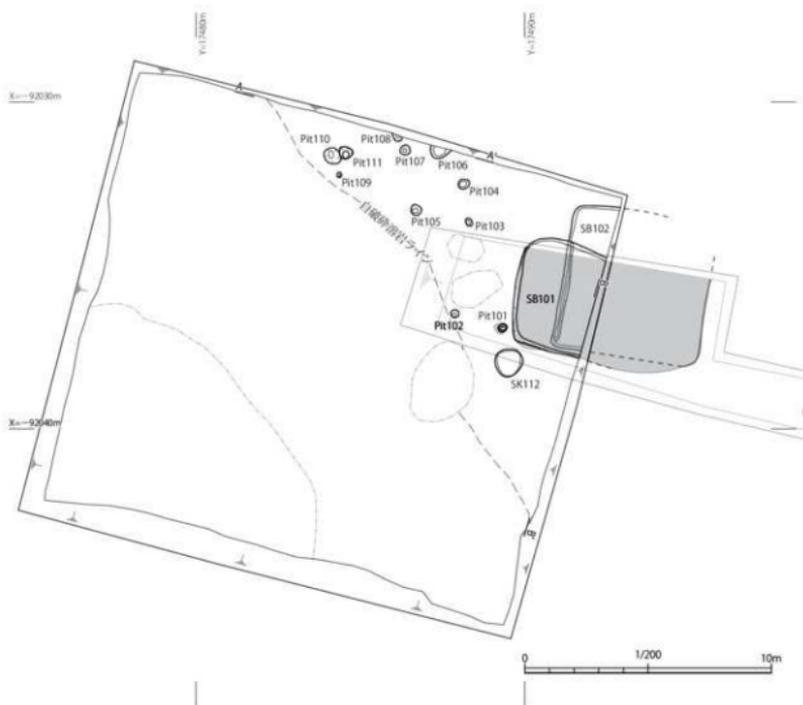
本発掘調査は平成28年1月6日から29日にかけて行った。建物建設範囲に本発掘調査区を設定し(221.74㎡)、重機により遺構検出面まで掘り下げたのち、人力により遺構・遺物の検出につとめた。その結果、奈良・平安時代の竪穴建物跡2軒(SB101・102)、ピット11基(Pr1)・土坑1基を検出、完掘した。確認調査で検出された遺構プラン(SB01)は、2軒の建物跡(SB101・

102)の切り合いであることが確認された。

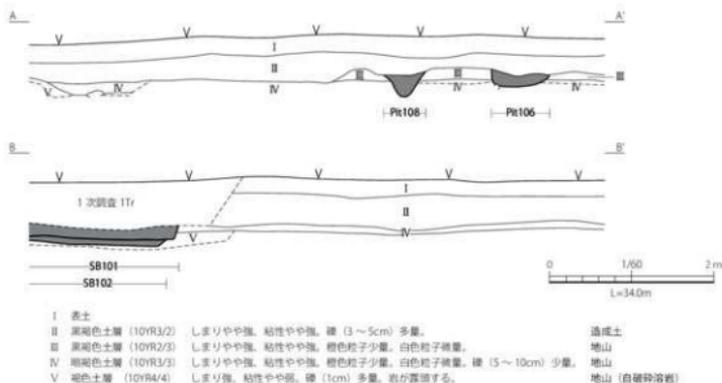
本発掘調査区内では、遺跡の包含層は北東寄りの3分の1程度の範囲にしか残存しておらず、すべての遺構はこの範囲から検出された。それ以外の部分では、自破砕溶岩層が露頭しており遺構は検出されていない。

遺物は、土師器・須恵器が出土し、2月2日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第921号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富市文発第921-2号)を提出した。これらの遺物については、2月17日、県教育長により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1730号)。

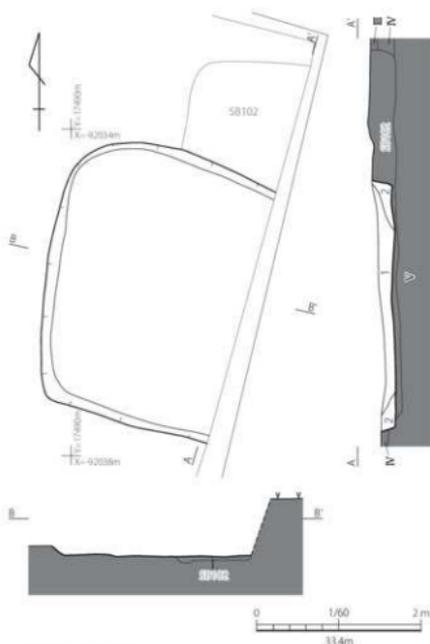
本発掘調査の結果について、2月17日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」を送付した(富市文発第956号)。



第309図 舟久保遺跡第57地区 本発掘調査区全体図



第310図 舟久保遺跡第57地区 本発掘調査区セクション図



- 1 黒色土 (10YR2/1)
しまりやや強、粘性やや強、大黒スコリア少量、粘土少量、SB101 覆土
- 2 黒褐色土 (10YR2/2)
しまりやや強、粘性やや強、棕色粒子微量、粘土少量、SB101 覆土

第311図 舟久保遺跡第57地区 SB101 平面図・セクション図

2. 調査の成果

竪穴建物跡

SB101

位置 本調査区の東端、北寄りで検出された。

重複関係 (古) SB102 → SB101 (新)

主軸方位 N - 16° - E

残存状況 東半分が調査区外にあり、全容は不明であるが、南北幅3.40m、東西残存幅2.40mを測り、平面プランは隅丸方形を呈すると推定される。検出面からの深さは25cmを測る。

覆土 大黒スコリアを少量含む黒色土の自然堆積層。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。調査区外に位置すると考えられる。

出土遺物 土師器片、須恵器片が出土したが、図示には至らなかった。

所見 (時期) SB102との切り合い関係から、8世紀代以降(平安時代か)の建物跡と考えられる。

SB102

位置 本調査区の東端、北寄りで見出された。

重複関係 (古) SB102 → SB101 (新)

主軸方位 N-10°-E

残存状況 東側の大部分が調査区外にあり、検出部分の南側はSB101に上部を切られているため掘り方みの検出である。しかし、確認調査で見出された遺構プラン(SB01)の南東角が本建物跡の角と考えられることから、平面形は南北幅4.50m、東西幅4.50mの正方形を呈すると推定される。検出面からの深さは30cmを測る。

覆土 大瀝スコリアを少量含む黒褐色土の自然堆積層。

壁溝 西壁のSB101に切られている部分でのみ、幅20cm、深さ9cmの壁溝が確認された。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方に粘土が中量混ざる暗褐色土を入れて床面としている。

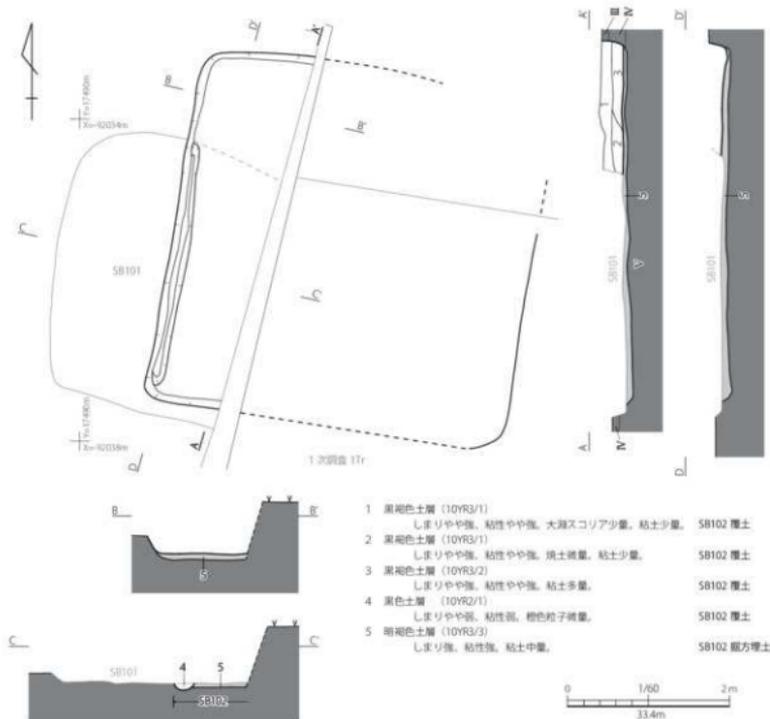
カマド 検出されなかった。南北セクションの北端でカマド崩落土と考えられる粘土の堆積が認められることから、北壁中央付近に存在する可能性が高い。

出土遺物 土師器片、須恵器片が出土し、土師器壺1点を図示した(第313図)。駿東型壺の肩部で、8世紀代に位置づけられる。

所見(時期) 出土遺物からは、8世紀代といえる。

ピット・土坑

本調査区内において、11基のピット(Pit101~111)と1基の土坑(SK112)が検出された。各遺構の規模や覆土については第54表のとおりである。



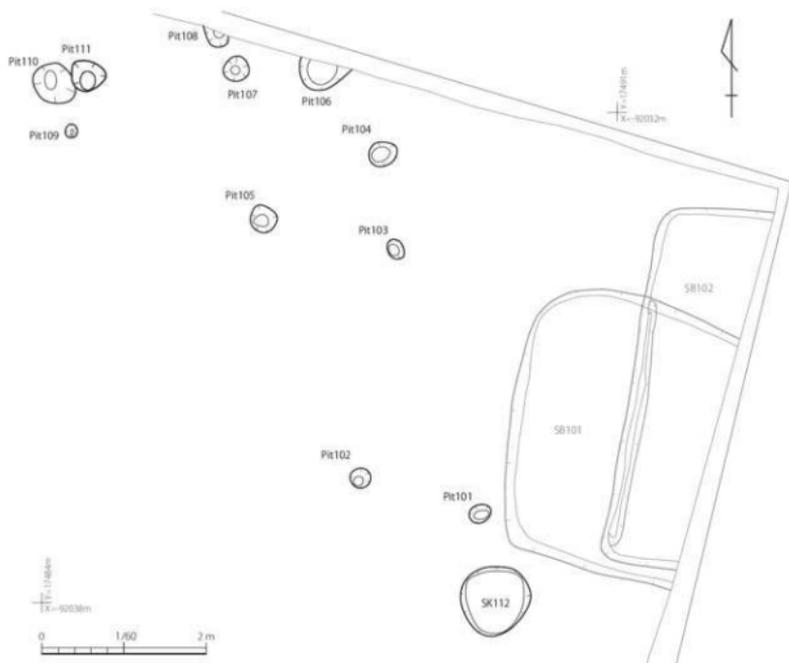
第312図 舟久保遺跡第57地区 SB102 平面図・セクション図



第 313 図 舟久保遺跡第 57 地区 SB102 出土遺物実測図

第 53 表 57 地区 SB102 出土遺物観察表

標記番号	R 番号	写真 図録	遺構名	種類 属性	口径 (cm)	表径 (cm)	長さ (cm)	状態	残存率	内面色調 外面色調	備考
第 313 図-1	0005	PL.31	SB102	土師器 鏃	-	-	(5.3)	良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR6/6 (橙)	



第 314 図 舟久保遺跡第 57 地区 土坑・ピット 平面図

第 54 表 舟久保遺跡第 57 地区 土坑・ピット一覧表

遺構 番号	規模 (cm)			断面形	出土遺物	土層
	長軸	短軸	深さ			
Pit101	28	23	6	逆台形	A	
Pit102	26	26	5	U 字形	B	
Pit103	27	21	6	逆台形	A	
Pit104	37	30	11	逆台形	A	
Pit105	33	31	6	逆台形	B	
Pit106	60	(34)	15	逆台形	B	

遺構 番号	規模 (cm)			断面形	出土遺物	土層
	長軸	短軸	深さ			
Pit107	33	32	11	逆台形		A
Pit108	36	(21)	25	U 字形		A
Pit109	19	19	5	逆台形		B
Pit110	54	47	28	逆台形	R0003	A
Pit111	42	(35)	17	U 字形		A
SK112	86	81	8	箱形		C

A 黒色 (10YR2/1) しまりやや弱、粘性弱。大層スコリア中層、褐色粒子微量。

B 黒褐色 (7.5YR2/2) しまり弱、粘性弱。大層スコリア最層、褐色粒子微量。

C 暗褐色 (7.5YR3/3) しまり弱、粘性弱。褐色粒子微量、径 1cm の角礫少量。

第5章 宇東川遺跡U地区の調査

第1節 宇東川遺跡の概要

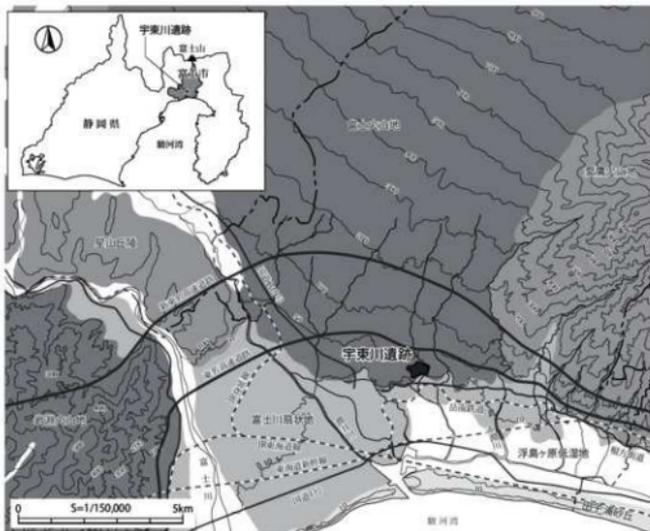
宇東川遺跡は富士山南麓に広がる新富士火山噴出物を基盤とする丘陵の末端部分の松原川西岸に立地する。南北約500m、東西650mの範囲に展開する縄文時代から平安時代にかけての複合集落である。

縄文時代では、早期(押型文)、前期(諸磯Ⅱ式)の遺物も少数ながら認められるものの、その主体は中期後葉から後期前葉(曾利Ⅳ式期から堀ノ内Ⅰ式期)にかけてである。平成元年から2年まで行われたA地区第2次調査では竪穴建物跡6軒(内、2軒が柄鏡形敷石住居跡)、埋蔵23基が検出されている(富士市教委1991)。また、近年行われた3～6次調査においても建物跡2軒、埋蔵4基が検出されているが、いずれも中期後葉から後期前葉に取まるものと考えられている(富士市教委2012)。後期前葉以降は、松原川の対岸に立地する中島遺跡において集落が展開することも集落展開

を考える上で注目される。

弥生時代においては後期終末期(庄内式期)において、北陸地方南西部系の甕が比較的多く出土しており、集落の眼下の浮島ヶ原低地西端に展開する沖田遺跡を玄関口とした他地域との地域間交流の存在と浮島ヶ原低地周辺の集落同士の有機的・構造的なつながりの存在を想定させる。その列島規模の地域間交流は、沼津市高尾山古墳を始めとした古墳時代という新たな時代の幕開けへの胎動と捉えることができる。

古墳時代に入り前期から中期初頭まで集落展開が認められるものの、中期の遺構はほとんど見つかっていない。これは東日本全体としての特徴であることから低地部へのヒトの移動など多角的な検討を要する。中期末のTK23-47型式期に入り、再び集落展開が確認されるが、根方街道沿いに展開する宮添遺跡などとも共通してお



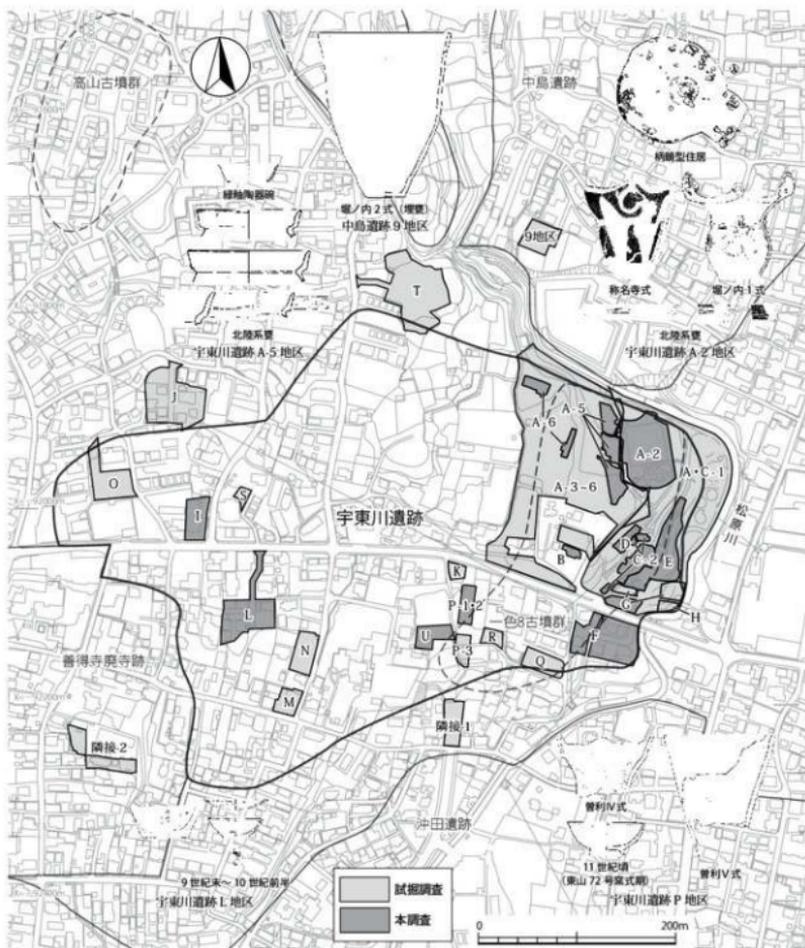
第315図 宇東川遺跡の位置と周辺地形図

り、倭王権を中心とする新たな流れの中に東駿河も参画していったことがうかがえる。しかし、古墳時代後期や7世紀にいたっては、宇東川遺跡での集落展開は低調であり、これはより西方の潤井川流域における集落展開が活発になったことと対照的である。

しかし、8世紀にはいり、東平遺跡において駿河国富

士郡家が設置されると、同じ根方街道沿いの舟久保遺跡や祢宜ノ前遺跡、宮添遺跡などとともに主要街道沿いの拠点的な存在として機能しはじめる。

宇東川遺跡は平安時代に入り10世紀ごろまでは継続的な展開を見せるもののその後、考古学的な成果では集落活動は見られなくなる。



第316図 宇東川遺跡 概要図

第2節 宇東川遺跡U地区の調査成果

1. 調査の概要

(1) 調査に至る経緯

医療財団法人 百葉の会（以下、事業者）は富士市宇東川西町 585-1 ほか 5 筆（694.72㎡）において、複合型小規模ホームの建設を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「宇東川遺跡」の範囲内に位置することから、富士市教育委員会の補助執行機関である富士市市民部文化振興課と埋蔵文化財の対応について協議を開始した。当該地の東を南北に走る左富士臨港線では、築造工事に伴って平成 19 年度に行われた本発掘調査で、奈良・平安時代の竪穴建物跡 3 軒、縄文時代の土坑などが検出・調査されている。そのため、当該地においても遺構・遺物が残存している可能性があること、建物建設に伴う掘削が深く行われる計画であることから、工事に先立って確認調査を実施する必要があることを事業者に伝えた。

平成 27 年 7 月 23 日、土地所有者から「発掘調査承諾書」が、7 月 28 日には事業者から「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」が富士市教育委員会教育長（以下、市教育長）宛に提出された。これを受けて文化振興課は、8 月 4 日、文化財保護法第 99 条に基づく書類「発掘調査について」を静岡県教育委員会教育長（以下、県教育長）宛に提出し（富市文発第 349 号）、文化振興課職員による確認調査を実施することとなった。

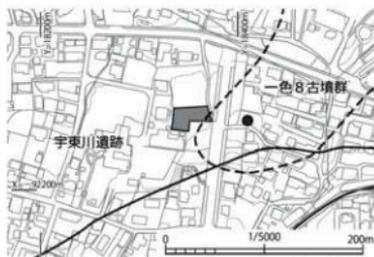
(2) 確認調査

確認調査は平成 27 年 8 月 5 日から 6 日にかけて行った。

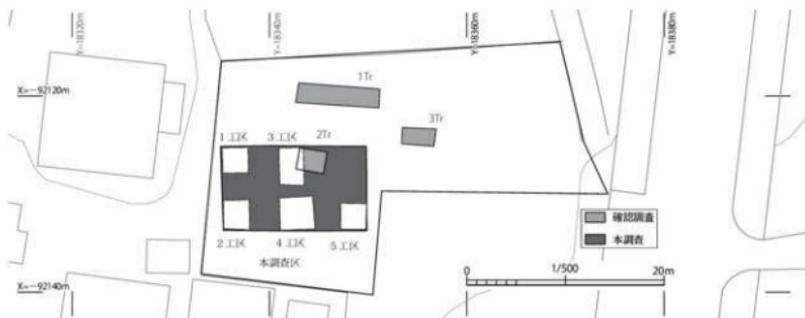
調査地内に東西方向のトレンチを 3 本（28.67㎡）設定し、重機による掘削後、人力による精査を行い、遺構・遺物の検出につとめた。

その結果、奈良・平安時代の竪穴建物跡 3 軒を検出した。また、遺構は伴わないものの、縄文土器や古墳時代前期の上師器を包含する層が良好に残存していることが明らかとなった。

遺物は、土師器片や須恵器片、縄文土器片がコンテナ 1 箱分出土し、8 月 10 日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第 368 号）を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第 368-2 号）を提出した。これは、8 月 26 日、県教育長により埋蔵文化財の認定



第 317 図 調査地位画図



第 318 図 確認調査トレンチおよび本発掘調査区配置図

を受けている(教文第922号)。8月20日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第400号)を提出した。また、事業者には、埋蔵文化財の保護に向けて調整の必要がある旨を説明した。

(3) 本発掘調査

9月3日、文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出書」が事業者から県教育長宛に提出された。9月7日、県教育長から、遺跡の保護が図れない部分について本発掘調査を実施するよう指示が通知された。これを受けて、事業者と文化振興課は協議を行い、事業者からの委託により富士市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。

9月9日、事業者から「埋蔵文化財本発掘調査依頼書」が、事業者ならびに土地所有者から「発掘調査承諾書」が市教育長宛に提出された。9月16日、事業者と富士市長、市教育長の3者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて、事業者と富士市長の2者間で発掘作業に関わる業務委託契約が締結された。9月24日、文化財保護法第99条に基づく「発掘調査について」を県教育長に提出し(富市文発第509号)、文化振興課職員による記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

調査は平成27年9月28日から10月28日にかけて行った。建物の基礎が設けられる部分を含む東西約14m、南北約8.5mの範囲(調査区と呼ぶ)について表土を除去し、遺構・遺物の検出につとめた。その結果、調査区内に平安時代の竪穴建物跡16軒(SB101～108、110～117)とピット2基(Ph01-02)を検出し、遺構プランの測量、写真撮影などを行った。その後、建物基礎が設けられる5ヶ所を調査工区として設定し(総面積42.80㎡)、その範囲内の遺構のみを完掘し、測量・写真撮影による記録保存を行った。

平安時代の調査終了後、各調査工区内を縄文時代の遺構検出面まで掘り下げた。その結果、縄文土器片や石器などの遺物が出土したが、遺構の検出には至らなかった。

本発掘調査では、コンテナ3箱分の縄文土器・土師器・須恵器・灰軸陶器・石器・鉄器が出土し、11月2日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」(富市文発第791号)を、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」(富教文発第791-2号)を提出した。これは、11月10日、県教育長

により埋蔵文化財の認定を受けている(教文第1286号)。

12月1日、事業者に対し、発掘作業に関わる業務の完了報告を行い(富市文発第831号)、業務委託金の精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。同日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」(富市文発第833号)を提出した。

(4) 整理作業

平成28年7月1日、事業者と富士市長との2者間で結ばれた整理作業に関わる業務委託契約により、調査記録および出土遺物の整理作業が開始された。遺構測量図面の整理・編集、遺物の洗浄・注記・接合・復元・実測・写真撮影、文章執筆などの作業をすすめ、これらを編集して報告書を作成した。平成28年10月28日、事業者に対し、整理作業に関わる業務の完了報告を行い(富市文発第722号)、業務委託金の精算をもって、整理作業に関わる業務委託契約が終了した。

平成29年3月31日、宇東川遺跡U地区埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって終了した。本書にて報告する図面・発掘記録・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会にて保管している。

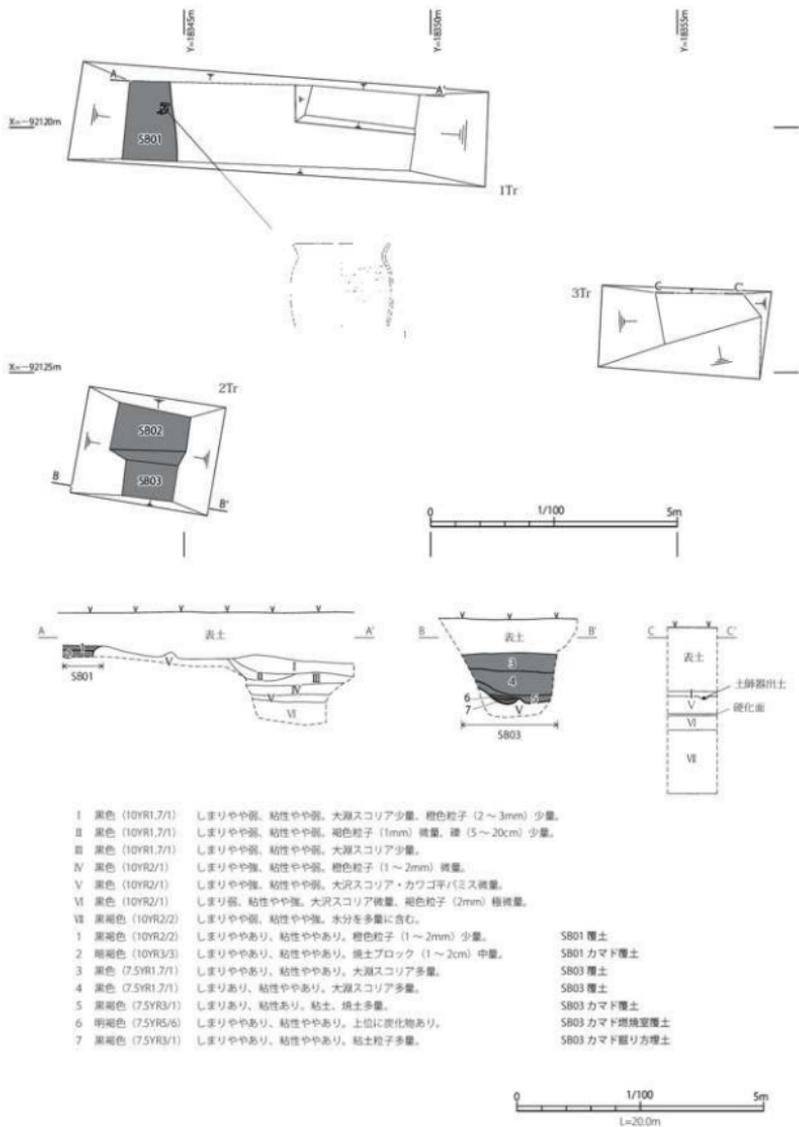
(5) 調査の体制

本書で報告する一連の調査は、以下の体制で実施した。

〔調査主体〕	富士市教育委員会	教育長	山田 幸男
〔調査担当〕	市民部	部長	加納 孝剛
	文化振興課	課長	町田しげ美
	文化財担当	統括主幹	前田 勝己
	埋蔵文化財調査室	主査	石川 武男
		臨時職員	服部 孝信



第319回 調査地全景(東より)



第320図 確認調査トレンチ 平面図・セクション図

2. 調査の成果

(1) 確認調査

確認調査では、調査地に東西方向のトレンチを3本(1～3Tr) 設定した(第320図)。重機による表土掘削後、人力により精査した結果、1トレンチにおいて1軒(SB01)、2トレンチにおいて2軒(SB02・SB03)の奈良・平安時代とみられる竪穴建物跡を検出した。

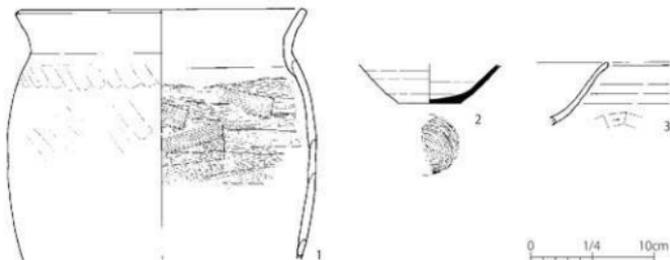
遺物は、土師器片や須恵器片、縄文土器片がコンテナ1箱分出土し、3点を図示した(第322図-1～3)。1は1TrのSB01から出土した土師器の駿東型長胴甕である。頸部はゆるやかに湾曲し、胴部は張らない。外面は板状工具によるナデ、内面の上半部はヨコハケで調整される。外面調整や形態から、9世紀後半から10世紀のものと考えられる。2は2Trから出土した須恵器の坏である。底部は回転糸切後未調整である。色調は白色を呈し、焼成が良好でないことから、「軟質須恵器」とされるものである。9世紀代のものと考えられる。3は2Trから出土した土師器の坏、もしくは埴とされるものである。胎土が砂っぽく、色調は橙色を呈する。外面底部付近にはヘラケズリの痕跡が確認できる。9世紀後半のものと考えられる。

(2) 本発掘調査

本発掘調査では、建物基礎の工事計画に基づき、東西約14m、南北約8.5mの範囲(調査区と呼ぶ)について重機により表土を除去した。平安時代の竪穴建物跡16軒(SB101～108、110～117)とピット2基(Pi01・02)を検出した後、建物基礎が設けられる5ヶ所を調査工区として設定し(総面積42.80㎡)、その範囲内のみ遺構を完掘し、測量・写真撮影による記録保存を行った。



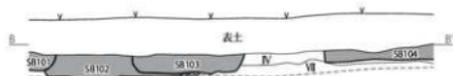
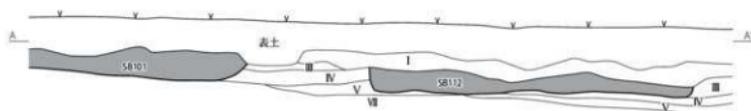
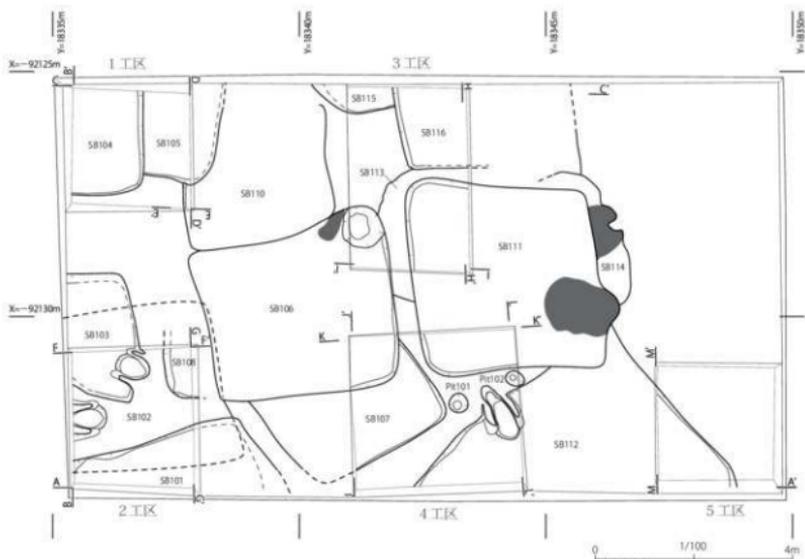
第321図 遺構検出状況



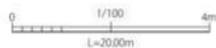
第322図 確認調査トレンチ 出土遺物実測図

第55表 確認調査トレンチ 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	発掘名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存本	内面色調 外面色調	備考
第322図-1	0001	PL.35	1TrSB01	土師器 甕	(22.7)		(20.6)	良好	35%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第322図-2	0007	PL.35	2Tr	須恵器 坏	(5.0)		(3.2)	軟質	35%	2.5Y8/1 (灰白) 2.5Y8/1 (灰白)	底部糸切痕 軟質須恵器
第322図-3	0007	PL.35	2Tr	土師器 坏			(5.1)	良好	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	



- I 黒色 (10YR1.7/1) しまりやや強、粘性やや弱。大黒スコリア少量。褐色粒子 (2~3mm) 少量。
- II 黒色 (10YR1.7/1) しまりやや強、粘性やや弱。大黒スコリア少量。
- IV 黒色 (10YR2/1) しまりやや強、粘性やや弱。褐色粒子 (1~2mm) 微量。
- V 黒色 (10YR2/1) しまりやや強、粘性やや弱。大沢スコリア・カワゴキハ(ミズ樽)。
- VI 黒色 (10YR2/1) しまり弱、粘性やや強。大沢スコリア微量。褐色粒子 (2mm) 極微量。
- VII 黒褐色 (10YR2/2) しまりやや強、粘性やや強。水分を多量に含む。



第323図 本調査区 平面図・セクション図

竪穴建物跡

SB101

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB102 → SB101 (新)

主軸方位 N-38°-W

残存状況 南側の大半が調査区外にあり、第2工区内で北壁の一部を完掘、調査区内で北東角から東壁の一部を検出した。検出部分で、主軸幅(東西)3.40m、直交幅(南北)2.00mを測り、平面形は方形を呈すると推定される。検出面からの深さは30cmである。

覆土 大溜スコリアと橙色粒子を含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

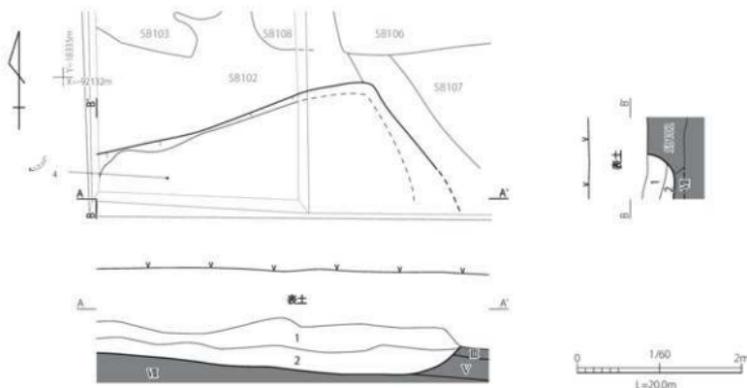
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出された範囲では確認されなかった。

出土遺物 土師器片1点(第325図-4)を図示した。4は土師器の内湾環である。底部はあまりはっきりせず、内湾しながら口縁部に至る。底部外面には木葉痕が残る。色調は橙色を呈し、焼成が良好でないため、器面が荒れ、調整は観察できない。口縁部はココナデにより調整される。

所見(時期) 出土遺物は7世紀後半から8世紀前半頃に位置づけられるが、遺構の切り合い関係から8世紀前半の建物跡と考えられる。



- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強、しまりやや弱。大溜スコリア微量。橙色粒子少量。SB101 覆土
 2 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強、しまり弱。橙色粒子微量。粘土ブロックやや少量。SB101 覆土

第324図 SB101 平面図・セクション図



第325図 SB101 出土遺物実測図

第56表 SB101 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考	
第325図-4	0046	PL.35	SB101	土師器 片				(3.7)	良好	-	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	

SB102

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古)SB102 → SB101・SB103・SB108(新)

主軸方位 不明

残存状況 SB101・SB103・SB108 に切られて、検出範囲では壁を確認できず、カマドと床面のみ検出された。平面形・規模等は不明である。

覆土 大瀧スコリア・橙色粒子を含む黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

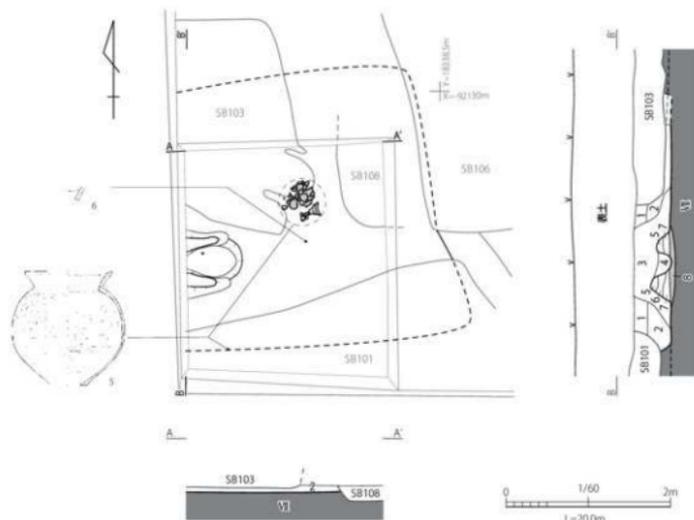
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 建物の西壁に位置する。両袖と燃焼室が検出され、煙道は調査区外にある。袖は粘土と黒色土で構築され、芯材は不明である。

出土遺物 土師器甕3点(第328図・5~7)を図示した。5は鞍東型球胴甕である。器高が低く、底径が大きいことから安定感がある。底部から球形に頸部に至り、くの字に屈曲したのち直線的に口縁部に至る。口唇部に凹みをもつ。外面は細かなナメ方向のハケ目の後、ヘラミガキを施し、内面はヨコ方向のハケ目という定型的な球胴甕である。6も鞍東型球胴甕の口唇部片である。口唇部内面を突出させている。7も鞍東型球胴甕の胴部から底部にかけての破片である。底部が大きく、5よりもやや大きな胴部をもつ。外面はタテハケが施されるもののヘラミガキは認められない。内面は、底部はナデ、乾燥後の部分はヨコ方向のハケ目が施される。

所見(時期) 遺物からは8世紀前半の建物跡と考えられる。



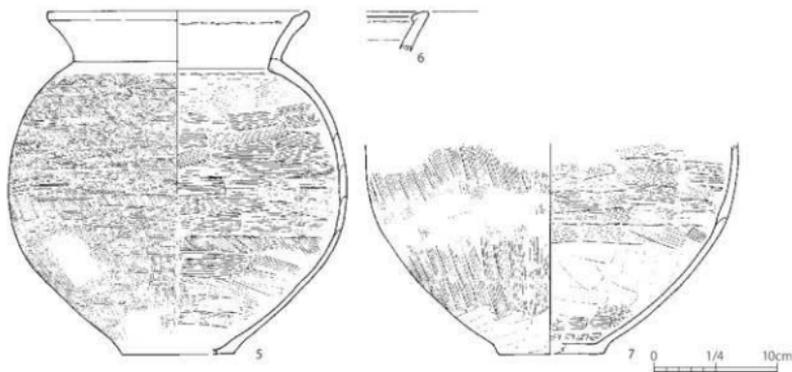
- | | | |
|-------------------|---------------------------------|----------------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強、しまりや中強。大瀧スコリア残量、橙色粒子微量。 | SB102 覆土 |
| 2 黒褐色土 (10YR3/2) | 粘性強、しまりや中強。橙色粒子少量、粘土ブロック多量。 | SB102 覆土 |
| 3 暗褐色土 (7.5YR3/3) | 粘性弱、しまり弱。粘土、炭土ブロック多量。黒褐色土多量混入。 | SB102 カマド構築土 |
| 4 暗褐色土 (7.5YR3/3) | 粘性や中強、しまりや中強。炭土ブロック多量。 | SB102 カマド構築土 |
| 5 暗褐色土 (10YR7/6) | 粘性強、しまりや中強。黒褐色土(10YR3/1)、粘土多量。 | SB102 カマド袖 |
| 6 黒色土 (10YR2/1) | 粘性や中強、しまりや中強。粘土ブロック少量、炭土、炭化物少量。 | SB102 カマド袖 |
| 7 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強、しまり強。炭土や中多量。粘土ブロック、炭化物少量。 | SB102 カマド袖 |
| 8 黒褐色土 (10YR3/1) | 粘性強、しまり強。粘土ブロック多量。炭土少量、炭化物やや多量。 | SB102 カマド掘り方埋土 |

第326図 SB102 平面図・セクション図



第327図 SB102カマド 平面図・セクション図

- 1 黒褐色土 (7.5YR3/3)
粘性やや弱、しまりやや弱、粘土ブロック多量。
SB102カマド底壁
- 2 暗黄褐色土 (10YR7/6)
粘性弱、しまりやや強、黒褐色土 (10YR3/1)、粘土多量。
SB102カマド軸
- 3 黒色土 (10YR2/1)
粘性やや弱、しまりやや強、粘土ブロック少量、炭土、炭化物少量。
SB102カマド軸
- 4 黒褐色土 (10YR3/1)
粘性強、しまり強、焼土やや多量、粘土ブロック、炭化物少量。
SB102カマド軸
- 5 黒褐色土 (10YR3/1)
粘性強、しまり強、粘土ブロック多量、焼土少量、炭化物やや多量。
SB102カマド廻り方埋土



第328図 SB102 出土遺物実測図

第57表 SB102 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	発掘名・ トレンチ	種類 細別	口径 (cm)	高さ (cm)	底高 (cm)	地味	残存率	内面色調 外面色調	備考
第328図-5	0244 0249 0250 0275 0276 0278 0280 0282 0283 0285 0289	PL.35	SB102	土師器 甕	(20.9)	(9.0)	28.0	良好	40%	5YR5/6 (明赤陶) 2.5YR4/4 (にぶい赤陶)	
第328図-6	0029	PL.35	SB102	土師器 甕			(3.3)	良好	-	2.5YR4/4 (にぶい赤陶) 5YR4/2 (灰陶)	
第328図-7	0232	PL.35	SB102	土師器 甕		(8.5)	(17.1)	良好	35%	5YR4/3 (にぶい赤陶) 5YR4/3 (にぶい赤陶)	

SB103

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB102 → SB103 (新)

主軸方位 N-85°-E

残存状況 西半は調査区外にあるが、カマドを含む南東角を第2工区内で完掘し、北東部分のプランも調査区内で検出した。検出部分で、主軸幅(東西)1.80m、直交幅(南北)2.40mを測る。平面形は、南東角がやや突出する方形と推定される。

覆土 大淵スコリアを含む黒色土・黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

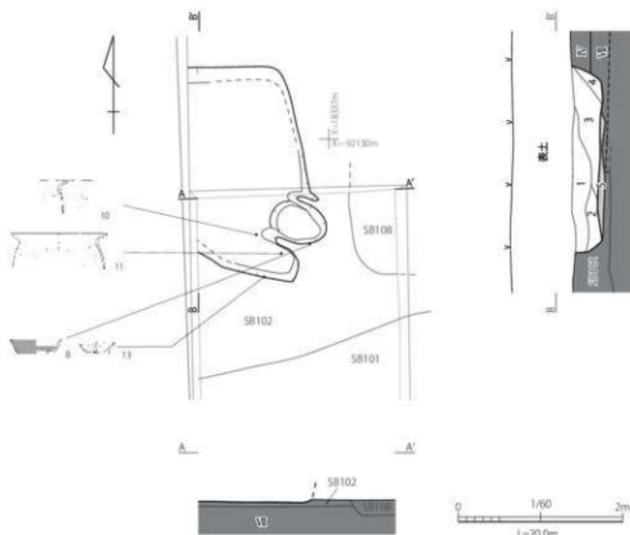
柱穴 検出されなかった。

床 深さ10cmほどの掘り方に黒褐色土をいれて床面とする。

カマド 東壁の南寄りに位置する。粘土で構築された両袖と、燃焼室、煙道が検出された。

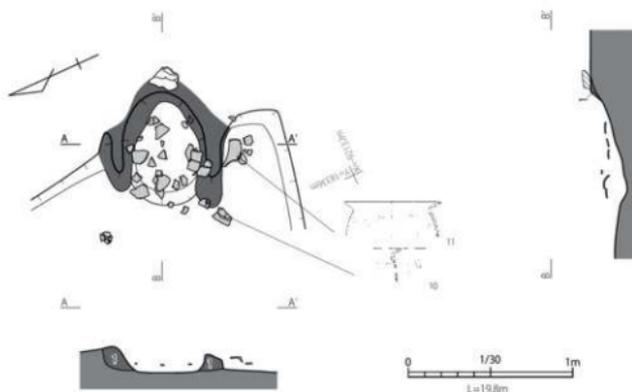
出土遺物 土師器杯2点、甕4点を図示した(第331図-8~13)。8は鞍東型坏である。底径が大きく、やや反りながら口縁部に至る。内面の一部を除いて黒色処理が施される。9は坏の破片である。器面荒れの為、調整が観察できないものの、甲斐型の可能性がある。10・11の甕口縁部はカマド周辺から出土した。10は鞍東型長胴甕の破片である。頭部はやや直立し、口縁部は大きく反る。肩はほとんど張らない。外面は粗いハケ目、内面はヨコハケ調整である。口縁部は丁寧にヨコナデされる。胎土が砂っぽい。11も鞍東型長胴甕である。形態、調整ともに10と共通するものの、胎土が精緻で、焼成も良好である。12・13は鞍東型長胴甕の底部の破片である。径が小さく、やや小型のものと思われる。いずれも外面に木炭痕を残す。

所見(時期) 出土遺物から、8世紀後半頃の建物跡と考えられる。



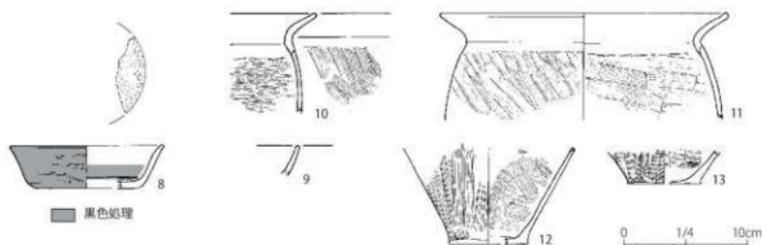
- | | |
|---|-------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性強、しまりやや弱。大淵スコリア微量。橙色粒子微量。 | SB103 覆土 |
| 2 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強、しまり弱。大淵スコリア微量。粘土ブロック多量。 | SB103 覆土 |
| 3 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまり弱。大淵スコリア極微量。橙色粒子微量。 | SB103 覆土 |
| 4 黒色土 (10YR2/1) 粘性強、しまり強。大淵スコリア極微量。2~3cm 塊少量。 | SB103 覆土 |
| 5 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強、しまり強。橙色粒子極微量。珪質ブロック混在。 | SB103 掘り方埋土 |

第329図 SB103 平面図・セクション図



1 黄褐色粘土層 (10YR5/8) 粘性強、しまりやや強。SB103カマド袖

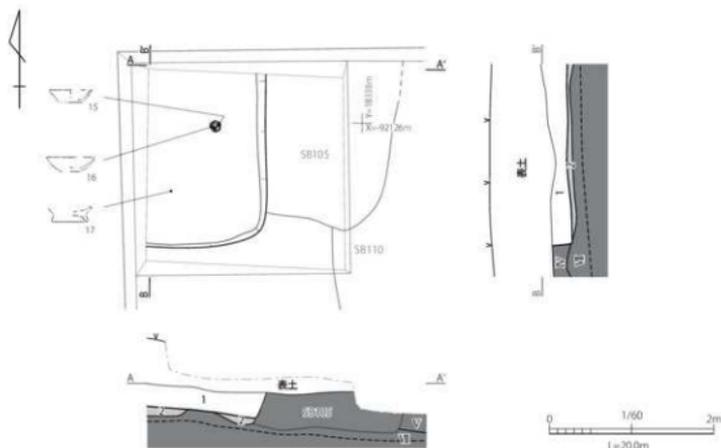
第330図 SB103カマド 平面図・セクション図



第331図 SB103 出土遺物実測図

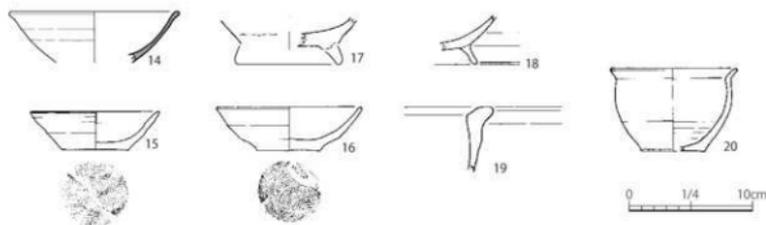
第58表 SB103 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	種別 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地味	残存率	内面色調 外面色調	備考
第331図-8	0027	PL.35	SB103	土師器 杯	(12.4)	(8.3)	3.5	良好	20%	10YR1.7/1 (黒) 10YR1.7/1 (黒)	黒色処理
第331図-9	0290	PL.35	SB103	土師器 杯			(2.5)	良好	-	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
第331図-10	0253	PL.35	SB103	土師器 甕			(6.1)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第331図-11	0265	PL.35	SB103	土師器 甕	(22.9)	(9.3)	良好	20%	7.5YR6/6 (橙) 7.5YR5/4 (にぶい・橙)		
第331図-12	0177	PL.35	SB103	土師器 甕	(6.3)	(7.9)	良好	20%	5YR7/6 (橙) 5YR6/6 (橙)		
第331図-13	0291 0245	PL.35	SB103	土師器 甕	(6.0)	(2.7)	良好	50%	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR6/4 (にぶい・橙)		



- 1 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまりやや強。大層スコリア少量。褐色粒子極微量。SB104 覆土
 2 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強、しまりやや強。褐色粒子極微量。粘土・炭化物やや少量。SB104 覆り方埋土

第332図 SB104 平面図・セクション図



第333図 SB104 出土遺物実測図

第59表 SB104 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	類別 説明	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第333図-14	0051	PL-36	SB104	灰物本地 質	(13.4)		(4.1)	良好	20%	7.5YR7/4 (にぶい・橙) 7.5YR7/4 (にぶい・橙)	
第333図-15	0149	PL-35	SB104	土師器 坏	10.3	5.3	3.1	良好	70%	10YR7/6 (明黄褐) 10YR7/6 (明黄褐)	底部未切痕
第333図-16	0148	PL-35	SB104	土師器 坏	11.6	5.0	3.6	良好	80%	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	底部未切痕
第333図-17	0045	PL-36	SB104	土師器 碗			(2.4)	良好	20%	7.5YR7/4 (にぶい・橙) 7.5YR7/4 (にぶい・橙)	
第333図-18	0146	PL-36	SB104	土師器 坏			(4.0)	良好	-	10YR8/4 (浅黄橙) 10YR8/4 (浅黄橙)	
第333図-19	0146	PL-36	SB104	土師器 坏			(5.3)	良好	-	7.5YR5/3 (にぶい・黄) 7.5YR5/3 (にぶい・黄)	
第333図-20	0069 0070 0147 0178	PL-36	SB104	土師器 甕	(10.2)	(5.2)	6.8	良好	20%	5YR6/6 (橙) 7.5YR4/2 (灰褐)	

SB104

位置 調査区の北西に位置する。

重複関係 (古) SB105 → SB104 (新)

主軸方位 不明

残存状況 調査区の北西角に位置し、おそらく南東側の4分の1程度が検出されたものと推定される。検出部分は、南北幅2.10m、東西幅1.90mを測り、やや角が丸い方形を呈するようである。検出面から床面までの深さは30cmである。

覆土 大瀬スコリア・橙色粒子を含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 深さ10cmほどの掘り方に黒褐色土を入れて床面とする。

カマド 検出されなかった。調査区外に位置するものと推定される。

出土遺物 7点(第333図-14～20)を図示した。14は灰軸陶器(素地)の碗である。口縁部付近でややくぼみ、外反し、口唇部に至る。15から18は底部回転糸切未調整坯とされる一群で、坯(15・16)と、灰軸の影響を受けた高足高台杯(17・18)に分けられる。胎

土はいずれも砂っぽく橙色を呈し、器面荒れが著しい。15は底部回転糸切り未調整坯である。外面にノタ目が若干観察される。外面が、幅4～6cm程度黒色化しており、灯明として使用されたと推定される。16は底部がやや突出した形態を示す。17・18は高足高台杯とされるもので、17は高台が欠損している。19は罎である。胎土に白色の砂粒を比較的多く含む。口縁部や器面のナデが不十分で凹凸が目立つ。20は小型の甕である。胎土や色調は15から18に共通している。

所見(時期) 出土遺物から、10世紀後半から11世紀ごろの建物跡と考えられる。

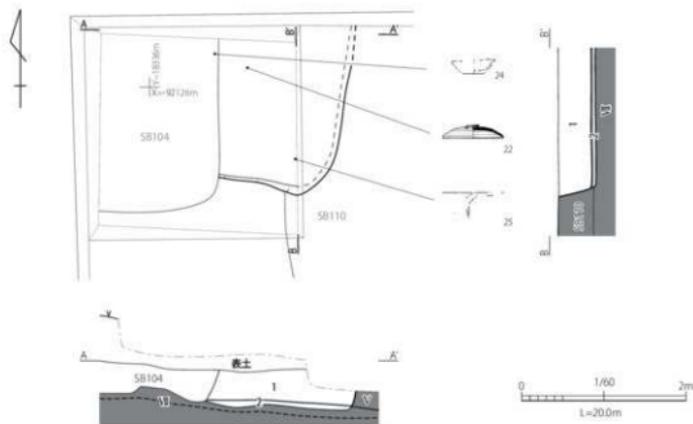
SB105

位置 調査区の北西に位置する。

重複関係 (古) SB110 → SB105 → SB104 (新)

主軸方位 不明

残存状況 北側は調査区外にあり、西側をSB104に切られているが、第1工区内で南壁の一部を完掘し、調査区内で南東角と東壁の一部を検出した。検出部分で南北幅1.80m、東西幅0.90mを測る。やや隅が丸い方形を呈するようである。検出面から床面までの深さは40cmを測る。



- 1 黒褐色土 (10/R3/1) 粘性弱、しまりやや強。大瀬スコリア微量、1mm 橙色粒子少量。 SB105 覆土
 2 黒褐色土 (10/R3/1) 粘性やや弱、しまりやや強。大瀬スコリア極微量、2～3mm 橙色粒子少量、炭化物少量。 SB105 掘り方覆土

第334図 SB105 平面図・セクション図

覆土 大溜スコリア・橙色粒子を含む黒褐色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

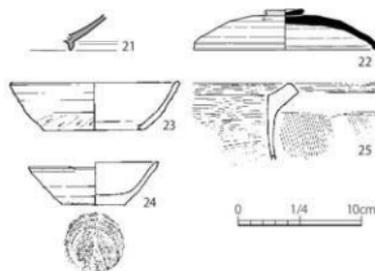
柱穴 検出されなかった。

床 深さ5cmほどの掘り方に、黒褐色土を入れて床面とする。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 5点図示した(第335図-21~25)。21は灰軸陶器の碗である。高台は低く、ナデにより若干内湾している。内面にのみ軸葉が観察される。22は須恵器の摘蓋である。摘みは低く扁平な形態を示す。23は甲変型環を模倣した駿東型環である。底部外面にヘラケズリを有する。24はSB104の15と共通する胎土・色調をもつ底部回転系切り未調整環である。内外面に二次的な被熱の痕跡が認められる事から、灯明として使用されていたと推測される。25は甲変型環の口縁部である。胎土に金雲母を多量に含む。体部の器壁は比較的に薄いものの、口縁部は肥厚されている。内外面ともに、ハケ目が施される。

所見(時期) 10世紀前半頃と考えられる。



第335図 SB105 出土遺物実測図

第60表 SB105 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	器別 器用	口径 (cm)	器体 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第335図-21 0070		PL.36	SB105	灰軸陶器 碗			(2.9)	良好	-	5Y7/2 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
第335図-22 0115		PL.36	SB105	須恵器 環蓋	(14.6)		3.3	良好	20%	NS/ (灰) 5Y6/1 (灰)	
第335図-23 0147		PL.36	SB105	土師器 環	(13.5)	(7.9)	4.0	良好	20%	2.5YR4/6 (明赤褐) 2.5YR4/6 (明赤褐)	甲変型?
第335図-24 0021		PL.36	SB105	土師器 環	10.4	5.0	3.4	良好	90%	7.5YR8/4 (洗黄褐) 7.5YR8/6 (洗黄褐)	底部系切り痕 スス付着 (灯明として使用か)
第335図-25 0070 0107		PL.36	SB105	土師器 環			(6.2)	良好	-	2.5YR4/3 (にぶい赤褐) 2.5YR4/2 (灰赤)	

SB106

位置 調査区の中央やや西寄りに位置する。

重複関係 (古) SB102・SB107・SB113

→ SB106 → SB110 (新)

主軸方位 N-5°-W

残存状況 第3工区内でカマド部分を含む北東角を完掘、第4工区内で南東角を完掘し、調査区内で全体のプランが検出された。北壁をSB110に切られているが、検出部分で主軸幅(南北)3.65m、直交幅(3.80m)を測り、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。検出面から床面までの深さは10cmである。

覆土 大溜スコリアを含む黒褐色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

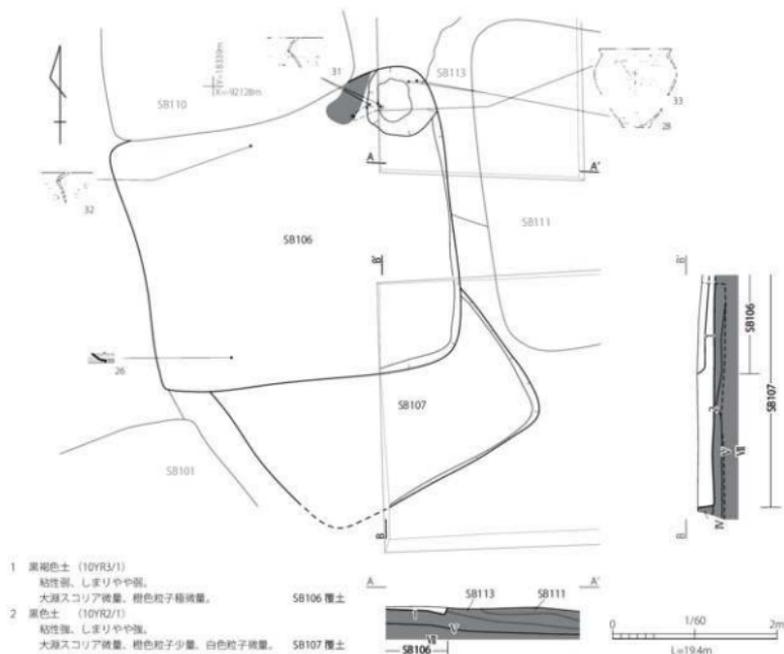
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

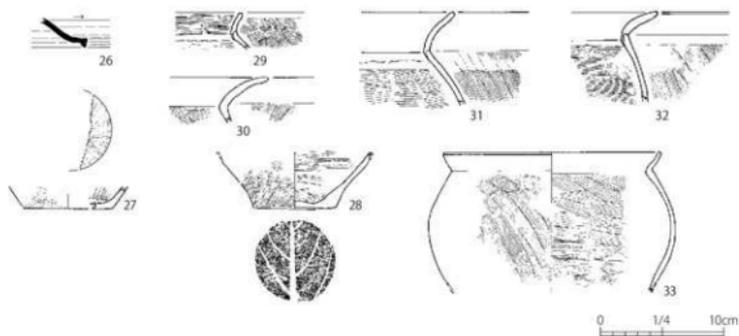
カマド 北東角に位置するが、掘り方のみ残存していた。

出土遺物 8点を図示した(第337図-26~33)。26は須恵器の摘蓋、27は土師器の甲変型環である。胎土が非常に精緻で光沢をもつ。内面見込みに放射状のヘラミガキが認められる。28は駿東型長胴甕の底部である。内外面ともに細かなハケ目が施される。29は小型甕の口縁部である。細かなハケ目や器形から遠江系の可能性がある。30から32は駿東型長胴甕の口縁部破片である。口縁部の外反具合が異なるものの、いずれもヨコナデにより仕上げられている。33は小型の甕である。口縁部は短く、内湾する。器壁は薄く、胴部がやや張る。内外面ともにハケ目調整である。28と同一個体の可能性がある。

所見(時期) カマド周辺から出土した遺物から、8世紀末から9世紀前半ごろの建物跡と考えられる。



第 336 図 SB106・SB107 平面図・セクション図



第 337 図 SB106 出土遺物実測図



第 338 図 SB107 出土遺物実測図

第61表 SB106 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	掘削 範囲	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第337図-26	0037	PL.36	SB106	須恵器 坏蓋			(2.4)	良好	-	2.5Y5/1 (黄灰) 2.5Y5/1 (黄灰)	
第337図-27	0071	PL.36	SB106	土師器 坏	[7.1]	(1.9)		良好	25%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第337図-28	0105 0106	PL.36	SB106	土師器 坏		6.7	(4.6)	良好	60%	5YR5/6 (明赤褐) 5YR6/6 (橙)	底部木炭痕
第337図-29	0071	PL.36	SB106	土師器 甕			(2.0)	良好	-	10YR6/1 (褐灰) 10YR6/1 (褐灰)	
第337図-30	0071	PL.36	SB106	土師器 甕			(3.8)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第337図-31	0093 0096 0180	PL.36	SB106	土師器 甕			(7.4)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第337図-32	0078	PL.36	SB106	土師器 甕			(7.5)	良好	-	10YR6/2 (灰黄褐) 7.5YR5/4 (にがい赤褐)	
第337図-33	0081 0082 0083 0180	PL.36	SB106	土師器 甕	(17.2)		(11.4)	良好	20%	5YR5/4 (にがい赤褐) 5YR6/6 (橙)	

第62表 SB107 出土遺物観察表

神田番号	R番号	写真 図版	遺物名・ トレンチ	掘削 範囲	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第338図-34	0271	PL.36	SB107	須恵器 坏蓋			(2.0)	良好	-	5YR6/1 (灰) 5YR6/1 (灰)	

SB107

位置 調査区中央のやや南寄りに位置する。

重複関係 (古) SB107 → SB106 (新)

主軸方位 N - 32° - W

残存状況 北半分をSB106に切られているが、南東の4分の1ほどを第4工区内で完掘し、南西部分は調査区内で検出した。検出部分で、南北幅2.00m、東西幅3.25mを測る。平面形は方形を呈すると推定される。検出面から床面までの深さは27cmを測る。

覆土 大黒スコリアを含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 1点図示した(第338図-34)。34は須恵器の蓋である。詳細な年代は不明である。

所見(時期) 切り合い関係からは、8世紀代の建物跡と考えられる。

SB108

位置 調査区の南西に位置する。

重複関係 (古) SB102 → SB108 (新)

主軸方位 不明

残存状況 第2工区内で南西角を完掘したが、それ以外の部分については検出されなかった。検出部分は、南

北幅1.00m、東西幅0.55mを測る。検出面から床面までの深さは20cmである。

覆土 橙色粒子を含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

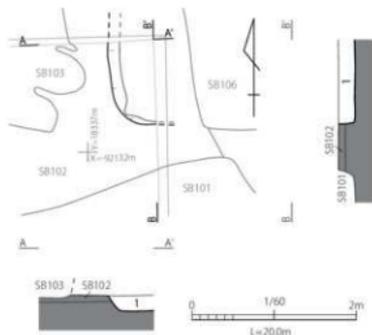
柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 少量出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 切り合い関係からは、8世紀以降の建物跡と考えられる。



1. 黒色土 (10YR2/1)
粘性やや弱、しまりやや弱。橙色粒子1mm混量。 SB108 覆土

第339図 SB108 平面図・セクション図

SB110

位置 調査区の北西に位置する。

重複関係 (古) SB106 → S110 → SB105 (新)

主軸方位 N - 10° - W

残存状況 北西をSB105に切られている。第1工区内で西壁の一部を完掘し、調査区内で西壁・南壁・東壁を検出した。北壁については検出されなかったが、調査区北壁土層に確認できないことから、プランは調査区内に収まるものと推定される。検出された部分で、南北幅2.20m、東西幅3.00mを測る。平面形はややいびつな方形を呈するものと推定される。

覆土 橙色粒子を含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

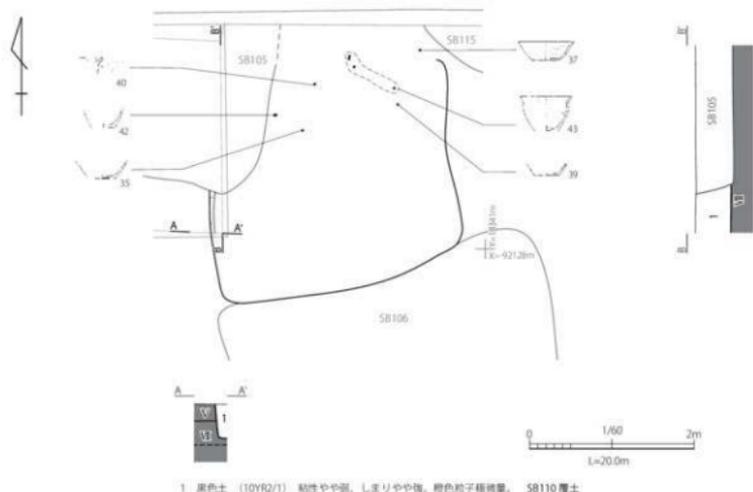
床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 9点を図示した(第341図-35~43)。35は土師器の環で、底部回転系切り未調整環とされるものである。外面にはノタ目が明瞭に観察される。36は環

である。器壁が薄く、胎土も精緻なことから、甲斐型環と考えられる。外面にはヘラケズリの痕跡が一部観察される。37は胎土から駿東型の環とされるが、底部に削り出し高台を意識したケズリが残る。全体的に器壁が厚い。38は胎土が砂っぽく、色調が橙色を呈する環である。高足高台環の可能性がある。39は駿東型環である。内面にはヘラミガキの痕跡が認められる。40は小型の甲斐型甕である。胎土に金雲母を多量に含む。内外面ともに粗いハケ目が認められる。41は駿東型球胴甕の口縁部である。この破片だけ、他と比べて古い時期を示す。42は色調が橙色を呈する小型の甕である。底部回転系切り未調整であり、35の環と共通したつくり、色調などを行っている。43はロクロ調整の甕である。底部が大きく、高さはない。頸部はゆるやかに屈曲し、口縁部は短い。

所見(時期) 出土遺物から、9世紀後半頃の建物跡と考えられる。



1 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまりやや強。橙色粒子堆積層。 SB110 覆土

第340図 SB110 平面図・セクション図

SB111

位置 調査区中央やや東寄りに位置する。

重複関係 (古)SB112・SB113・SB114 → SB111(新)

主軸方位 N-89°-E

残存状況 第3工区内で北西角を完掘、第4工区内で南西角を完掘し、調査区内で全体のプランを検出した。主軸幅(東西)4.15m、直交幅(南北)4.00mを測り、平面形は方形を呈する。検出面からの深さは10cmを測る。

覆土 大瀧スコリアを含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 東壁の南寄りに粘土のまとまりが検出されており、ここにカマドが位置するものと推定される。

出土遺物 3点図示した(第343図-44~46)。44は須恵器の摘蓋の破片である。摘みは欠損する。45は内湾杯である。底部からなだらかに内湾しながら口縁部に

至る。46は駿東型球胴甕系の壺である。口縁部を肥厚され、上面を平坦に調整している。

所見(時期) 出土した遺物は8世紀代に位置づけられるが、遺構の切り合い関係により、9世紀から10世紀の建物跡と考えられ、遺物は混入したものとみる。

SB112

位置 調査区の南東に位置する。

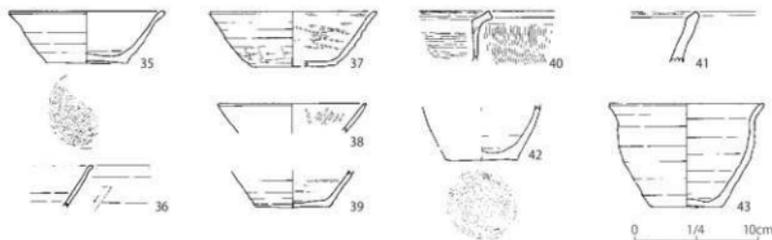
重複関係 (古)SB112 → SB111(新)

主軸方位 N-45°-W

残存状況 南半分は調査区外にある。第4工区内でカマドと北壁の一部を完掘、第5工区内で東壁の一部を完掘し、調査区内で北東部分を検出した。検出部分で主軸幅(南北)4.15m、直交幅(東西)5.10mを測る。平面形は方形を呈すると推定される。検出面から床面までの深さは45cmである。

覆土 大瀧スコリアを含む黒褐色土の自然堆積である。

壁溝 検出されなかった。



第341図 SB110 出土遺物実測図

第63表 SB110 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	通称名・ トレンチ	検出 範囲	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	胎成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第341図-35	0018	PL.37	SB110	土器器 環	(12.4)	[6.6]	4.3	良好	40%	5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/6 (明赤褐)	底部糸切痕
第341図-36	0075	PL.37	SB110	土器器 環(甲斐)			(3.5)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第341図-37	0033	PL.37	SB110	土器器 環	(13.3)	[7.0]	4.5	良好	60%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	隅り出し高台
第341図-38	0072	PL.37	SB110	土器器 環	(11.9)		(2.4)	良好	50%	7.5YR7/4 (にぶい橙) 7.5YR7/4 (にぶい橙)	
第341図-39	0110	PL.37	SB110	土器器 環		(6.1)	(3.1)	良好	25%	2.5YR5/6 (明赤褐) 2.5YR5/6 (明赤褐)	
第341図-40	0015	PL.37	SB110	土器器 壺			(4.0)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
第341図-41	0072	PL.37	SB110	土器器 壺			(4.2)	良好	-	5YR5/4 (にぶい赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	
第341図-42	0019 0020	PL.37	SB110	土器器 壺		[5.8]	(4.5)	良好	60%	5YR7/8 (橙) 5YR5/3 (にぶい赤褐)	底部糸切痕
第341図-43	0012 0017 0111 0114	PL.37	SB110	土器器 壺	(12.3)	5.8	8.5	良好	55%	2.5YR5/6 (明赤褐) 5YR5/4 (にぶい赤褐)	

柱穴 検出されなかった。

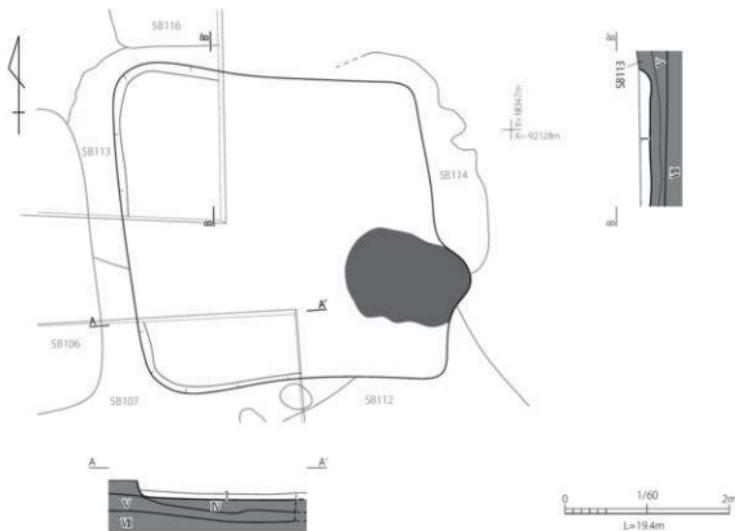
床 掘り方を床面とする。

カマド 北壁中央付近に位置する。粘土で構築された両袖と、燃焼室、煙道が残存していた。全長126cm、中央内寸幅35cm、中央外寸幅80cmを測る。

出土遺物 4点図示した(第346図-47~50)。47は須恵器の坏蓋である。径は小さいものの、深さをもつ。48は須恵器の坏蓋模倣の土師器坏である。口縁部付近

が内湾しながら広がる。体部は深さをもつ。49は甕の口縁部である。口唇部を若干肥厚させる。50は甕の底部である。やや粗いハケ目が施される。49・50は駿東型球胴甕の初現の時期のものと考えられ、7世紀前半と考えられる。

所見(時期) 出土遺物から、7世紀前半の建物跡と考えられる。



1 黒色土(10YR3/1) 粘性弱、しまりやや強。大源スコリア微量。粘土ブロック少量。SB111黒土

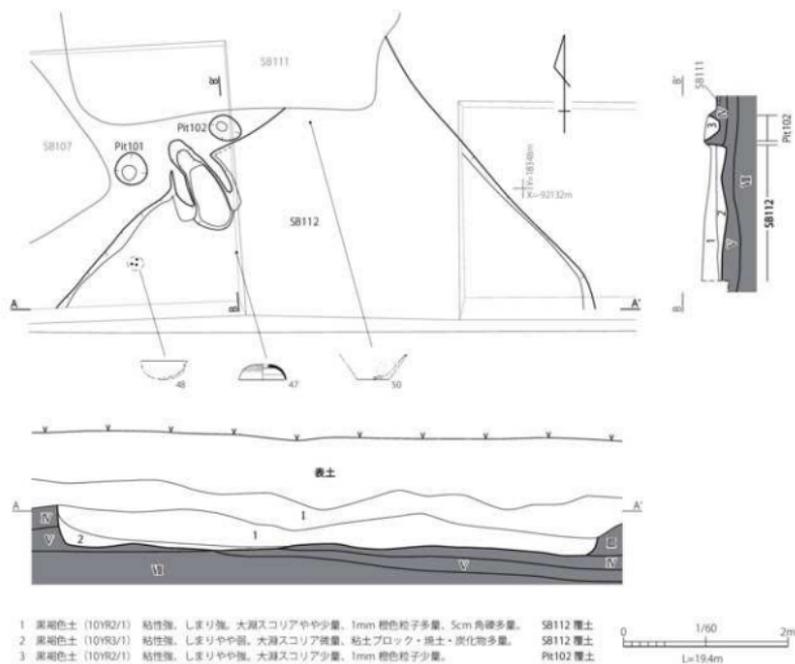
第342図 SB111 平面図・セクション図



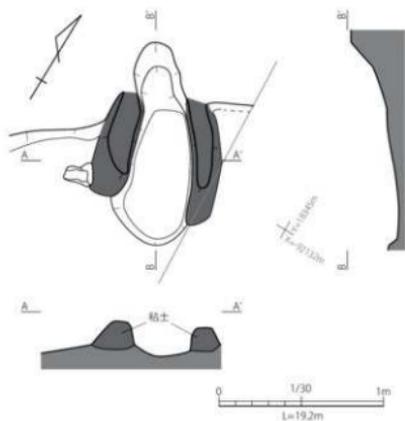
第343図 SB111 出土遺物実測図

第64表 SB111 出土遺物観察表

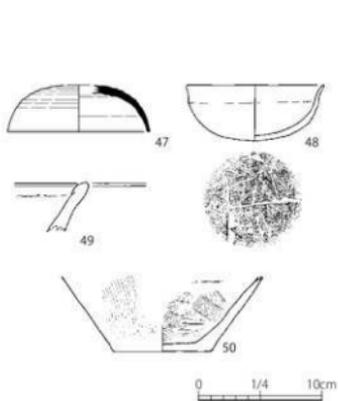
検出番号	R番号	写真 図版	発掘名・ トレンチ	器物 類別	口径 (cm)	高さ (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第343図-44-0073		PL.37	SB111	須恵器 坏蓋	(14.7)		(2.0)	良好	20%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y6/1 (黄灰)	
第343図-45-0183		PL.37	SB111	土師器 坏	(10.7)		3.2	良好	25%	7.5YR7/6 (橙) 7.5YR7/6 (橙)	
第343図-46-0073		PL.37	SB111	土師器 甕			(4.7)	良好	-	5YR5/4 (にじみ赤褐) 7.5YR4/1 (褐灰)	



第344図 SB112・Pit101・Pit102 平面図・セクション図



第345図 SB112 カマド 平面図・セクション図



第346図 SB112 出土遺物実測図

第 65 表 SB112 出土遺物観察表

検出番号	R 番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 説明	口径 (cm)	径長 (cm)	高さ (cm)	形状	残存率	内面色調 外面色調	備考
第 346 図-47 0041		PL.37	SB112	須置器 坏蓋	(11.3)		3.8	良好	20%	5Y4/1 (灰) 5Y4/1 (灰)	
第 346 図-48 0196 0210 0212 0213		PL.37	SB112	土師器 坏	11.0		4.5	良好	75%	7.5YR7/6 (粉) 7.5YR7/6 (粉)	底部本葉痕
第 346 図-49 0064		PL.37	SB112	土師器 蓋			(2.9)	良好	-	2.5YR5/4 (にぶい赤褐) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	
第 346 図-50 0042 0054 0057 0064 0065		PL.37	SB112	土師器 甕	(8.0)	(6.2)		良好	25%	5YR5/4 (にぶい赤褐) 7.5YR3/1 (黒褐)	

SB113

位置 調査区中央に位置する。

重複関係 (古)SB113 → SB106・SB111・SB116(新)

主軸方位 不明

残存状況 大部分を他の遺構によって切られており、部分的な検出である。第 3 工区内で西壁の一部を検出、調査区内で南壁の一部を検出した。検出された部分で南北幅 2.75m、東西幅 1.50m、検出面からの深さは 20cm を測る。検出された壁がやや弧を描くことから、平面形は隅丸方形を呈すると推定される。

覆土 大溜スコリアを含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 少量の遺物が出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 遺構の切り合い関係から、8 世紀代以前の建物跡と考えられる。

SB114

位置 調査区中央やや東寄りに位置する。

重複関係 (古) SB116 → SB114 → SB111(新)

主軸方位 N-65°-E

残存状況 調査区内で東壁のプランのみが検出された。検出部分で南北幅 2.80m、東西幅 0.60m を測る。検出された東壁はやや弧を描く。

覆土 検出時に大溜スコリアを含む黒褐色土で認識した。

壁溝 未完掘のため不明である。

柱穴 未完掘のため不明である。

床 未完掘のため不明である。

カマド 東壁中央で粘土のまとまりが検出されており、

ここにカマドが位置したものと推定される。

出土遺物 カマドとみられる粘土の付近から出土した 4 点を図示した(第 348 図-51 ~ 54)。51 は遠江系水平口縁甕である。胎土が砂っぽい。52 は小型の甕である。口縁部は短く、体部は胴が張らない。体部は内外面ともに細かなハケ目調整が施される。53 は駿東型長胴甕、54 は形態が遠江系水平口縁甕に類似するものである。所見(時期) 出土遺物から、9 世紀代の建物跡と考えられる。

SB115

位置 調査区の中央北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB115 → SB116・SB117(新)

主軸方位 不明

残存状況 北側の大部分は調査区外にあり、東側は SB116 に切られている。南壁の一部を第 3 工区内で完掘し、南西角を調査区内で検出している。

覆土 大溜スコリアを含む黒色土・黒褐色土の自然堆積。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とする。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 少量の遺物が出土したが、図示には至らなかった。

所見(時期) 切り合い関係から、8 世紀代以前の建物跡と考えられる。

SB116

位置 調査区の中央北寄りに位置する。

重複関係 (古) SB113・SB115 →

SB116 → SB114・SB117(新)

主軸方位 不明

残存状況 北半分は調査区外にあり、南西の 4 分の 1

ほどを第3工区内で完掘、東壁の一部を調査区内で検出した。検出部分で、南北幅1.80m、東西幅3.60m、検出面からの深さは50cmを測り、平面形は方形を呈すると推定される。

覆土 大瀧スコリア・橙色粒子を含む黒色土が堆積していた。

壁溝 検出されなかった。

柱穴 検出されなかった。

床 掘り方を床面とした。

カマド 検出されなかった。

出土遺物 須恵器2点、鉄製品1点を図示した(第

349図-55～57)。55は須恵器の返蓋である。56は有台坏身の底部である。器壁が厚く、高台も幅をもつ。57は鉄蹄の茎部片と考えられる。

所見(時期) 出土遺物からは、8世紀代と考えられる。

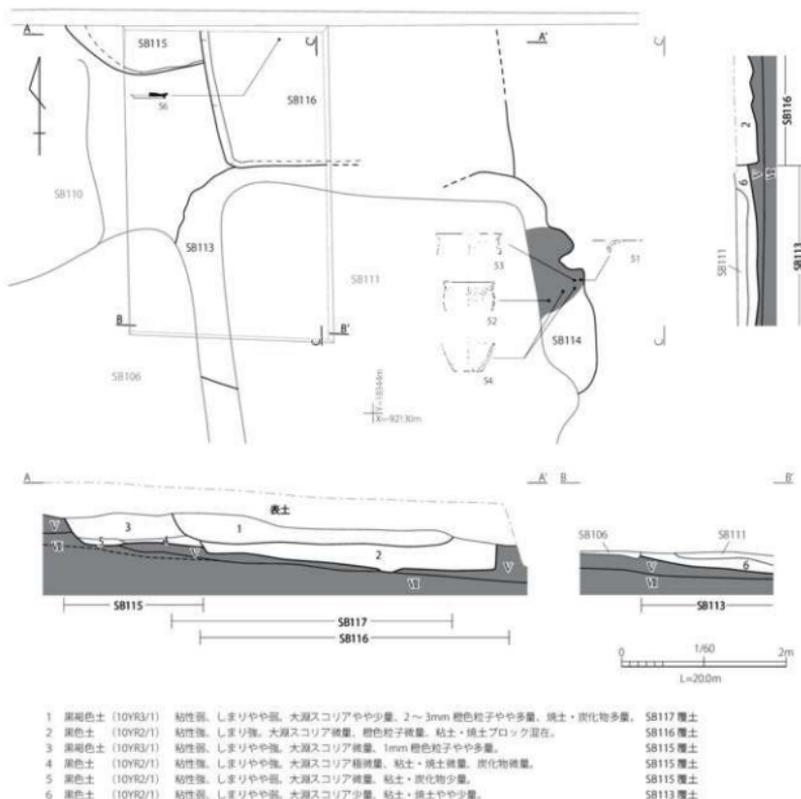
SB117

位置 調査区の中央北に位置する。

重複関係 (古) SB115・SB116 → SB117(新)

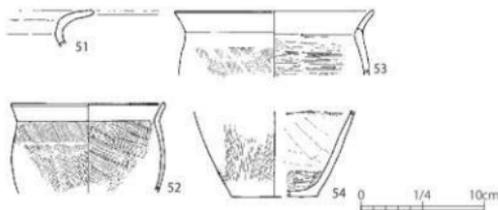
主軸方位 不明

残存状況 調査区北壁土層で確認されたため、南北幅と平面形は不明である。検出部分で東西幅3.40m、深さ

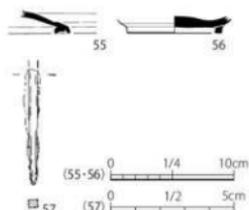


- | | |
|---|----------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性弱。しまりやや強。大瀧スコリアやや少量。2～3mm 橙色粒子やや多量。粘土・炭化物多量。 | SB117 覆土 |
| 2 黒色土 (10YR2/1) 粘性強。しまり強。大瀧スコリア微量。橙色粒子微量。粘土・焼土ブロック混在。 | SB116 覆土 |
| 3 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性弱。しまりやや強。大瀧スコリア微量。1mm 橙色粒子やや多量。 | SB115 覆土 |
| 4 黒色土 (10YR2/1) 粘性強。しまりやや強。大瀧スコリア微量。粘土・焼土微量。炭化物微量。 | SB115 覆土 |
| 5 黒色土 (10YR2/1) 粘性強。しまりやや弱。大瀧スコリア微量。粘土・炭化物少量。 | SB115 覆土 |
| 6 黒色土 (10YR2/1) 粘性弱。しまりやや強。大瀧スコリア少量。粘土・焼土やや少量。 | SB113 覆土 |

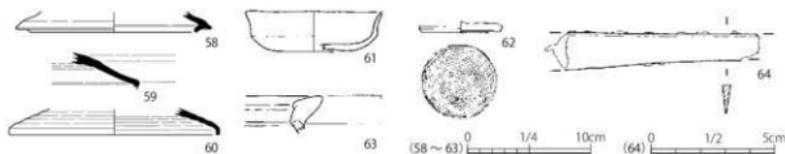
第347図 SB113～SB117 平面図・セクション図



第348図 SB114 出土遺物実測図



第349図 SB116 出土遺物実測図



第350図 遺構外 出土遺物実測図

第66表 SB114 出土遺物観察表

検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種別 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第348図-51 0124		PL.38	SB114	土師器 甕			(3.0)	良好	-	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	
第348図-52 0134		PL.38	SB114	土師器 甕	(11.3)		(7.3)	良好	20%	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR6/4 (にぶい橙)	
第348図-53 0123		PL.38	SB114	土師器 甕	(14.9)		(5.3)	良好	20%	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第348図-54 0120 0122		PL.38	SB114	土師器 甕		(6.8)	(7.1)	良好	20%	7.5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	

第67表 SB116 出土遺物観察表

検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種別 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第349図-55 0188		PL.38	SB116	須恵器 坪蓋			(1.8)	良好	-	2.5Y7/1 (灰白) 2.5Y7/1 (灰白)	
第349図-56 0009		PL.38	SB116	須恵器 坪		(7.5)	(1.3)	良好	85%	NS/ (灰) 5Y6/1 (灰)	
検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種別 類別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考		
第349図-57 0188		PL.38	SB116	鉄製品 鉄鏝(茎)	(4.7)	(0.35)	(0.3)	2.44			

第68表 遺構外 出土遺物観察表

検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種別 類別	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	地成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第350図-58 0057		PL.38	南中央	須恵器 坪蓋	(13.4)		(1.6)	良好	25%	2.5Y6/1 (黄灰) 2.5Y7/1 (黄灰)	
第350図-59 0057		PL.38	南中央	須恵器 坪蓋			(3.0)	軟質	-	10YR7/4 (にぶい黄橙) 7.5YR6/4 (にぶい橙)	
第350図-60 0176		PL.38	Pin101	須恵器 坪蓋	(16.7)		(2.1)	良好	20%	10YR6/1 (濁灰) 5Y5/2 (灰オリーブ)	
第350図-61 0054		PL.38	南西	土師器 坪	(11.0)		3.2	軟質	40%	5YR7/6 (橙) 5YR7/6 (橙)	
第350図-62 0051		PL.38	北西	土師器 坪		6.0	(8.0)	良好	100%	-	7.5YR7/4 (にぶい橙) 底部糸切痕
第350図-63 0053		PL.38	北東	土師器 甕			(3.1)	良好	-	2.5Y5/6 (明赤陶) 5YR3/1 (黒陶)	
検体番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種別 類別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考		
第350図-64 0146		PL.38		鉄製品 刀子	長さ (8.3)	幅 (1.1)	厚さ (0.3)	13.44			

35cmを測る。

覆土 大瀝スコリア・橙色粒子を含む黒褐色土が堆積していた。

壁溝 不明である。

柱穴 不明である。

床 掘り方を床面とする。

カマド 不明である。

出土遺物 遺物は出土しなかった。

所見(時期) 切り合い関係から、8世紀代以降の建物跡と考えられる。

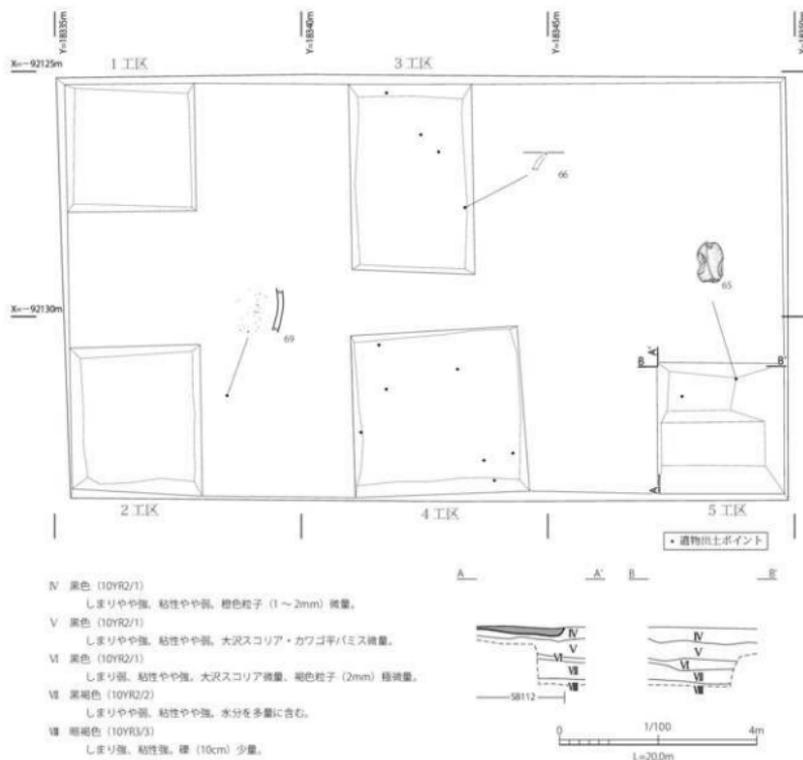
ビット・土坑

本調査区内において、2基のビット (Pi101・102) が検出された(第344図)。各遺構の規模や覆土については第69表のとおりである。

第69表 宇東川遺跡U地区 ビット 規模等一覧表

遺構番号	規模 (cm)			断面形	出土遺物	土層
	長軸	短軸	深さ			
Pi101	40	38	19	U字形		A
Pi102	39	28	19	U字形		B

- A 黒色 (10YR2/1) しまりやや強、粘性強、大瀝スコリア少量、1mm 橙色粒子少量。
 B 黒色 (10YR2/1) しまりやや強、粘性強、大瀝スコリア少量、2~3mm 橙色粒子少量。



遺構外出土遺物

須恵器3点、土師器3点、鉄製品1点を図示した(第350図-58～64)。58から60は須恵器の蓋である。58は冠蓋、59・60は摘蓋である。59は焼成が不十分なため、一見、土師器のようにもみえる。61は土師器の内湾環である。器高が低く、口縁部で反りながら広がる。62は底部回転糸切未調整環の底部である。出土位置から、SB104かSB105のものとして推測される。63は駿東型球胴甕系の壺である。64は刀子の刃部である。先端と端部は欠損する。

縄文時代

遺構は検出されなかった。

3・4・5工区を中心に縄文土器片や石器などの遺物が出土し、縄文土器片4点、石器1点を図示した(第352図-65～69)。65は石錘で、上下左右の4ヶ所に凹みがある。66から69は縄文土器である。66は堀ノ内式併行の口縁部、67は曾利V式に特徴的なハの字の文様が認められる。68は藤内式、69は中期後半のものと考えられるが、型式は不明である。



第352図 縄文時代 出土遺物実測図

第70表 縄文時代 出土遺物観察表

検出番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 細別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考		
第352図-65	0215	PL.38	第5工区	石製品 石錘	10.0	6.4	2.5	237.32			
検出番号	R番号	写真 図版	遺構名・ トレンチ	種類 細別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	残存率	内面色調 外面色調	備考
第352図-66	0222	PL.38	第3工区	縄文土器 堀ノ内併行			(3.9)	良好	-	2.5YR6/6 (橙) 2.5YR5/4 (にぶい赤褐)	
第352図-67	0062	PL.38	表採	縄文土器 曾利V			(3.5)	良好	-	10YR6/3 (にぶい黄橙) 5YR5/6 (明赤褐)	
第352図-68	0064	PL.38	SB112	縄文土器 藤内			(5.7)	良好	-	5YR6/6 (橙) 5YR6/6 (橙)	
第352図-69	0035	PL.38	SB108	縄文土器 中期後半			(10.8)	良好	-	7.5YR6/4 (にぶい橙) 5YR5/6 (明赤褐)	

第6章 総括

沢東 A 遺跡

第16次調査地点では、竪穴建物跡6軒、溝状遺構2条などの遺構を調査した。建物跡の時期は7世紀から9世紀までの時間幅がある。

特に注目されるのが、7世紀前半に位置づけられるSB204やSB205から出土している黒色処理されている土師器の坏の存在である。沢東 A 遺跡ではこれまでの調査においても6世紀から7世紀前半の建物跡が調査されているが、潤井川流域において当該期の集落は決して多くなく、今回の調査でも、沢東 A 遺跡を特徴付ける時期の調査成果が得られた。

調査地点は遺跡の北東隅にあたり、確認調査において遺跡範囲をある程度確定することができた。

中桁・中ノ坪遺跡

第7地区においては、竪穴建物跡6軒、溝状遺構8条を調査した。遺跡の一部分を虫食いの調査したのみのため、面的な集落動態については未だ明らかではない部分が多いが、それでも別々の調査区で検出されたため、SD201、SD301、SD404とした溝状遺構は、本来連続する遺構の可能性が高く、集落内を画する遺構であった可能性が考えられる。遺構からは8世紀に位置づけられる黒書土器を含む土師器や須臾器が比較的多く出土している。溝には水が流れた痕跡もあることから自然流路を使用した土器祭祀の存在も推定される。

第11地区では、確認調査において竪穴建物跡を少なくとも4軒検出した。本発掘調査では、狭い範囲ながら2軒の竪穴建物跡を調査した。そのなかでも8世紀後半の建物跡であるSB05からは皇朝十二銭のひとつである「神功開寶」（初铸年765年）が出土したことが注目される。これまでに富士市内では、三島まで通じる根方街道沿いの宮部遺跡において「和同開珎」「延喜通寶」が出土している（富士市教委2010・2011）ものの、東平遺跡を含めて潤井川流域における皇朝十二銭の出土は知られておらず、注目される。遺跡は、沢東 A 遺跡と同じように潤井川の氾濫原に立地しており、自然環境が異なる地点ごとに時期別の建物数が大きく異なり、今後とも地点ごとの調査成果を積み上げていく必要がある。

舟久保遺跡

舟久保遺跡では、近年小規模な確認調査や本調査を積み重ねている。平成26・27年度においても第53地区、第57地区の2地点の本調査を行った。

第53地区では竪穴建物跡3軒を調査した。舟久保遺跡における建物跡は全体的に小規模で一辺2.5m程度のものが多い。建物跡は8世紀後半から10世紀までと時間幅があるが、SB01からはO-53窯式期に位置づけられる灰軸陶器と甲斐型土器の甕が共存している。

第57地区でも竪穴建物跡2軒を調査したものの、限られた面積での調査のため、出土遺物も少なく詳細な時期は明らかとならなかった。

宇東川遺跡

U地区において本調査を行った。126㎡の範囲に15軒の竪穴建物跡が検出された。平成20年に隣接地において調査を行ったP地区では、539㎡の範囲に3軒の竪穴建物跡しか検出されておらず、その様相が大きく異なる（富士市教委2009）。U地区とP地区の間には、埋没谷が存在することが今回の調査において明らかとなったが、谷を挟んだ状況の違いが注目される。

U地区において検出された15軒の建物跡のうち、掘削調査を行ったのは、工事によって破壊される部分のみであり、全体の四分の一程度の範囲である。

時期は8世紀から11世紀までの建物跡が狭い範囲内に密集していることが明らかとなった。また、建物跡の軸が長期間にわたって一致しており、前述の埋没谷を考へての建物配置かと考えられる。平成28年度にはさらに北側の本調査を実施しているが、その地点においても同様の向きを示しており、集落内における構造単位を考へる上で重要な成果といえる。

参考文献

- 富士市教育委員会 2009 『宇東川遺跡』
- 富士市教育委員会 2010 『宮部遺跡』Ⅲ
- 富士市教育委員会 2011 『宮部遺跡』Ⅳ

写真図版

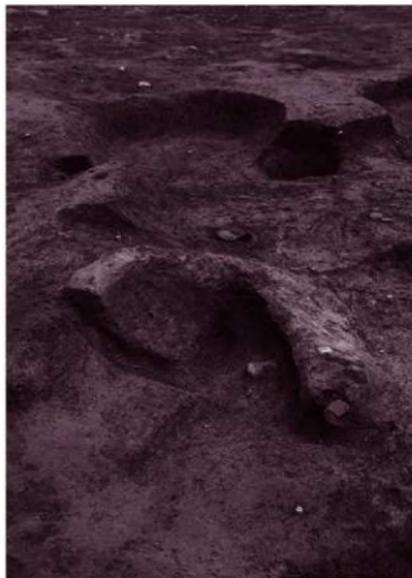
PLATE



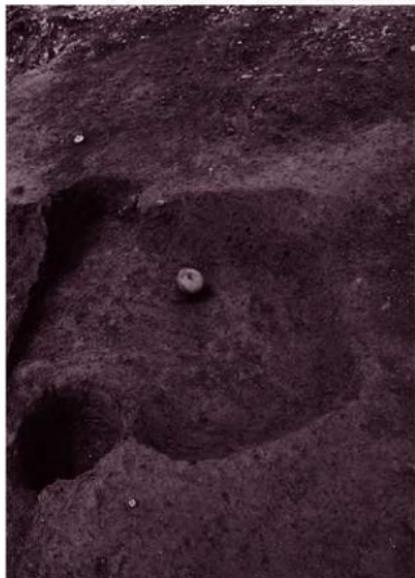
沢東 A 遺跡 第 16 次調査地点



1. 第 1 工区 (SB204・SB205) 全景 (南西から)



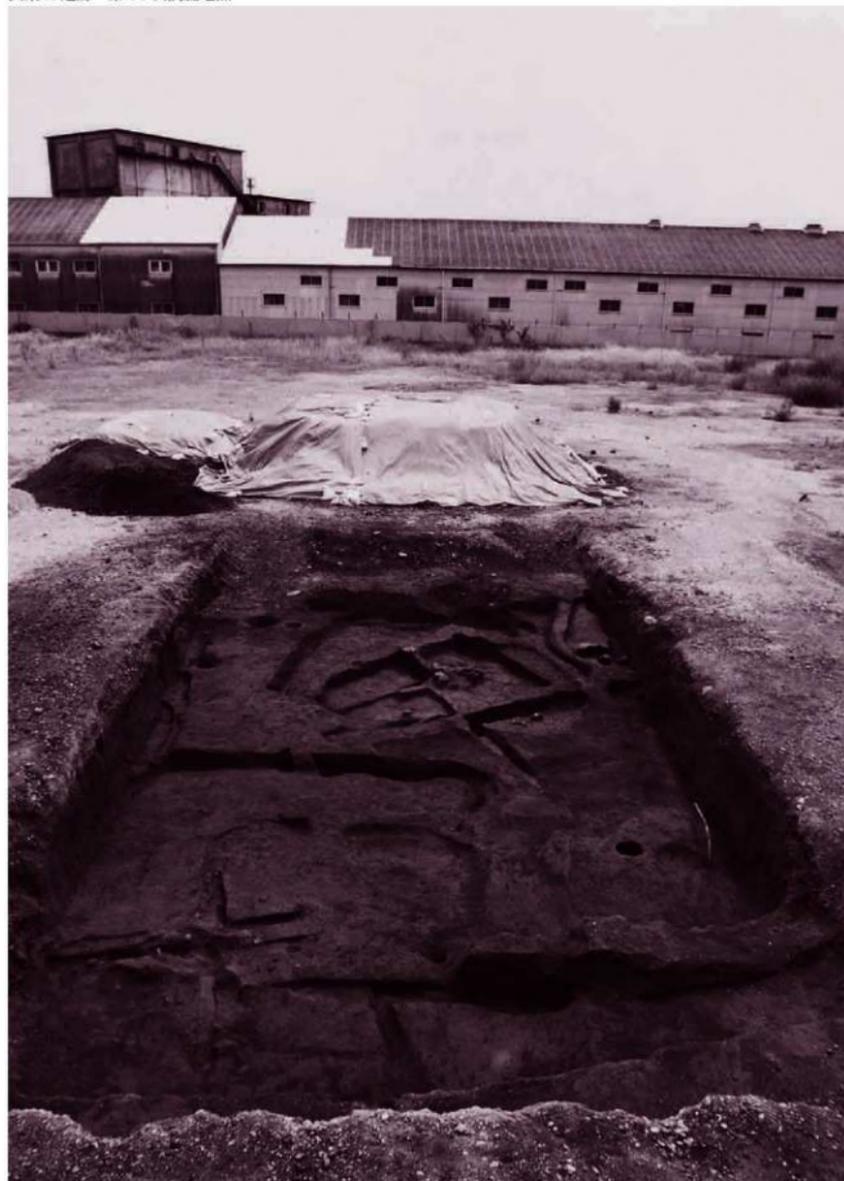
2. SB204 カマド (南西から)



3. SK221 (東から)

PL.2

沢東 A 遺跡 第 16 次調査地点



1. 第 4 工区全景 (北西から)

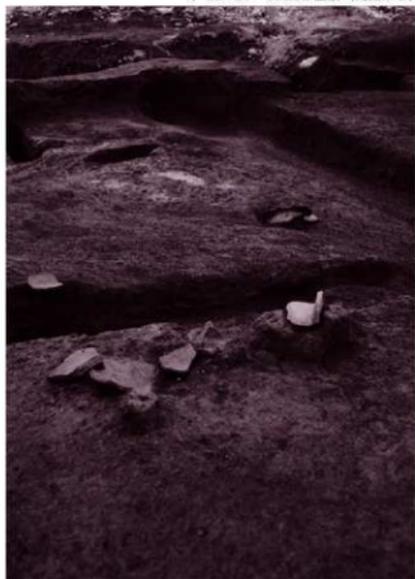
沢東 A 遺跡 第 16 次調査地点



1. SB101・SB202 全景 (南西から)



2. SB201 全景 (南西から)



3. SB201 床面遺物出土状況 (南西から)

PL.4

沢東 A 遺跡 第 16 次調査地点



1. SB203 全景 (南から)



2. SB206 全景 (南から)

沢東 A 遺跡 第 16 次調査地点



1. SB203 カマド (南から)



2. SB206 カマド (東から)



3. SB207 全景 (南西から)



1. SB207 カマド (南西から)

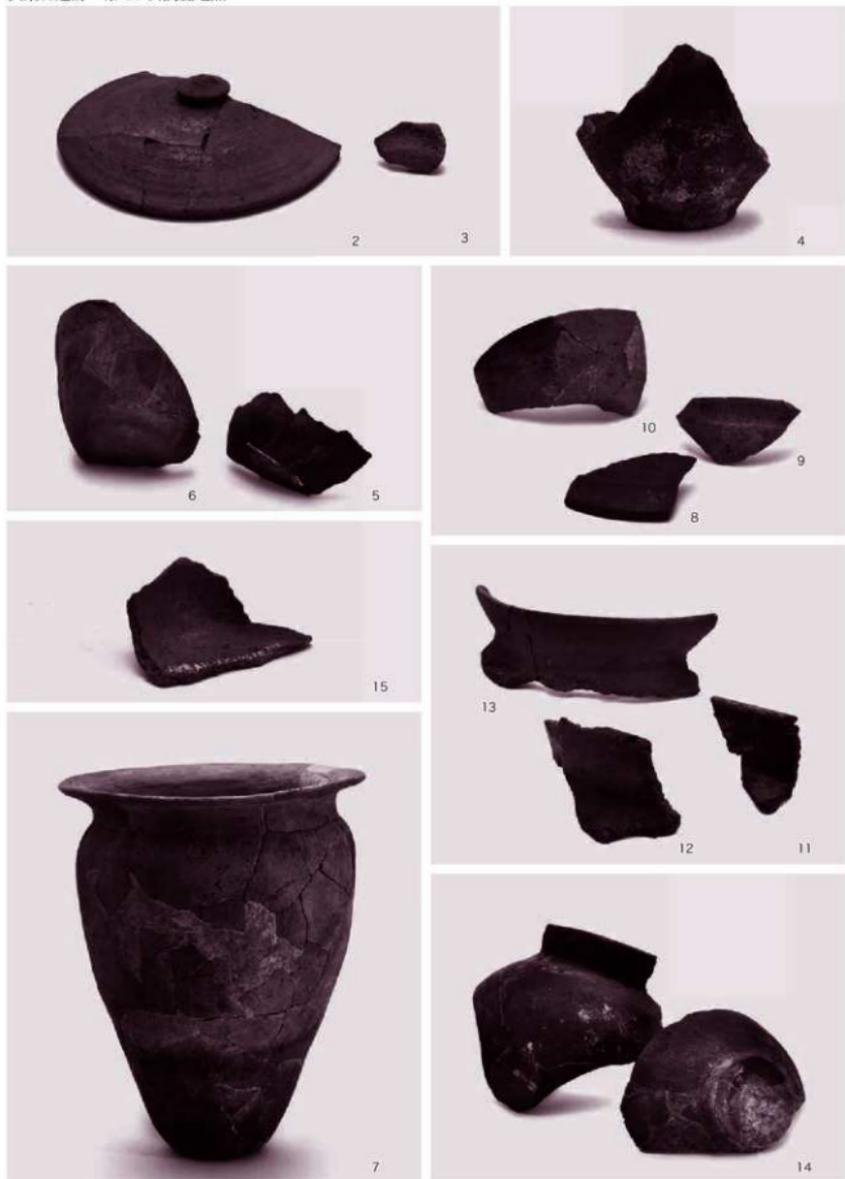


2. 第3工区全景 (北西から)



3. 出土遺物集合

沢東A遺跡 第16次調査地点





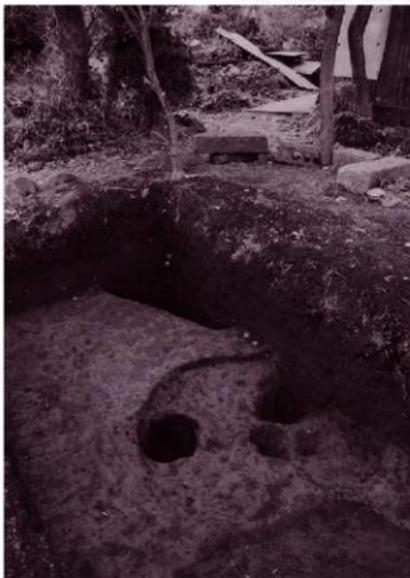
中府・中ノ坪遺跡 第7地区



1. 第1調査区全景 (南から)



2. SB101・SB102・SB104 (南から)



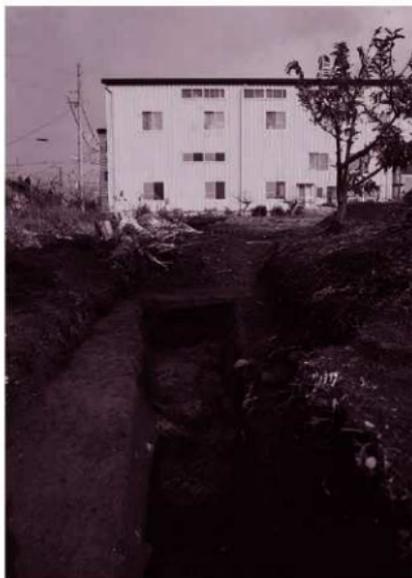
3. SB103・SK109 (北から)



4. SD101 (南から)



1. SD201 (北から)



2. SX201 (南から)

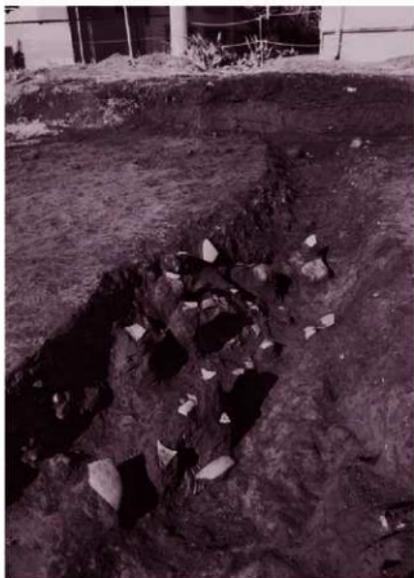


3. 第3調査区全景 (南から)

中府・中ノ坪遺跡 第7地区



1. SD301 全景 (南から)



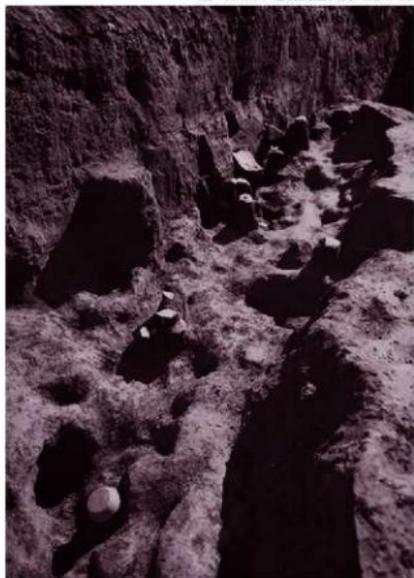
2. SD301 遺物出土状況 (南から)



3. SD301 遺物出土状況 (南から)



4. SD301 土師器杯 (17) 出土状況



5. SD301 遺物出土状況 (北から)



1. SD301 発掘作業の様子 (北から)



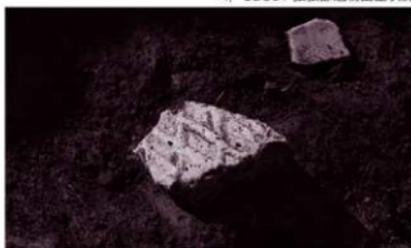
3. SD301 拡張部 (南東から)



4. SD301 拡張部遺物出土状況

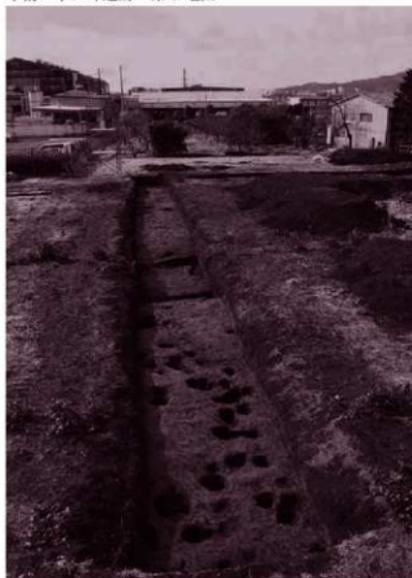


2. 第3調査区拡張区全景 (南東から)

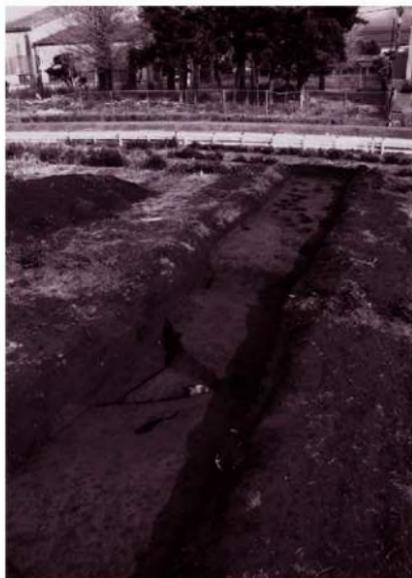


5. SD301 瓦片 (49) 出土状況

中府・中ノ坪遺跡 第7地区



1. 第4調査区東側全景 (北から)



2. 第4調査区東側北半 (南から)



3. SB401 (南から)



4. SD401 (東から)



1. 第4調査区南東側 (西から)



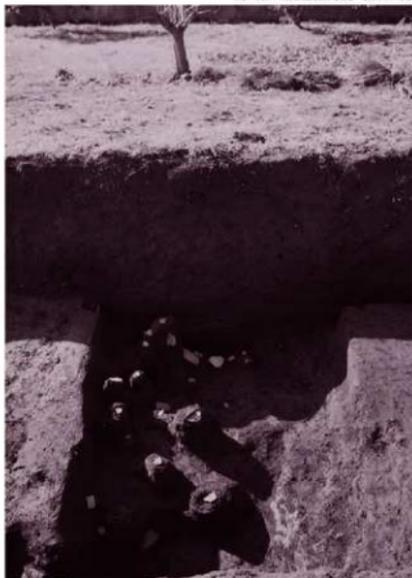
2. 第4調査区南側 (東から)



3. SB402・SK405 (南西から)

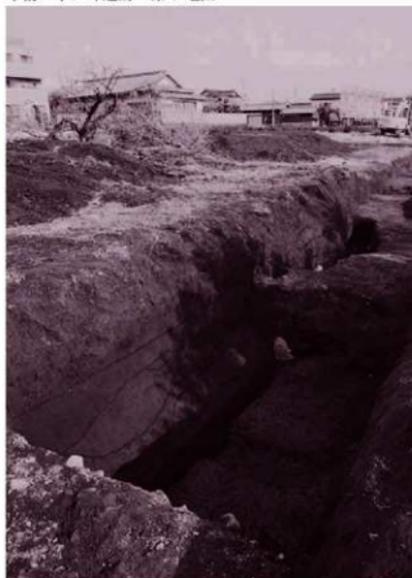


4. SD404 (南西から)



5. SD404 遺物出土状況 (北から)

中府・中ノ坪遺跡 第7地区



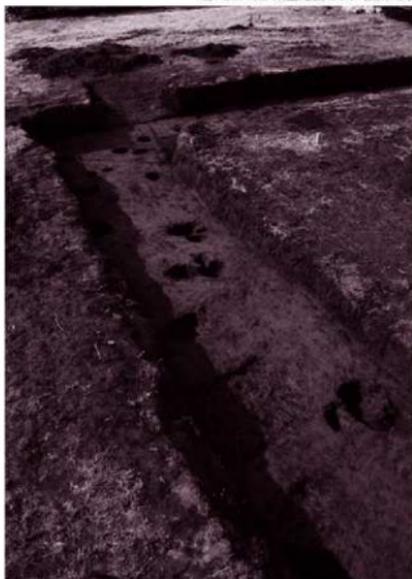
1. SD402 (西から)



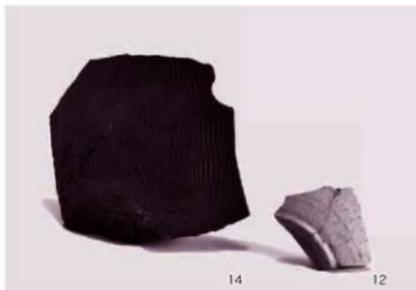
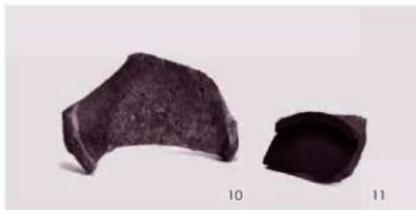
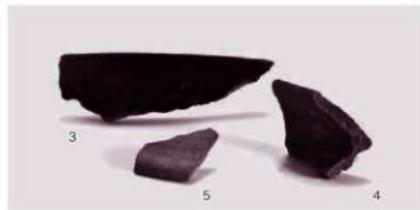
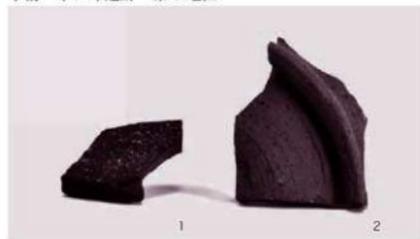
2. SD402 東壁足掛け穴 (西から)



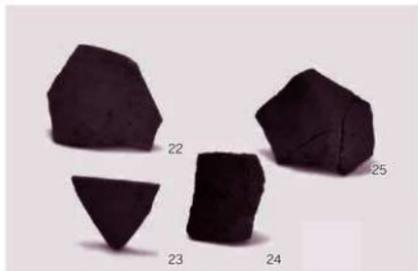
3. SD403 (南から)

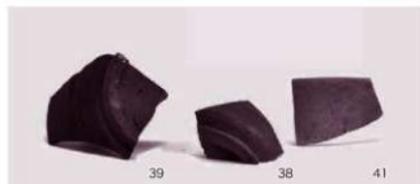
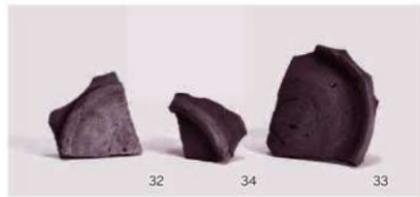
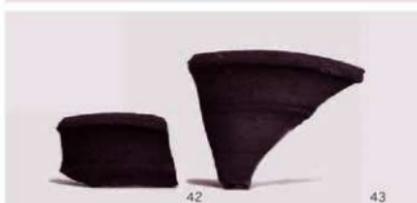
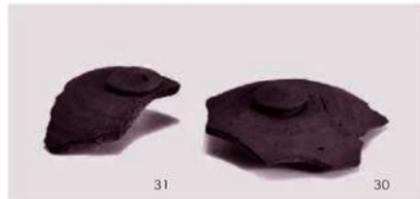


4. 第4調査区東側南半 SK401 ほか (北から)

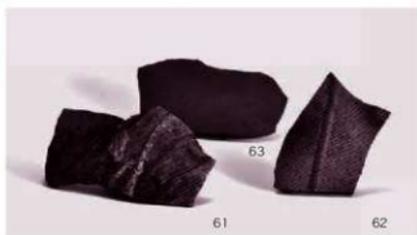
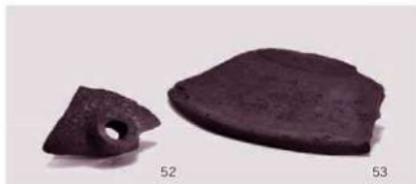
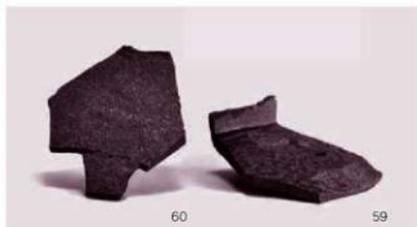
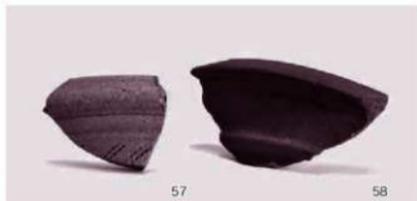
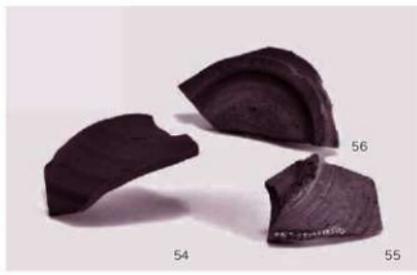


中府・中ノ坪遺跡 第7地区





中府・中ノ坪遺跡 第7地区





1. 確認調査 1Tr 遺構検出状況 (南西から)



2. 確認調査 1Tr SB02 南北セクション東壁 (北西から)



3. SB05「神功開寶」出土状況

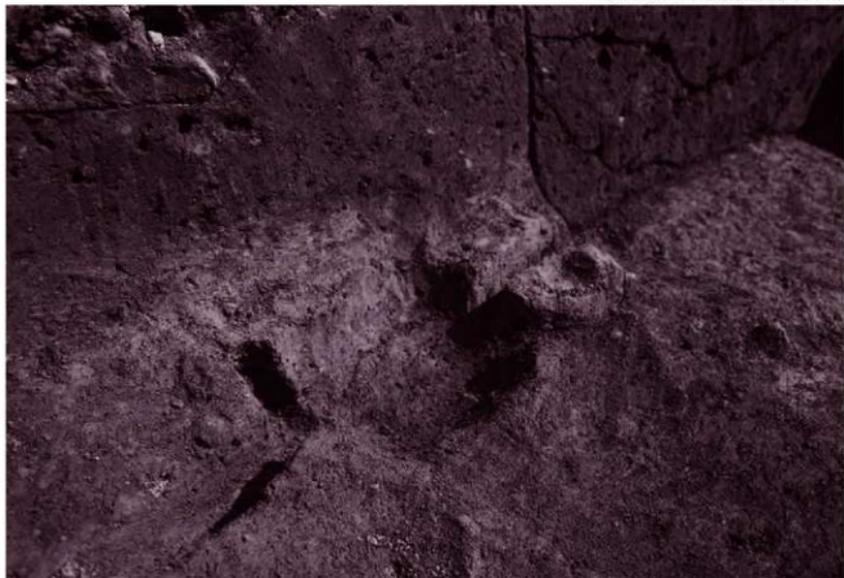


4. 本調査区 遺構・遺物検出状況 (南から)

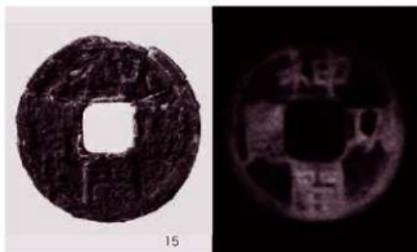
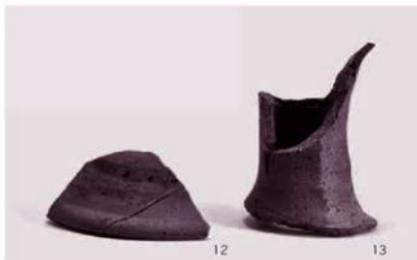
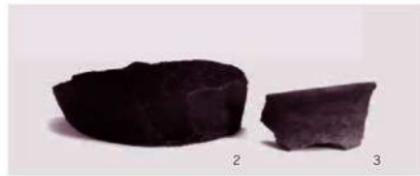
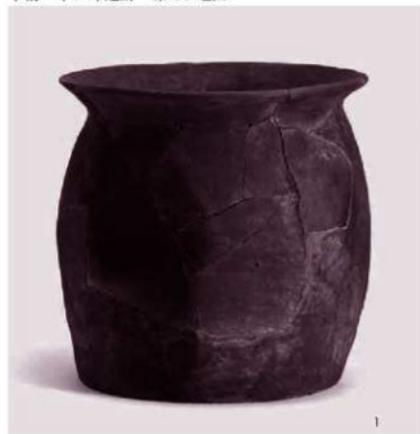
中府・中ノ坪遺跡 第11地区



1. SB03 カマド遺物出土状況 (南から)



2. SB03 カマド完掘 (南西から)



舟久保遺跡 第1地区



1. 2次調査 1Tr



2. 2次調査 2Tr



3. 3次調査 7Tr

舟久保遺跡 第20地区



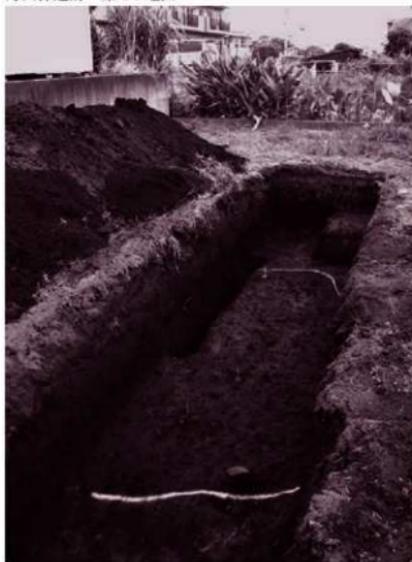
1. 1Tr 遺構検出状況



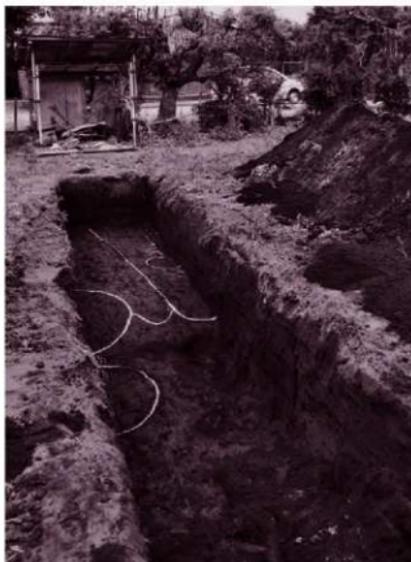
2. Pit01



3. Pit02



1. 1Tr 遺構検出状況 (南西から)



2. 2Tr 遺構検出状況 (東から)



1. 1Tr 遺構検出状況 (南東から)



2. 1Tr 西壁 (北東から)



1



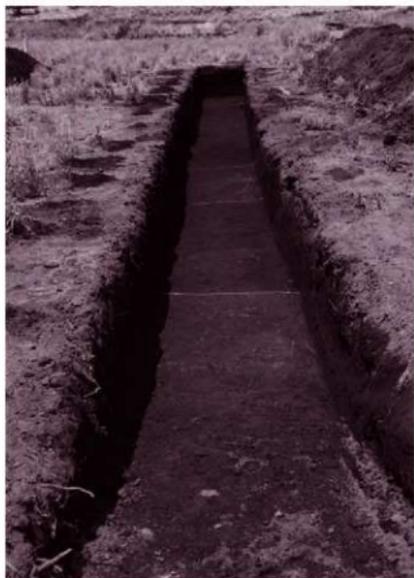
2

出土遺物

舟久保遺跡 第56地区



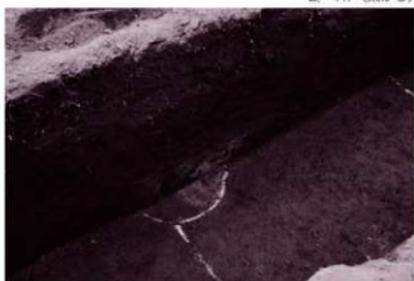
1. 1Tr (西から)



2. 4Tr (東から)



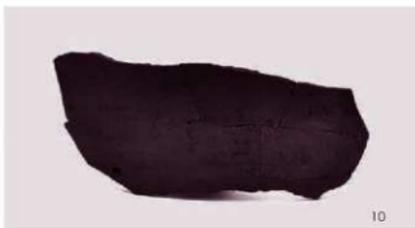
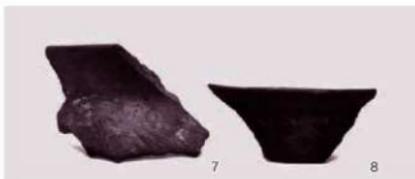
3. 7Tr (東から)



4. 4Tr SB02 カマド (北東から)



5. 6Tr SB11 南壁 (北から)



舟久保遺跡 第58地区



1, 1Tr (北西から)



2, 3Tr

舟久保遺跡 第59地区



1, 1Tr (西から)



2, 1Tr SB01 (北西から)



3, 1Tr SB02・SB03・SB04 (北東から)



1



2

出土遺物



1. SB01 (南から)



2. SB02 (南から)

舟久保遺跡 第53地区



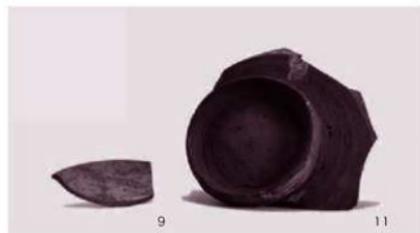
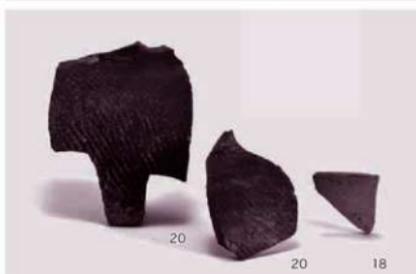
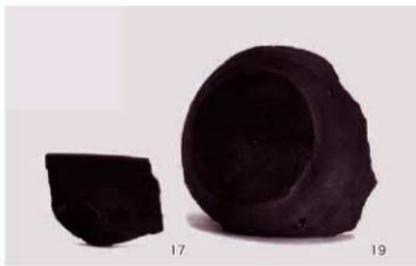
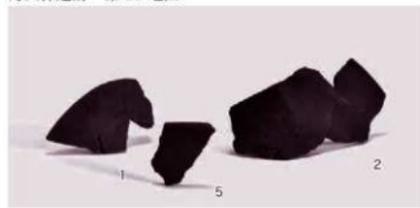
1. SB02 カマド遺物検出状況 (南西から)



2. SB02 カマド (南西から)



3. SB03 (南から)



舟久保遺跡 第57地区



1. SB01 (南西から)



2. SB02 (北から)



3. Pit106・Pit107・Pit108 (南から)



出土遺物



1. 本調査区全景 (北から)



2. 確認調査 1Tr SB01



3. SB102カマド (東から)



4. SB101・SB102 (東から)

宇東川遺跡 U地区



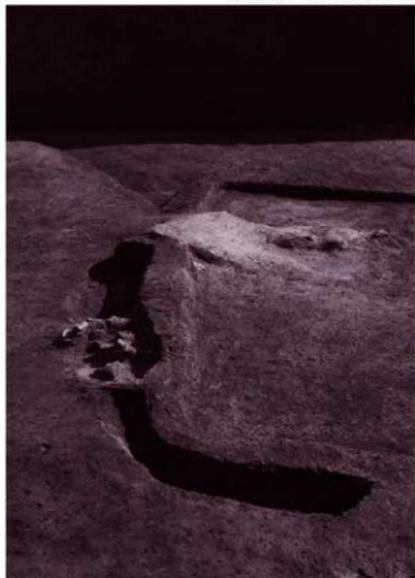
1. SB103 カマド (西から)



2. SB104・SB105 (南から)



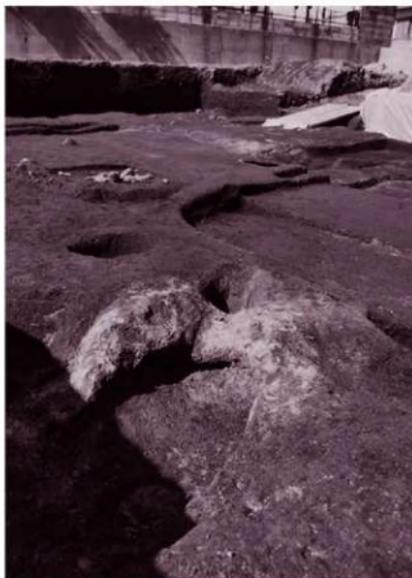
3. SB106・SB110 (南から)



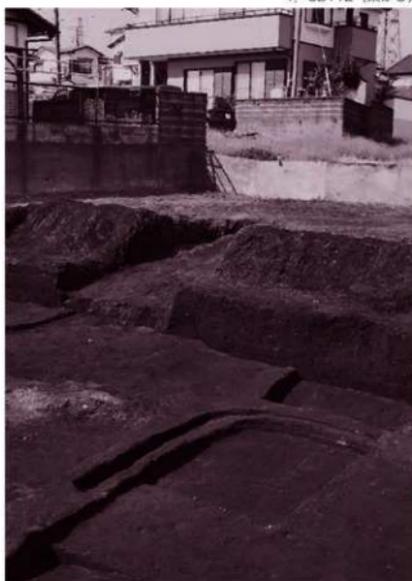
4. SB111・SB114 (北から)



1. SB112 (東から)



2. SB112 カマド (南から)



3. SB113・SB115・SB116 (南東から)

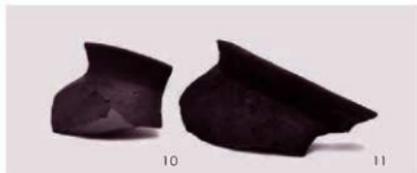
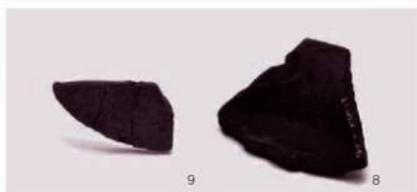


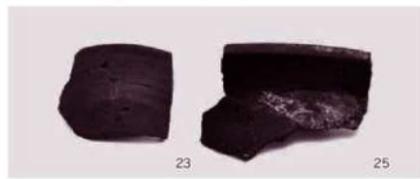
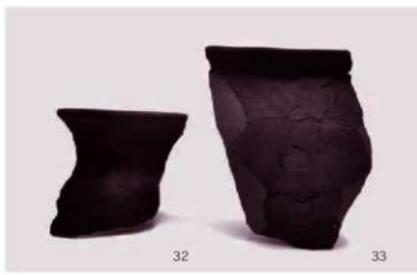
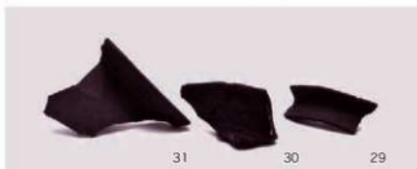
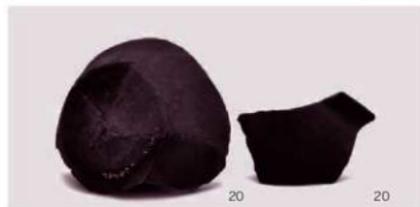
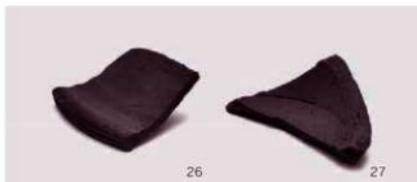
4. 第4工区縄文時代包合層 (南東から)



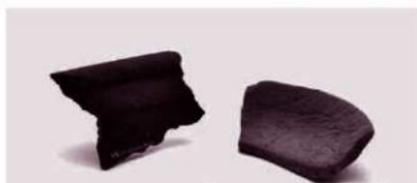
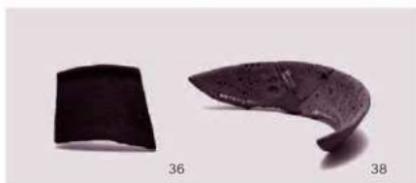
5. 第5工区縄文時代包合層 (南東から)

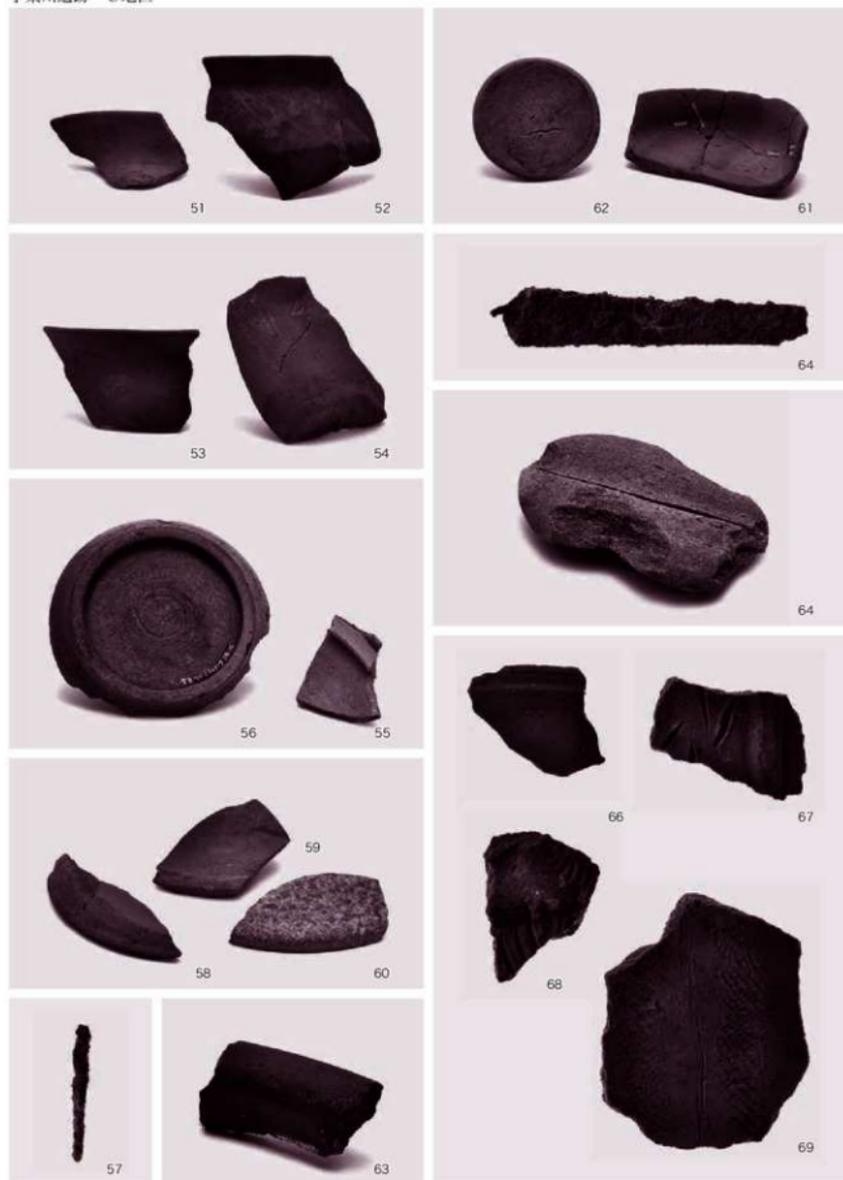
宇束川遺跡 U地区





宇束川遺跡 U地区





調査年度	所収番号	所収遺跡名		所在地	種類	遺構
		地区名	北緯			
		調査面積	調査期間	調査期間	遺跡番号	特記事項
H26-26	第1章 第2節	2970		延長 2800-1	集落跡	なし
	第74地区 1次調査	2970		35°10'12.62962"E 138°40'15.76442"E	古墳・奈良・平安	なし
H26-30	第1章 第2節	2970		延長 2800-1	集落跡	なし
	第74地区 2次調査	2970		35°10'12.62962"E 138°40'15.76442"E	古墳・奈良・平安	なし
H26-27	第1章 第2節	2970		延長 2886-1	集落跡	土坑・ピット
	第75地区 1次調査	2970		35°10'09.73095"E 138°40'27.63443"E	古墳・奈良・平安	土師器・須恵器・鉄器
H26-28	第1章 第2節	2970		延長 3096	集落跡	なし
	第76地区 1次調査	2970		35°10'03.55714"E 138°40'19.31805"E	古墳・奈良・平安	須恵器
H26-29	第1章 第2節	2970		延長 69-10 外	古墳	なし
	第14地区 2次調査	2970		35°11'08.90645"E 138°40'45.96389"E	古墳	なし
H26-34	第1章 第2節	2970		延長 161-3 外	集落跡	なし
	第19次調査地点 2次調査	2970		35°10'53.43182"E 138°39'54.38884"E	古墳～奈良	なし
H26-32	第1章 第2節	2970		延長 188-1	集落跡	なし
	第10地区 1次調査	2970		35°10'53.48865"E 138°39'11.47316"E	古墳～奈良	なし
H26-33	第1章 第2節	2970		延長 866-5の内 外	散布地	なし
	第1地区 2次調査	2970		35°11'31.23218"E 138°3'45.67452"E	縄文	なし
H26-35	第1章 第2節	2970		延長 885-3 外	散布地	なし
	第1地区 1次調査	2970		35°10'32.06677"E 138°40'05.48207"E	古墳	なし
H26-36	第1章 第2節	2970		延長 725-1 外	散布地	なし
	第5地区 1次調査	2970		35°11'09.57464"E 138°39'24.35754"E	奈良・平安	なし
H26-37	第1章 第2節	2970		延長 20	集落跡	なし
	第14次調査地点 1次調査	2970		35°10'43.67275"E 138°38'41.69039"E	古墳～奈良	なし
H26-38	第1章 第2節	2970		延長 119	散布地	なし
	第1地区 1次調査	2970		35°10'38.69607"E 138°38'34.90786"E	古墳	なし
H26-39	第1章 第2節	2970		延長 415-1 外	集落跡	なし
	第41地区 1次調査	2970		35°12'17.89426"E 138°38'21.89966"E	石臼・縄文・古墳	なし
H26-40	第1章 第2節	2970		延長 1693-3	集落跡	なし
	第5地区 1次調査	2970		35°10'14.50900"E 138°41'57.63570"E	縄文～奈良	土師器・土師器
H26-41	第1章 第2節	2970		延長 211-2の内 212-4 外	散布地	なし
	第1地区 1次調査	2970		35°08'50.44981"E 138°38'47.55333"E	古墳	なし
H26-42	第1章 第2節	2970		延長 136	集落跡	なし
	第1地区 1次調査	2970		35°10'21.37395"E 138°42'04.45014"E	縄文～奈良	縄文土師器・石器
H26-43	第1章 第2節	2970		延長 410	散布地	埴六遺物群・土坑
	第1地区 1次調査	2970		35°08'43.67234"E 138°36'40.81641"E	縄文・古墳	縄文土師器・土師器
H26-44	第1章 第2節	2970		延長 780-1	散布地	なし
	第6地区 1次調査	2970		35°11'22.53372"E 138°39'24.14528"E	奈良・平安	なし
H27-01	第1章 第3節	1590		延長 1464-1	散布地	なし
	第1地区 1次調査	1590		35°09'57.24885"E 138°43'58.66086"E	古墳～奈良・平安	なし
H27-02	第1章 第3節	1590		延長 799-1 外	集落跡	なし
	第3地区 2次調査	1590		35°10'26.50372"E 138°42'03.03994"E	奈良・平安	縄文土師器・土師器・須恵器
H27-03	第1章 第3節	1590		延長 600-1 外	集落跡	なし
	第42地区 2次調査	1590		35°12'22.41229"E 138°38'24.16110"E	石臼器・縄文・古墳	なし
H27-04	第1章 第3節	1590		延長 2548-2	集落跡	ピット
	第78地区 4次調査	1590		35°10'23.22144"E 138°40'13.84308"E	古墳・奈良・平安	なし
H27-05	第1章 第3節	1590		延長 585	散布地、その他遺	なし
	第6次調査地点 1次調査	1590		35°08'54.98531"E 138°36'57.97961"E	縄文・古墳・中世	なし
H27-07	第1章 第3節	1590		延長 317	古墳	なし
	第1地区 1次調査	1590		35°10'15.55284"E 138°40'43.23822"E	古墳	144
H27-08	第1章 第3節	1590		延長 111-1	集落跡	埴六遺物群、ピット、土坑、溝
	第15次調査地点 1次調査	1590		35°10'49.81468"E 138°38'48.02649"E	古墳～奈良	土師器、須恵器

調査年度	内政番号	内政路線名 地区名	所在地		種別	備考	
			調査面積	調査原因			座標
1127-11	第1章 第3節 第8条	第14地区	第1章 第3節 第8条	所在 北緯 2823.3の南 35°10'19.98500"	東経 138°43'36.25329"	古墳 古墳 古墳 古墳	なし なし なし なし
			6㎡	確認調査	20150702	192	
1127-10	第1章 第3節 第9条	第1地区 2次調査	第1章 第3節 第9条	所在 北緯 147.12 35°10'55.60160"	東経 138°39'00.95870"	集落跡	なし
			51㎡	確認調査	20150707	34	
1127-12	第1章 第3節 第10条	第15地区 2次調査地点	第1章 第3節 第10条	所在 北緯 42.6 35°10'04.62532"	東経 138°42'08.41624"	その他の遺跡・その他 養生～古墳・奈良・平安	なし なし
			10㎡	確認調査	20150721	53	
1127-13	第1章 第3節 第11条	第77地区	第1章 第3節 第11条	所在 北緯 2040.1 南 35°10'05.90056"	東経 138°40'26.10471"	集落跡	形6建物跡
			184㎡	確認調査	20150727～20150729	42	土層部、遺跡部
1127-16	第1章 第3節 第12条	第153地区 調査地点	第1章 第3節 第12条	所在 北緯 111.1 35°09'38.06290"	東経 138°41'36.36160"	その他の遺跡・その他 養生～古墳・奈良・平安	なし
			61㎡	確認調査	20150819～20150821	53	
1127-17	第1章 第3節 第13条	第15地区	第1章 第3節 第13条	所在 北緯 2823.1 35°10'20.30607"	東経 138°43'37.42817"	古墳	古墳 縄文土器
			32㎡	確認調査	20150827	192	
1127-20	第1章 第3節 第14条	第12地区	第1章 第3節 第14条	所在 北緯 1087.4 南 35°10'38.58872"	東経 138°39'49.92900"	古墳	古墳 古墳～奈良
			4㎡	確認調査	20151021	128	
1127-21	第1章 第3節 第15条	第2地区	第1章 第3節 第15条	所在 北緯 1190 南 35°09'22.31513"	東経 138°37'00.48160"	縄文	古墳 縄文
			74㎡	確認調査	20151100～20151116	246	
1127-23	第1章 第3節 第16条	第5地区	第1章 第3節 第16条	所在 北緯 1307.1 南 35°11'24.00423"	東経 138°39'43.00833"	古墳	古墳 古墳
			259㎡	確認調査	20151130～20151203	15	
1127-26	第1章 第3節 第17条	第3地区	第1章 第3節 第17条	所在 北緯 886.8 南 35°12'28.63264"	東経 138°28'19.03557"	古墳	古墳 奈良・平安
			19 ㎡	確認調査	20151222	5	
1127-27	第1章 第3節 第18条	第2地区	第1章 第3節 第18条	所在 北緯 1406.2 南 35°09'54.97529"	東経 138°43'36.03822"	古墳	古墳 古墳～奈良・平安
			60㎡	確認調査	20160120～20160122	107	
1127-28	第1章 第3節 第19条	第10地区	第1章 第3節 第19条	所在 北緯 720.1 南 35°10'18.56997"	東経 138°42'15.17691"	古墳	古墳 縄文・古墳
			15㎡	確認調査	20160125	49	
1127-31	第1章 第3節 第20条	第28地区	第1章 第3節 第20条	所在 北緯 540.南 1 35°11'01.48113"	東経 138°40'21.61918"	古墳	古墳 古墳
			479㎡	確認調査	20160222～20160226	19	
1127-32	第1章 第3節 第21条	第17地区 調査地点	第1章 第3節 第21条	所在 北緯 107.2 南 35°10'46.83200"	東経 138°38'50.48352"	古墳	古墳 古墳～奈良 縄文土器、土層部
			13㎡	確認調査	20160301	33	
1127-33	第1章 第3節 第22条	V地区	第1章 第3節 第22条	所在 北緯 540.南 1 35°10'08.35330"	東経 138°42'12.74905"	古墳	古墳 古墳 土層部、遺跡部
			44㎡	確認調査	20160306	50	
1127-34	第1章 第3節 第23条	第29地区	第1章 第3節 第23条	所在 北緯 561.10 南 35°11'02.21204"	東経 138°40'25.63175"	古墳	古墳 古墳 縄文・古墳
			209㎡	確認調査	20160323	19	
1127-09	第2章 第2節 第16条	第16地区 調査地点 1次調査	第2章 第2節 第16条	所在 北緯 187.1 南 35°11'04.91474"	東経 138°39'01.16118"	古墳	古墳 古墳～奈良 土層部、遺跡部、鉄器
			180㎡	確認調査	20150610～20150615	33	
1127-102	第2章 第2節 第40条	第16地区 調査地点 2次調査	第2章 第2節 第40条	所在 北緯 187.1 南 35°11'04.91474"	東経 138°39'01.16118"	古墳	古墳 古墳～奈良 土層部、遺跡部
			400㎡	本発掘調査	20150804～20150825	33	
1124-19	第3章 第2節	第7地区 1次調査	第3章 第2節	所在 北緯 1027.1 南 35°10'28.68531"	東経 138°39'41.46300"	古墳	古墳 古墳～奈良・平安 土層部、遺跡部、土器
			465㎡	確認調査	20130121～20130131	128	
1125-104	第3章 第2節	第7地区 2次調査	第3章 第2節	所在 北緯 1027.1 南 35°10'28.68531"	東経 138°39'41.46300"	古墳	古墳 古墳～奈良・平安 土層部、遺跡部、土器
			318㎡	本発掘調査	20131204～20140221	128	
1126-103	第3章 第2節	第7地区 3次調査	第3章 第2節	所在 北緯 1027.1 南 35°10'28.68531"	東経 138°39'41.46300"	古墳	古墳 古墳～奈良・平安 土層部、遺跡部、土器
			157㎡	本発掘調査	20150107～20150212	128	
1126-21	第3章 第3節	第11地区 1次調査	第3章 第3節	所在 北緯 1056.1 南 35°10'32.13424"	東経 138°39'42.01230"	古墳	古墳 古墳～奈良・平安 土層部、遺跡部、縄文土器、鉄製品
			111㎡	確認調査	20140911～20140917	128	
1126-102	第3章 第3節	第11地区 2次調査	第3章 第3節	所在 北緯 1056.1 南 35°10'32.13424"	東経 138°39'42.01230"	古墳	古墳 古墳～奈良・平安 土層部、遺跡部、縄文土器、鉄製品
			12㎡	本発掘調査	20141001～20141017	128	
1126-14	第4章 第2節	第1地区 2次調査	第4章 第2節	所在 北緯 3525.1 35°10'11.25251"	東経 138°41'32.64246"	古墳	古墳 古墳 古墳 古墳
			40 ㎡	確認調査	20140804～20140812	46	
1127-15	第4章 第2節	第1地区 3次調査	第4章 第2節	所在 北緯 3525.1 35°10'11.25251"	東経 138°41'32.64246"	古墳	古墳 古墳 古墳 古墳
			35㎡	確認調査	20150818	46	

調査年度	所収遺跡名 地区名	所在地		種別	遺構
		北緯	東経		
		調査面積	調査期間	市遺跡番号	特記事項
H26 -20	第4章 第3節	〒417774 丹久保遺跡 第20地区 2次調査	今泉 1958-3 35°10'16.37968" 138°41'26.64692"	集落跡	ビット
		5㎡	確認調査	20140908	46
H26 -23	第4章 第4節	〒417774 丹久保遺跡 第54地区	今泉 2030-1 35°10'15.33852" 138°41'23.84639"	集落跡	惣六遺跡跡・土坑
		25㎡	確認調査	20140904	46
H26 -31	第4章 第5節	〒417774 丹久保遺跡 第55地区	今泉 6丁目 663-6 外 35°10'06.54839" 138°41'31.38624"	集落跡	惣六遺跡跡 3軒
		15㎡	確認調査	20141125	46
H27 -07	第4章 第6節	〒417774 丹久保遺跡 第56地区	赤田集 698-1 外 35°10'12.77404" 138°41'28.46048"	集落跡	惣六遺跡跡、溝、土坑、ビット
		546㎡	確認調査	20150512 ~ 20150520	46
H27 -22	第4章 第7節	〒417774 丹久保遺跡 第58地区	今泉 6丁目 1634-1 外 35°10'07.99991" 138°41'29.21601"	集落跡	土師器・須恵器
		28㎡	確認調査	20131124 ~ 20131127	46
H27 -29	第4章 第8節	〒417774 丹久保遺跡 第59地区	今泉 1408-1 外 35°10'12.25122" 138°41'30.73174"	集落跡	惣六遺跡跡
		59㎡	確認調査	20160201 ~ 20160503	46
H26 -04	第4章 第9節	〒417774 丹久保遺跡 第53地区 1次調査	今泉 6丁目 1627-6 外 35°10'04.99618" 138°41'29.94405"	集落跡	土坑・ビット
		14㎡	確認調査	20140417 ~ 20140423	46
H26 -101	第4章 第9節	〒417774 丹久保遺跡 第53地区 2次調査	今泉 6丁目 1627-6 外 35°10'04.99618" 138°41'29.94405"	集落跡	惣六遺跡跡・土坑・ビット
		112㎡	本発掘調査	20140609 ~ 20140709	46
H27 -18	第4章 第10節	〒417774 丹久保遺跡 第57地区 1次調査	今泉 1958-6 35°10'12.91619" 138°41'30.91510"	集落跡	惣六遺跡跡
		52㎡	確認調査	20150903	46
H27 -104	第4章 第10節	〒417774 丹久保遺跡 第57地区 2次調査	今泉 1958-6 35°10'12.91619" 138°41'30.91510"	集落跡	惣六遺跡跡、ビット、土坑
		222㎡	本発掘調査	20160106 ~ 20160129	46
H27 -14	第5章 第2節	〒417774 宇奈川遺跡 U地区 1次調査	宇奈川遺跡 565-1 外 35°10'09.88860" 138°42'05.24387"	集落跡	惣六遺跡跡
		25㎡	確認調査	20150805 ~ 20150806	50
H27 -103	第5章 第2節	〒417774 宇奈川遺跡 U地区 2次調査	宇奈川遺跡 565-1 外 35°10'09.88860" 138°42'05.24387"	集落跡	惣六遺跡跡、ビット
		43㎡	本発掘調査	20150928 ~ 20151028	50

富士市埋蔵文化財発掘調査報告 第60集

富士市内遺跡発掘調査報告書 —平成26・27年度—

発行年月日 平成29年3月31日

編集・発行 富士市教育委員会
〒417-8601 静岡県富士市永田町一丁目100番地
TEL 0545-55-2875 FAX 0545-53-0789
E-mail: si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本 文光堂印刷株式会社
〒410-0871 静岡県沼津市西間門68番地の1

(富士市行政資料登録番号 28-50)